有明教育芸術短期大学

２０２６（令和８）年度入学生
シラバス

シラバス一覧
【子ども教育学科】

【卒業要件】 必修…● 選択必修…○
【資格要件】 必修…◆ 選択必修…◇

	区分	実務家教員による科目	アクティブラーニング	授業科目	卒業要件 卒業	卒業要件 履修方法	資格科目（卒業要件を満たすことが前提） 保	幼	小	レク	ベビー	備考	単位	形態	必要な学修時間数	開設学期	担当教員	頁
基礎教育科目	教育教養	－	○	情報リテラシー	●		◆	◆	◆		◆(保)		2	演習	30	1前	佐野 国	1
		－	－	プログラミング基礎	●								1	演習	30	1後	渡邊 夢良己	3
		－	－	憲法	○	【全学生】6単位以上選択必修		◆	◆			幼稚園・小学校教員免許状取得の場合は、「憲法」2単位を必ず取ること。	2	講義	30	1前	山崎 英壽	5
		－	○	児童文学	○								2	講義	30	1前	黒根沢 紀子	7
		－	○	多文化教育論	○								2	講義	30	3後	山本 剛	9
		－	○	データサイエンス	○								1	演習	30	1後	丹下 承子	11
		－	○	eスポーツ概論	○								2	講義	30	2前	伊庭 崇	13
		－	○	動画クリエイター入門	○								1	演習	30	1後	Reiji	15
		－	○	エンターテーメントⅠ	○								1	演習	30	1後	FUMIKO	17
		－	○		○								1	演習	30	1後	FUMIKO	19
		－	○	エンターテーメントⅡ	○								1	演習	30	2前	FUMIKO	21
		－	○		○								1	演習	30	2後	FUMIKO	23
		－	○	エンターテーメントⅢ	○								1	演習	30	3前	FUMIKO	25
		－	○		○								1	演習	30	3後	FUMIKO	27
		○	○	Presentation Basics	○								1	演習	30	1後	Reiji	29
	言語	○	○	英語コミュニケーションⅠ	●		◆	◆	◆		◆(保)		1	演習	30	1前	新庄 惠子	31
		○	○	英語コミュニケーションⅡ	●		◆	◆	◆		◆(保)		1	演習	30	1後	新庄 惠子	33
	体育	－	○	運動と健康Ⅰ	●		◆	◆	◆		◆(保)		1	実技・講義	30(21+9)	1前	黒須 育海	35
		－	○	運動と健康Ⅱ	●		◆	◆	◆		◆(保)		1	実技・講義	30(21+9)	1後	黒須 育海	37
	クラスセミナー	－	○	未来デザインⅠ	●		◆				◆(保)		1	演習	30	1前	子ども教育学科 教員	39
		－	○	未来デザインⅡ	●		◆				◆(保)		1	演習	30	1後	子ども教育学科 教員	41
		－	○	未来デザインⅢ	●		◆				◆(保)		1	演習	30	2前	子ども教育学科 教員	43
		－	○	未来デザインⅣ	●		◆				◆(保)		1	演習	30	2後	子ども教育学科 教員	45
		－	○	未来デザインⅤ	●		◆				◆(保)		1	演習	30	3前	子ども教育学科 教員	47
		－	○	未来デザインⅥ	●		◆				◆(保)		1	演習	30	3後	子ども教育学科 教員	49
専門教育科目	子ども理解	－	○	子ども理解の方法	○	専門教育科目 74単位修得	◆	◆			◆(保)		1	演習	30	3後	赤坂 澄香	51
		－	○	保育の心理学	●		◆	◆	◆		◆(保)		2	講義	30	2前	赤坂 澄香	53
		－	○	子どもの保健	●		◆	◆			◆(保)		2	講義	30	1前	益川 順子	55
		－	○	子ども家庭支援の心理学	○		◆				◆(保)		2	講義	30	2後	赤坂 澄香	57
		－	○	子どもの食と栄養	○		◆	◆			◆(保)		2	演習	30	2前	伊藤 野里子	59
		－	○	発達と障害	○		◆	◇	◇		◆(保)		2	講義	30	2後	池口 洋一郎	61
	子ども教育の基礎理論	－	○	教職・保育者論	●		◆	◆	◆		◆(保)		2	講義	30	2後	石井 友行 ・ 信太 朋子	63
		○	○	保育実践演習	○		◆				◆(保)	【保育士】必修	2	演習	30	3後	今泉 良一	65
		○	○	教職実践演習(幼・小)	○			◆	◆			【幼・小】必修	2	演習	30	3後	石井 友行 ・ 信太 朋子	67
		－	－	教育原理とカリキュラム論	●		◆	◆	◆		◆(保)		2	講義	30	1後	山本 剛	69
		－	－	教育の心理	●		◆	◆	◆		◆(保)		2	講義	30	1前	齋藤 朋子	71
		－	－	教育の組織と運営	○			◆	◆				2	講義	30	3後	山本 剛	73
		－	○	特別支援教育概説	○		◆	◆	◆		◆(保)		2	講義	30	3前	矢島 卓郎	75
		－	－	保育原理Ⅰ（理念）	○		◆				◆(保)		2	講義	30	1前	山本 剛	77
		○	○	保育原理Ⅱ（計画と評価）	○		◆				◆(保)		2	講義	30	1後	今泉 良一	79
		－	○	社会福祉	●		◆				◆(保)		2	講義	30	2後	前田 優二	81
		－	○	子どもと家庭の福祉	●		◆				◆(保)		2	講義	30	1前	前田 優二	83
		○	－	社会的養護Ⅰ	●		◆				◆(保)		2	講義	30	1後	佐藤 東	85
		－	○	子どもの健康と安全	○		◆				◆(保)		1	演習	30	1後	益川 順子	87
		－	○	子ども家庭支援論	○		◆	◆			◆(保)		2	講義	30	3前	益川 順子	89
		－	○	教育相談	○		◆	◆	◆		◆(保)		2	講義	30	3後	矢島 卓郎	91
	子ども教育の内容と方法	○	○	乳児保育Ⅰ	●		◆				◆(保)		2	講義	30	2前	丸橋 亮子	93
		○	○	乳児保育Ⅱ	○		◆				◆(保)		1	演習	30	2後	丸橋 亮子	95
		－	○	障害児保育	●		◆				◆(保)		2	講義	30	2前	池口 洋一郎	97
		○	－	社会的養護Ⅱ	●		◆				◆(保)		2	講義	30	2前	佐藤 東	99
		○	○	地域の子育てと保育体験	●		◆				◆(保)		1	演習	30	1後	深澤 瑞穂 ・ 松田 扶美子	101
		○	○	教育方法（理論と実践）	●		◆				◆(保)		2	講義	30	1後	石井 友行	103
		○	○	保育教材研究	○		◆	◆			◆(保)		2	演習	30	1前	深澤 瑞穂 ・ 信太 朋子	105
		○	○	保育内容総論	●		◆	◆			◆(保)		2	演習	30	1前	今泉 良一	107
		－	○	保育内容（健康）	○		◆	◆			◆(保)		2	演習	30	1後	鈴木 琴子	109
		－	○	保育内容（人間関係）	○		◆	◆			◆(保)		2	演習	30	1前	赤坂 澄香	111
		○	○	保育内容（環境）	○		◆	◆			◆(保)		2	演習	30	2前	深澤 瑞穂	113
		－	○	保育内容（言葉）	○		◆	◆			◆(保)		2	演習	30	1前	長田 信彦	115
		－	○	保育内容（表現）	○		◆	◆			◆(保)		2	演習	30	1後	山田 麻美子 ・ 伊藤 菜々子	117
		○	○	道徳教育の指導	○	【小免】必修			◆				2	講義	30	2後	石井 友行	119
		○	○	特別活動と総合的な学習の指導法	○				◆				2	講義	30	3前	石井 友行	121
		○	○	生徒指導とキャリア教育	○				◆				2	講義	30	2前	池口 洋一郎	123
		－	○	教育とICT活用	○				◆				1	演習	30	3前	伊庭 崇	125
		○	○	国語科指導法	○	小免取得者は、12単位以上選択必修 ※ただし、音楽科、図画工作科、体育科から必ず4単位以上選択			◇				2	演習	30	2後	長田 信彦	127
		－	○	社会科指導法	○				◇				2	演習	30	2前	山本 剛	129
		○	○	算数科指導法	○				◇				2	演習	30	2前	若林 研司	131
		－	○	理科指導法	○				◇				2	演習	30	2前	飯田 和也	133
		○	○	生活科指導法	○				◇				2	演習	30	3前	山岸 早苗	135
		－	○	家庭科指導法	○				◇				2	演習	30	3後	伊藤 野里子	137
		－	○	音楽科指導法	○				◇				2	演習	30	3後	三小田 美稲子	139
		－	○	図画工作科指導法	○				◇				2	演習	30	3前	有福 一昭	141
		－	○	体育科指導法	○				◇				2	演習	30	3前	角杉 美恵子	143
		○	○	外国語の指導	○				◇				2	演習	30	3後	新庄 惠子	145

	区分	実務家教員による科目	アクティブラーニング	授業科目	卒業要件 卒業	卒業要件 履修方法	資格科目（卒業要件を満たすことが前提） 保	幼	小	レク	ベビー	備考	単位	形態	必要な学修時間数	開設学期	担当教員	頁
専門教育科目	領域および教科の基礎	－	○	子どもと健康	○	専門教育科目 74単位修得		◆				【幼免】必修	1	演習	30	2後	若林 研司	147
		－	○	子どもと人間関係	○			◆					1	演習	30	2後	松田 扶美子	149
		○	○	子どもと環境	○			◆					1	演習	30	2後	信太 朋子	151
		－	－	子どもと言葉	○			◆					1	演習	30	2前	長田 信彦	153
		－	○	子どもと表現	○			◆					1	演習	30	2前	山田 麻美子 ・ 伊藤 菜々子	155
		－	○	音楽Ⅰ	●								1	演習	30	1前	松田 扶美子・伊藤 菜々子 ・（山田 麻美子）・ 角田 玲奈 ・ 福田 久美	157
		－	○	音楽Ⅱ	●								1	演習	30	2前	山田 麻美子 ・ 中目ますみ ・ 飯塚 舞子	159
		－	○	図画工作Ⅰ	○		◆	◆	◆		◆(保)		1	演習	30	1後	有福 一昭	161
		－	○	図画工作Ⅱ	○		◆	◆	◆		◆(保)		1	演習	30	2前	有福 一昭	163
		－	○	体育Ⅰ（運動）	○		◆	◆	◆		◆(保)		1	演習	30	2前	若林 研司	165
		－	○	体育Ⅱ（ダンス）	○		◆		◆		◆(保)		1	演習	30	2後	黒須 育海	167
		○	－	国語（書写を含む）	○				◇			小免取得者は、2単位以上選択必修	2	講義	30	2後	長田 信彦	169
		－	－	社会	○				◇				2	講義	30	2前	山本 剛	171
		○	○	算数	○				◇				2	講義	30	1後	若林 研司	173
		－	○	理科	○				◇				2	講義	30	2前	飯田 和也	175
		○	○	生活	○				◇				2	講義	30	2前	山岸 早苗	177
		－	○	家庭	○				◇				2	講義	30	1後	伊藤 野里子	179
		○	○	英語	○				◇				2	講義	30	3前	新庄 惠子	181
	実習	－	○	事前事後の指導（保育所・施設）Ⅰ	○		◆				◆(保)	【保育士】必修	2	演習	30	2後	池口 洋一郎 ・ 角杉 美恵子	183
		－	○	事前事後の指導（保育所）Ⅱ	○		◇				◇(保)	【保育士】Ⅱ・Ⅲのいずれか小・選択必修。	1	演習	30	3前	角杉 美恵子	185
		－	○	事前事後の指導（施設）Ⅲ	○		◇				◇(保)		1	演習	30	3前	深澤 瑞穂	187
		○	○	保育実習（保育所）Ⅰ	○		◆				◆(保)	【保育士】必修	2	実習	90	3前	角杉 美恵子	189
		○	○	保育実習（施設）Ⅰ	○		◆				◆(保)		2	実習	90	3前	池口 洋一郎	191
		○	○	保育実習（保育所）Ⅱ	○		◇				◇(保)	【保育士】Ⅱ・Ⅲのいずれか小・選択必修。	2	実習	90	3前	角杉 美恵子	193
		○	○	保育実習（施設）Ⅲ	○		◇				◇(保)		2	実習	90	3前	今泉 良一	195
		○	○	事前事後の指導（幼稚園）	○			◆			◇	【幼免】必修	1	演習	30	2通年	信太 朋子	197
		○	○	教育実習（幼稚園）	○			◆			◇		4	実習	180	2前	信太 朋子	199
		○	○	事前事後の指導（小学校）	○				◆		◇	【小免】必修	1	演習	30	3通年	石井 友行	201
		○	○	教育実習（小学校）	○				◆		◇		4	実習	180	3前	石井 友行	203
		－	○	ボランティア活動とキャリア教育	○								1	実習	30	1・2・3通年	深澤 瑞穂	205
	特論	－	○	子ども教育特別講座1	○	【全学生】2単位以上選択必修							2	演習	30	3前	黒須 育海	207
		－	○	子ども教育特別講座2	○								2	演習	30	3前	伊垣 京子	209
		－	○	子ども教育特別講座3	○								2	演習	30	3後	梨本 弘幸 ・ 鈴木 聡之	211
		－	○	子ども教育特別講座4	○								2	演習	30	3後	Reiji	213
	分野別応用科目	－	○	ピアノ	○								2	演習	30	2後	伊藤 菜々子	215
		－	－	合奏・声楽	○								2	演習	30	2後	松田 扶美子	217
		－	－	文化とマナー1	○								2	演習	30	前期	小濱 哲	219
		－	－	文化とマナー2	○								2	演習	30	後期	小濱 哲	221
		－	－	おもてなし産業1	○								2	演習	30	前期	小濱 哲	223
		－	－	おもてなし産業2	○								2	演習	30	後期	小濱 哲	225
		－	－	産業経営1	○								2	演習	30	前期	小濱 哲	227
		－	－	産業経営2	○								2	演習	30	後期	小濱 哲	229
		－	○	Webデザイン	○								2	演習	30	2後	Reiji	231
		－	○	情報リテラシー（応用）1	○								2	演習	30	前期	伊庭 崇	233
		－	○	情報リテラシー（応用）2	○								2	演習	30	後期	伊庭 崇	235
		－	○	データサイエンス（応用）1	○								2	演習	30	前期	伊庭 崇	237
		－	○	データサイエンス（応用）2	○								2	演習	30	後期	伊庭 崇	239
		－	○	情報システム開発と管理1	○								2	演習	30	前期	伊庭 崇	241
		－	○	情報システム開発と管理2	○								2	演習	30	後期	伊庭 崇	243
	卒業研究	－	○	卒業研究A（論文）	○	【全学生】2単位以上選択必修							2	演習	60	3通年	子ども教育学科 専任教員	245
		－	○	卒業研究B（総合表現）	○								2	演習	60	3通年	子ども教育学科 専任教員	247
自由科目	ベビーシッター資格関連科目	－	○	在宅保育論							◆(ベビ)	【ベビ】必修	2	講義	30	3後	角杉 美恵子 ・ 深澤 瑞穂	249

＊実務経験のある教員等による授業科目及び、アクティブラーニング（AL）の手法を用いた授業科目は、○印付記。
＊各科目のシラバスには、教員名の横欄に○印付記（実務家:実務家教員による科目、AL:アクティブラーニング手法を用いた科目）。

● 卒業要件を満たさなければ、資格要件科目を満たしても資格取得はできません。

◆(保)　：　保育士資格取得の場合、必修科目。 ／ ◇(保)：保育士資格取得の場合、実習先に合わせた事前事後の指導及び保育実習Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択必修。
◆(幼)　：　幼稚園教員免許状(幼免)取得の場合、必修科目。
◆(小)　：　小学校教員免許状(小免)取得の場合、必修科目。 ／ ◇(小):小免取得の場合、選択必修科目。
◆(レク)　：　レクリエーション・インストラクター資格取得の場合、必修科目。
資格取得には、保・幼・小の実習単位の修得の他、レク協会主催の現場実習2回参加必須（実習単位を履修する場合は、各実習に合わせた事前事後の指導の履修が必要）。
◆(ベビ)　：　ベビーシッター資格取得の場合、必修科目。資格取得には、保育士取得要件をみたし、かつ、保育士登録一括申請で保育士資格取得見込み者（または、取得済み）であること。

科目名／基礎教育 YHS001	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
情報リテラシー	1年前期	必修	演習/単独	2単位	佐野 匡	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】
情報機器に関する基本的な知識・技能及び情報モラル・情報活用について習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
情報機器に関する基本的な知識・技能について、実践演習を通して理解を深めていく。

【到達目標と学修成果】
①情報機器に関する基本的な知識を理解している。
②情報機器に関する基本的な技能を身につけ、必要性に応じて適切に活用することができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	パソコンの操作の準備と基本操作	△ パソコンの利用場面を調べる	90
		▽ パソコンの基本操作を用いたレポート作成	90
第 2 回	ICT活用の実際と情報モラル	△ インターネットの利用場面を調べる	90
		▽ 情報モラルを順守した活用についてまとめる	90
第 3 回	プレゼンテーションソフトの基本知識	△ プレゼンソフトの種類を調べる	90
		▽ プレゼンソフトの基礎知識をまとめる	90
第 4 回	オンライン会議、仮想空間の活用の基礎知識	△ オンライン会議、仮想空間を調べる	90
		▽ オンライン会議、仮想空間基本知識をまとめる	90
第 5 回	オンライン会議、仮想空間の活用の実践	△ オンライン会議、仮想空間の利用場面を調べる	90
		▽ オンライン会議、仮想空間の実践の留意点をまとめる	90
第 6 回	電子メールの基本知識	△ 電子メールの利用場面を調べる	90
		▽ 電子メールの基本知識をまとめる	90
第 7 回	AI活用の基本知識	△ AI活用のの必要場面を調べる	90
		▽ AIの基本知識をまとめる	90
第 8 回	プレゼンテーションソフトによる資料作成	△ プレゼンソフトの利用場面を調べる	90
		▽ プレゼンソフト資料作成の留意点をまとめる	90
第 9 回	プレゼンテーションソフトにおける実践演習	△ プレゼンソフトの基本操作を復習する	90
		▽ プレゼンソフト実践の留意点をまとめる	90
第 10 回	ワープロソフトの基本知識	△ ワープロソフトの種類を調べる	90
		▽ ワープロソフトの基礎知識をまとめる	90
第 11 回	ワープロソフトにおける実践演習	△ ワープロソフトの基本操作を復習する	90
		▽ ワープロソフト実践の留意点をまとめる	90
第 12 回	表計算ソフトの基本知識	△ 表計算ソフトの種類を調べる	90
		▽ 表計算ソフトの基礎知識をまとめる	90
第 13 回	表計算ソフトによる実践演習	△ 表計算ソフトの利用場面を調べる	90
		▽ 表計算ソフト資料作成の留意点をまとめる	90
第 14 回	プログラミングの基礎知識	△ プログラミングの考え方が使える場面を調べる	90
		▽ プログラミングの実践の留意点をまとめる	90
第 15 回	まとめと授業の総括	△ 情報機器の操作についての復習	90
		▽ 情報機器の操作に関するレポート作成	90

備考：

2700

【履修上の留意点】
・演習や協議を行いながらの学修が多くなります。主体的な参加を期待しています。
・データを保存するためのUSBメモリを準備してください。

【テキスト】
・必要に応じて提示します。

【参考書・参考資料等】
・文部科学省HP内 「教育の情報化の推進」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369613.htm

【連絡方法】 授業の際に伝えます。

【オフィスアワー】 授業前後の時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート	①	30%	課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。	課題の意図を理解し、記述されている。	課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。	課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。	課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	②	50%	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。	主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。	主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	授業内での取組に参加することができた。	授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	20%	課題に意欲的に取り組み、授業で学んだことを自分なりに工夫した成果物を期限に遅れることなく提出した。	課題に取り組み、授業で学んだことを生かした成果物を期限に遅れることなく提出した。	課題に取り組み、意図にあった成果物を期限に遅れることなく提出した。	課題に取り組み、成果物をおおむね期限に遅れることなく提出した。	課題の取組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	1.2..5	4.9.13.15		3.6.8.10.11.12.13.14		7

科目名／基礎教育 YHS002	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
プログラミング基礎	1年後期	必修	演習/単独	1単位	渡邊　夢良己		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

デジタル時代の情報リテラシーである数理・データサイエンス・AIに関する学習を通して、リテラシーレベルとしてのプログラミング能力の育成を目指すことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

まず、MS Excelを用いた基礎的なデータ処理について身につけるとともに、後半ではExcelに搭載されているVBA(Visual Basic for Applications)を用いたプログラミングに座学及び実習にて取り組む。その際、プログラミングへのハードルを下げるために「scratch」を用いた授業を数回行う。

【到達目標と学修成果】

①プログラミングに係る基礎的なアルゴリズムなど(四則演算と変数、条件分岐、繰り返し)を習得する。
②VBAプログラミングの基礎となる表計算ソフトを用いたデータの処理、手続きについて身につける。
③ビジュアルプログラミングやフィジカルプログラミングを導入として、基礎的なVBAプログラミングを習得する。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	ガイダンス 情報倫理講習	△	シラバスを熟読するとともに、プログラミングについて予習する	15
		▽	情報倫理チェックテストをLMSを用いて実施するとともに、ガイダンス内容を復習する	30
第 2 回	表計算ソフトによるデータ処理(表の行と列、データの入力、セルの調整)	△	高等学校までで学んだ表計算について振り返る	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 3 回	表計算ソフトによるデータ処理(数式処理、オートフィル)	△	データ入力、セルの調整について確認する	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 4 回	表計算ソフトによるデータ処理(関数、絶対参照と相対参照)	△	数式処理、オートフィルについて確認する	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 5 回	表計算ソフトによるデータ処理(グラフの作成、ソート、フィルタ)	△	関数、絶対参照と相対参照について確認する	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 6 回	表計算ソフトによるデータ処理(まとめ)	△	第2回から5回の内容を復習する	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 7 回	プログラミングとは何か？(概略とプログラミング言語の系譜) スクラッチを使うための準備と作品の閲覧	△	高等学校で学んだプログラミングについて復習する	15
		▽	授業を振り返りscratchのアカウント作成などの準備について各自行う	30
第 8 回	scratchを用いたビジュアルプログラミングの基本(画面構成・ブロックの使い方)	△	scratchにある作品を閲覧し、プログラミングへの関心を高める	15
		▽	画面構成・ブロックについて復習する	30
第 9 回	scratchを用いたビジュアルプログラミングの基本(条件分岐・繰り返し処理)	△	scratchにある作品がどのような構成なのか考える	15
		▽	条件分岐・繰り返し処理について復習する	30
第 10 回	scratchを用いたビジュアルプログラミング(まとめ)	△	scratchを用いた作品の構想を考える	45
第 11 回	VBAプログラミング(1)(マクロの基礎、表の構造)	△	Excelの使い方を復習する	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 12 回	VBAプログラミング(2)(変数の定義、データ型と型変換)	△	マクロの操作方法について再確認する	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 13 回	VBAプログラミング(3)(条件文)	△	変数やデータ型及び型変換について再確認する	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 14 回	VBAプログラミング(4)(繰り返し文)	△	様々な条件文について再確認する	15
		▽	授業で提示された課題に取り組む	30
第 15 回	振り返りとまとめ	△	これまでの学習を振り返る	15
		▽	これまでの復習を振り返りまとめる	30

備考：　675

【履修上の留意点】

・LMS上に学習上必要となるコースウェアや資料を設置するので予習・復習に努めること
・授業への参加態度及び課題の提出状況や小テストが成績につながるので留意すること

【テキスト】

LMS上に簡易的なコースウェア設置する。

【参考書・参考資料等】

LMS上に資料をアップロードする。

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ③	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／基礎教育 YHS003	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
憲　法	1年前期	選択必修（幼小必修）	講義／単独	2単位	山崎　英壽		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

憲法改正が政府から主張されていることは、この国において立憲主義が定着していないことを示している。この授業では近代国家の約束事である立憲主義が何であるかを明らかにしながら、憲法で保障されている人権などの規定がどのようなもので、私たちの生活にどんな意味を持っているのかを明らかにするとともに、現代社会において生じている人権問題の解決に前向きに取り組める社会人になることを目指すことにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

授業は講義によるので、内容についてノートを取りながら聞いてもらいたい。扱う領域は憲法の概念、人権総論、人権各論、民主主義である。中学の「公民」、高校の「現代社会」「政治・経済」で学んだことと多少重複するので、この分野の知識があるとわかりやすいだろう。講義は概念を説明し、判例などの実例を検討しながら、現代社会の人権問題に切り込みたいと思っている。

【到達目標と学修成果】

①近代国家成立の歴史と立憲主義について説明することができる。②憲法が保障する人権がどのようなものであり、裁判においてどのように保障されあるいは保障されずに来たのか、その問題点を指摘し、人権問題をいかに解決するべきかの見通しを語ることができる。③民主主義の実現は国民が主体的に国家の意思決定に参画すること、そのためには選挙が重要であり、選挙権がその機会であることを説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	憲法とは何か　近代国家の成立と社会契約論について	△ 市民革命の歴史を高校の教科書で確認する	90
		▽ 授業ノートで社会契約と憲法の関係について確認する	90
第2回	人権の歴史と概念　近代的人権と現代的人権・国家と人権	△ 教科書で近代国家と現代国家の違いについて確認しておく	90
		▽ イエリネクの分類と人権の量的拡大・質的限定について確認する	90
第3回	法人の人権？　法人を人権主体と考えることの問題点	△ 現代の企業が人権を侵害する主体になりえることを確認しておく	90
		▽ 企業のような私人から侵害される人権問題の存在を意識する	90
第4回	私人間効力①　私人間で生じる人権侵害	△ 現代の企業が人権を侵害する主体になりえることを確認しておく	90
		▽ 企業のような私人から侵害される人権問題の存在を意識する	90
第5回	私人間効力②　住友セメント判決と三菱樹脂判決	△ 私人間効力の判例を確認しておく	90
		▽ 判例における学説の影響について考える	90
第6回	信教の自由①　信教の自由の概念	△ 宗教がなぜ存在するのかを考える	90
		▽ 宗教的多数派に無視されがちな少数派について考える	90
第7回	信教の自由②　剣道拒否事件とシャバート事件(日米比較)	△ 教科書で宗教関係の判例について確認しておく	90
		▽ 剣道拒否事件の宗教論とシャバート判決の宗教論を比較する	90
第8回	政教分離①　政教分離の概念と各国の状況	△ 国教のイギリスと政教分離のアメリカ・フランスについて考える	90
		▽ 日本の政教分離の原点である戦前日本の状況を考える	90
第9回	政教分離②　津地鎮祭事件と目的効果基準	△ 政教分離判例について教科書で確認する	90
		▽ 目的効果基準の有用性について検討する	90
第10回	表現の自由①　表現の自由の意義と規制	△ 教科書で表現の自由の内容について確認しておく	90
		▽ 表現規制に対する裁判基準について確認する	90
第11回	表現の自由②　マスメディアの発展と知る権利	△ マスメディアの役割と情報の流れについて考えておく	90
		▽ 国民の知る権利とマスメディアの役割について確認する	90
第12回	生存権①　社会権としての生存権の意義	△ 健康で文化的な最低限度の生活とは何か考える	90
		▽ 25条の法的性格について確認する	90
第13回	生存権②　朝日訴訟と日本の社会保障の現状	△ 朝日訴訟について調べておく	90
		▽ 社会保障・社会福祉のための国家の役割を考える	90
第14回	民主主義①　選挙権と代表制民主主義	△ 日本の選挙制度について確認しておく	90
		▽ 各国の選挙制度について説明できるようにしておく	90
第15回	民主主義②　議院内閣制と衆議院の解散	△ 議院内閣制と大統領制の違いについて考える	90
		▽ 衆議院の解散の条文上の根拠について説明できるようにする	90

備考：　2700

【履修上の留意点】

法律科目は一見堅苦しいと感じがちであるが、実際は私たちの生活に大きくかかわっていることであることがわかると興味を持って取り組めるはずである。授業ノートをとり、教科書で確認しながら、自分の生活の中にあるいじめやハラスメントなどの人権問題を意識するように心がけるとよい。

【テキスト】

山崎英壽『憲法要諦』文化書房博文社 2018年

【参考書・参考資料等】

必要があれば授業で紹介する

【連絡方法】　初回の授業時に通知

【オフィスアワー】　授業前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）	①②③	80%	試験の出題意図を的確に理解し、十分な記述により論証されている。授業全体を通してよく学習し、問題意識を持って取り組んだことが見て取れる。	試験の出題意図をよく理解し、十分な記述により論証されている。授業全体を通してよく学んだことが見て取れる。	試験の出題意図をおおむね理解し、自分なりの説明ができている。授業にまじめに取り組んだことが見て取れる。	試験の出題意図を何とか理解していると思われ、回答しようとする意欲を見て取れる。	試験の出題意図を理解しているとは思われず、回答も不十分である。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①②③	20%	小テストでは授業内容を的確に回答し、授業中の発言も積極的であり、かつ的を射たものである。	小テストでは授業内容の理解が見られ、授業中の発言も的を射たものである。	小テストではおおむね授業内容を理解できていると思われ、授業中に発言することもあった	小テストでは授業内容が何とかつかめている程度であり、授業中の発言には消極的であった。	授業内の取り組み不十分で、授業内容の理解に欠けると思われる。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／基礎教育 YHS004	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
児童文学	1年前期	選択必修	講義/単独	2単位	髙根沢 紀子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

①日本の児童文学についての歴史を学び、基礎的な知識を身につけ、さまざまな作品を読解する力を養う。
②児童文学における児童とは何かという問題意識を持ち、積極的に考察する力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式で行う。日本(明治～現在)の児童文学史の流れを押さえながら、なるべく多くの作品を読んでいく。作品読解の際は、問題意識を持って読めるよう、課題を出しながら進めていく。適宜、映像表現を参照し、原作と比較をすることや、他の意見を聞くことを通して、問題点を明らかにしていく。

【到達目標と学修成果】

①日本の児童文学についての歴史を理解し、作品を読解することができる。
②児童文学における児童とは何かという問題意識を持ち、作家・作品について積極的に課題に取り組むことができる。
③他の意見を知り、自分の考えを相手に的確に伝えることができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	ガイダンス 日本児童文学とは何か	△	これまでの読書体験についてまとめ、児童文学とは何か、考えておく。	90
		▽	児童文学の定義についてノートにまとめる。	90
第 2 回	日本児童文学の流れ	△	配布資料(作品)を読む。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 3 回	昔話と児童文学――桃太郎 (明治から現代の変化について考え、ディスカッションする)	△	自分の知る桃太郎についてノートに整理する。	90
		▽	昔話について、自分の考えをまとめる。	90
第 4 回	昔話と児童文学――カチカチ山 (明治から現代の変化について考え、ディスカッションする)	△	自分の知る桃太郎についてノートに整理する。	90
		▽	昔話について、自分の考えをまとめる。	90
第 5 回	雑誌「赤い鳥」の出現――芥川龍之介「蜘蛛の糸」 (児童文学と教育について考える)	△	配布作品を読む。疑問点を書き出す。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 6 回	小川未明「赤い蝋燭と人魚」 (アンデルセン「人魚姫」と比較する)	△	配布作品を読む。疑問点を書き出す。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 7 回	宮沢賢治「注文の多い料理店」 (作品にある謎について、ディスカッションする)	△	配布作品を読む。疑問点を書き出す。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 8 回	宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」 (問題意識を持ち映画と原作を比較する)	△	配布作品を読む。疑問点を書き出す。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 9 回	宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」 (作品と映画の比較から、作品を読解する)	△	映画との相違点について考える。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 10 回	宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」 (宮沢賢治のメッセージについて考える)	△	作品を読み直し、宮沢賢治について調べる。	90
		▽	宮沢賢治の他の作品を読み、感想をまとめる。	90
第 11 回	新美南吉「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」 (作品と教科書、教えることについて考える)	△	配布作品を読む。疑問点を書き出す。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 12 回	あまんきみこ「きつねのおきゃくさま」 (作品と教科書、教えることについて考える)	△	配布作品を読む。疑問点を書き出す。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 13 回	やなせたかし「アンパンマン」 (作者について知り、作品と時代の変化について考える)	△	やなせたかしについて調べておく。	90
		▽	作者の考えについて、自分の考えをまとめる。	90
第 14 回	「ちびくろさんぼ」「ピノッキオ」ほか (児童文学と差別を考える)	△	配布作品を読む。疑問点を書き出す。	90
		▽	作品について、自分の考えをまとめる。	90
第 15 回	まとめ 児童文学のおもしろさと難しさ	△	これまでの授業の復習をする。	90
		▽	児童文学について、歴史を踏まえまとめる。	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

事前に作品を読んで、分からない言葉などは調べておくこと。短い作品は、繰り返し読み積極的に課題を見つける努力を要する。

【テキスト】

使用しない。適宜授業内で資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜紹介する。

【連絡方法】 授業内で指示する

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	70%	・児童文学の歴史を理解し、作品を読解することができる。 ・問題を的確に整理し、自分の言葉で考えを述べることができる。	・児童文学の歴史を理解し、作品を読解することができる。 ・問題を的確に整理することができる。	・児童文学の歴史を理解し、作品を読解することができる。	・児童文学の歴史理解に欠けるところがあり、努力を要する。	・基本的な知識が習得されておらず、内容の理解に乏しい。
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	20%	・一貫して授業に主体的に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・他を積極的にまとめようとする態度がみられる。 ・他の模範となる解答が多くある。	・授業に主体的に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がみられる。 ・他と積極的に意見交換する姿勢がみられる。	・主体的に授業へ臨もうとする努力がみられる。 ・積極性には欠けるが、人の話をよく聞き、理解しようとする態度がみられる。	・授業内での取り組みに参加することができるが、受動的な態度が多い。 ・集中力に欠けるところがある。	・授業内での取り組みが不十分で、授業へ参加する意欲が認められない。
授業外での取組	① ②	10%	・授業外でもより積極的に知識の獲得につとめる姿勢がある。 ・成果が授業内での取り組みや提出物に反映されている。	・授業外でも積極的に知識を増やす努力をしている。 ・指定された提出期限、体裁が守られている。	・授業外での取り組みに対して努力が認められる。 ・提出物の期限、指定された体裁等があるていど出来ている。	・授業外での取り組みに対して努力しようとする様子がみられる。 ・提出期限、指定された体裁等を守ろうとする努力が認められる。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	3回・4回・9回			13回・14回		

科目名／基礎教育 YHS005	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
多文化教育論	3年後期	選択必修	講義／単独	2単位	山本　剛		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

異なる言語や文化的背景をもつ人々と共に、どのような「教育」を創るのか――共生と平和のための社会と世界の構築を目指し、ユネスコなどを中心に展開されている教育が「国際理解教育」である。この授業では、多文化・多民族共生時代に求められる教育とは何か、諸外国における教育事例を踏まえつつ、人間にとっての教育の意味について改めて考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

現代教育の重要な論点の一つであるグローバリゼーションと多文化共生のための教育および「生涯教育」をテーマとし、「生きる権利」としての生涯学習が各国でどのように取り組まれているのか、受講生間の主体的な学びに基づき理解を深めていく。具体的には、グループワークとプレゼンテーションを中心に授業が進められる。

【到達目標と学修成果】

①ユネスコを中心とする国際理解教育の理念について理解し、説明することができる。
②諸外国における国際理解教育の取り組みについて理解し、説明することができる。
③日本における国際理解教育の取り組みについて理解し、説明することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第１回	イントロダクションとグルーピング(スケジュールの確定)	△「異文化」について自分の意見をまとめておく	90
		▽「私の異文化体験」についてノートにまとめる	90
第２回	教育と人間①――生涯学習の展開	△テキストp.6-12の予習	90
		▽「学習社会」についてノートにまとめる	90
第３回	教育と人間②――多文化・多民族共生への現代的課題	△テキストp.12-18の予習	90
		▽「共生社会」についてノートにまとめる	90
第４回	アメリカにおける多文化・多民族共生と生涯学習(プレゼン①)	△テキストp.44-55の予習	90
		▽プレゼン①についてノートにまとめる	90
第５回	カナダにおける移民・先住民の成人教育(プレゼン②)	△テキストp.56-67の予習	90
		▽プレゼン②についてノートにまとめる	90
第６回	イギリスにおける多民族・多文化共生へ向けた取り組みと生涯学習(プレゼン③)	△テキストp.68-81の予習	90
		▽プレゼン③についてノートにまとめる	90
第７回	ドイツにおける多文化・多民族共生と生涯学習の今(プレゼン④)	△テキストp.82-93の予習	90
		▽プレゼン④についてノートにまとめる	90
第８回	ロシアにおける多文化・多民族共生と生涯学習(プレゼン⑤)	△テキストp.94-106の予習	90
		▽プレゼン⑤についてノートにまとめる	90
第９回	フィンランドにおける生涯学習(プレゼン⑥)	△テキストp.107-118の予習	90
		▽プレゼン⑥についてノートにまとめる	90
第10回	韓国における多文化教育と地域社会のNPO活動での平生教育(プレゼン⑦)	△テキストp.119-128の予習	90
		▽プレゼン⑦についてノートにまとめる	90
第11回	中国における多文化・多民族共生と終身教育(プレゼン⑧)	△テキストp.129-138の予習	90
		▽プレゼン⑧についてノートにまとめる	90
第12回	オーストラリアにおける多文化・多民族共生と相互理解構築のための哲学対話(プレゼン⑨)	△テキストp.150-162の予習	90
		▽プレゼン⑨についてノートにまとめる	90
第13回	アイヌ民族の言語・文化復興と学校教育への取り組み(プレゼン⑩)	△テキストp.175-186の予習	90
		▽プレゼン⑩についてノートにまとめる	90
第14回	沖縄における多文化共生教育の特質と生涯学習の課題(プレゼン⑪)	△テキストp.187-199の予習	90
		▽プレゼン⑪についてノートにまとめる	90
第15回	授業の総括とリフレクション	△授業内容の総復習	90
		▽各自の取り組みに関する振り返り	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

・グループ(あるいは個人)のプレゼンテーションが中心の授業となるため、授業計画策定の前提となる前半期に欠席がかさんだ者は、以後の履修を認めない。

【テキスト】

岩崎正吾編『多文化・多民族共生時代の世界の生涯学習』学文社、2018年

【参考書・参考資料等】

佐藤学『第四次産業革命と教育の未来：ポストコロナ時代のICT教育』岩波ブックレット、2021年

【連絡方法】 初回授業時に伝える

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		第4回～第14回				

科目名／基礎教育 YHS006	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
データサイエンス	1年後期	選択必修	演習/単独	1単位	丹下 承子	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

基本的な情報活用および、表計算ソフトを利用した基礎的な統計分析に取り組む。
コンピュータの使い方を理解し、具体的な課題解決の場面において、情報を収集、分析、判断、編集、発信、共有することができる。
AI(人工知能)やデータサイエンスが、接続可能な社会の発展において欠かすことができない存在であることを多視点から知ると共に、これら技術が我々人類の未来の発展や様々な職業においていかに役立つのか考えていく。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが、個人・グループでのワークややディスカッション等も交えながら進める

【到達目標と学修成果】

①情報化社会の特徴を理解し、情報セキュリティ、情報モラル・ルールとマナー、著作権、ネット犯罪などの観点からインターネット上での問題に対処する方法を考えることができる。
②データの読み取り、可視化について適切な取り扱いをすることができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	授業ガイダンス	△	パソコンに触れておく	15
		▽	タイピングの練習を行う	30
第 2 回	表計算ソフトによるデータ処理① 表作成と表計算	△	表計算について予習する	15
		▽	表作成と表計算の復習をする	30
第 3 回	表計算ソフトによるデータ処理② 様々なｸﾞﾗﾌ作成	△	グラフ作成について予習する	15
		▽	グラフと複合グラフの作成の復習をする	30
第 4 回	表計算ソフトによるデータ処理③ 効果的な検索方法	△	ソートとフィルタの予習をする	15
		▽	ソートとフィルタについて復習する	30
第 5 回	データ分析①データサイエンスと社会とのかかわり・単純集計	△	データから情報を読み取る練習をする	15
		▽	授業の復習を行う	30
第 6 回	データ分析② クロス集計	△	データから情報を読み取る練習をする	15
		▽	授業の復習を行う	30
第 7 回	レポート作成課題①テーマ決め	△	自分が調査したいことについて下調べをする	15
		▽	授業の内容を踏まえて、自分がレポートで扱いたいテーマを決定する	30
第 8 回	レポート作成課題②問いの生成	△	決定したテーマに関する問いを考えてくる	15
		▽	問いの決定のためのワークシートを完成させる	30
第 9 回	レポート作成課題③調査の方法	△	インタビュー項目を考える	15
		▽	インタビュー項目に関するワークシートを完成させる	30
第 10 回	レポート作成課題④調査のまとめ-1	△	インタビューを行ってくる	15
		▽	アウトラインを完成させる	30
第 11 回	レポート作成課題⑤調査のまとめ-2	△	インタビューの内容をまとめてくる	15
		▽	アウトラインを完成させる	30
第 12 回	レポート作成課題⑥レポートを書く	△	レポート執筆に必要な内容を検討する	15
		▽	レポート作成の続きを行う	30
第 13 回	レポート作成課題⑦レポートを書く	△	レポート作成の続きを行う	15
		▽	レポートを完成させる	30
第 14 回	プレゼンテーション	△	プレゼンテーションの準備を行う	15
		▽	プレゼンテーション発表で指摘された箇所を修正する	30
第 15 回	まとめ	△	プレゼンテーション発表を振り返る	15
		▽	レポートの完成版を提出する	30

備考：

675

【履修上の留意点】

【テキスト】

特になし

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】 授業時に提示する

【オフィスアワー】 授業時間の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート	① ②	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み	・問題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の態勢が守られていない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解、実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		第14回				

科目名／専門教育 YHS007	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
eスポーツ概論	2年前期	選択必修	講義/単独	2単位	伊庭 崇		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

「eスポーツ概論」では、eスポーツを学習や教育を促進するための効果的なツールとして活用するために、eスポーツに関する多面的(経済面、社会面、教育面など)な知識を習得するとともに、eスポーツにまつわる文化を実践的に理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

最初は単に遊びであったゲームがeスポーツになるまでの変遷、日本や世界での現状、ビジネス化および教育など幅広領域について、その魅力や問題点などについて理解し知識を深める。また、ゲームに関する簡単なイベントを企画し、これらを通して情報の収集、編集、発信という研究を行う上で必須の力や態度を身につける。また、実際に、eスポーツを体験したり、eスポーツイベントを企画運営して、理解を深める。

【到達目標と学修成果】

①eスポーツに関わる多面的な知識を理解する。
②eスポーツのイベントを実施するための必要な事柄を実践を通して身につける。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	オリエンテーション 本授業の目的、内容、流れについて	△ シラバスを読み、全体の流れを把握する	90
		▽ eスポーツの概略についてまとめる	90
第 2 回	eスポーツの歴史 eスポーツはいつから始まったのか、どのような経緯で広まっていったのか	△ インターネットなどでe-スポーツの情報を集める	90
		▽ eスポーツの歴史を復習しておく	90
第 3 回	eスポーツの現状① 日本と世界でのeスポーツの現状。	△ eスポーツに関わる新聞記事を集める	90
		▽ eスポーツの現状についてまとめる	90
第 4 回	eスポーツの現状② eスポーツに関わる各種企業・イベントやプロプレイヤーとはどのような仕事をしているのか	△ eスポーツの広告を集める	90
		▽ eスポーツの事をまとめる	90
第 5 回	日本国内でのeスポーツに関する法律	△ eスポーツに関する法律について下調べをする	90
		▽ 法律についてまとめる	90
第 6 回	日本国内でのeスポーツの市場	△ eスポーツ市場に関わる記事について集める	90
		▽ eスポーツ市場にまとめる	90
第 7 回	シルバーeスポーツ シルバー世代とeスポーツについて。現代社会の高齢者の課題をeスポーツで解決できないか考察	△ シルバーeスポーツについてインターネットで調べる	90
		▽ 高齢者の課題とe-スポーツについてまとめる	90
第 8 回	eスポーツ体験① 実際にeスポーツを体験	△ eスポーツのソフトを調べる①	90
		▽ eスポーツ実践の課題をまとめる①	90
第 9 回	eスポーツ体験② 実際にeスポーツを体験	△ eスポーツのソフトを調べる②	90
		▽ eスポーツ実践の課題をまとめる②	90
第 10 回	eスポーツ体験③ eスポーツsイベント企画 イベント案を出し、ディスカッションを通して企画を作成	△ eスポーツ大会の広告サイトを集める	90
		▽ 課題を集める	90
第 11 回	eスポーツ体験④ eスポーツイベント企画 イベント案を出し、ディスカッションを通して企画を作成	△ イベントについてデータを集める	90
		▽ イベント実践に向けた課題について考える	90
第 12 回	eスポーツ体験⑤ eスポーツイベントの実施 実際にイベントを実施する。	△ イベントについての課題をまとめておく①	90
		▽ イベント実践にの成果をまとめる①	90
第 13 回	eスポーツ体験⑥ eスポーツイベントの実施 実際にイベントを実施する。	△ イベントについての課題をまとめておく②	90
		▽ イベント実践にの成果をまとめる②	90
第 14 回	eスポーツとヘルスサイエンス ネットゲーム依存などの症状について、WHOが定める「ゲーム障害」対策について	△ ゲーム障害について記事を調べる	90
		▽ ゲーム障害対策についてまとめる	90
第 15 回	講義の振り返り・まとめ	△ これまでの授業内容を振り返る	90
		▽ これまでの授業内容を振り返り、まとめる	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

・演習や協議を行いながらの学修が多くなります。主体的な参加を期待しています。
・実際にeスポーツを体験して学びます。

【テキスト】

必要に応じて配布します。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて提示します。

【連絡方法】 授業の際に伝えます。

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	① ②	30%	課題の意図を、適確に理解し、過不足無く述べている。	課題の意図を理解し、記述されている。	課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。	課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。	課題の意図や、これまでの授業内容が理解されておらず、関係の無いよう内容が記述されている。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	50%	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。	主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。	主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	授業内での取組に参加することができた。	授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している
授業外での取組	① ②	20%	課題に意欲的に取り組み、授業で学んだことを自分なりに工夫した成果物を期限に遅れることなく提出した。	課題に取り組み、授業で学んだことを生かした成果物を期限に遅れることなく提出した。	課題に取り組み、意図にあった成果物を期限に遅れることなく提出した。	課題に取り組み、成果物をおおむね期限に遅れることなく提出した。	課題の取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	10.11	2. 3. 4. 5. 6. 14	8. 9. 10. 11. 12. 13	7		

科目名／基礎教育 YHS008	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
動画クリエイター入門	1年後期	選択必修	演習/単独	1単位	Reiji		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

・自分のアイデアやストーリーをビジュアルメディアに変換するための思考力/発想力を養う
・動画の制作過程やビジュアルメディアの影響について理解し、多角的に考える力を身につける
・動画制作の実習を通じて、PC操作、ITに関係する知識を身につける
・チーム内での作業や会議、オンラインミーティングを通じて、学生のコミュニケーション能力を向上させる

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

本講義では、学生がこの先社会に出る上で必要になる、多角的に物事を考える力、自身の考えや発想を表現する力、人と上手くコミュニケーションを取る力を動画制作を通して学習します。また、現代を生きる上で必要不可欠になっているITへの理解、PC操作の基礎スキルも学習していきます。
オンライン授業では、Web会議ツールを使用しオンラインミーティングなどの学習を取り入れ、将来を見据えたリモートワークやテレワークの疑似体験が出来る授業形態を採用します。授業の後半では動画制作活動の進捗会議を行い、チームワークの大切さを学び、学生毎に内容理解の差が出にくくなるよう行います。

【到達目標と学修成果】

①動画制作活動を通して、学生自身の持つアイデアや発想などをアウトプットする能力を高める
②学校をPRする動画制作を通して、自身の通う学校の良い所を改めて気付く事で、学校へ通う事や学習へのモチベーションアップに繋げる
③オンラインミーティングやSNSへの動画アップロードを通して、企業が採用する業務のデジタル化を理解し社会に適応する力を身につける
④チーム活動での授業形態を多くする事で、人とコミュニケーションを取る大切さを学び、社会に必要とされる人材としての素養を身につける

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	動画編集ソフトに触れてみよう① カット/テロップ入れ/ズームなど編集基本操作を学ぶ	△シラバスを読み、全体の流れを把握する	90
		▽やってみたい編集操作をまとめておく	90
第 2 回	動画編集ソフトに触れてみよう② 画像,音声の差し込み/動画を重ねるなど編集基本操作を学ぶ	△色々な動画を見て、気になる編集をまとめておく	90
		▽動画制作に向けて、学んだ編集操作を復習しておく	90
第 3 回	動画制作①～学校紹介動画の制作に向けて～ 制作する動画のイメージの言語化、アウトプット/動画企画書作成	△学校内でPRに向いてる場所や要素を把握しておく	90
		▽どういう動画にするかイメージを強く持つ	90
第 4 回 オンデマンド	動画制作②～学校紹介動画の制作に向けて～【オンデマンド授業】 視聴者の思考や観点についてディスカッション/制作物の方向性最終確認	△大学進学を考える人が求める要素をまとめておく	90
		▽自身の考えが物事を多角的に見れていたか振り返る	90
第 5 回	動画制作③～学校紹介動画の制作に向けて～ 担当決め/撮影、素材集め、企画書に沿って動画の制作を開始	△動画制作のどの箇所を自分が担当したいか考えておく	90
		▽企画書のスケジュールや内容に沿っているか確認	90
第 6 回	動画制作④～学校紹介動画の制作に向けて～ 企画書に沿って動画の制作/授業後半は進捗会議	△必要な動画素材や撮影箇所の許可取りの確認	90
		▽進捗会議での議事録を作成する	90
第 7 回	動画制作⑤～学校紹介動画の制作に向けて～ 講師の動画制作実演	△議事録の再確認	90
		▽実演内でわからなかった操作などまとめておく	90
第 8 回	動画制作⑥～学校紹介動画の制作に向けて～ 後半4回分の授業での制作スケジュールについてミーティング	△ミーティングでの質問や確認事項を考えておく	90
		▽制作スケジュールを作成する	90
第 9 回	動画制作⑦～学校紹介動画の制作に向けて～ ミーティングでの制作スケジュールに沿って動画の制作/進捗会議	△動画編集ソフトの操作を復習しておく	90
		▽進捗会議での議事録を作成する	90
第 10 回	動画制作⑧～学校紹介動画の制作に向けて～ 制作スケジュールに沿って動画の制作/進捗会議	△制作スケジュールと実際の作業進行の差を把握する	90
		▽進捗会議での議事録を作成する	90
第 11 回	動画制作⑨～学校紹介動画の制作に向けて～ 動画・サムネイルの制作/次回で制作が最後になる事を踏まえた進捗会議	△色々なサムネイルを見て、イメージを持つ	90
		▽進捗会議での議事録を作成する	90
第 12 回	動画制作⑩～学校紹介動画の制作に向けて～ 動画の制作終了/サムネイルを仕上げる/書き出して動画ファイルにする	△参考にしたい良いサムネイルをいくつか用意する	90
		▽制作したサムネイルの改善点を考える/書き出しの復習	90
第 13 回	学校のYouTubeChに制作した学校紹介動画をアップロードする	△学校のYouTubeChで修正したい箇所をまとめておく	90
		▽YouTubeでのアップロードについて復習する	90
第 14 回	完成した動画を鑑賞 担当した箇所を各々プレゼンテーション	△自身が担当した箇所を説明出来るようまとめておく	90
		▽自身の制作活動にて良かった所をまとめておく	90
第 15 回	講義の振り返り・まとめ	△これまでの授業内容を振り返る	90
		▽これまでの授業内容を振り返り、まとめる	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

開講最大人数はPC台数

【テキスト】

必要に応じて配布します。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて配布します。

【連絡方法】 授業の際に伝えます

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート	① ② ④	30%	制作している動画の意図を、適確に理解し、過不足無く作成出来ている。	制作しているの意図を理解し、作成出来ている。	制作している動画の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。	制作している動画の意図を断片的にしか理解しておらず、制作内容が不十分である。	制作している動画の意図や、これまでの授業内容が理解されておらず、関係の無い動画制作になっている。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③ ④	70%	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。	主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。	主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	授業内での取組に参加することができた。	授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	15.16	14	4,5,6,7,8,9,10,11			

科目名／基礎教育 YHS009	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
エンターテーメントⅠ	1年前期	選択必修	演習	1単位	FUMIKO	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

幼児教育構想×エンターテーメント構想①
エンターテーメント作品には、人の心を動かし、感情を豊かにする力がある。本授業では、映画・演劇・音楽などの作品を通じて、表現の本質やコミュニケーションの在り方を学びます。さらに、作品がどのように共感を生み出し、人との関係性を深めるのかを考察しながら、表現を受け取る力と発信する力の両面を養います。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

作品鑑賞ごとに何に感動したのか？作者は何を伝えたかったのか？自分はどう感じたのか？をディスカッションする。同じ作品を見て他者はどう捉えるのかを分析する。

【到達目標と学修成果】

①固定観念を払拭し、柔軟な発想が持てることで、他者の気持ちが理解できるようになる。
②ディスカッションをしていくことで、他者との効果的な関わり方を見出すことができる

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンスとレクリエーション(授業概要・評価方法・自己紹介)	△ シラバスの内容を把握する	20
		▽ 履修上の留意点を理解する	20
第 2 回	作品鑑賞①(学生アンケート調査により選ばれた作品)	△ 役柄の気持ちや物語の展開を理解する	20
		▽ 読解力・見る力・考える力を養うことができたか、ふりかえる	20
第 3 回	作品鑑賞①	△ 作品に込められた意味を理解する	20
		▽ 教養を高め他者の感情を理解する	20
第 4 回	作品鑑賞①のレポート作成(導入・考察・客観視・まとめ)	△ ディスカッションの準備	20
		▽ 端的にわかりやすく伝える資料が作成できたか、ふりかえる	20
第 5 回	作品鑑賞①に対してのディスカッション(レポート発表含む)	△ ディスカッション内容についてふりかえる	20
		▽ 自身のプレゼン力や授業への理解が高まったか、ふりかえる	20
第 6 回	作品鑑賞②(学生アンケート調査により選ばれた作品)	△ 役柄の気持ちや物語の展開を理解する	20
		▽ 読解力・見る力・考える力を養うことができたか、ふりかえる	20
第 7 回	作品鑑賞②	△ 作品に込められた意味を理解する	20
		▽ 教養を高め他者の感情を理解する	20
第 8 回	作品鑑賞②のレポート作成(導入・考察・客観視・まとめ)	△ ディスカッションの準備	20
		▽ 端的にわかりやすく伝える資料が作成できたか、ふりかえる	20
第 9 回	作品鑑賞②に対してのディスカッション(レポート発表含む)	△ ディスカッションの準備	20
		▽ 自身のプレゼン力や授業への理解が高まったか、ふりかえる	20
第 10 回	作品鑑賞③(学生アンケート調査により選ばれた作品)	△ 役柄の気持ちや物語の展開を理解する	20
		▽ 読解力・見る力・考える力を養うことができたか、ふりかえる	20
第 11 回	作品鑑賞③	△ 作品に込められた意味を理解する	20
		▽ 教養を高め他者の感情を理解する	20
第 12 回	作品鑑賞③のレポート作成(導入・考察・客観視・まとめ)	△ ディスカッションの準備	30
		▽ 端的にわかりやすく伝える資料が作成できたか、ふりかえる	30
第 13 回	作品鑑賞③に対してのディスカッション(レポート発表含む)	△ ディスカッションの準備	30
		▽ 自身のプレゼン力や授業への理解が高まったか、ふりかえる	30
第 14 回	「わたしの自己啓発バイブル作品」を見つけレポートを作成	△ 「私の師」を見つける	30
		▽ 人に学ぶことについて考える	30
第 15 回	「わたしの自己啓発バイブル作品」を発表	△ 人生・反面・趣味などあらゆる角度から師を見つける	30
		▽ 授業を通して、伝える力と聞く力を磨くことができたか、ふりかえる	25

備考：

675

【履修上の留意点】

積極的に発言し、適切な態度で授業に臨むこと
遅刻・欠席をしないこと
課題の提出をすること

【テキスト】

授業時に必要なプリントを配布する

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝達

【連絡方法】 授業時間・休み時間・リーダーに伝達

【オフィスアワー】 木曜日

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	①	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	30%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	5・9・13回					

科目名／基礎教育 YHS009	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
エンターテーメントⅠ	1年後期	選択必修	演習	1単位	FUMIKO	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

前期の学びを発展させ、自己分析を通じて自分の表現スタイルや強みを深く理解する。言語・非言語の表現手法を学びながら、プレゼンテーションや簡単なパフォーマンスを実践し、自己表現力を高めていく。フィードバックを活かし、より効果的な伝え方を身につけることを目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

活動内容により屋内・屋外での授業となる。
あらゆる年代の成功事例について学ぶ(ゲストをお招きする場合あり)
題材により、ペア・グループ・全体でディベート型、自由討論型、選択型、課題解決型でディスカッションを行い、情報交換や意見交換を行う。

【到達目標と学修成果】

①コミュニケーションスキル・マネジメントスキルなどスキル向上のためのトレーニングを身につける。
②自分の悩みや抱える課題、実際に発生した事柄など問題解決に向け討論することで、画期的なアイデアが生まれ問題解決に繋がることを理解する。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	自己分析レポート作成	△	レポート作成(パワーポイント使用)	20
		▽	過去・現在の自分を見直すきっかけにする	20
第 2 回	役割決め （司会・書記・タイムキーパー・進行係確定）	△	建設的な討論会になるように役割を確定する	20
		▽	プレゼン力を身につけるために何が課題かふりかえる	20
第 3 回	自己分析レポート発表	△	レポート発表の準備	20
		▽	プレゼン力を身につけるために何が課題かふりかえる	20
第 4 回	役割決め （司会・書記・タイムキーパー・進行係確定）	△	建設的な討論会になるように役割を確定する	20
		▽	マネジメントスキルが向上するために何が必要か考える	20
第 5 回	意見交換会①	△	他者の自己分析を聞き、それに対し発言する	20
		▽	否定と意見の違いを理解し発言する力を身につける	20
第 6 回	意見交換会②	△	解決に導くような意見交換会になるために必要なことを考える	20
		▽	自主性や協調性を高めるために何が必要か考える	20
第 7 回	討論会企画書作成① (テーマを選び経緯・目的・分析・結果の企画書を作成)	△	様々な媒体で企画書を作成する	20
		▽	発想力を高めクリエイティブな人材を育成するために必要なことを考える	20
第 8 回	討論会企画書作成② 前回の授業内容を (テーマを選び経緯・目的・分析・結果の企画書を作成)	△	様々な媒体で企画書を作成する	20
		▽	発想力を高めクリエイティブな人材を育成するために必要なことを考える	20
第 9 回	企画書会議①(実演に向けて3つの企画を厳選する)	△	作成した企画書を元に実演に向け3つ厳選する	20
		▽	社会人スキルを高めるために何が必要か考える	20
第 10 回	企画書会議②(実演に向けて3つの企画を厳選する)	△	討論会実演(選ばれた企画書を元に実演する)の準備をする	20
		▽	声の大きさ、正確さ、伝達力の意識に重視して、授業をふりかえる	20
第 11 回	討論会実演会	△	討論会実演(選ばれた企画書を元に実演する)の準備をする	20
		▽	企画力・実行力などビジネスに役立つことは何かを考える	20
第 12 回	ゲストティーチャー①(エンタメ界に生きる人生とは)	△	エンタメ業界に生きる方の苦悩や挑戦を聞く事前準備をする	30
		▽	その人の人生から得られるヒントを考える	30
第 13 回	ゲストティーチャー②	△	エンタメ業界に生きる方の苦悩や挑戦を聞く事前準備をする	30
		▽	その人の人生から得られるヒントを考える	30
第 14 回	ゲストティーチャー③(エンタメ企業講話)	△	エンタメ界は今後どうなるか考える	30
		▽	多ジャンルについて学び洞察力を身につけられたか、ふりかえる	30
第 15 回	まとめ(幼児教育×エンタメ構想の結びつきを考える)	△	幼児教育になぜエンタメ構想が必要なのか考える	30
		▽	多角的な視点で物事を捉える習慣を身につけられたか、ふりかえる	25

備考：

675

【履修上の留意点】

積極的に発言し、適切な態度で授業に臨むこと
遅刻・欠席をしないこと
課題の提出をすること

【テキスト】

授業時に必要なプリントを配布する

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝達

【連絡方法】 授業時

【オフィスアワー】 木曜日

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	① ②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	30%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第5・6回					

科目名／基礎教育 YHS010	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
エンターテーメントⅡ	2年前期	選択必修	単独/演習	1単位	FUMIKO	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

幼児教育構想×エンターテーメント構想②
エンタメ業界や関連分野の専門家の講義やインタビューを通じて、異業種の視点からの学びを得る。表現のもつ社会的役割や、実際のビジネスでの活用方法を知ることで、エンタメの可能性を広く捉え、実社会で活かせるスキルを習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

異分野交流をし、セッションしていく。
学んだ視点を元に将来設計や悩みを聞き、解決策や問題点を話し合う。価値観の幅を広げることで新しい課題を見つけそれに向かって行動できる自分になるような授業展開をしていく。

【到達目標と学修成果】

①自己肯定感と共感力を高め、価値のあるエンターテイメントを作り出せる。
②学びとエンターテイメントを組み合わせ「エンタメの持つ力」を実感する。
③本物に触れることで良質なイベント企画が生まれる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス(授業の概要と到達目標の設定、成績評価について)	△ 授業の概要と到達目標の設定、成績評価について確認する	20
		▽ 授業目的や到達目標を確認する	20
第 2 回	幼児教育構想×エンターテイメント①(共想プロジェクト第1弾)	△ 幼児教育×エンタメの共想部に何ができるか考える	20
		▽ 人のため・自分のために何が出来るか合理的に考える	20
第 3 回	幼児教育構想×エンターテイメント②(共想プロジェクト第2弾)	△ 目的に対する手段・効率性・有効な方法を身につける	20
		▽ チャレンジ力・思考力をつけ、人生を豊かにするために必要なことを考える	20
第 4 回	幼児教育構想×エンターテイメント③(共想プロジェクト第3弾)	△ 人生設計ノートを作成する	20
		▽ 設計力から行動力、アウトプットできる力を身につける	20
第 5 回	共想プロジェクト実現に向けて①	△ 組み立てた共想プロジェクトを実行してみる	20
		▽ 構想の実現へ向け着手できる力を身につける	20
第 6 回	共想プロジェクト実現に向けて②	△ 組み立てた共想プロジェクトを実行してみる	20
		▽ 構想の実現へ向け着手できる力を身につける	20
第 7 回	共想プロジェクト実現に向けて③	△ 組み立てた共想プロジェクトを実行してみる	20
		▽ 構想の実現へ向け着手できる力を身につける	20
第 8 回	教育分野・エンタメ分野の未来について語ろう①	△ 組み立てた共想プロジェクトの未来について語るテーマを準備する	20
		▽ 共感的な関係を作り自己肯定感を上げる	20
第 9 回	教育分野・エンタメ分野の未来について語ろう②	△ 組み立てた共想プロジェクトの未来について語るテーマを準備する	20
		▽ 共感的な関係を作り自己肯定感を上げる	20
第 10 回	異文化交流サロン①(業界で生きていくためのヒントを得る)	△ ゲストを迎え「未来」というテーマで語る準備をする	20
		▽ 時代を読める人間になるために、何が必要か考察する	20
第 11 回	異文化交流サロン②(業界で生きていくためのヒントを得る)	△ ゲストを迎え「未来」というテーマで語る準備をする	20
		▽ 時代を読める人間になるために、何が必要か考察する	20
第 12 回	異文化交流サロン③(今後のスタイルはどのうように変化するのか？)	△ ゲストを迎え「未来」というテーマで語る準備をする	30
		▽ 時代を読める人間になるために、何が必要か考察する	30
第 13 回	異文化交流サロン④(今後のスタイルはどのうように変化するのか？)	△ ゲストを迎え「未来」というテーマで語る準備をする	30
		▽ 時代を読める人間になるために、何が必要か考察する	30
第 14 回	エンタメの業界研究(今後成長するエンタメ業界と求められるサービス)	△ エンタメと幼児教育の融合に何が生まれるか問う	30
		▽ 幼児教育×エンターテイメントの本質を見抜く	30
第 15 回	前期まとめ	△ 振り返りと後期に向けての準備	30
		▽ イベント発案・起案に向けて着手する	25

備考：

675

【履修上の留意点】

積極的に発言し、適切な態度で授業に臨むこと
遅刻・欠席をしないこと
課題の提出をすること

【テキスト】

授業時に必要なプリントを配布する

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝達

【連絡方法】 授業時

【オフィスアワー】 木曜日

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	② ③	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第8・9回					

科目名／基礎教育 YHS010	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
エンターテーメントⅡ	2年後期	選択必修	単独/演習	1単位	FUMIKO	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

前期の学びをもとに、実際にイベントを企画・運営し、自己啓発や行動力を高める。計画立案から実施、振り返りまでを行い、チームで協力しながら目標達成に向けたプロセスを経験する。エンタメを活用した効果的なコミュニケーションの実践力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

企画をより明確にプレゼンするため、立案者自ら学ぶ体験型実技を行う(発声・滑舌・トーク力・感情を込めた歌・姿勢・ダンスの基本)。
起業の仕組みを理解し、疑似体験を行う。

【到達目標と学修成果】

①理論的かつ感情的に訴えかけ、先方に理解されやすいイベントを確立する方法を理解する。
②学校や教育現場・私生活・ビジネスなど様々な場面で必要になるプレゼンテーションのスキルを身につける。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	起業の仕方(個人事業主になるために)	△ 起業の仕組みを理解する	20
		▽ ビジネス化に向けて仕組みが理解できているかをふりかえる	20
第 2 回	イベント企画作成(ターゲットオーディエンス・ニーズに基づく企画の構築)	△ 誰が何を求めているかを理解する	20
		▽ 驚きや感動・新しい価値の提供ができているをふりかえる	20
第 3 回	イベント企画作成(目的・内容・費用・役割・進行・集客見込み・課題)	△ 実践までのプロセスを把握する	20
		▽ 丁寧に情熱を持って企画が立てられているかをふりかえる	20
第 4 回	体験型実践(発声・滑舌・トーク力・表現力)ゲストティーチャー	△ 体験型実践をイベント企画に役立てるために必要なことを考える	20
		▽ 授業のふりかえりを行う。	20
第 5 回	体験型実践(ボイストレーニング)ゲストティーチャー	△ 体験型実践をイベント企画に役立てるために必要なことを考える	20
		▽ 授業のふりかえりを行う。	20
第 6 回	体験型実践(バレエによる姿勢の大切さを学ぶ)ゲストティーチャー	△ 体験型実践をイベント企画に役立てるために必要なことを考える	20
		▽ 授業のふりかえりを行う。	20
第 7 回	体験型実践(ダンスで表現)ゲストティーチャー	△ 体験型実践をイベント企画に役立てるために必要なことを考える	20
		▽ 授業のふりかえりを行う。	20
第 8 回	起業の仕方実践(実際に登録書類を書いてみる)	△ 開業届の書き方・提出方法・確定申告など理解する	20
		▽ 丁寧に書類が書かれているか、理解できているかをふりかえる	20
第 9 回	起業の仕方実践(実際に登録書類を書いてみる)	△ 企画を通すために必要な手続きの理解を深める	20
		▽ 禁止行為や許可申請の仕組みが理解できているかをふりかえる	20
第 10 回	イベント企画書の最終調整(実践に向けて調整していく)	△ 立案した企画書が実行できるか最終調整を行う	20
		▽ 実際に通る企画書になっているか確認する	20
第 11 回	プレゼンと実践①	△ 発案した企画書が理解されるかプレゼンをしてみる	20
		▽ 体験した実践の成果が表れているかをふりかえる	20
第 12 回	プレゼンと実践②	△ 発案した企画書が理解されるかプレゼンをしてみる	30
		▽ 体験した実践の成果が表れているかをふりかえる	30
第 13 回	プレゼンと実践③	△ 発案した企画書が理解されるかプレゼンをしてみる	30
		▽ 体験した実践の成果が表れているかをふりかえる	30
第 14 回	プレゼンと実践④(社会人を対象に実際にプレゼンを聞いて頂く)	△ 発案した企画書が理解されるかプレゼンをしてみる	30
		▽ 体験した実践の成果が表れているかをふりかえる	30
第 15 回	2年まとめ	△ 作成した書類をファイリングし保管し感想をまとめる	30
		▽ 感想を含め、丁寧に書類の保管がされているか確認する	25

備考：

675

【履修上の留意点】

積極的に発言し、適切な態度で授業に臨むこと
遅刻・欠席をしないこと
課題の提出をすること

【テキスト】

授業時に必要なプリントを配布する

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝達

【連絡方法】 授業時

【オフィスアワー】 木曜日

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	①	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	40%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		第11～14回				

科目名／基礎教育 YHS011	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
エンターテーメントⅢ	3年前期	選択必修	単独/演習	1単位	FUMIKO	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

幼児教育構想×エンターテ-メント構想③
エンタメを通じて信頼を得るための法則を学ぶ。論理的思考力・行動力・創造力がどのように人を惹きつけるのかを考察し、実践的なスキルとして身につける。成功している表現者の事例を分析し、日常やキャリアに活かせる対人スキルを磨く。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

行動ビジネス論を学び、職業見学体験会を数多く取り入れる。

【到達目標と学修成果】

①他者の気持ちを読み、コミュニケーション力を高め物事を前向きに捉えることができる。
②実践を重ねる度にビジネスだけではなく、幼児教育、子育て、私生活に付加価値をつける。
③より進路選択の幅が広がる広い視野を身につけることができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンスとレクリエーション(授業概要・評価方法・自己紹介)	△ シラバスの内容を把握する	20
		▽ 履修上の留意点を理解する	20
第 2 回	職業見学	△ 実際に現場を見学し異職種交流を図る	20
		▽ 丁寧な対応で真面目に取り組めているか、ふりかえる	20
第 3 回	体験を終えて(エンタメビジネスサロン会開催)	△ 実際の現場を見学し得た知識を共有する	20
		▽ 積極的に発言し、他者の発言を理解できたか、ふりかえる	20
第 4 回	職業見学	△ 実際に現場を見学し異職種交流を図る	20
		▽ 丁寧な対応で真面目に取り組めているか、ふりかえる	20
第 5 回	体験を終えて(エンタメビジネスサロン会開催)	△ 実際の現場を見学し得た知識を共有する	20
		▽ 積極的に発言し、他者の発言を理解できたか、りかえる	20
第 6 回	職業見学	△ 実際に現場を見学し異職種交流を図る	20
		▽ 丁寧な対応で真面目に取り組めているか、ふりかえる	20
第 7 回	体験を終えて(エンタメビジネスサロン会開催)	△ 実際の現場を見学し得た知識を共有する	20
		▽ 積極的に発言し、他者の発言を理解できたか、ふりかえる	20
第 8 回	プロフェッショナルになるための自分なりの流儀を考える	△ 一人30個を目標に「自分の流儀」を考えまとめる	20
		▽ 正確に実行しやすい形の目標が立てられているか、ふりかえる	20
第 9 回	「心得」を分野別に設定しまとめる	△ 人の心得・エンタメの心得・教育の心得を考える	20
		▽ 自分にとって大切な「心得」になっているか、ふりかえる	20
第 10 回	社会的価値と地域貢献に向けての企画書作成	△ 地域貢献実現可能にするために必要なことを企画する	20
		▽ 得たノウハウが企画書に表れているか、確認する	20
第 11 回	企画書選抜と実行に向けて	△ 1つ企画書を選抜し実行に向けた進行の準備をする	20
		▽ 他者の企画書に積極的に参加し成功に導けるか、ふりかえる	20
第 12 回	企画書選抜と実行に向けて	△ 地域貢献実現可能にするために必要なことを企画する	30
		▽ 得たノウハウが企画書に表れているか、確認する	30
第 13 回	企画書選抜と実行に向けて	△ 地域貢献に向け役割を分担し計画する	30
		▽ 協力し合い成功に向け動けているか、ふりかえる	30
第 14 回	地域貢献実行	△ 前期授業の集大成を込めて地域貢献を成功させる準備をする	30
		▽ 得たノウハウが企画書に表れているか、確認する	30
第 15 回	地域貢献を終えて 前期最終サロン会開催	△ 人生のスタップアップになるサロン会の開催準備をする	30
		▽ 未来への一歩を踏み出せているか、ふりかえる	25

備考： 675

【履修上の留意点】

積極的に発言し、適切な態度で授業に臨むこと
遅刻・欠席をしないこと
課題の提出をすること

【テキスト】

授業時に必要なプリントを配布する

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝達

【連絡方法】 授業時間・休み時間・リーダーに伝達

【オフィスアワー】 木曜日

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③	40%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			2.4.6			

科目名／基礎教育 YHS011□	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
エンターテーメントⅢ	3年後期	選択必修	単独/演習	1単位	FUMIKO	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

これまでの学びを統合し、エンタメを活用した実践的なコミュニケーション力を確立する。個人またはチームでプロジェクトを企画・発表し、成果を振り返りながら、今後の課題や成長の方向性を明確にする。実社会で活かせる表現力と対人スキルの定着を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

本授業では、エンターテーメントを通じて、人とのコミュニケーションを深める力を養う。演劇、音楽、映像、イベント企画など多様な表現活動を取り入れながら、相手の心を豊かにし、自身の表現力や行動力を高めることを目的とする。特に、幼児教育の現場において求められる創造的な発想力や対人スキルを磨くことを重視し、段階的に実践的な学びへと発展させていく。

【到達目標と学修成果】

①「台本作成」「モノ作り」「発表」「模擬授業」「今話題のものの情報収集」を学ことでチャレンジし続ける意欲を養うことができる。
②「より多く感動すること、させること」「師を見つけること、師になれること」により、自己啓発の大切さを学ぶことができる。
③人望を得て信頼されるために何より必要な論理や道筋と情熱を持てるようになる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス(授業の概要と到達目標の設定、成績評価について)	△シラバスを事前に読んでおく。	20
		▽授業目的や到達目標を確認する	20
第2回	笑顔と感動をテーマにした台本作成(企画・チーム分け・短編台本作成)	△教育に笑顔をというテーマでお笑いライブを企画する	20
		▽人に笑いを与えられる企画になっているか、ふりかえる	20
第3回	作成された台本の実演に向けて(演習)小道具・衣装など役割分担	△作成した台本を元に演習を行う準備をする	20
		▽真面目に取り組む姿が見られるか、ふりかえる	20
第4回	作成された台本の実演に向けて(演習)役割分担に沿って作業を進める	△作成した台本を元に演習を行う準備をする	20
		▽真面目に取り組む姿が見られるか、ふりかえる	20
第5回	作成された台本の実演に向けて(演習)	△作成した台本を元に演習を行う準備をする	20
		▽協力し合い、真面目に取り組む姿が見られるか、ふりかえる	20
第6回	作成された台本の実演に向けて(演習)リハーサル	△作成した台本を元にリハーサルを行う準備をする	20
		▽本番に向け完成度が高いか、ふりかえる	20
第7回	作成された台本の実演会	△ホールにて実演し動画を撮影するための準備をする	20
		▽観客に笑顔を届けられたか、ふりかえる	20
第8回	「実演会を終えて」(課題・得た事などのサロン会)	△実演会で得た事や課題を見つける	20
		▽多角的な視点で物事を捉え次のステップに繋がるか、ふりかえる	20
第9回	「エンタメ教育」ゲストティーチャー(現場で役立つ情報入手)	△エンタメ教育推奨企業様による講話を聴く準備をする	20
		▽内容を理解し、非言語能力が身についているか、ふりかえる	20
第10回	プロの作品に触れる(映画または舞台感激)	△話題のコンテンツに触れることで情報の先取りをする	20
		▽過去に捉われず先を読む姿勢ができているか、ふりかえる	20
第11回	幼児教育構想×エンターテイメント構想模擬授業に向けての資料作り	△価値のある模擬授業をするために必要な書類を作る	20
		▽これまでの学びがまとめられているか、ふりかえる	20
第12回	幼児教育構想×エンターテイメント構想模擬授業①	△学びをアウトプットをするために必要な自身の課題をみつける	30
		▽正確な情報を解説し、楽しい授業になっているか、ふりかえる	30
第13回	幼児教育構想×エンターテイメント構想模擬授業②	△学びをアウトプットをするために必要な自身の課題をみつける	30
		▽正確な情報を解説し、楽しい授業になっているか、ふりかえる	30
第14回	幼児教育構想×エンターテイメント構想模擬授業③	△学びをアウトプットをするために必要な自身の課題をみつける	30
		▽正確な情報を解説し、楽しい授業になっているか、ふりかえる	30
第15回	幼児教育構想×エンターテイメント構想を終えての最終サロン会	△「自分が『師』になるには」というテーマのサロン会開催の準備	30
		▽信頼関係を築き、学びをどう活用していくか、考察する	25

備考：

675

【履修上の留意点】

積極的に発言し、適切な態度で授業に臨むこと
遅刻・欠席をしないこと
課題の提出をすること

【テキスト】

授業時に必要なプリントを配布する

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝達

【連絡方法】 授業時

【オフィスアワー】 木曜日

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	① ② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	② ③	30%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			第12～14回			

科目名／基礎教育 YHS101	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
英語コミュニケーションⅠ	1年前期	必修	演習/単独	1単位	新庄　恵子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

グローバル化が進む現在、幼児教育の現場でも英語による意思疎通が必要とされることがある。そのような状況に対応することを念頭に置き、本授業では、中学・高校での学習内容をもとに、幼児教育および保育に役立つ歌・ゲーム・絵本に慣れ親しむ活動を通じ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

テキストを用い、ペアワークやグループワーク等によるコミュニケーション活動を中心に授業を進める。幼児教育や保育に関わる英語の表現や文法および単語の定着を図るため、授業内では簡単な確認テストを実施する。

【到達目標と学修成果】

①日常生活および幼児教育に関わる話題についての英語を聞き取ることができる。
②日常生活および幼児教育に関わる話題について、英語で表現することができる。
③基本的な文法事項を理解し日常生活および幼児教育に関わる話題についての英語を読み、英語で書くことができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第１回	ガイダンス:授業の内容・進め方:評価の方法/自己紹介(1) 1. Children's Garden　疑問詞(where/what/when/how等)の用法	△ 自己紹介の準備	20
		▽ 自己紹介に関する単語と表現	25
第２回	自己紹介(2)　幼稚園での実習の打ち合わせでのやりとり 1.Children's Garden　比較級・最上級の用法	△ 教科書10頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書9~10頁の単語と表現を覚える	25
第３回	園児との会話　園児の日常生活に関してのやりとり 2. The First Day of the Internship　to不定詞の用法	△ 教科書12頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ 遊具/台所用品に関する単語や表現を覚える	25
第４回	実習初日の様子　職場(幼稚園)の様子の描写 2. The First Day of the Internship　一般動詞の用法	△ 教科書16頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書15~16頁の単語と表現を覚える	25
第５回	幼稚園周辺の様子　街中の建物の位置関係を説明 3. Out We Go!　命令文の用法	△ 教科書18頁1～10の単語の意味を確認する	20
		▽ 街中の様子を説明する単語や表現を覚える	25
第６回	幼稚園周辺の散歩　身の回りの物の位置関係を描写 3. Out We Go!　前置詞(in/on/at/of等)の用法	△ 教科書22頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書21~22頁の単語と表現を覚える	25
第７回	屋外での活動　活動方法や動作を説明 4. Splish, Splash　現在分詞の用法	△ 教科書24頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ 水遊びに関する単語や表現を覚える	25
第８回	屋内での活動　園児の活動の様子を描写 4. Splish, Splash　whichの非制限用法	△ 教科書28頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書27~28頁の単語と表現を覚える	25
第９回	食生活・食育　食べ物の原材料と簡単な調理法の説明 5. Pancake Day　助動詞canの用法	△ 教科書30頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ 料理に関する単語や表現を覚える	25
第１０回	ランチタイム・給食 5. Pancake Day　使役動詞(have/get/let等)の用法	△ 教科書34頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書33~34頁の単語と表現を覚える	25
第１１回	物語の読み聞かせ(1)プレリーディング ペア活動 6. Read Me, Tell Me Stories　後置修飾の方法	△ 教科書36頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ 問いかける際の表現を覚える	25
第１２回	物語の読み聞かせ(2)ポストリーディング ペア活動 6. Read Me, Tell Me Stories　冠詞(a/an/the)の用法	△ 教科書40頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 絵本のあらすじを説明・確認する際の表現を覚える	25
第１３回	英語コミュニケーション活動 身近なものを題材にした、「Show&Tell」	△ Show ＆ Tellの準備をする	20
		▽ プレゼンテーションについて改善点を考える	25
第１４回	プレゼンテーション 英語コミュニケーション活動「Show ＆ Tell」	△ プレゼンテーションの準備をする	20
		▽ プレゼンテーションについて改善点を考える	25
第１５回	まとめ	△ 既出の単語と表現の意味を確認する	20
		▽ 全授業を振り返り、学修をまとめる	25

備考：　この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。　675

【履修上の留意点】

積極的に英語のコミュニケーション活動に参加する態度が必要です。

【テキスト】

Children's Garden: 保育英語　ISBN 978－4－7919－1095－3

【参考書・参考資料等】

授業時に、随時紹介する。

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、自分の考えをもとに解答できている。 ・書式のミスがない。	・課題の意図を理解し、明確に解答できている。 ・書式のミスがほぼない。	・課題の意図を概ね理解し、適切に解答できている。 ・書式のミスが散見する。	・課題の意図を断片的に理解し、解答できているが、テーマとの結びつきが弱い。 ・書式のミスが多い。	・課題の意図や授業内容の理解が不十分であり、解答できているが、テーマとの関りが見られない。 ・字数が不足しており、書式のミスが多い。 ・提出期限が守られない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	50%	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に意欲的に取り組む姿勢が見られ、模範である。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に取り組む姿勢が見られる。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加しようと努力する姿勢が見られる。 ・学習を通じて、知識/理解/実践力の習得に努めようとする。	・授業の学習活動に参加することができる。 ・知識/理解/実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業の学習活動への参加が不十分であり、知識/理解/実践力の習得が不足している。
授業外での取組	① ② ③	20%	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められ、その成果も見受けられる。	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習に積極的に取り組む努力をしていることが認められる。	・授業外での学習に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習への取り組みが不十分で、内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第13回・第14回	第13回・第14回		第1回～第10回 第14回		

科目名／基礎教育 YHS102	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
英語コミュニケーションⅡ	1年後期	必修	演習/単独	1単位	新庄　恵子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

グローバル化が進む現在、幼児教育の現場でも英語による意思疎通が必要とされることがある。そのような状況に対応することを念頭に置き、本授業では、中学・高校での学習内容をもとに、幼児教育や保育に役立つ歌・ゲーム・絵本に慣れ親しむ活動を通じ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

テキストを用い、ペアワークやグループワーク等によるコミュニケーション活動を中心に授業を進める。幼児教育や保育に関わる英語の表現や文法および単語の定着を図るため、授業内では簡単な確認テストを実施する。

【到達目標と学修成果】

①日常生活および幼児教育に関わる話題についての英語を聞き取ることができる。
②日常生活および幼児教育に関わる話題について、英語で表現することができる。
③基本的な文法事項を理解し日常生活および幼児教育に関わる話題についての英語を読み、英語で書くことができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第１回	ガイダンス:授業の内容・進め方:評価の方法 / 再会した時のやりとり 7. Activities with Watermelons	△ 再会したときのやりとりの準備	20
		▽ 挨拶に関する単語と表現を覚える	25
第２回	月ごとの特徴　年中行事の楽しみ方の説明 7.Activities with Watermelons　that 節の用法	△ 教科書44頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書43~44頁の単語と表現を覚える	25
第３回	お誕生日会　お誕生日会でのやりとり 8. Happy Birthday　受動態の用法	△ 教科書48頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ 行事に関する単語や表現を覚える	25
第４回	幼稚園の同僚とのやりとり　職業に対する考えを語る 8. Happy Birthday　現在完了の用法	△ 教科書52頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書51~52頁の単語と表現を覚える	25
第５回	室内での活動　遊び方やルールの説明 9. Children at Play　勧誘や提案の表現	△ 教科書54頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ ゲームに関する単語や表現を覚える	25
第６回	屋外での活動　仲良く遊ぶためのやりとり 9. Children at Play　単数形と複数形の使い方	△ 教科書58頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書57~58頁の単語と表現を覚える	25
第７回	乳幼児のケア　乳幼児の着替えを説明 10. Baby News　関係代名詞の制限用法	△ 教科書60頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ 衛生に関する単語や表現を覚える	25
第８回	乳幼児と過ごす　乳幼児の行動を描写 10. Baby News　助動詞mayの用法	△ 教科書64頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書63~64頁の単語と表現を覚える	25
第９回	生活のルール　よりよい生活習慣の説明 11. The Tooth Fairy　時や頻度を表す副詞句の用法	△ 教科書66頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ 数字に関する単語や表現を覚える	25
第10回	歯磨き指導　専門用語を用いた説明 11. The Tooth Fairy　助動詞wouldの用法	△ 教科書70 頁の音声を聞き音読する	20
		▽ 教科書69~70頁の単語と表現を覚える	25
第11回	読み聞かせ(1)プレゼンテーション 12. The Green-Eyed Witch　擬態語・擬音語	△ 教科書76頁1~10の単語の意味を確認する	20
		▽ 問いかける際の表現を覚える	25
第12回	読み聞かせ(2)プレゼンテーション 12. The Green-Eyed Witch　so --- that 構文の用法	△ 教科書76頁の音声を聞き音読する	20
		▽ あらすじを説明する際の表現を覚える	25
第13回	英語のコミュニケーション活動① chants、songs	△ 英語のコミュニケーション活動について調べる	20
		▽ chants、songsについて確認する	25
第14回	英語のコミュニケーション活動② 英語を楽しむコミュニケーションゲーム、「Show　& Tell」	△ 英語のコミュニケーション活動について調べる	20
		▽ コミュニケーションゲームを確認する	25
第15回	まとめ	△ 既出の単語と表現の意味を確認する	20
		▽ 基本的な例文の用法と意味を確認する	25

備考：　この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。　675

【履修上の留意点】

積極的に英語でのコミュニケーション活動に参加する態度が必要です。

【テキスト】

Children's Garden: 保育英語　ISBN 978－4－7919－1095－3

【参考書・参考資料等】

授業時に、随時紹介する。

【連絡方法】　授業時に伝える。

【オフィスアワー】　授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、自分の考えをもとに解答できている。 ・書式のミスがない。	・課題の意図を理解し、明確に解答できている。 ・書式のミスがほぼない。	・課題の意図を概ね理解し、適切に解答できている。 ・書式のミスが散見する。	・課題の意図を断片的に理解し、解答できているが、テーマとの結びつきが弱い。 ・書式のミスが多い。	・課題の意図や授業内容の理解が不十分であり、解答できているが、テーマとの関りが見られない。 ・字数が不足しており、書式のミスが多い。 ・提出期限が守られない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	50%	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に意欲的に取り組む姿勢が見られ、模範である。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に取り組む姿勢が見られる。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加しようと努力する姿勢が見られる。 ・学習を通じて、知識/理解/実践力の習得に努めようとする。	・授業の学習活動に参加することができる。 ・知識/理解/実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業の学習活動への参加が不十分であり、知識/理解/実践力の習得が不足している。
授業外での取組	① ② ③	20%	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められ、その成果も見受けられる。	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習に積極的に取り組む努力をしていることが認められる。	・授業外での学習に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習への取り組みが不十分で、内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第13回	第11回・第12回 第14回		第1回～第10回		

科目名／基礎教育 YHS201	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
運動と健康Ⅰ	1年前期	必修	実技・講義単独	1単位	黒須　育海	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
様々な活動を介して多様な人間相互のつながりを形成する。身体表現や各種のスポーツを通して時間と空間を共有し、自らの心と身体のあり方について考え、理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
実技と講義形式で実施する。活動内容によって室内か屋外いずれかでの授業となる。
スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きおよび外履きを用意すること。
将来保育者や教師を目指す学生が対象であることから、各々が教育的な視点を持って活動に主体的に参加すること。

【到達目標と学修成果】
①主体的に活動を計画・展開し、その教育的な意図を説明することができる。
②心と身体の健康について、人間相互のつながりを理解することができる。
③身体運動の意義と実践方法について理解し、生涯スポーツにおける健康増進の知識を得ることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	(講義)オリエンテーション (1)授業説明　(2)グルーピング　(3)自己紹介ゲーム	△シラバスを確認する	20
		▽次回以降の実技に向けた準備	25
第2回	体ほぐし運動を用いた多様な遊び	△体ほぐし運動について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第3回	心と体のほぐし運動1 (1)歩く(2)走る(3)コンタクトワーク	△コンタクトワークについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第4回	心と体のほぐし運動2 (1)道具を使った実践(2)イメージを具現化	△イメージの具現化について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第5回	(講義)心身相関の仕組み	△心身相関について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第6回	ドッヂビー1 (1)説明　(2)投げ方	△ドッヂビーについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第7回	ドッヂビー2 (1)ルール　(2)ディスクドッヂ	△ディスクドッヂについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第8回	ドッヂビー3 (1)ディスクドッヂ戦略　(2)まとめ	△ディスクドッヂの戦略について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第9回	(講義)舞踊教育における表現の自由	△身体表現について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第10回	(講義)身体表現とコミュニケーション	△表現とコミュニケーションの繋がりについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第11回	コンテンポラリーダンス1 (1)ワードツリー　(2)創作メゾット	△コンテンポラリーダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第12回	コンテンポラリーダンス2 (1)イメージの発信　(2)創作活動	△ダンス作品を深めていくための情報を集める	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第13回	コンテンポラリーダンス3 (1)創作活動　(2)中間発表	△作品の流れ、振付を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第14回	コンテンポラリーダンス4 (1)創作活動　(2)発表	△作品内容を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第15回	(講義)レポートまとめ	△半期授業を振り返る	20
		▽内容をノートにまとめる	25

備考：　675

【履修上の留意点】
実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、適切な服装で参加すること。

【テキスト】
随時プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】
舞踊教育研究会「舞踊学講義」大修館書店、高橋和子「からだ-気づき学びの人間学-」晃洋書房

【連絡方法】　kurosu@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】　授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている(S:90−100点)	優れている(A:80−89)	平均的(B:70−79)	努力を要する(C:60−69)	相当な努力を要する(F:59点以下)
試験(発表含む)	① ② ③	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実 践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ③	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・指定の体裁が守られてい る。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が 不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、 関係のない内容が大部分を占めている。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	②	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られ た知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習 得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第12～13回					

科目名／基礎教育 YHS202	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
運動と健康Ⅱ	1年後期	必修	実技・講義単独	1単位	黒須　育海	／	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
様々な活動を介して多様な人間相互のつながりを形成する。身体表現や各種のスポーツを通して時間と空間を共有し、自らの心と身体のあり方について考え、理解する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】
実技と講義形式で実施する。活動内容によって室内か屋外いずれかでの授業となる。
スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きおよび外履きを用意すること。
将来保育者や教師を目指す学生が対象であることから、各々が教育的な視点を持って活動に主体的に参加すること。

【到達目標と学修成果】
①主体的に活動を計画・展開し、その教育的な意図を説明することができる。
②心と身体の健康について、人間相互のつながりを理解することができる。
③身体運動の意義と実践方法について理解し、生涯スポーツにおける健康増進の知識を得ることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第1回	(講義)オリエンテーション	△シラバスを確認する	20
		▽次回以降の実技に向けた準備	25
第2回	(講義)障害を越える環境　インクルーシブ・フィールド	△インクルーシブについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第3回	コンタクトワーク1 (1)立つ・座る　(2)歩く・走る	△コンタクトワークについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第4回	コンタクトワーク2 (1)押す・引く　(2)主張・協調	△コンタクトインプロビゼーションについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第5回	コンタクトワーク3 (1)型どる　(2)抜ける	△スティーブ・パクストンについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第6回	コンタクトワーク4 (1)まとめ　(2)即興	△合気道について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第7回	(講義)ライフステージに応じたスポーツ活動	△ライフステージについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第8回	遊びを通した運動1(1)鬼ごっこ　(2)助け鬼	△粗大運動・微細運動について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第9回	遊びを通した運動2(1)大縄跳び　(2)サメ鬼	△道具を使用しない外遊びについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第10回	遊びを通した運動3(1)運動強度　(2)振り返り	△道具を使用した外遊びについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第11回	(講義)生涯スポーツと障害スポーツ	△生涯スポーツ、障害スポーツについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第12回	サーキット運動1 (1)説明　(2)実践	△運動強度について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第13回	サーキット運動2 (1)考察　(2)計画　(3)実践	△実践のための計画を立てる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第14回	サーキット運動3 (1)実践　(2)振り返り	△年齢と運動強度について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第15回	(講義)レポートまとめ	△半期授業を振り返る	20
		▽内容をノートにまとめる	25

備考：

675

【履修上の留意点】
実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、適切な服装で参加すること。

【テキスト】
随時プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】
舞踊教育研究会「舞踊学講義」大修館書店、高橋和子「からだ-気づき学びの人間学-」晃洋書房

【連絡方法】　kurosu@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】　授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実 践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされているため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ③	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。・指定の体裁が守られてい る。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が 不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、 関係のない内容が大部分を占めている。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	②	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られ た知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習 得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第2回				第13～14回	

科目名／基礎教育 YHS301	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
未来ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	1年前期	必修	演習／クラス分け	1単位	子ども教育学科 教員	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第1学年前期の学修の過程を支援するとともに、クラスメートや人と人との交流を図りキャンパスライフを有意義なものとする。
大学での学びと生活についての知識・理解を図るとともに人間力を身につける。
社会人や実習生として求められる社会人基礎力やマナー、基本的なスキル(コミュニケーションやプレゼンテーション)を習得する。
自己理解を通して、将来の姿をイメージしながら就職や自身のライフキャリア形成への意識を高める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

この授業はクラスセミナーとして位置づけ、大学での学び方や有意義な過ごし方について、学年ごとに構成されたクラスを中心にアクティブラーニングを活用した学びあいを深める。
交流授業や合同授業を取り入れ、成果発表や意見交換を通して、学生が相互に研鑽を積む機会とする。
授業時間外に個人面談を行い、個々の状況に応じたアドバイスを行う。

【到達目標と学修成果】

①大学生活を有意義なものとするために必要な主体的な学びを深める。
②保育者や教員を含めた社会人として必要とされる社会人基礎力や態度を身につける。
③仕事も含めた人生そのものを意識し、自分のライフキャリアをデザインするために何が必要か理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス(授業のねらい、授業の進め方等)、G.クラスルーム登録、zoom meetの実践、避難経路の確認、有短ファイル作成	△ 学生ハンドブックの該当箇所を読む	15
		▽ 授業のねらいと進め方について整理する	30
第2回	ウエルカムプロジェクト	△ ウエルカムプロジェクトの資料を読む	15
		▽ 学修内容を整理する	30
第3回	大学での学び① 情報リテラシー、図書館活用、PC活用(メールマナー)	△ 情報リテラシーの基礎に関する資料を読む	15
		▽ 情報リテラシーの内容と課題を整理する	30
第4回	課題研究① 自己のキャリアプランについて	△ テーマに関連した資料を読む	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第5回	課題研究② 宿泊研修事前指導	△ 人との関わりについて考える	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第6回	大学での学び② レポートの書き方 前期試験について	△ 文章表現の基礎に関するプリントを読む	15
		▽ 文章表現の基礎について整理する	30
第7回	宿泊研修の振り返り	△ 宿泊研修の成果と課題について考える	15
		▽ 宿泊研修の成果と課題について整理する	30
第8回	基礎学力テスト	△ 社会人基礎力について調べる	15
		▽ 社会人基礎力について理解する	30
第9回	メンタルヘルス講座	△ メンタルヘルスに関する資料を読む	15
		▽ メンタルヘルスに関する内容を整理する	30
第10回	課題研究③(ボランティアについて)	△ 社会貢献活動について調べる	15
		▽ 貢献活動について学んだことを整理する	30
第11回	有明祭について	△ 組織活動について資料を読む	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第12回	防犯教室	△ 防犯について資料を読む	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第13回	自分を磨く(読書活動の進め)	△ テーマに関連した資料を読む	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第14回	前期試験・夏休みの諸注意・履修カルテ作成	△ 定期試験・夏休みに関するプリントを読む	15
		▽ 前期のふりかえりについて整理する	30
第15回	基礎学力振り返りシート記入 社会人基礎力	△ 前期の成果と課題について考える	15
		▽ 前期の成果と課題について整理する	30

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ずユニパ掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】 各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】 クラス担当に確認すること。

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)							
期末レポート	①	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL (問題解決型学習)	反転授業 事前学習型授業	ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ
授業回	7・11		2			

科目名／専門教育 YHS302	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
未来デザインⅡ	1年後期	必修	演習／クラス分け	1単位	子ども教育学科　教員		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第1学年後期の学修過程を支援するとともに、クラスメートや人と人との交流を図りキャンパスライフを有意義なものとする。
大学での学びと生活についての知識・理解を図るとともに人間力を身につける。
社会人や実習生として求められる社会人基礎力やマナー、基本的なスキル(コミュニケーションやプレゼンテーション)を習得する。
自己理解を通して、将来の姿をイメージしながら就職や自身のライフキャリア形成への意識を高める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

大学での学び方や有意義な過ごし方について、学年ごとに構成されたクラスを中心にアクティブラーニングを活用した学びあいを深める。
交流授業や合同授業を取り入れ、成果発表や意見交換を通して、学生が相互に研鑽を積む機会とする。
授業時間外に個人面談を行い、個々の状況に応じたアドバイスを行う。

【到達目標と学修成果】

①課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
②自身の考えをもち、他者に伝達する手法を習得する。
③大学での学びとライフキャリアについて、基本的な知識と理解を身につけ、見通しをもつ。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	前期学修成果・基礎学力のフィードバック、避難訓練	△ 前期の学びにおける改善点を検討する	15
		▽ 後期の学修目標を整理する	30
第2回	有明祭①(企画運営について)	△ 企画運営について考える	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第3回	有明祭②(組織活動について)	△ 組織活動について考える	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第4回	有明祭③(仲間との協働について)	△ 有明祭の事前準備を行う	15
		▽ 有明祭から学んだことについて整理する	30
第5回	社会貢献活動　(ボランティア活動について)	△ 社会貢献活動について調べる	15
		▽ 貢献活動について学んだことを整理する	30
第6回	社会人基礎力について①(主体性について)	△ 社会人基礎力(主体性)について調べる	15
		▽ 主体性について学んだことを整理する	30
第7回	人権講習(人権について)	△ 人権に関する資料を読む	15
		▽ 講習の内容について整理する	30
第8回	社会人基礎力について②(計画力について)	△ 社会人基礎力(計画力)について調べる	15
		▽ 計画について学んだことを整理する	30
第9回	実習体験談から学ぶ(全学実習報告会)	△ 実習体験談に関するプリントを読む	15
		▽ 実習体験談から学んだことについて整理する	30
第10回	自分を磨く①(PCを使ってプレゼンする PowerPoint)	△ プレゼンの準備をする	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第11回	課題研究①(自己の課題について)	△ キャリアガイドブックの当該の個所を読む	15
		▽ 自己の課題について整理する	30
第12回	課題研究②(社会のルール・マナー)	△ キャリアガイドブックの当該の個所を読む	15
		▽ ルールやマナーについて整理する	30
第13回	人と繋がろう(コミュニケーションスキル)	△ テーマに関連した資料を読む	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第14回	自分を磨く②(人間力について)	△ テーマに関連した資料を読む	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第15回	試験・春休みの諸注意・履修カルテ記入・後期学修実態アンケート	△ 定期試験・春休みに関するプリントを読む	15
		▽ 1年間のふりかえりについて整理する	30

備考：　675

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】　各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】　各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80－89)	平均的 (B:70－79)	努力を要する (C:60－69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)							
期末レポート	①	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	13・14・15	9	2・3・4・5			

科目名／基礎教育 YHS303	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
未来デザインⅢ	2年前期	必修	演習／クラス分け	1単位	子ども教育学科　教員	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第2学年前期の学修の過程を支援するとともに、クラスメートや人と人との交流を図りキャンパスライフを有意義なものとする。
大学での学びと生活についての知識・理解を図るとともに人間力を身につける。
社会人や実習生として求められる社会人基礎力やマナー、基本的なスキル(コミュニケーションやプレゼンテーション)を習得する。
自己理解を通して、将来の姿をイメージしながら就職や自身のライフキャリア形成への意識を高める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

学年ごとに構成されたクラスを中心にクラスセミナーとして位置づけ、大学での学び方や有意義な過ごし方について、アクティブラーニングを活用した学びあいを深める。
交流授業や合同授業を取り入れ、成果発表や意見交換を通して、学生が相互に研鑽を積む機会とする。
授業時間外に個人面談を行い、個々の状況に応じたアドバイスを行う。

【到達目標と学修成果】

①課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
②自身の考えをもち、他者に伝達する手法を習得する。
③仕事も含めた人生そのものを意識し、自分のキャリアをデザインするために何が必要か理解する。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス(授業のねらい、授業の進め方等の説明)、G.クラスルーム登録、避難経路確認　有短ファイル作成	△学生ハンドブックの該当箇所を読む	15
		▽授業のねらいと進め方について整理する	30
第 2 回	ウエルカムプロジェクト	△学生ハンドブックの該当箇所を読む	15
		▽オリエンテーションの内容を整理する	30
第 3 回	キャリアガイダンス(自分を知ろう)	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む	15
		▽ガイダンスの内容を整理する	30
第 4 回	課題研究①　社会人基礎力について	△テーマに関連した資料を読む	15
		▽授業内容を整理する	30
第 5 回	課題研究②　　自己のキャリアプランについて	△人との関わりについて考える	15
		▽授業内容を整理する	30
第 6 回	社会人マナーを身に付ける(身だしなみ・マナー講座)	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む	15
		▽講座の内容を整理する	30
第 7 回	学生生活と「7つの習慣」　　将来社会人として有意義な人生を送るための原則と習慣の基礎を学ぶ	△「7つの習慣」の概要について調べる	15
		▽授業内容を整理する	30
第 8 回	基礎学力テスト	△社会人基礎力について調べる	15
		▽社会人基礎力について理解する	30
第 9 回	主体的になる　(自分の人生を主体的に考え、他人や外部環境に依存せず自分で自分の人生に責任をもつ)	△主体的とは何かを調べる	15
		▽自分の考えを整理する	30
第 10 回	メンタルヘルス講座	△メンタルヘルスに関する資料を読む	15
		▽メタルヘルスに関する内容を整理する	30
第 11 回	有明祭について	△組織活動について資料を読む	15
		▽授業内容を整理する	30
第 12 回	防犯教室	△防犯教室について資料を読む	15
		▽授業内容を整理する	30
第 13 回	有明祭について	△組織活動について資料を読む	15
		▽授業内容を整理する	30
第 14 回	前期試験・夏休みの諸注意・履修カルテの記入	△定期試験・夏休みに関するプリントを読む	15
		▽前期の振り返りについて整理す	30
第 15 回	基礎学力振り返りシート記入　社会人基礎力	△前期の成果と課題について考える	15
		▽前期の成果と課題について整理する	30

備考：　　675

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】　各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】　各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)							
期末レポート	①	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	8・14・15		2			

科目名／基礎教育 YHS304	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
未来デザインⅣ	2年後期	必修	演習／クラス分け	1単位	子ども教育学科　教員	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第2学年後期の学修の過程を支援するとともに、人と人との交流を図りキャンパスライフを有意義なものとする。
大学での学びと生活についての知識・理解を図るとともに人間力を身につける。
社会人や実習生として求められる社会人基礎力やマナー、基本的なスキル(コミュニケーションやプレゼンテーション)を習得する。
自己理解を通して、将来の姿をイメージしながら就職や自身のライフキャリア形成への意識を高める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

大学での学び方や有意義な過ごし方について、アクティブラーニングを活用した学びあいを深める。
交流授業や合同授業を取り入れ、成果発表や意見交換を通して、学生が相互に研鑽を積む機会とする。
授業時間外に個人面談を行い、個々の状況に応じたアドバイスを行う。

【到達目標と学修成果】

①課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
②自身の考えをもち、他者に伝達する手法を習得する。
③自分が大事にしたいものや、興味を持っているものに気付き、将来の姿をイメージする。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	前期学修成果・基礎学力のフィードバック、避難訓練	△ 前期の学びにおける改善点を検討する	15
		▽ 後期の学修目標を整理する	30
第2回	有明祭①(企画運営について)	△ 企画運営について考える	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第3回	有明祭②(組織活動について)	△ 組織活動について考える	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第4回	有明祭③(仲間との協働について)	△ 有明祭の事前準備を行う	15
		▽ 有明祭から学んだことについて整理する	30
第5回	社会貢献活動(ボランティア活動について)	△ 社会貢献活動について調べる	15
		▽ 貢献活動について学んだことを整理する	30
第6回	自分を知ろう(自己分析)	△ 自己分析に関するプリントを読む	15
		▽ 自己分析の内容について整理する	30
第7回	人権講習(人権について)	△ 人権に関する資料を読む	15
		▽ 講習の内容について整理する	30
第8回	自分を知ってもらおう(履歴書・エントリーシート対策)	△ キャリアガイドブック履歴書に関する箇所を読む	15
		▽ エントリーシートについて整理する	30
第9回	実習体験談から学ぶ(全学実習報告会)	△ 実習体験談報告に関する資料を作成する	15
		▽ 実習体験談から学んだことについて整理する	30
第10回	課題研究①(コミュニケーションについて)	△ 表現の技法に関するプリントを読む	15
		▽ 表現の技法について整理する	30
第11回	課題研究②(社会人基礎力チームワーク)	△ チームで働くことについて調べる	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第12回	課題研究③(社会人基礎力シンキング)	△ 社会人基礎力(シンキング)に関することについて調べる	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第13回	自分を磨く(自他の理解、人との関わりについて)	△ 信頼関係の構築について調べる	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第14回	自己のライフプランを考える	△ 自己啓発に関する資料を読む	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第15回	試験・春休みの諸注意・履修カルテ記入・後期学修実態アンケート	△ 定期試験・春休みに関するプリントを読む	15
		▽ 1年間のふりかえりについて整理する	30

備考：

675

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】　各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】　各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)							
期末レポート	①	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	13・14・15	9	2・3・4・5			

科目名／基礎教育 YHS305	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
未来デザインⅤ	3年前期	必修	演習／クラス分け	1単位	子ども教育学科　教員	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第3学年前期の学修の過程を支援し、豊かな人間性や社会性の向上を図り、最高学年としての自覚を高める。
自己分析のもと、将来の姿をイメージしながら就職や自身のキャリア形成への意識を高め、自己実現に向けた実践力を身に付ける。
社会人や実習生として求められる社会人基礎力やマナー、基本的なスキル(コミュニケーションやプレゼンテーション)を習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

この授業はクラスセミナーとして位置づけ、大学での学び方や有意義な過ごし方について、学年ごとに構成されたクラスを中心にアクティブラーニングを活用した学びあいを深める。交流授業や合同授業を取り入れ、意見交換や成果発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会とする。
授業時間外に個人面談を行い、個々の状況に応じたアドバイスを行う。

【到達目標と学修成果】

①大学生活を有意義なものとするために必要な主体的な学びを深める。
②保育者や教育者を含めた社会人として必要とされる基本的なスキルや実践力を身につける。
③人生そのものを意識し、将来に向けて自分のキャリアをデザインするために何が必要か理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]		
第1回	ガイダンス(授業のねらい、授業の進め方等の説明)、G.クラスルーム登録、避難経路の確認　有短ファイル作成	△	学生ハンドブックの該当箇所を読む	15
		▽	授業のねらいと進め方について整理する	30
第2回	ウエルカムプロジェクト	△	ウエルカムプロジェクトの資料を読む	15
		▽	学修内容を整理する	30
第3回	社会人基礎力の向上①(志をたてよう)	△	キャリアガイドブックの該当箇所を読む	15
		▽	学修の内容を整理する	30
第4回	課題研究①(7つの習慣について)	△	課題について調べる	15
		▽	課題について整理する	30
第5回	課題研究②(専門性の追求)	△	該当する専門性について調べる	15
		▽	該当する専門性について整理する	30
第6回	課題研究(情報収集と整理)	△	文章表現に関する資料を読む	15
		▽	授業内容を整理する	30
第7回	メンタルヘルス講座	△	メタルヘルスに関する資料を読む	15
		▽	メタルヘルスに関する内容を理解する	30
第8回	基礎学力テスト	△	社会貢献活動について調べる	15
		▽	社会貢献活動について理解する	30
第9回	社会人基礎力について(身だしなみ・マナー講座)	△	キャリアガイドブックの該当箇所を読む	15
		▽	講座の内容を整理する	30
第10回	社会基礎力の向上(自己PR、履歴書)	△	社会貢献活動について調べる	15
		▽	貢献活動について学んだことを整理する	30
第11回	有明祭について	△	組織活動について資料を読む	15
		▽	授業内容を整理する	30
第12回	防犯教室	△	防犯について資料を読む	15
		▽	授業の内容を整理する	30
第13回	コミュニケーション能力の向上(組織運営を考える)	△	文章表現に関する資料を読む	15
		▽	授業の内容を整理する	30
第14回	前期試験・夏休みの諸注意・履修カルテの記入	△	定期試験・夏休みに関するプリントを読む	15
		▽	前期の振り返りについて整理する	30
第15回	基礎学力振り返りシート記入　社会人基礎力	△	前期の成果と課題について考える	15
		▽	前期のについて整理する	30

備考：　675

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】　各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】　各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80－89)	平均的 (B:70－79)	努力を要する (C:60－69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)							
期末レポート	①	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	9・14・15		10			
					0	

科目名／基礎教育 YHS306	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
未来デザインⅥ	3年後期	必修	演習／クラス分け	1単位	子ども教育学科　教員	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】
第3学年後期の学修の過程を支援し、豊かな人間性や社会性の向上を図り、最高学年としての自覚を高める。
自己分析のもと、将来の姿をイメージしながら就職や自身のキャリア形成への意識を高め、自己実現に向けた実践力を身に付ける。
社会人や実習生として求められる社会人基礎力やマナー、基本的なスキル(コミュニケーションやプレゼンテーション)を習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
この授業はクラスセミナーとして位置づけ、大学での学び方や有意義な過ごし方について、学年ごとに構成されたクラスを中心にアクティブラーニングを活用した学びあいを深める。交流授業や合同授業を取り入れ、意見交換や成果発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会とする。授業時間外に個人面談を行い、個々の状況に応じたアドバイスを行う。

【到達目標と学修成果】
①大学生活を有意義なものとするために必要な主体的な学びを深める。
②保育者や教育者を含めた社会人として必要とされる基本的なスキルや実践力を身につける。
③人生そのものを意識し、将来に向けて自分のキャリアをデザインするために何が必要か理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	前期学修成果・基礎学力のフィードバック、避難訓練	△ 前期の学びにおける改善点を検討する	15
		▽ 後期の学修目標を整理する	30
第2回	有明祭①(企画運営について)	△ 企画運営について考える	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第3回	有明祭②(組織活動について)	△ 組織活動について考える	15
		▽ 学修内容について整理する	30
第4回	有明祭③(仲間との協働について)	△ 有明祭の事前準備を行う	15
		▽ 有明祭から学んだことについて整理する	30
第5回	社会貢献活動　(ボランティア活動について)	△ 社会貢献活動について調べる	15
		▽ 貢献活動について学んだことを整理する	30
第6回	課題研究①(接遇について)	△ キャリアガイドブックの当該箇所を読む	15
		▽ 接遇について学んだことを整理する	30
第7回	人権について考える(人権講習)	△ 人権に関する資料を読む	15
		▽ 講習の内容について整理する	30
第8回	社会人として必要なこと(健康で働くために)	△ 社会人生活に関するプリントを読む	15
		▽ 社会人の健康について整理する	30
第9回	実習体験談から学ぶ(全学実習報告会)	△ 実習体験談報告に関する資料を作成する	15
		▽ 実習体験談から学んだことについて整理する	30
第10回	メンタルヘルス講習	△ メンタルヘルスに関する資料を読む	15
		▽ メンタルヘルスに関する内容を整理する	30
第11回	課題研究②(自己の課題について)	△ 課題について調べる	15
		▽ 課題について整理する	30
第12回	課題研究③(課題改善や資質向上に向けて)	△ 該当する専門性について調べる	15
		▽ 該当する専門性について整理する	30
第13回	キャリアデザインの再構築(将来の自分)	△ 自己啓発に関する資料を読む	15
		▽ 授業内容を整理する	30
第14回	社会人として必要な心構えの理解(副学長講話)	△ 社会人生活に関するプリントを読む	15
		▽ 社会人としての心構えについて整理する	30
第15回	試験・春休みの諸注意・履修カルテ記入・後期学修実態アンケート	△ 定期試験・春休みに関するプリントを読む	15
		▽ 3年間のふりかえりについて整理する	30

備考：　675

【履修上の留意点】
予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】
必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】
必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】　各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】　各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	①	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	13・14・15	9	2・3・4・5			

科目名／専門教育 YHS401	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども理解の方法	3年後期	選択（保幼必修）	演習／単独	1単位	赤坂　澄香		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

子どもの生活や遊びの実態に即して、子どもの行動並びに内面を知る必要性を理解するとともに、子どもの多様な姿について識見を深める。子ども理解を基盤として、保育・教育場面で子どもとどのように接すればよいか、基礎的な態度や具体的な方法について理解することをねらいとする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

事例についてのグループ協議やロールプレイ等の演習を取り入れ、主体的・対話的な授業を行う。心理学的、社会学的あるいは歴史的な子ども理解の一般的な方法を学ぶと同時に、他の科目で修得した保育・教育についての知識・技能を利用して考える習慣を身につける。

【到達目標と学修成果】

①子ども理解の意義を理解することができる。
②子ども理解についての知識を身につけ、基礎的考え方や態度、関わり方を理解することができる。
③子ども理解の方法を具体的に理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	講義の進め方の説明 子ども理解の意義、子どもの発達や学びを捉える原理について理解する	△ 子ども理解の意義について意見をまとめておく	15
		▽ 子どもの発達を捉える原理についてまとめる	30
第2回	子ども理解の方法① 目的に応じた子ども理解の方法や記録について理解する	△ エピソード記述について調べ、まとめておく	15
		▽ 子ども理解に用いる方法の長所・短所をまとめる	30
第3回	子ども理解の方法② 観察の手法を学ぶ、観察・記録の演習を行う	△ 観察法について調べ、まとめておく	15
		▽ 観察の手法についてまとめる	30
第4回	子ども理解の方法③ 検査法について学び、検査法の演習を行う	△ 検査法について調べ、まとめておく	15
		▽ 検査法の留意点についてまとめる	30
第5回	子ども理解の方法④描画法「HTPテスト」の演習を行い、絵を用いた子ども理解の方法を体験的に学ぶ	△ HTPテストについて調べ、まとめておく	15
		▽ HTPテストの分析方法をまとめる	30
第6回	子ども理解の方法⑤描画法「スクイグル法」の演習を行い、絵を用いた子ども理解の方法を体験的に学ぶ	△ スクイグル法について調べ、まとめておく	15
		▽ スクイグル法の分析方法をまとめる	30
第7回	子ども理解の視点①自己の幼児期の生活や遊びを振り返り、子どもが何を身につけているかを考える、これからの社会で必要となる学びを考える	△ 幼児期の生活や遊びを自分史としてまとめておく	15
		▽ 子どもが生活や学びを通して学ぶことをまとめる	30
第8回	子ども理解の視点②つまずきのある幼児についての理解を深め、発達の課題に応じた援助と関わりについて学ぶ	△ 発達障害の特徴についてまとめておく	15
		▽ 発達の課題に応じた援助や関わり方をまとめる	30
第9回	子ども理解の視点③気になる子どもへの対応について事例を通して考える（短縮事例法の演習）	△ 事例研究の方法について調べ、まとめておく	15
		▽ 事例に対する対応についてさらに検討をする	30
第10回	子ども理解の視点④気になる子どもへの対応について理解を深める（グループごとに発表・補足の講義）	△ 発表に向けて、発表内容・原稿をまとめておく	15
		▽ 気になる子どもの事例における留意点をまとめる	30
第11回	子ども理解の視点⑤ 事例を通して、個と集団、環境、保育者・教育者の役割を考える	△ 保育者の個および集団に対する役割をまとめておく	15
		▽ インリアル・アプローチについてまとめる	30
第12回	保育実践におけるカウンセリングマインド 「共感」について考え、カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を身につける	△ 「共感」とは何かについて意見をまとめておく	15
		▽ カウンセリングの基本的姿勢・技法をまとめる	30
第13回	保護者の現状と子育て支援 保護者の心情を理解し、家庭との連携のあり方を学ぶ	△ 統計資料等から保護者が抱える課題を読み取る	15
		▽ 家庭との連携のあり方や留意点についてまとめる	30
第14回	支援体制の整備と連携 園内の協力体制のあり方、就学への支援について学ぶ	△ 接続期カリキュラムについて調べておく	15
		▽ 保幼小連携についてまとめる	30
第15回	まとめ	△ 子ども理解の意義や方法について復習しておく	15
		▽ 子ども理解における留意点についてまとめる	30

備考：

675

【履修上の留意点】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回にGoogle classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。

【テキスト】

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

「育ての心〈上〉」「育ての心〈下〉」倉橋惣三　フレーベル館(2008年)
その他、必要に応じて紹介する。

【連絡方法】　akasaka@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】　火曜日昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	60%	・子ども理解の意義を理解し、子ども理解についての知識や方法が十分に身についていることが認められる。	・子ども理解の意義を理解し、子ども理解についての知識や方法が身についていることが認められる。	・子ども理解についての基本的な知識は習得されていることが認められる。	・子ども理解についての基本的な知識の習得が断片的であるため、今後も知識の習得に努力を要する。	・子ども理解についての基本的な知識の習得がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	② ③	40%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が強く感じられた。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が感じられた。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第7回・第9回・第12回 第13回・第14回	第10回				

科目名／専門教育 YHS402	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育の心理学	2年前期	必修	講義／単独	2単位	赤坂　澄香		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

乳幼児・児童・生徒の心身の発達や学習の過程についての心理学的知識を学び、発達を捉える視点や各発達段階の特性を踏まえた保育・教育について基礎的な考え方を理解することをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが、個人・グループでのワークやディスカッション等も交えながら進める。

【到達目標と学修成果】

①乳幼児・児童・生徒の心身の発達及び特徴を理解することができる。
②子どもの発達に関する心理学的知識を身につけ、発達を踏まえた保育や教育の在り方について基礎的な考え方を理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス 発達理解の意義、保育実践と心理学について理解する	△ 発達理解の意義について意見をまとめておく	90
		▽ 保育実践と心理学についてまとめる	90
第2回	発達の要因 子どもの発達と環境について理解する	△ 子どもの発達の要因に関する諸説を調べる	90
		▽ 遺伝説、環境説、相互作用説について復習する	90
第3回	発達理論① フロイトの発達理論について学ぶ	△ フロイトについて調べ、予習する	90
		▽ フロイトの発達理論をまとめ、復習する	90
第4回	発達理論② ハヴィガーストとマズローの発達理論について学ぶ	△ ハヴィガーストとマズローについて調べ、予習する	90
		▽ ハヴィガーストとマズローの発達理論を復習する	90
第5回	子ども観と保育観 子ども観の変遷をたどる、KJ法を用いて子ども観と保育観を考える	△ 子ども観の変遷を調べ、予習する	90
		▽ 自己の子ども観と保育観をまとめる	90
第6回	子どもの発達過程① 身体発達の基本原理と運動機能の発達について学ぶ	△ 乳幼児の身体発達について調べ、予習する	90
		▽ 身体発達の基本原理についてまとめ、復習する	90
第7回	子どもの発達過程② 感情・自己意識の発達プロセスについて学ぶ	△ 感情の種類についてまとめておく	90
		▽ 感情の発達プロセスをまとめ、復習する	90
第8回	子どもの発達過程③ 認知機能の発達について学ぶ	△ 認知機能とは何か調べ、まとめておく	90
		▽ 認知機能の発達プロセスをまとめ、復習する	90
第9回	子どもの発達過程④ 言語機能の発達的変化について学ぶ	△ 言語機能について調べ、予習する	90
		▽ ピアジェとヴィゴツキーの理論をまとめる	90
第10回	子どもの発達過程⑤ 社会性・道徳性の発達について学ぶ	△ 道徳性とは何か調べ、予習する	90
		▽ 道徳性の発達理論をまとめる	90
第11回	子どもの学びと保育・教育① 子どもの学習に関わる理論について学ぶ	△ 学習理論を調べ、予習する	90
		▽ 強化や動機づけについてまとめ、復習する	90
第12回	子どもの学びと保育・教育② 子どもの生活と学びについて考える	△ 生活の中で学ぶことについて自分の意見をまとめる	90
		▽ 生活を通した学びにおける現代的課題をまとめる	90
第13回	子どもの学びと保育・教育③ 子どもの遊びと学びについて考える	△ 遊びの中で学ぶことについて自分の意見をまとめる	90
		▽ 遊びを通した学びにおける現代的課題をまとめる	90
第14回	子どもの発達を踏まえた保育・教育の在り方 発達に関する心理学的知見をもとに実践事例の検討を行う	△ 発達を踏まえた保育・教育実践を調べ、予習する	90
		▽ 事例から得た知見をまとめ、復習する	90
第15回	まとめ	△ 心身の発達に関する心理学的知識を復習する	90
		▽ 心理学的知識の活用について自己で考えをまとめる	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回にGoogle classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。

【テキスト】

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

「保育の心理学」長谷部比呂美・日々暁美・山岸道子・吉村真理子　ななみ書房(2019年)

【連絡方法】 akasaka@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】 火曜日昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）	① ②	40%	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について十分に理解していることが認められる。	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について理解していることが認められる。	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について必要最低限は理解していることが認められる。	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方についての理解が断片的であるため、今後も知識の習得に努力を要する。	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について基本的な知識の習得がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	50%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が強く感じられた。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が感じられた。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	10%	・授業外での取組において、他の学生の模範となるような積極性が見受けられた。また、その取組によって十分な成果の獲得が認められた。	・授業外での取組において、積極性が見受けられた。また、その取組によって成果の獲得が認められた。	・授業外での取組において、積極的ではないものの主体的に取り組もうと努力をしている姿が見られた。	・授業外での取組において、わずかに取り組む姿は見られたが、積極性、主体性が欠けており、努力を要する。	・授業外での取組を行う姿が全く見受けられず、主体性・積極性が不足している。

備考：・授業内での取組：小テストを全体評価の30%、授業中の発言、ディスカッションへの参加度等を全体評価の20%に充当する。
・授業外での取組：「子どもの観察記録」の内容、取組状況、成果の獲得状況について評価を行う。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第5回・第14回					

科目名／専門教育 YHS403	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもの保健	1年前期	必修	講義／単独	2単位	益川順子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

多様な子どもの心身の発育発達を理解し、健康増進を図る保健活動の重要性について理解する。また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間との連携、協働の下での適切な対応について理解できるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

現代の子どもをとりまく社会的状況や背景及び、心身の健康状態の評価方法等について理解する。さらに、子どもの疾病や病態を知り疾病の予防や早期発見に努め、適切な対応についての保健活動を理解する。尚、講義では、視聴覚教材の活用、事前課題の取り組みを前提としたアクティブ・ラーニング形式で展開する。

【到達目標と学修成果】

①子どもの身体的な発育・発達と保健について、また心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解できる。
②子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。
③疾病とその予防及び他職種間との連携、協働の下での適切な対応について理解することができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス 子どもの保健と健康を学ぶ意義	△ シラバスを読み、授業の概要を確認する	60
		▽ 子どもの保健を学ぶ意義について考察する	120
第 2 回	セクシュアリティと生命の誕生	△ テキストのpp17-18を読み確認する	60
		▽ 生物としての人の成り立ちを整理する	120
第 3 回	子どもの発育と発達	△ テキストのpp19-20を読み確認する	60
		▽ 発育と発達の違いを整理する	120
第 4 回	子どもの生理機能	△ テキストのpp20-25を読み確認する	60
		▽ 各生理機能の役割を整理する	120
第 5 回	子どもの食と栄養	△ テキストのpp34-48を読み確認する	60
		▽ 乳幼児期の栄養について整理する	120
第 6 回	子どもの健康と基本的生活習慣	△ 乳幼児期の基本的生活習慣について調べる	60
		▽ 乳幼児期の基本的生活習慣についてまとめる	120
第 7 回	子どもの健康と遊び	△ 乳幼児期の遊びの意義について調べる	60
		▽ 乳幼児期の遊びの内容についてまとめる	120
第 8 回	子どもの疾病と対応(1)感染症	△ テキストのpp67-76を読み確認する	60
		▽ 感染症の種類と特徴をまとめる	120
第 9 回	子どもの疾病と対応(2)感覚器・アレルギー疾患	△ テキストのpp.77-84を読み確認する	60
		▽ アレルギー疾患についてまとめる	120
第 10 回	子どもの疾病と対応(3)内蔵疾患	△ テキストのpp.85-112を読み確認する	60
		▽ 各疾患をまとめる	120
第 11 回	子どもの健康と安全:不慮の事故、災害、予防接種	△ テキストのpp.149-150を読み確認する	60
		▽ 不慮の事故の種類と特徴をまとめる	120
第 12 回	子どもの心とからだの健康(1)精神疾患、発達障害、不登校	△ テキストのpp218-235を読み確認する	60
		▽ 精神疾患、発達障害の特徴をまとめる	120
第 13 回	子どもの心とからだの健康(2)家族病理	△ 家族病理に関する新聞記事を検索する	60
		▽ 検索した新聞記事を読み考察する	120
第 14 回	母子保健対策と保育	△ テキストのpp243-248を読み確認する	60
		▽ 母子保健対策の現状を調べ考察する	120
第 15 回	まとめ	△ 第1回から第14回の授業内容を確認する	60
		▽ 授業内容を整理する	120

備考：

2700

【履修上の留意点】

出欠席の回数は自己管理してください。

【テキスト】

大澤眞木子監修『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～』へるす出版, 2023

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜紹介する。

【連絡方法】 masukawa@ujc.ac.jp

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	70%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	15%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③	15%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第1,2,3,4,5,6,7,15回			第5.7.8.9.10.11.12.13.回		

科目名／専門教育 H404	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども家庭支援の心理学	2年後期	選択（保育士必修）	講義／単独	2単位	赤坂　澄香		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

生涯発達に関する心理学的知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解することをねらいとする。また、家庭・家族の意義と機能を理解するとともに、現代の子育て家庭をめぐる社会的状況と課題や子どもの心の健康に関わる問題について理解することをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが、個人・グループでのワークやディスカッション等も交えながら進める。

【到達目標と学修成果】

①生涯発達に関する心理学的な知識を習得する。
②家庭・家族の意義と機能を理解するとともに、現代の子育て家庭をめぐる社会的状況と課題を理解する。
③子どもの精神保健とその課題を理解する。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第 1 回	ガイダンス	△「生涯発達」とは何か調べておく	90
		▽「家庭支援」とは何かまとめておく	90
第 2 回	生涯発達を学ぶ① 胎児期と乳児期の発達過程について理解する	△胎児期の発達過程を調べておく	90
		▽乳児期の発達課題をまとめる	90
第 3 回	生涯発達を学ぶ② 幼児期の発達過程について理解する	△幼児期の発達過程について予習しておく	90
		▽幼児期の発達課題をまとめる	90
第 4 回	生涯発達を学ぶ③ 児童期の発達過程について理解する	△ギャングエイジについて調べておく	90
		▽児童期の発達課題をまとめる	90
第 5 回	生涯発達を学ぶ④ 青年期の発達過程について理解する	△アイデンティティの発達について調べておく	90
		▽青年期の発達課題についてまとめる	90
第 6 回	生涯発達を学ぶ⑤ 成人期・老年期の発達過程について理解する	△中年期危機について調べておく	90
		▽成人期以降の発達課題をまとめる	90
第 7 回	家族・家庭の理解① 家族関係の理解を通して、子ども理解を深める	△子どもにとって家族とは何か意見をまとめる	90
		▽家族の発達過程について復習する	90
第 8 回	家族・家庭の理解② 子どものパーソナリティーの形成と発達に影響する親の姿勢態度を理解する	△パーソナリティとは何か調べ、まとめておく。	90
		▽人格形成と養育態度の関係性をまとめる	90
第 9 回	家族・家庭の理解③ 子育ての現実と親としての育ちについて理解を深める	△子ども誕生後の親に与えられる課題は何か考えておく	90
		▽親としての育ちについてまとめる	90
第 10 回	子育て家庭の現状と課題① 子育て家庭をめぐる社会的状況、ライフコースとワークライフバランスについて理解する	△ワークライフバランスについて調べ、まとめておく	90
		▽子育て家庭を取り巻く社会的状況をまとめる	90
第 11 回	子育て家庭の現状と課題② 家族の多様化について理解する	△家族はどのように多様化しているか情報を集める	90
		▽家族の多様化にともなう課題をまとめる	90
第 12 回	子育て家庭の現状と課題③ 特別な配慮を要する家庭について知る	△特別な配慮を要する家庭について情報を集める	90
		▽特別な配慮を要する家庭が抱える問題点をまとめる	90
第 13 回	子育て家庭の現状と課題④ 特別な配慮を要する家庭に対する支援を考える	△配慮を要する家庭が抱える問題に対する対策を考える	90
		▽特別な配慮を要する家庭への支援の在り方をまとめる	90
第 14 回	子どもの精神保健と課題 子どものメンタルヘルスに影響する環境について学び、その課題を理解する	△子どものメンタルヘルス不調について調べておく	90
		▽子どものメンタルヘルスケアをまとめる	90
第 15 回	まとめ	△生涯発達に関する知識を総復習する	90
		▽現代の家庭をめぐる社会的状況と課題をまとめる	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回にGoogle classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。

【テキスト】

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

「事例で楽しく学ぶ　子ども家庭支援の心理学」芝野松次郎(編集代表),中央法規,2023年
その他、必要に応じて紹介する。

【連絡方法】 akasaka@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】 火曜日昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）	① ② ③	50%	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題を十分に理解していることが認められる。	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題を理解していることが認められる。	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題を必要最低限、理解していることが認められる。	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題への理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題に関する基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	50%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が強く感じられた。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が感じられた。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：授業内での取り組み：小テストを全体評価の30%、授業中の発言、ディスカッションへの参加度等を全体評価の20%に充当する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第7回・第8回 第11回・第13回					

科目名／専門教育 YH405	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもの食と栄養	2年前期	選択（保幼必修）	演習／単独	2単位	伊藤　野里子	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

食生活が健康な生活の基本であることを念頭に、子どもの食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を習得し、子どもの発育・発達の特徴を踏まえた上で各時期における食生活の特徴や問題を理解する。又、特別な配慮が必要な子どもの食と栄養、家庭や児童福祉施設における食事と栄養について知識・理解を得る。さらに保育における食育の意義と内容を理解しその問題について主体的に考える。以上のような、子どもの食と栄養の学習を通して保育の対象である子どもへの理解をすすめていくことをねらいとする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

子どもの食生活の意義や栄養の基本、子どもの発達段階に応じた食生活の特徴や問題、家庭や児童福祉施設での食生活、特別な配慮が必要な子どもの食と栄養、食育の基本と内容、について、テキストによる説明や省庁のガイドライン、統計データ等資料の解説をする。発達段階に応じた食生活及び子どもの食育について、実践的な力と態度を深めるため、学習で得た知識や理解を基に、学生自身による「食事作り・レポート」（課題1）と「教材作製・発表」（課題2）の課題解決型学習を実施する。

【到達目標と学修成果】

①子どもの食生活の意義と、栄養に関する基本的な知識を習得できる。
②子どもの発達段階や健康状態に応じた食生活の基本を全体的に理解でき、授業課題1（幼児の弁当づくり・レポート）において応用できる。
③食育の基本・内容や子どもと養育者への食育の方法を全体的に理解でき、授業課題2（食育教材の作製・発表）において表現できる。

回数	授業内容		授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	・ガイダンス―授業のねらい、内容、進め方や成績評価の方法について ・子どもの健康と食生活の意義と課題	△	シラバスを読み授業の概要把握/テキスト第1章を読み予習	90
		▽	「子どもの健康と食生活の意義及び課題」の再確認	90
第2回	・栄養に関する基本的知識① ―栄養と食事摂取基準/栄養の基礎的知識と摂り方ⅰ三大栄養素	△	テキスト第2章Aの1～2、Bの1～3を読み予習する	90
		▽	「食事摂取基準と栄養の基礎的知識・摂り方ⅰ」の整理	90
第3回	・栄養に関する基本的知識② ―栄養の基礎的知識と摂り方ⅱミネラル　ビタミン　水分/食べ物の消化と吸収	△	テキスト第2章Bの4～6、Cの1～2を読み予習	90
		▽	「栄養の基礎的知識と摂り方ⅱ/食べ物の消化と吸収」の復習	90
第4回	・子どもの発育・発達と食生活① ―発育・発達の特徴と、栄養状態による発育・発達の評価	△	テキスト第3章Aの1～2を読み予習する	90
		▽	「発育・発達について、特徴と栄養状態による評価」の復習	90
第5回	・子どもの発育・発達と食生活② ―胎児期（妊娠前、妊娠中）の母体の食生活	△	テキスト第3章Bを読み予習する	90
		▽	「胎児期（妊娠前・中）の食生活と注意事項」を復習	90
第6回	・子どもの発育・発達と食生活③ ―乳児期の乳汁（母乳、人工乳、混合栄養）栄養の役割と授乳の実際	△	テキスト第3章Cの1を読んで予習する	90
		▽	「乳汁栄養の役割や授乳の実際」について復習	90
第7回	・子どもの発育・発達と食生活④ ―乳児期における離乳の必要性と考え方・進め方	△	テキスト第3章Cの2を読み予習する	90
		▽	「乳児期の、離乳の必要性と考え方・進め方」の復習	90
第8回	・子どもの発育・発達と食生活⑤ ―幼児期の食生活と献立作成（課題1「幼児の弁当作りとレポート」の内容把握と準備＜実際のお弁当作りとレポート作成は授業時間外学修＞）	△	テキスト第3章Dの1a.b～2.a.b及び第2章のDを予習	90
		▽	「幼児期の食生活と献立作成」の復習/「お弁当作りとレポート」作成	90
第9回	・子どもの発育・発達と食生活⑥ ―幼児期の間食の意義と内容/幼児期の食生活の問題と対応	△	テキスト第3章Dの2c～eを読み予習する	90
		▽	「幼児期の、間食のあり方と食生活をめぐる課題の復習	90
第10回	・子どもの発育・発達と食生活⑦ ―学童期の食生活/生涯発達の観点から捉える食生活	△	テキスト第3章のE、Fを予習する	90
		▽	「学童期の食生活・生涯発達と食生活」の復習	90
第11回	・特別な配慮を要する子ども（疾病、食物アレルギー、障害等）の食と栄養 ・家庭や児童福祉施設における食事と栄養	△	テキスト第6章、第5章を予習する	90
		▽	「特別な配慮を要する子ども・家庭や保育所等の食（事）と栄養」復習	90
第12回	・食育の基本と内容 保育での食育の意義と推進/課題2の目的・方法とグループ毎の計画	△	テキスト第4章と食育教材の資料を読み予習する	90
		▽	「食育の基本と内容」の復習/教材作製計画の再確認	90
第13回	・課題2　「食育をテーマとした教材」 ―「ペープサート」の作製と発表の練習（グループ毎）	△	食育の教材作製に関する資料調べ・作製に必要な物の用意	90
		▽	ペープサートの作製と発表の練習の続きを行う	90
第14回	・課題2　「食育をテーマとした教材」続き ―「ペープサート」の発表（グループ毎）と評価	△	ペープサートの仕上げ、発表の準備	90
		▽	課題2を通して得た食育の意義や実際を再確認する	90
第15回	まとめ　学期末定期試験と振り返り	△	授業内容の総復習	90
		▽	授業内容や各自の取り組みの振り返り	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

・授業内提出プリント10%、課題1「幼児のお弁当づくりとレポート」と課題2「食育教材（ペープサート）の作製と発表」で30%（両課題とも単位認定に必須）、学期末定期試験60%の配分に基づき、総合的に評価する（但し学期末定期試験の点数は60%以上とることが単位認定の必要要件である）。
・課題1の食材、用具等の実費は学生負担。課題2の教材作製（ペープサート）の材料、用具等は学生負担（100～200円位/1人）。
・提出物別配点と評価方法別配点（下記表）は、観点が異なるため、数値は一致しません。

【テキスト】

「最新　子どもの食と栄養―食生活の基礎を築くために―　第9版第7刷」飯塚美和子他編集　学建書院　2026年3月

【参考書・参考資料等】

「子どもの食と栄養演習〔第7版〕」小川雄二編著　建帛社　2025年
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

【連絡方法】　主としてGoogle Classroom（n-ito@g.ariake.ac.jp）。Google ClassroomのクラスコードはUNIPA掲示板に掲載する。

【オフィスアワー】　基本的に授業時間の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	50%	子どもの食生活の意義を的確に把握している。栄養、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法等「子どもの食と栄養」について十分に基本的な知識を習得し理解している。	子どもの食生活の意義を把握している。栄養、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法等「子どもの食と栄養」について基本的な知識を習得し理解している。	子どもの食生活の意義を概ね把握している。栄養、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法等「子どもの食と栄養」について基本的な知識の習得と理解が概ねできている。	子どもの食生活の意義の把握が不十分である。栄養、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法等「子どもの食と栄養」について基本的な知識の習得と理解が断片的で努力を要する。	子どもの食生活の意義を把握する姿勢が示されない。栄養、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法等「子どもの食と栄養」について基本的な知識の習得と理解が不十分である。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	30%	授業内プリントが提出され授業内容の理解が十分できている。発達段階に応じた食生活の課題解決に必要な知識について十分理解している。食育の基本を反映した教材作製・発表において、十分な成果を発揮している。	授業内プリントが提出され授業内容の理解ができている。発達段階に応じた食生活の課題解決に必要な知識について理解している。食育の基本を反映した教材作製・発表において、成果を発揮している。	授業内プリントが提出され授業内容の理解が概ねできている。発達段階に応じた食生活の課題解決に必要な知識について概ね理解している。食育の基本を反映した教材作製・発表では成果を発揮しようと取り組んでいる。	授業内プリントの提出はあるが授業内容の理解が断片的。発達段階に応じた食生活の課題解決に必要な知識・理解にばらつきがある。食育の基本を反映した教材作製・発表に取り組むも成果にまとまりがなく努力を要する	授業内プリントの提出と授業内容の理解が不十分である。発達段階に応じた食生活の課題解決に必要な知識・理解が不十分。食育の基本を反映した教材作製・発表への取組みが浅く課題への理解や成果が不十分である。
授業外での取組	① ② ③	20%	主体的な態度のもと、発達段階に応じた食生活の課題解決の実行について十分に成果を発揮している。食育の基本を反映した教材作製・仕上げと発表の準備において、十分に積極的な取り組みを実施している。	主体的な態度のもと、発達段階に応じた食生活の課題解決の実行について成果を発揮している。食育の基本を反映した教材作製・仕上げと発表の準備において、積極的な取り組みを実施している。	主体的な態度のもと、発達段階に応じた食生活の課題解決の実行について概ね成果を発揮している。食育の基本を反映した教材作製・仕上げと発表の準備において、積極的な取り組みをする努力が見られる。	主体的な態度にむらがあり、発達段階に応じた食生活の課題解決の成果にまとまりがなく、努力を要する。食育の基本を反映した教材作製・仕上げと発表の準備における積極的な取り組みに努力を要する。	主体的な態度が見られず、発達段階に応じた食生活の課題解決の成果が不十分である。食育の基本を反映した教材作製・仕上げと発表の準備への取り組みに積極性が見られない。

備考：【履修上の注意点】に記載されている提出物別配点と、評価方法別配点（上記表）は、観点が異なるため、数値は一致しません。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第12，13回	第14回		第8，12，13，14回		

科目名／専門教育 H406	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
発達と障害	2年後期	選択（保育士必修）	講義／単独	2単位	池口　洋一郎	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

乳児期から青年期までの子どもの発達と認知的特徴について学ぶ。
発達障害児が示す様々な行動と心理的関係から、個別支援のあり方にについても考察する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義形式であるが、授業の後半では、各回のテーマにそってリフレクション、ディスカッションを行う。
障害児のコミュニケーション支援に重点をおき、具体的な援助方法を発達的観点から考察する。

【到達目標と学修成果】

この授業をとおして、障害のある子どもの日常的な行動から、その心理的意味をとらえ、具体的な支援のあり方を探りつつ、実践できるようになる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	ガイダンス 授業の概要と進め方、評価方法についての説明、成長と発達	△ シラバスを読み、授業の概要を確認する	90
		▽ 授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90
第2回	発達の理論 生涯発達理論、乳児期、幼児期、までの発達過程	△ 「成長」と「発達」の用語の捉え方の違いを配布資料をみながら確認する	90
		▽ 「生涯発達」乳児期、幼児期の発達の特徴をノートにまとめる	90
第3回	発達の理論 生涯発達理論、児童期、青年期までの発達過程	△ 障害の診断基準について、関連図書やインターネットで調べる	90
		▽ 障害の捉え方に関する歴史的背景についてノートにまとめる	90
第4回	障害の概念と診断基準,障害の診断基準(DSM, ICD等) 学習障害(SLD)児への理解 学習障害児の認知・行動的特性と心理, 事例に基づく支援のあり方	△ 「学習障害」、「二次的障害」という語について、関連図書等で調べる	90
		▽ テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90
第5回	自閉症(ASD)児の理解 1 自閉症スペクトラムの分類、自閉症児の認知・行動的特性と心理	△ 「自閉症スペクトラム」という語について、関連図書等で調べる	90
		▽ テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90
第6回	注意欠陥/多動性障害(ADHD)児への理解 注意欠陥/多動性障害児の認知・行動的特性と心理、事例に基づく支援のあり方	△ 「注意欠陥多動性障害」、「認知(機能)」という語について、関連図書等で調べる	90
		▽ テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90
第7回	発達障害全般　（発達性協調運動障害、ギフテッド・2Eなど）	△ その他の発達障害について、関連図書等で調べる	90
		▽ テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90
第8回	さまざまな事例(アスペルガー症候群ほか)に基づく支援のあり方	△ その他の発達障害について、関連図書等で調べる	90
		▽ テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90
第9回	言語障害児への理解 言語障害児の認知・行動的特性と心理、緘黙、吃音ほかに基づく支援のあり方	△ 「言語」、「コミュニケーション」という語について、関連図書等で調べる	90
		▽ 配布資料をみながら、要点をノートにまとめる	90
第10回	知的障害児への理解 知的障害児の認知・行動的特性と心理、ダウン症児に基づく支援のあり方	△ 「知的障害」「非言語コミュニケーション」という語について、関連図書等で調べる	90
		▽ テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90
第11回	障害児保育と特別支援教育 障害児の保育および特別支援教育のシステム	△ 「障害児保育」と「特別支援教育」の対象について、関連図書やインターネットで調べる	90
		▽ 配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90
第12回	発達障害　（ギフテッド・2Eなど）に関する事例研究	△ 条例や法律について、関連図書やインターネットで調べる	90
		▽ 配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90
第13回	子どもの発達に関するアセスメント 1 アセスメントの意義と代表的な知能検査、発達検査	△ 「アセスメント」という語について、関連図書やインターネット等で調べる	90
		▽ 授業でとりあげた知能検査や発達検査の概要について、ノートにまとめる	90
第14回	子どもの発達に関するアセスメント 2 さまざまな発達検査とアセスメントの実際（事例検討）	△ アセスメントの利用について、、関連図書やインターネットで調べる	90
		▽ 授業でとりあげた知能検査や発達検査について、ノートにまとめる	90
第15回	まとめ　子どもの発達過程とさまざまな障害に関する理解の確認	△ これまでの授業内容について、テキストと配布資料をみながらノートにまとめる	90
		▽ この授業で学んだ要点を振り返る	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

授業後に行う「リフレクションペーパー」（40%）および期末試験（40%）、授業外での活動（20%）によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業前に紹介する。

【参考書・参考資料等】

授業の中で提示する。

【連絡方法】　授業開始時に提示する。

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:100－90点）	優れている（A:89-80）	平均的（B:79-70）	努力を要する（C:69-60）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	すべて	40%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	すべて	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	すべて	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第4,6,7,14回					

科目名／専門教育 YHS501	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教職・保育者論	2年後期	必修	講義/単独	2単位	石井友行 ・ 信太朋子	／	○

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

本講義では、現在の社会における教員・保育士という職業の特徴や社会的役割について理解を深める。我が国の教員免許制度（資格認定制度）、教員・保育士養成制度、その服務内容などの基本事項を理解する。教員・保育士を志す学生に対して、進路選択に資する情報を提供し、職業に対する具体的イメージを持つことができる。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義形式である。教職は社会的公務である。その職務の性質と役割をどのように自覚し実行するか、教職者に求められる資質、倫理観とともに、教職・保育職に関する法的システムの趣旨を理解する。教員・保育士のモラルが問われる昨今の事件等の実例を参考にして理解を深める。

【到達目標と学修成果】

①教職に対する具体的イメージを持つことができ、自分なりに適性を判断できる。
②教員・保育士という職業の特徴や社会的役割について理解できる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	講義の進め方の説明。 授業概要と進め方、評価方法を説明する。なぜ、教員・保育士を目指したのか、志した意味を改めて考える。	△	教職について考えをまとめてくる。	90
		▽	教職の意義などについて復習する。	90
第 2 回	幼稚園教諭・保育士とは 幼稚園教諭・保育士の仕事を知り、それらを取り巻く諸問題を考える.	△	幼稚園教諭・保育士の概要について事前に予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる	90
第 3 回	小学校教諭とは 教科指導を含めた仕事内容の概略を知り、教師をめぐる問題や課題を考える。	△	小学校教諭の概要について事前に予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 4 回	幼稚園教諭・保育士の育成システム	△	幼稚園教諭・保育士の育成について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 5 回	小学校教諭の育成システム	△	小学校教諭の育成システムについて予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 6 回	幼稚園教諭・保育士の具体的な職務内容	△	幼稚園教諭・保育士の職務内容について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 7 回	小学校教諭の具体的な職務内容 近年の教育問題について知り、「指導」について考える。性暴力防止への認識を深める。	△	小学校教諭の職務内容について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 8 回	チーム学校運営を推進するための施策について ①教職員等がチームとして連携及び協働②学校の教職員等と学校の関係者等との連携及び協働他	△	教職員の協働について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 9 回	放課後の子ども達の生活を支える施設との連携 学童保育・子ども達の貧困問題などについて考える。	△	放課後の子どもの生活について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 10 回	教師の権利と義務 教師の義務とはなにか。職務上の権利とは。法的および実践的変化についても考える。	△	教師の権利と義務について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 11 回	家庭や地域との連携・支援	△	家庭や地域との連携について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 12 回	教師・保育士のワークライフバランス、メンタルヘルス	△	教師、保育士のワークライフバランスについて予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 13 回	新しい時代における幼稚園教諭・保育士の役割と責務 教師としての成長・発達そして、自分の適性を考えた教職の道について考える。	△	今後の幼稚園教諭・保育士の在り方について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 14 回	新しい時代における小学校教師の役割と責務 教師としての成長・発達そして、自分の適性を考えた教職の道について考える。	△	今後の小学校教諭の在り方について予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り復習しノートにまとめる。	90
第 15 回	まとめ	△	今までの資料を振り返り予習する。	90
		▽	今日の学修を振り返り学修したしたことをまとめる。	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

授業内に行う課題発表（20%）「リフレクションペーパー」（30%）および、期末レポート（50%）によって総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

【参考書・参考資料等】

『幼稚園教育要領』フレーベル館（2017年）・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館（2017年）、文部科学省『小学校学習指導要領』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館（2017年）

【連絡方法】 授業時に伝える

【オフィスアワー】 授業の前後、昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	① ②	50%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	課題の意図やこれまでの授業内容をりかいできていない。 誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	2,3,9,11,13,14回	6,7,9,12回		8回	2回～14回	

科目名／専門教育 H514	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実践演習	3年後期	選択（保育士必修）	演習／単独	2単位	今泉　良一	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

①指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。
②保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得するとともに、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を目指す。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

実習で身につけた知識および技能をもとに、保育者として意識すべきことを踏まえ、保育の現場を想定し、実践に結びつく内容を学んでいく。
授業形態は、テキストに基づき、講義、個人ワーク、グループワーク、事例検討、発表及び討議を予定している。

【到達目標と学修成果】

①理論と実践を結び付けながら保育者としての専門性について理解を深め、自身の課題を可視化することができる。
②これまでの学習で身につけた学びを改めて意識することにより、保育のさらなる理解へと発展させることができる。
③保育現場における現代的テーマについて、考察・プレゼンテーションする技術、能力を身に付けることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	オリエンテーション　授業概要について　実習を振り返って	△ シラバスに目を通し、事前理解に努める。	90
		▽ 授業内容、履修上の留意点を確認する。	90
第2回	保育者への歩みと足跡	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第3回	子ども理解の方法と実際	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第4回	保育とICT	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第5回	教育課程および全体的な計画を考える	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第6回	保育内容と保育方法の研究	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第7回	協同的な学びと育ちへ	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第8回	保育の振り返り	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第9回	保護者および地域との関係づくり	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第10回	幼保小の接続	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第11回	園の安全管理	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第12回	保育者の専門性	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第13回	自分の保育者像を目指して	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第14回	気になる子どもの行動の理解と対応	△ 様々な保育実践記録を調べ、興味のあるものを探す。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第15回	試験とまとめ	△ これまでの学習内容を振り返る。	90
		▽ 振り返りシート記入	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（保育士）も踏まえて実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

毎時間テキストを使用します。また、試験時はテキスト持ちこみ可です。毎授業必ず持参し、大事なところはマーキングする、付箋を貼るなど、学習を深められるよう工夫してください。

【テキスト】

小櫃智子・矢藤誠慈郎編著『改訂2版　保育教育実践演習　これまでの学びと保育者への歩み－幼稚園保育所編』わかば社（2023）

【参考書・参考資料等】

必要に応じて授業時に紹介する。

【連絡方法】　授業時に周知する。

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	50%	知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第1～14回	第1～14回				

科目名／専門教育 YS515	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教職実践演習(幼・小)	3年後期	選択 (幼・小必修)	演習/複数	2単位	信太 朋子 ・ 石井 友行	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

これまでに学習してきた教員としての知識・技能・実践的能力がどのように身についてきたのかについての最終確認をねらいとする。教員を目指す上で、自分にとって何が課題であるのかを探り出し、習得している能力をさらに伸ばしていくことはもちろん、不足している知識・技能を再学習して身につけることを目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義、グループ討議、事例研究発表、模擬授業、現地調査等を取り入れて授業を展開する。なお、履修履歴の把握は学期末に実施し、シラバス作成の際に学校現場の意見聴取も行っている。

【到達目標と学修成果】

①危機管理や保護者対応などの重要性を知り、現場に出る際の心構えをもつことができる。
②これまでの学びをふりかえり、不足している知識・技能を身につけることができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	教師への歩み ―教師に求められている多様な資質・能力―	△ 履修ガイドを予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 2 回	「教師力を磨こう」 求められる教師像に近づくために	△ 資料(教師の指導力)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 3 回	教育課程とカリキュラム・学校経営方針を受けて協働	△ 資料(教育課程とカリキュラム)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 4 回	教職における職務内容・子どもに対する責任(危機管理の内容を含む) ゲスト講師:江東区教育委員会 指導主事	△ 資料(危機管理)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 5 回	問題行動の理解と対応 ―いじめ問題・不登校配慮を要する子などの理解と援助―	△ 資料(いじめ、不登校対策)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 6 回	保育内容と保育方法	△ 資料(保育内容と保育方法)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 7 回	保幼小の接続	△ 資料(保幼小接続)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 8 回	人権教育	△ 資料(人権教育)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 9 回	教育の最新事情 ・ 社会の動きや職業選択について	△ 資料(教育の最新事情)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 10 回	教師と保護者および地域との協働・連携	△ 資料(協働・連携)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 11 回	社会性・対人関係能力の基礎	△ 資料(対人能力)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 12 回	音楽遊び 音楽の楽しさを伝える活動の実践	△ 資料(音楽遊び)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 13 回	ICTを活用した授業づくり	△ 資料(ICTの活用)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 14 回	ICTを活用した模擬授業の実践	△ 資料(模擬授業)を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 15 回	まとめ(幼児指導要録・小学校指導要録の取扱いを含む)	△ これまでの授業について振り返りをする。	90
		▽ 今までの学修を復習しノートにまとめる。	90

備考： この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。 2700

【履修上の留意点】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(30%)および期末試験(30%)、課題(40%)によって総合的に評価する。

【テキスト】

「幼稚園教育要領」フレーベル館 (2017年) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館 (2017年) 、文部科学省「小学校学習指導要領」(最新版)

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝えます。

【連絡方法】 授業時に知らせる

【オフィスアワー】 授業終了時

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がなされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がなされていない。
期末 レポート	① ②	20%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容をりかいできていない。 誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	1回2回3回 10回11回13回	14回	12回			

科目名／専門教育 YHS502	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育原理とカリキュラム論	1年後期	必修	講義／単独	2単位	山本　剛		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

現代教育の基盤を形成する諸原理・諸理念は、いかなる歴史的・思想的な変遷を経て現在に至っているのか。この授業では、教育の理念とその歴史から導かれる「教育学」的なものの見方・考え方を養い、そのような知見をもとに、教育が直面する諸課題を克服しようとする基本的な姿勢を育むことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

現代教育の理念につながる歴史(教育の思想史)に関する講義を行う。これまで受講生が体験的に理解してきたと思われる現代日本の学校教育を構成する諸領域(教育課程の意義・編成の方法を含む)の基礎的な事項について、教育学的な知見から改めて考察を加え、受講生自身の教育観の確立に資することを目的とする。

【到達目標と学修成果】

①教育の理念について、これまでの歴史的・思想的な背景を踏まえて理解し、説明することができる。
②学校教育の意義について、カリキュラム・マネジメントの視点も踏まえて理解し、説明することができる。
③教育学の知見を踏まえて、自身の教育体験を科学的に理解し、自分の言葉で説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「教育」について自分の意見をまとめておく	90
		▽「私の教育体験」についてノートにまとめる	90
第2回	Ⅰ. 教育の意義① 人間の可能性と教育の必要性	△テキストp.1-4の予習	90
		▽「生理的早産」についてノートにまとめる	90
第3回	Ⅰ. 教育の意義② 形式陶冶と実質陶冶	△テキストp.5-12の予習	90
		▽「陶冶」についてノートにまとめる	90
第4回	Ⅱ. 発達と教育・家庭の福祉① 発達段階と発達課題	△テキストp.13-20の予習	90
		▽「J.Piaget」についてノートにまとめる	90
第5回	Ⅱ. 発達と教育・家庭の福祉② 乳幼児期から青年期までの特性	△テキストp.20-28の予習	90
		▽「Identity」についてノートにまとめる	90
第6回	Ⅲ. 教育の目的① 教育思想の歴史的変遷	△テキストp.29-34の予習	90
		▽「J.Dewey」についてノートにまとめる	90
第7回	Ⅲ. 教育の目的② 子ども観と教育観の歴史的変遷	△テキストp.34-40の予習	90
		▽「教育基本法」についてノートにまとめる	90
第8回	Ⅳ. 教育の課程① 教育課程の基礎理論	△テキストp.41-45の予習	90
		▽「Core Curriculum」についてノートにまとめる	90
第9回	Ⅳ. 教育の課程② 社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメント	△テキストp.46-52の予習	90
		▽「学習指導要領」についてノートにまとめる	90
第10回	Ⅴ. 教育の方法① 教育実践の基礎理論	△テキストp.53-57の予習	90
		▽「Active Learning」についてノートにまとめる	90
第11回	Ⅴ. 教育の方法② 教育実践の取り組みと計画・評価	△テキストp.57-63の予習	90
		▽「教育評価」についてノートにまとめる	90
第12回	Ⅵ. 教育の歴史と思想的背景① 近代教育の制度的変遷	△テキストp.161-168の予習	90
		▽「教育勅語」についてノートにまとめる	90
第13回	Ⅵ. 教育の歴史と思想的背景② 現代教育の制度的変遷	△テキストp.168-171の予習	90
		▽「戦後教育改革」についてノートにまとめる	90
第14回	Ⅵ. 教育の歴史と思想的背景③ 生涯学習社会と現代教育の課題	△テキストp.172-183の予習	90
		▽「知識基盤社会」についてノートにまとめる	90
第15回	授業の総括とリフレクション	△テキストp.1-63,161-183の復習	90
		▽学期末試験に関する振り返り	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

・教職課程の法定科目として最も基本的な内容を取り扱うため、基礎知識の確実な定着を第一義とする。

【テキスト】

・湯川次義編『新編 よくわかる教育の基礎（第2版）』学文社、2016年
※「教育の組織と運営」（2年後期配当科目）において購入済みの者は、購入不要。

【参考書・参考資料等】

・池田幸代・田中謙編『マネジメントする教育・保育課程』教育情報出版、2018年
・『小学校学習指導要領』(最新版) ・『幼稚園教育要領』2017年
・『保育所保育指針』2017年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年

【連絡方法】 授業内で指示をする

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）	① ②	40%	知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③	60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）							
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 YHS503	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育の心理	1年前期	必修	講義/単独	2単位	齋藤　朗子		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

教師や保育者を目指す学生の専門科目である(区分:子ども教育の基礎理論)。
本講義では、教師や保育者に必要な教育心理学の基礎的な知識を提供する。
教育心理学の代表的な理論と歴史を学ぶことを通して、教育の基礎となる人間理解を深められるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式で進めるが、必要に応じて演習やディスカッションを通して、理解を深められるようにする。

【到達目標と学修成果】

①教育心理学の代表的な理論と歴史、その教育的意義を理解し、説明することができる。
②子どもの発達、学習、動機づけのしくみを理解し、子どもの成長発達を支える教育について考察できる。
③教育評価の意義と方法、その統計的基礎を理解し、今日の特別支援教育との関係を理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス 授業の進め方の説明	△ シラバスを熟読する	90
		▽ シラバスとガイダンス資料を熟読する	90
第2回	教育心理学概論 教育心理学の研究領域と研究法、歴史と意義	△ 教育心理学について調べる	90
		▽ 教育心理学について講義内容を振り返る	90
第3回	発達1 遺伝と環境　－成熟説と学習説	△ 成熟説と学習説について調べる	90
		▽ 遺伝と環境について講義内容を振り返る	90
第4回	発達2 子どもの心身の発達	△ 発達段階について調べる	90
		▽ 子どもの心身の発達について講義内容を振り返る	90
第5回	発達3 子どもの認知機能の発達　－ピアジェの発達理論、心の理論	△ ピアジェについて調べる	90
		▽ 認知機能の発達について講義内容を振り返る	90
第6回	発達4 発達と教育の関係　－ヴィゴツキーの発達の最近接領域	△ ヴィゴツキーについて調べる	90
		▽ 発達の最近接領域について講義内容を振り返る	90
第7回	学習理論 学習のメカニズム　－条件づけ、プログラム学習	△ パブロフについて調べる	90
		▽ 学習理論について講義内容を振り返る	90
第8回	動機づけ 子どものやる気・意欲を育てる　－内発的動機づけ、学習性無力感	△ 学習性無力感について調べる	90
		▽ 動機づけについて講義内容を振り返る	90
第9回	知能・パーソナリティ 知能・パーソナリティの発達　－その人らしさ、個人差	△ パーソナリティについて調べる	90
		▽ 心理検査について講義内容を振り返る	90
第10回	教育・学習の評価 評価の意義と方法　－子どもを理解する方法としての知能検査	△ 知能検査について調べる	90
		▽ 評価の意義について講義内容を振り返る	90
第11回	特別支援教育1 特別支援教育の歴史と現在の取り組み	△ 特別支援教育について調べる	90
		▽ 現在の特別支援教育について講義内容を振り返る	90
第12回	特別支援教育2 発達障害の理解と対応	△ 発達障害について調べる	90
		▽ 発達障害について講義内容を振り返る	90
第13回	特別支援教育3 子どもを理解してかかわるために　－発達障害当事者研究	△ 当事者研究について調べる	90
		▽ 発達を支える教育について講義内容を振り返る	90
第14回	心の健康教育 ストレス・マネジメントとカウンセリング・マインド	△ ストレスについて調べる	90
		▽ ストレス・マネジメントについて講義内容を振り返る	90
第15回	まとめ	△ 授業内容の総復習	90
		▽ 授業・試験内容について振り返る	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

特になし

【テキスト】

特になし。授業内で必要に応じて参考資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著(2019)やさしい教育心理学　第5版－有斐閣アルマ.(2,090円),

【連絡方法】　必要時は掲示する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	① ② ③	50%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)							
授業外での取組	① ② ③	50%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 YS504	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育の組織と運営	3年後期	選択（幼小必修）	講義／単独	2単位	山本　剛		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

現代教育の基盤を形成する諸組織・諸制度は、いかなる社会的・経営的な合意を経て成り立っているのか。この授業では、公教育の基本的な構造と今日的な課題について、法的・制度的および社会的背景を踏まえて考察し、教育の現場が直面する諸課題を克服しようとする教育者にふさわしい姿勢を育むことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

現代公教育の組織と運営に関する基礎的な事項について講義する。これまで受講生が体験的に理解してきたと思われる日本の学校教育が、いかなる法的・制度的・社会的環境のもとでなされてきたのか。またその課題は何か、改めて省察し、受講生自身の問題意識に問いかけることを目的とする。

【到達目標と学修成果】

①公教育の組織と運営を支える法と制度について、社会的な背景を踏まえて理解し、説明することができる。
②学校と地域との連携・協働の在り方について、学校安全の視点も踏まえて理解し、説明することができる。
③教育学の知見を踏まえて、現代教育の意義と課題を科学的に理解し、自分の言葉で説明することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第１回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「公教育」について自分の意見をまとめておく	90
		▽「私の実習体験」についてノートにまとめる	90
第２回	Ⅰ. 現代社会と教育① 子どもを取り巻く環境	△テキストp.172-177の予習	90
		▽「Informal Edu.」についてノートにまとめる	90
第３回	Ⅱ. 教育制度① 公教育の基本原理	△テキストp.122-126の予習	90
		▽「公教育の3原則」についてノートにまとめる	90
第４回	Ⅱ. 教育制度② 諸外国の教育制度	△テキストp.126-137の予習	90
		▽「学校体系」についてノートにまとめる	90
第５回	Ⅲ. 教育法規① 教育法規の基本構造	△テキストp.138-144の予習	90
		▽「法律主義」についてノートにまとめる	90
第６回	Ⅲ. 教育法規② 教育法規の今日的課題	△テキストp.144-149の予習	90
		▽「Compliance」についてノートにまとめる	90
第７回	Ⅳ. 教育行政① 教育行政の基本構造	△テキストp.150-153の予習	90
		▽「教育行政の3原則」についてノートにまとめる	90
第８回	Ⅳ. 教育行政② 教育行政の今日的課題	△テキストp.153-160の予習	90
		▽「教育委員会」についてノートにまとめる	90
第９回	Ⅴ. 教育経営① 教育経営の基本的視点	△テキストp.100-102の予習	90
		▽「PDCAサイクル」についてノートにまとめる	90
第10回	Ⅴ. 教育経営② 教育のマネジメントとガバナンス	△テキストp.102-108の予習	90
		▽「学校経営」についてノートにまとめる	90
第11回	Ⅵ. 現代教育の課題① いじめと不登校	△テキストp.177-181の予習	90
		▽「いじめの定義」についてノートにまとめる	90
第12回	Ⅵ. 現代教育の課題② 学校と地域の連携	△テキストp.109-110の予習	90
		▽「地域連携」についてノートにまとめる	90
第13回	Ⅵ. 現代教育の課題③ 学校安全への対応	△テキストp.109-110の復習	90
		▽「学校安全」についてノートにまとめる	90
第14回	Ⅶ. 現代社会と教育② 人権・共生・平和の教育	△テキストp.181-183の予習	90
		▽「生涯学習社会」についてノートにまとめる	90
第15回	授業の総括とリフレクション	△テキストp.100-110,122-160,172-183の復習	90
		▽学期末試験に関する振り返り	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

・教職課程の法定科目として最も基本的な内容を取り扱うため、基礎知識の確実な定着を第一義とする。

【テキスト】

・湯川次義編『新編 よくわかる教育の基礎（第2版）』学文社、2016年
※「教育原理とカリキュラム論」（1年後期配当科目）において購入済みの者は、購入不要。

【参考書・参考資料等】

・木村草太編『子どもの人権をまもるために』晶文社、2018年
・『小学校学習指導要領』(最新版)　・『幼稚園教育要領』2017年
・『保育所保育指針』2017年　・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年

【連絡方法】　授業内で指示をする

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）	① ②	40%	知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③	60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）							
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 YHS505	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
特別支援教育概説	3年前期	選択（保幼小必修）	講義／単独	2単位	矢島　卓郎	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

特別支援教育の対象となる子どもの発達支援について、教育学・心理学的視点から学び理解することを目的とする。乳幼児期、学童期における発達支援の現状と特別支援教育において実践されている指導法やその成果を知ることによって、特別支援教育の専門性について理解を深めることを目指す。また、他の教員や関係機関との連携のあり方の必要性についても理解を深める。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

各回の授業内容（テーマ）にそって、教科書および配布資料と提示資料で解説したうえで、関連する問題提起とディスカッション、具体的な指導法、援助方法に関する事例から知識と理解を深める。資料はその都度GoogleClassroomで配信して復習・自主学習を促す。また、各回のテーマに関わる課題を提起し、その課題レポートを公表して理解を共有する。更に、授業の理解を確認する目的で2回の小テストを実施する。

【到達目標と学修成果】

①インクルーシブ教育の理念および特別支援教育の制度と仕組について理解する。
②特別支援教育の対象となる幼児児童生徒のコミュニケーションの様相と心理について理解する。
③特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の日常生活での行動の意味を知り、具体的な援助につなげる方法について考えることができる。
④特別支援教育の対象となる子どもの現状を理解し、適切な支援のあり方について考えることができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第１回	ガイダンス －特別支援教育について、授業概要と進め方－	△ シラバスを読み、授業の概要を確認する	90
		▽ 授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90
第２回	インクルーシブ保育・教育と特別支援教育 －障害の概念、学校教育制度と特別支援教育の歴史的変遷－	△ 教科書の第1章p.10-p.19、13章p.112-p.18を読んで予習してくる	90
		▽ 生涯の概念（ICF）について具体例を考えてノートにまとめる	90
第３回	保育・教育フィールドと幼児・児童・生徒の実態 －特別支援教育の理念、特別支援学校や特別支援学級と通級学級－	△ 教科書の第2章のp.20-p.29、第13章p.112-p.118を読んでくる	90
		▽ 特別支援教育における教育課程の概要をノートにまとめる	90
第４回	障害児者福祉と医療的な支援 －障害児者福祉の理解、早期発見・早期支援、福祉サービス－	△ 教科書の第3章のp.30-p.38を読んで予習してくる	90
		▽ 障害児福祉、早期療育、就学相談についてノートにまとめる	90
第５回	視覚および聴覚障害児の理解と支援 －視覚障害および聴覚障害の定義と教育－	△ 教科書の第4・5章のp.39-p.57を読んで予習してくる	90
		▽ 視覚及び聴覚特別支援学校の教育についてノートにまとめる	90
第６回	運動障害児と重症心身障害児の理解と支援 －運動障害および重症心身障害の定義と教育、医療的ケア－	△ 教科書の第6章のp.58-p.65を読んで予習してくる	90
		▽ 肢体不自由、脳性麻痺、重症心身障害についてノートにまとめる	90
第７回	言語・コミュニケーション障害児および情緒障害と病・虚弱児の理解と支援 －言語・発声・発語領域の発達と困難、AAC、情緒障害と発達障害－	△ 教科書の第7・8章のp.66-p.81を読んで予習してくる	90
		▽ 発声機能と情緒・精神障害・身体疾患についてノートにまとめる	90
第８回	知的障害児の理解と支援 －知的障害の定義と分類、教育支援、指導過程と指導形態－	△ 教科書の第9章のp.82-p.90を読んで予習してくる	90
		▽ 知的障害の特徴と教育法についてノートにまとめる	90
第９回	自閉スペクトラム症（ASD）児の理解と支援 －ASDの概念・定義、認知・行動・発達特性と教育支援方法－	△ 教科書の第10章のp.91-p.99を読んで予習してくる	90
		▽ 自閉症スペクトラム症児と知的障害児の違いを整理してノートにまとめる	90
第１０回	学習障害（LD）児の理解と支援 －LDの定義、LDの特性と教育支援方法－	△ 教科書の第11章のp.100-p.105を読んで予習してくる	90
		▽ 学習障害の特徴と指導法についてノートにまとめる	90
第１１回	注意欠如・多動症（ADHD）児の理解と支援 ADHDの定義と診断基準、ADHDの特性と教育支援方法	△ 教科書の第12章のp.106-p.111を読んで予習してくる	90
		▽ ADHDの特徴と指導法についてまとめる	90
第１２回	発達障害と心理行動アセスメントと支援法 －境界知能、心理検査、行動観察、応用行動分析の実際－	△ 応用行動分析について調べてまとめてくる	90
		▽ 境界知能および知能及び心理検査についてまとめ理解を深める	90
第１３回	環境調整とICT活用および障害児のキャリア教育 －発達障害と環境調整、ICTの活用事例、障害児の進路	△ 教科書の第15・16章のp.127-p.138を読んで予習してくる	90
		▽ 教育におけるICT導入と障害児の進路についてまとめる	90
第１４回	発達障害幼児と児童の療育・教育支援計画の作成 幼稚園、療育施設と小学校における支援の実践事例	△ 配布する就学前後における個別支援の事例を読み理解してくる	90
		▽ フィクション事例の個別支援計画について授業を参考に作成する	90
第１５回	特別支援教育・障害児保育のまとめ	△ これまでまとめたレポートなどの資料を復習してくる	90
		▽ 特別支援学校、特別支援学級、通級学級の教育法を整理する	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

授業外での学習、予習・復習を必ずすることで授業の理解を深めることを期待する。
教科書は、3年次後期の必修科目「教育相談」の授業でも使用するため、必ず購入すること。
授業内で復習のため小テストを2回実施するので必ず受講すること。

【テキスト】

教育課程コアカリキュラム対応版『特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育』橋本創一他 編著　福村出版
ISBN978-4-571-12140-1

【参考書・参考資料等】

『特別支援教育総論－インクルーシブ時代の理論と実践－』川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳 編著 北大路書房 2016 ISBN978-4-7628-2949-9
『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』文部科学省 2018

【連絡方法】　授業内での指示及び掲示を確認する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③ ④	80%	・知識・理解・応用力（支援の在り方）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（支援の在り方）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や支援の在り方を理解できていることが認められる。	・基本的な知識の習得や支援の在り方の理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や支援の在り方が理解されていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	② ③	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・支援の在り方が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・支援の在り方が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・支援の在り方の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・支援の在り方の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	③ ④	10%	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組、予習、復習の課題に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：上記以外で課題のレポートの提出状況も最終評価において考慮する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	12回、13回、14回	12回、13回、14回			第2回～15回	

科目名／専門教育 YHS506	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育原理Ⅰ（理念）	1年前期	選択（保育士必修）	講義／単独	2単位	山本　剛		

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

現代保育の基盤を形成する諸原理・諸理念は、いかなる歴史的・思想的な変遷を経て現在に至っているのか。この授業では、保育の理念とその歴史から導かれる「保育学」的なものの見方・考え方を養い、そのような知見をもとに、保育が直面する諸課題を克服しようとする基本的な姿勢を育むことをねらいとする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

現代保育の理念につながる歴史（保育の思想および制度史）に関する講義を行う。日本の保育を構成する諸領域の基盤的事項の理念的背景について、保育学的な知見から改めて考察を加え、受講生自身の保育観の確立と「子ども教育学」の基本的視座を提供することを目的とする。

【到達目標と学修成果】

①保育の理念について、これまでの歴史的・思想的な背景を踏まえて理解し、説明することができる。
②『保育所保育指針』の法的・制度的位置づけと保育所保育の基本について理解し、説明することができる。
③保育学の知見を踏まえて、現代保育の意義と目的、その課題を理解し、自分の言葉で説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「保育」について自分の意見をまとめておく	60
		▽「私の入学動機」についてノートにまとめる	60
第2回	Ⅰ. 保育の意義と目的① 保育の理念と社会的意義	△前回授業内容の復習	60
		▽「保育の理念」についてノートにまとめる	120
第3回	Ⅰ. 保育の意義と目的② 家庭の保育と保育所保育／子どもの利益と養護・福祉の在り方	△前回授業内容の復習	60
		▽「生活と遊び」についてノートにまとめる	120
第4回	Ⅰ. 保育の意義と目的③ 職業としての保育／保育者の役割と社会的責任	△前回授業内容の復習	60
		▽「保育者の役割」についてノートにまとめる	120
第5回	Ⅱ. 保育思想の歴史的変遷① 歴史の中の保育	△前回授業内容の復習	60
		▽J.H.Pestalozzi についてノートにまとめる	120
第6回	Ⅱ. 保育思想の歴史的変遷② 近代社会と保育	△前回授業内容の復習	60
		▽F.Frobel についてノートにまとめる	120
第7回	Ⅱ. 保育思想の歴史的変遷③ 現代社会と保育	△前回授業内容の復習	60
		▽「児童福祉法」についてノートにまとめる	120
第8回	Ⅲ. 保育の法的・制度的変遷① 『保育要領』と幼・保の二元化／教育と福祉の法体系	△前回授業内容の復習	60
		▽「倉橋惣三」についてノートにまとめる	120
第9回	Ⅲ. 保育の法的・制度的変遷② 『幼稚園教育要領』と『保育所保育指針』／カリキュラム・マネジメントの視点から	△前回授業内容の復習	60
		▽『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』についてノートにまとめる	120
第10回	Ⅲ. 保育の法的・制度的変遷③ 「こども園」と幼・保の一元化／子ども・子育て支援のこれから	△前回授業内容の復習	60
		▽「子育て支援」についてノートにまとめる	120
第11回	Ⅳ. 現代保育の現状と課題① 保育所保育の目標・計画・内容	△前回授業内容の復習	60
		▽「保育所の歴史」についてノートにまとめる	120
第12回	Ⅳ. 現代保育の現状と課題② 保育所保育の環境・方法・過程	△前回授業内容の復習	60
		▽「保育士の歴史」についてノートにまとめる	120
第13回	Ⅳ. 現代保育の現状と課題③ 諸外国の保育事情	△前回授業内容の復習	60
		▽「諸外国の保育」についてノートにまとめる	120
第14回	Ⅳ. 現代保育の現状と課題④ 日本型保育のこれから	△前回授業内容の復習	60
		▽「保幼小の連携」についてノートにまとめる	120
第15回	授業の総括とリフレクション	△授業内容の総復習	120
		▽学期末試験に関する振り返り	120

備考：　　2700

【履修上の留意点】

・保育士養成課程の法定科目として最も基本的な内容を取り扱うため、基礎知識の確実な定着を第一義とする。

【テキスト】

2017（平成29）年改訂『保育所保育指針』厚生労働省
2017（平成29）年改訂『幼稚園教育要領』文部科学省
2017（平成29）年改訂『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省

【参考書・参考資料等】

民秋言ほか編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林、2017年

【連絡方法】　授業内で指示をする

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	40%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③	60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）							
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 YHS507	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育原理Ⅱ（計画と評価）	1年後期	選択（保育士必修）	講義／単独	2単位	今泉　良一	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

①保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。
②全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。
③子どもの理解に基づく保育のPDCA（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

保育における計画の意義・目的および子ども理解を基に保育過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）を学ぶ。
習得した知識を活用し、指導計画を立案する。
授業形態は、テキストに基づき、講義、個人ワークを予定している。

【到達目標と学修成果】

①保育を「計画」することの意義を理解し、説明することができる。
②保育を「評価」することの意義を理解し、説明することができる。
③子ども理解に基づくPDCAを理解し、指導計画を作成することができる 。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第１回	オリエンテーション　授業概要について　保育の計画と評価の基本	△ シラバスに目を通し、事前理解に努める。	90
		▽ 授業内容、履修上の留意点を確認する。	90
第２回	保育におけるカリキュラムとは	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第３回	子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第４回	全体的な計画とは	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第５回	長期的な指導計画の作成（0・1・2歳児）	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第６回	長期的な指導計画の作成（3歳以上児）	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第７回	短期的な指導計画の作成（0・1・2歳児）	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第８回	短期的な指導計画の作成（3歳以上児）	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第９回	指導計画作成上の留意事項（0・1・2歳児）	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第10回	指導計画作成上の留意事項（3歳以上児）	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第11回	指導計画作成上の留意事項（異年齢）　指導計画に基づく保育の柔軟な展開	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第12回	保育の記録と省察	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第13回	保育の評価と改善	△ 教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第14回	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録	△ 様々な保育実践記録を調べ、興味のあるものを探す	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第15回	試験とまとめ　保育の評価と改善の方法を理解しよう	△ これまでの学習内容を振り返る	90
		▽ 振り返りシート記入	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（保育士）も踏まえて実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

毎時間テキストを使用します。また、試験時はテキスト持ちこみ可です。毎授業必ず持参し、大事なところはマーキングする、付箋を貼るなど、学習を深められるよう工夫してください。

【テキスト】

松本　峰雄 監修『保育の計画と評価 演習ブック』（ミネルヴァ書房）

【参考書・参考資料等】

必要に応じて授業時に紹介する。

【連絡方法】　授業時に周知する。

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準 ／ 評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	50%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第1～14回					

科目名／専門教育 YHS508	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会福祉	2年後期	必修	講義/単独	2単位	前田　優二		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

社会福祉の意義と歴史的変遷を踏まえて、児童家庭を支援するための社会福祉の他の分野への理解，現行の法制度を理解し、児童の人権保障とそのための家庭支援について、現状と課題を認識し、保健医療を含む教育その他の領域との連携も含めて、その在り方を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

教科書の他、視聴覚教材を多用する。毎回、リアクションペーパーを記述して提出することによって、自己の学びを可視化し、深められるようにする。

【到達目標と学修成果】

①現代社会における社会福祉の意義を理解し、その歴史的変遷を追うことで基礎的な知識を身につける。
②社会福祉の制度や実施体系について理解し、その上で社会福祉における相談援助や利用者の保護についての仕組みを踏まえ、子どもと家庭を支援できるようになる。
③他の社会福祉専門職や関連分野の専門職との連携についても学び、現代の社会福祉の動向と課題について理解する。
④保育士として、社会福祉における児童家庭福祉の位置づけを踏まえ、その関連性・児童の人権保障とそのための家庭支援の在り方についても理解し、社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解・支援できるようになる。
⑤社会の中で生きづらさを感じている当事者の心情を理解して共感し、その声を代弁できるようになる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	【ガイダンス】 社会福祉の理念と概念について学ぶ。社会福祉の歴史について学ぶ。	△教科書「Ⅰ社会福祉の基礎概念」～「6スウェーデンの社会福祉の動向」を予め読む。	90
		▽ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを保育にどう活かすかまとめる。	90
第 2 回	【社会福祉と児童家庭福祉】 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉の位置づけを理解し、人権擁護、家庭支援など、児童家庭を中心とした保育士にとっての社会福祉の在り方について理解を深める。	△教科書「Ⅴ社会福祉の機関と施設」から「1厚生労働省」「2福祉事務所と家庭児童相談室」,「Ⅷ 子ども家庭福祉」から「1 子ども家庭福祉という考え方」「2子どもの権利と児童の権利に関する条約」「3子ども家庭福祉の法律と実施体制」「4 2010年以降の児童福祉法改正」「5児童福祉施設の体系」「6在宅児童の福祉サービスの体系」「7少子化対策から次世代育成支援対策へ」「8子ども・子育て関連3法と子ども・子育て支援新制度」「9児童虐待にどう対応するか」「10ひとり親家庭，女性への福祉的支援」,「Ⅴ社会福祉の機関と施設」から「3児童相談所」を予め読む。	90
		▽1年次の「子ども家庭福祉」における学びを振り返り、社会福祉全体の他の領域との関連について、報道された事例を1つ調べて、考察する。	90
第 3 回	【社会福祉の法制度と実施体系(1)】 社会福祉の制度と法体系について、また、行財政と実施機関について学ぶ。	△教科書「Ⅳ社会福祉の仕組みと運営」から「1社会福祉の法律」「2社会福祉行政の仕組み(国と地方)」「3社会保障審議会」「4社会福祉の財政」「5社会福祉サービスの利用システム」「6社会福祉サービスの提供システム」「7社会福祉の計画的推進」「8社会福祉と地方分権」を予め読む。	90
		▽分かりづらかった法律や制度、自分が最も関心を持った法律や制度について、それぞれ理由と共に簡単にまとめる。	90
第 4 回	【社会福祉の法制度と実施体系(2)】 社会福祉施設と、施設や相談機関に所属する専門職・実施者について学ぶ。	△教科書「Ⅳ社会福祉の仕組みと運営」から「5社会福祉サービスの利用システム」「6社会福祉サービスの提供システム」「7社会福祉の計画的推進」「8社会福祉と地方分権」を予め読む。	90
		▽関心を抱いた施設と専門職について、理由と共にまとめる。	90
第 5 回	【社会福祉の制度と実施体系(3)】 社会保障及び関連制度について学ぶ。	△教科書「Ⅶ社会保障・公的扶助」から「10生活保護の施設の体系」を予め読む。	90
		▽自分が関わっている社会保険について調べる。	90
第 6 回	【社会福祉における相談援助(1)】 相談援助の意義と原則について学ぶ。	△「Ⅵ社会福祉の援助と方法」～「1ソーシャルワークとソーシャルワーカー」「2ソーシャルワークの体系」「3ソーシャルワークの展開過程」「4ソーシャルワークの歴史的展開」「5ケースワーク(個別援助技術)の展開過程」「6グループワーク(集団援助技術)の展開過程」「7コミュニティワーク(地域援助技術)の展開過程」「8社会福祉援助方法における社会調査の意義」「9 社会福祉援助方法の倫理」「10スーパービジョン」「11エンパワメントとストレングス視点」を読む。	90
		▽授業での学びと共に、自分のこれまで支えられたと思う人と人とのコミュニケーションについて振り返る。	90
第 7 回	【社会福祉における相談援助(2)】 相談援助の方法と技術について理解を深める。	△子どもとその保護者にどのような相談援助を行いたいか、前回の授業をもとに考える。	90
		▽授業でのロールプレイを踏まえて、自分の課題について、振り返る。	90
第 8 回	【社会福祉における利用者保護(1)】 情報提供と第三者評価について学ぶ。	△教科書「Ⅻこれからの社会福祉の課題」から、「1苦情解決と福祉オンブズパーソン」「2福祉サービスと福祉情報システム」を予め読む。	90
		▽個人情報保護のあり方について、児童虐待を例に考察する。	90
第 9 回	【社会福祉における利用者保護(2)】 利用者の権利擁護の在り方と、苦情解決について学ぶ。	△教科書「Ⅺ地域福祉」から「11成年後見制度と日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)」を予め読む。	90
		▽授業で配られた事例について、利用者の気持ちでどう権利を守ってほしいか、そして援助者としてどの制度を使うか、考察する。	90
第 10 回	【社会福祉の動向と課題(1)】 少子高齢化と児童家庭福祉との関係を理解し、その対応について考察する。	△教科書「Ⅸ高齢者福祉」～「9ホームヘルパーの仕事」を予め読む。	90
		▽共生型サービスについて調べて、まとめる。	90
第 11 回	【社会福祉の動向と課題(2)】 在宅福祉、地域福祉の推進について理解する。	△教科書「Ⅺ 地域福祉」から「1地域福祉の概念」「2地域の組織化と福祉の組織化」「3ボランタリズムとボランティア」「4NPO(民間非営利組織)活動の役割」「5住民参加と身近な地域活動」「6 地域福祉とまちづくり」「7コミュニティ・ケア」「9ボランティア・コーディネーターの役割」「4社会福祉主事」「5民生委員・主任児童委員」「10ソーシャル・サポート・ネットワーク」を予め読む。	90
		▽授業で配られた事例について、それぞれのニーズを把握し、地域のどのサービスを使い、存在しないサービスはどうするか考察する。	90
第 12 回	【社会福祉の動向と課題(3)】 保育・教育・療育・保健・医療・住宅などとの連携とネットワークの在り方について学ぶ。	△教科書「Ⅺ 地域福祉」から「8地域福祉計画の理論と策定過程」「12ソーシャル・インクルージョン」、「Ⅻこれからの社会福祉の課題」から「4福祉教育と社会福祉」「5住宅保障と社会福祉」「6医療福祉におけるソーシャルワーカーの展望」を予め読む。	90
		▽授業で視聴した映像の事例についてとりあげ、地域における多職種連携のあり方について考察する。	90
第 13 回	【社会福祉の動向と課題(4)】 諸外国の社会福祉の動向について学ぶ。	△教科書「Ⅻこれからの社会福祉の課題」から「3国際福祉の現状と課題」を予め読む。	90
		▽授業で視聴した映像について、印象に残ったものについて理由と共にまとめる。	90
第 14 回	【事例研究】子ども家庭の貧困、インクルーシブ保育を例に、事例を検討する。	△子ども家庭の貧困について、新聞や雑誌の記事を調べる。	90
		▽授業で取り上げた実践を振返り、自分が仮し実践するとしたらどう取り組むか考察する。	90
第 15 回	【振り返り】 講義全体を振り返り、学びを確認する。	△これまで取り組んだ単元の中で、最も関心の深かった単元と、関心を抱きづらかった単元について、理由と共に挙げておく。	90
		▽「地域共生社会の実現」に向けて、自らがどう動くか考察する。	90

2700

【履修上の留意点】

授業におけるリアクションペーパーを毎回提出する。視聴覚教材を多用し、授業内容と映像とを結びつけた小レポートを執筆する。

【テキスト】

萌文書林『図解で学ぶ保育　社会福祉』直島正樹・原田旬哉　編著）

【参考書・参考資料等】

授業において、随時紹介する。

【連絡方法】　メールにて行う。

【オフィスアワー】　授業実施曜日の昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③ ④ ⑤	100%	授業で学んだ専門的な知識を全般的に深く理解し、9割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、8割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、7割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識を最低限理解し、6割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)							
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回					2回～14回	

科目名／専門教育 YHS509	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと家庭の福祉	1年前期	必修	講義／単独	2単位	前田 優二	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について学び、権利主体としての子どもの人権について理解する。現在の児童家庭福祉の法と制度など、実施体系について理解し、現状と課題を学ぶことから、今後の動向と展望について考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式。教科書の他、視聴覚教材を多用する。毎回、リアクションペーパーを記述して提出することによって、自己の学びを可視化し、深められるようにする。

【到達目標と学修成果】

①児童家庭福祉の意義を学び、その歴史的変遷について理解する。「児童の権利条約」ならびに「児童福祉法」など、児童家庭福祉の法について理解を含め、権利主体としての子どもの人権と、子どもを取り巻く社会環境について、学びを深める。
②現状の制度や実施体系について理解し、社会問題などに鑑みて、今後どう動くべきか、児童家庭福祉の課題と展望について考察し、自ら動く力を身につける。
③子どもと子どもを養育者の心情や状況を理解し、当事者の声を代弁できるようになる。

回数	授業内容		授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス:児童家庭福祉とは何か。理念と概念について、学ぶ。	△	教科書「第1章1 子ども家庭福祉って？」を予め読む。	90
		▽	「児童家庭福祉の課題と実践方法」について、最も関心のある分野について、小レポートを書く。	90
第2回	児童家庭福祉の歴史的変遷	△	教科書「第2章 子ども家庭福祉の歴史」を予め読む。	90
		▽	「日本の児童家庭福祉の先駆者」の中から、関心の深い人物を1名選出し、より深く調べ学習をする。。	90
第3回	現代社会と児童家庭福祉	△	教科書「第1章2 子どもと家庭を取り巻く社会」を予め読む。	90
		▽	現代社会における児童家庭福祉の問題について、新聞記事を取り上げ、考察を加える。	90
第4回	児童家庭福祉の一分野としての保育:社会福祉全体における，児童福祉の位置づけを学ぶ。その上で、児童家庭福祉の一分野としての，保育の専門性について理解を深める。	△	教科書「第5章3 保育サービス」を予め読む。	90
		▽	「子どもを幸せにする保育」について、考えをノートにまとめる。	90
第5回	児童の人権擁護と児童家庭福祉:「子どもの権利条約」について学びを深め、「権利主体としての子ども」の存在意義、また子どもの人権と人権保障について理解を深める。	△	教科書「第7章2 子どもの権利擁護」を予め読む。	90
		▽	授業で視聴した子どもの労働や内戦の中での子どもの映像などの感想をまとめる。	90
第6回	児童家庭福祉の制度と法体系:児童福祉法を中心として、児童家庭を支える法律と制度について、理解を深める。	△	教科書「3章 子ども家庭福祉の制度と法律」を予め読む。	90
		▽	分かりづらかった法律や制度と、自分が最も関心を持った法律や制度について、それぞれ理由と共に簡単にまとめる。	90
第7回	児童家庭福祉行政と実施機関:児童相談所を中心とする相談機関、手当など財政的な支援、児童家庭を取り巻く社会保障について学ぶ。	△	教科書「第4章1 子ども家庭福祉を実施する機関」を予め読む。	90
		▽	自分の住んでいる地域の要保護児童対策地域協議会の運営について、自治体に確認する。	90
第8回	児童家庭福祉施設:保育園、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、自立援助ホームなど、子どもと家庭を支える施設について学び、あわせて、相談機関、施設などにおける児童家庭福祉の専門職について理解を深める。	△	教科書「4章2 児童福祉施設の種別」「4章3 児童福祉施設のルールと現状」「4章4 子ども家庭福祉分野で働く専門職」を予め読む。	90
		▽	自分が関心を抱く児童福祉施設と専門職について挙げ、その理由と、どうあるべきかをまとめる	90
第9回	児童家庭福祉の現状と課題(1) 少子高齢化と子育て支援サービスの現状と課題について、また、母子保健と児童の健全育成について、学ぶ。	△	教科書「第5章1 少子化と子育て支援 2 母子保健サービス」を予め読む。	90
		▽	少子化の要因について身近にとらえ、家族への支援について考察する。	90
第10回	児童家庭福祉の現状と課題(2) 多様な保育ニーズについて学び、どう支援するか考察する。	△	教科書「第6章1 地域の子育て支援サービス」「第7章1 子ども・家庭と社会をめぐる状況」を予め読む。	90
		▽	家庭的保育・放課後児童クラブ・病後児保育など、自分の住んでいる自治体のサービスを調べる。	90
第11回	児童家庭福祉の現状と課題(3) 児童虐待、ドメスティックバイオレンスについて現状を知り、児童家庭支援について学ぶ。	△	教科書「第6章2 児童虐待・DV」を予め読む。	90
		▽	児童虐待とドメスティックバイオレンスとの関連性について、近年報道されている虐待事件を振り返って学びを深める。	90
第12回	児童家庭福祉の現状と課題(4) 社会的養護について、家庭的養護と施設養護について理解し、保育士の支援のあり方について学ぶ。	△	教科書「第6章3 社会的養護」を予め読む。	90
		▽	虐待と社会的養護の関係性、社会的養護の中身について、家庭的養護と施設擁護のそれぞれの利点について考察する。	90
第13回	児童家庭福祉の現状と課題(5) 障害のある児童の理解と対応、少年非行への理解とその対応について学ぶ。	△	教科書「第6章4 障害児の福祉 5 少年非行」を予め読む。	90
		▽	交流保育、インクルーシブ保育などのあり方について、自らの体験を踏まえて考察する。また、少年の非行への上り良い対応について、考察する	90
第14回	児童家庭福祉の動向と展望 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進、児童家庭福祉と関連する教育・療育・保健・医療との連携の在り方について学び、より良いネットワークを築けるようになる。	△	教科書「第7章3 これからの子ども家庭福祉を考えよう！」を予め読む。	90
		▽	マクロ・メゾ・ミクロのそれぞれの視点から、保育を家庭と所属機関と地域とでどのように連携を図っていくか、考察する。	90
第15回	諸外国の児童家庭福祉の動向について学ぶ。 授業全体の振り返りを行う。	△	教科書「第7章4 海外の子育て支援」を予め読む。	90
		▽	世界の先進的な保育事例を調べ、どう取り入れたいか考察する。	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

授業におけるリアクションペーパーを毎回提出する。視聴覚教材を多用し、授業内容と映像とを結びつけた小レポートを執筆する。

【テキスト】

萌文書林『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』(直島正樹)

【参考書・参考資料等】

授業において，随時紹介する。

【連絡方法】 メールにて行う

【オフィスアワー】 授業実施曜日の昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	100%	授業で学んだ専門的な知識を全般的に深く理解し、9割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、8割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、7割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識を最低限理解し、6割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)							
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回					2回～14回	

科目名／専門教育 YHS510	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会的養護Ⅰ	1年後期	必修	講義/単独	2単位	佐藤　東	○	

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

社会的養護の歴史的、時代的背景を辿り、養護形態、養護理論及び人権擁護の変遷を概観し、その上で今日の社会的養護の理念、制度と実施体系等を理解する。更に、深刻化する児童虐待のセーフティネットとして期待される今日的な役割や機能と児童及び家族の複雑、多様化する諸ニーズや対応する専門職等の現状、課題などを理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

・講義形式で行う。①社会的養護の歴史、法制度等の変遷、②今日の社会的養護の理念と制度体系、③里親、施設養護の現状と課題等について学ぶ。
・授業では、随時、社会的養護の現況・トピックを取上げ演習的な講義を盛り込む。また、授業の最後には課題整理を行い小テスト等を実施する。

【到達目標と学修成果】

①社会的養護の歴史、目的・意義等を理解し説明することができる。②社会的養護を構成する施設養護・家庭養護等の体系を理解し説明することができる。③施設養護、家庭養護の養育・支援の基本を理解し説明することができる。④社会的養護の現状と課題の概要について理解し説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス及び社会的養護の概要 ・シラバスの概要　・社会的養護の概要	△ シラバスの内容を熟読する。	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第2回	社会的養護の理念と概念 ・社会的養護とは　・社会的養護の理念と原理	△ テキストP2～P12の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第3回	社会的養護の歴史的変遷 ・イギリス及びアメリカの社会的養護の歴史　・日本の社会的養護の歴史	△ テキストP14～P24の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第4回	子どもの人権擁護と社会的養護 ・子どもの権利擁護及び取り組み・社会的養護における虐待	△ テキストP26～P36の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第5回	社会的養護の基本原則 ・児童福祉法の平成28年改正の内容と意義　・新しい社会的養育ビジョンについて	△ テキストP122～P150の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第6回	社会的養護における保育士等の倫理と責務 ・倫理と価値　・職業倫理と倫理綱領	△ テキストP50～P60の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第7回	社会的養護の制度と法体系 ・社会的養護の制度の根幹　・社会的養護の基本法	△ テキストP62～P72の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第8回	社会的養護のしくみと実施体系 ・社会的養護の基本的な仕組み　・社会的養護の実施体系	△ テキストP74～P84の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第9回	社会的養護とファミリーソーシャルワーク ・ソーシャルワークの定義と意義　・ファミリーソーシャルワーク	△ テキストP86～P94の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第10回	社会的養護の対象と支援の在り方 ・代替養育に至る理由(措置理由)　・児童虐待と社会的養護	△ テキストP98～P106の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第11回	家庭養護と施設養護 ・施設養護から家庭養護へ　・家庭養護の要件	△ テキストP110～P120の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第12回	社会的養護にかかわる専門職 ・求められる専門性　・児童福祉施設で働く専門職　・関係分野の専門職	△ テキストP122～P132の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第13回	社会的養護に関する社会的状況 ・現代における養護問題　・近年の児童福祉法改正の背景と意義　等	△ テキストP134～P143の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第14回	施設等の運営管理の現状と課題 ・施設の運営管理　・施設における家庭的養護の推進　・被措置児童等虐待	△ テキストP146～P168の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題 ・地域福祉　・少子化と児童虐待	△ テキストP170～P180の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験(社会福祉士・介護支援専門相談員指導者)も踏まえて実践的な指導を行う.　2700

【履修上の留意点】

授業の復習を丁寧に行うこと。

【テキスト】

新基本保育シリーズ「社会的養護Ⅰ」（中央法規）

【参考書・参考資料等】

① 相澤仁・奥山眞紀子編「生活の中の養育・支援の実際」明石書店　② 相澤仁・柏女霊峰・渋谷昌子史編「子どもの養育・支援の原理(社会的養護総論)」明石書店 ③ 庄司順一編「里親養育を知るための基礎知識」明石書店

【連絡方法】　授業時に指示する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	①②③④	60%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①②③④	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)							
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 YHS511	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもの健康と安全	1年後期	選択（保育士必修）	演習／単独	1単位	益川順子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

多様な子どもの健康保持増進及び心身の安全についての必要な養護の知識、技術、急変時の対応や事故防止について理解し、保育現場での具体的な実践方法を学び身につける。また、ガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、多様な子どもへの対応について基本的援助技術を習得し、子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画・評価等を理解する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

保育士が働く場所は多様であるが、どのような場であっても子どもの命を守り、健やかな成長を支える安全・安心の確保は重要である。授業では各種ガイドラインを踏まえた対策や配慮を要する子どもへの基本的な対応について演習形式で進めていく。

【到達目標と学修成果】

①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。
②ガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策について知識・技能を身につける。
③子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解し、基本的援助技術を習得する。
④子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 ［△事前 ▽事後 ／ 分］		
第 1 回	ガイダンス 子どもの健康と安全を学ぶ意義と目的	△	シラバスを読み確認する	15
		▽	最善な保育環境について考察する	30
第 2 回	心身の健康状態の観察と評価（バイタルサインの測定）	△	テキストのpp67,pp87-88を精読する	15
		▽	演習内容をまとめ考察する	30
第 3 回	心身の発育発達の評価（身体計測）	△	テキストpp49－66を精読する	15
		▽	演習内容をまとめ考察する	30
第 4 回	乳幼児の生理機能と日常生活養護（環境整備、手洗い、抱っこ、寝かせ方、オムツ交換）	△	テキストのpp.157－166を精読する	15
		▽	演習内容をまとめ考察する	30
第 5 回	乳幼児の生理機能と栄養と保健（母乳栄養、授乳、離乳、食生活）	△	テキストのpp.34-48を精読する	15
		▽	演習内容をまとめる	30
第 6 回	乳幼児の清潔と保健衛生（衣服の選択、着脱、沐浴・入浴の意義）	△	テキストpp52を精読する	10
		▽	演習内容をまとめ考察する	45
第 7 回	子どもの発育・発達と遊び	△	配布資料を精読する	15
		▽	演習内容をまとめ考察する	50
第 8 回	子どの健康と安全(1)事故防止と安全教育（発育発達と事故の関係）	△	テキストのpp.167-187を精読する	15
		▽	発達段階と事故の特徴を調べ考察する	30
第 9 回	子どもの健康と安全(2)事故防止と安全教育（応急処置、救急蘇生法）	△	テキストのpp.191-208を精読する	15
		▽	演習内容をまとめ考察する	30
第 10 回	子どもの健康と安全(3)感染症対策	△	テキストのpp.209-214を精読する	15
		▽	感染症の種類と病児保育の方法をまとめる	20
第 11 回	子どもの健康と安全(4)災害保育と保健	△	テキストのpp.182を精読する	15
		▽	防災と保育についてまとめる	30
第 12 回	病児保育と保健（疾病と症状への対応）	△	テキストpp.187-190を精読する	15
		▽	疾病に伴う症状への保育方法をまとめる	30
第 13 回	障害児保育と保健（肢体不自由児、医療的ケア児、発達障害）	△	テキストのpp.215-225を精読する	15
		▽	多様な子どもの保育について考察する	20
第 14 回	心の健康と保育保健（精神疾患、家族病理、不登校への支援）	△	テキストのpp.217-135を精読する	15
		▽	多様な子どもの保育について考察する	25
第 15 回	子どもに関わる専門職としての役割	△	多様な子どもの理解と専門職としての役割について考察する	15
		▽	①～⑮回のまとめ	25

備考：

675

【履修上の留意点】

出欠席回数の管理は自己管理でお願いします。演習のため遅刻はお控えください。

【テキスト】

大澤眞木子監修『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～』へるす出版, 2023

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜配布する

【連絡方法】 masukawa@ujc.ac.jp

【オフィスアワー】 授業前後休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	50%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③ ④	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15回	第4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14回				

科目名／専門教育 YHS512	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども家庭支援論	3年前期	選択（保幼必修）	講義／単独	2単位	益川　順子		○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】
現代の子育て家庭をとりまく社会的状況の変化の理解を通して、子育て家庭への支援の必要性とその支援内容について知り、専門職としての視点と知識を身につけ、支援の実際について学ぶ。又、家庭支援政策や地域の支援サービス等の社会資源の活用と関係機関との連携についてを学ぶ。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】
家庭の機能と意義について学び、データや事例などを通して、現代の子育て家庭の社会的状況背景及び、機能の変化をとらえ、家庭支援について課題を理解する。更に、保育の視点から、多様な子育て家庭への相談支援や社会資源の活用、関係機関との連携についての実際について学ぶ。尚、授業では、視聴覚教材の活用、事前課題の取り組みを前提としたアクティブ・ラーニング形式で展開する。

【到達目標と学修成果】
①現代の子育て家庭の現状と家庭支援の必要性を説明できる。
②子育て家庭に関わる専門職としての支援の方法を得る。
③子育て家庭が抱える課題に対しての社会資源の活用、関係機関との連携について理解できる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第 1 回	授業ガイダンス　家庭支援を学ぶ意義	△テキストの目次に目を通す	90
		▽「子育て」に関する新聞記事検索	90
第 2 回	家庭の定義・意義・機能の変遷	△「子どもと家庭支援の意義」に目を通す	90
		▽「家庭とは何か？」についての考察	90
第 3 回	家族・家庭の動向（少子高齢化と家族）	△「家族・家庭の動向」に目を通す	90
		▽「少子高齢化」による家族への影響について考察	90
第 4 回	現代の子育て	△「現代の子育て困難」についての新聞記事検索	90
		▽「支援が必要な家庭」についての考察	90
第 5 回	保育士による子ども家庭支援（1）支援の対象と内容	△「子育て支援の対象と内容」についての事例検索	90
		▽「事例」についての考察	90
第 6 回	保育士による子ども家庭支援（2）保育臨床的姿勢	△「保育士に求められる基本的態度」について整理	90
		▽「他者理解」についての考察	90
第 7 回	多様な家庭支援（主要機関、保育所、地域の子育て支援）	△「主要な子育て支援関連機関」について調べる	90
		▽「現状と課題」についての考察	90
第 8 回	子育て家庭に対する支援体制	△「子育て支援施策」について調べる	90
		▽「居住地域の子育て支援」の概要をまとめる	90
第 9 回	多様な家庭への支援（1）ひとり親家庭・ステップファミリー	△「多様な家庭事例」を調べる	90
		▽「多様な家庭への支援」の事例についての考察	90
第 10 回	多様な家庭への支援（2）障がいのある子ども	△「多様な家庭事例」を調べる	90
		▽「多様な家庭への支援」の事例についての考察	90
第 11 回	多様な家庭への支援（3）家族病理	△「多様な家庭事例」を調べる	90
		▽「多様な家庭への支援」の事例についての考察	90
第 12 回	多様な家庭への支援（4）こころ・からだに疾病のある子ども	△「多様な家庭事例（病児）」を調べる	90
		▽「病児を抱える家庭への支援」についての考察	90
第 13 回	海外における子育て・家庭支援	△「海外の理想的な子育て支援」事例を調べる	90
		▽「自身の理想の家庭像・家庭支援」についての考察	90
第 14 回	次世代の子育て・家庭支援の展開と関係機関との連携	△「我が国の優良子育て支援」事例を調べる	90
		▽本講義内容の考察	90
第 15 回	まとめ	△「子どもが育つ土壌」と保育士の役割について考察	90
		▽「子育ち・子育ての難しさ」と家庭支援について考察	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】
遅刻欠席回数は自己管理すること。学生証を携帯し出席を自己管理すること。

【テキスト】
松本園子著『実践子ども家庭支援論』ななみ書房

【参考書・参考資料等】
浜口順子編著『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』福村出版、2015.
草野いづみ編著『みんなで考える家族・家庭支援論』同文書院、2016. その他適時資料提示

【連絡方法】　masukawa@ujc.ac.jp

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S：90－100点）	優れている（A：80-89）	平均的（B：70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F：59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	50%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第1,3,5,7,9,11,14,15回			第2,4,6,8,10,12,13回		

科目名／専門教育 YHS513	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育相談	3年後期	選択（保幼小必修）	演習／単独	2単位	矢島　卓郎	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

教育相談は、幼児児童生徒が集団生活のなかで人間関係を構築する発達過程を支援する教育活動である。この授業では、幼児児童生徒の個々の発達状況に応じた支援のあり方を探り、カウンセリングマインドに基づく教育相談の理論と技法を学び、具体的な支援に必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

授業の主な形式は、講義で知識を獲得し、演習形式・ロールプレイで理解を深めるようにする。教育相談の意義と基本理念について理解し、その実際的専門的な援助技術の理論と方法、関係機関との連携のあり方等を学ぶ。また、教育相談の実際について、フィクション事例をとおして学び、内容や方法についての理解を深めていく。 更に、授業の理解を確認する目的で2回の小テストを実施する。

【到達目標と学修成果】

①学校現場における教育相談の意義と課題について理解する。
②心理学に基づくカウンセリング等の理論と技法を学ぶ。
③フィクション事例をとおしてカウンセリング技法を実践的に学び、学校現場において教育相談を行う過程を理解する。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第１回	ガイダンス:教育相談とは －学生が理解している教育相談と心理学知識を確認する－	△ シラバスを読み、授業の概要を確認する	90
		▽ 授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90
第２回	学校において教育相談を行うことの意味Ⅰ －生徒指導の意義と原理、生徒指導の進め方－	△ 教科書の第1・2章のp.140－p.146を読んで予習してくる	90
		▽ 生徒指導の意義、自己実現、校務分掌、校内体制についてまとめる	90
第３回	学校において教育相談を行うことの意味Ⅱ －生徒指導の校内体制、チーム学校、危機管理、各教科の関係－	△ 教科書の第2・3章のp.145－p.155を読んで予習してくる	90
		▽ 学校体制、チーム援助、学校危機管理、道徳教育についてまとめる	90
第４回	学校における教育相談の意義と実際 －学校心理学における教育相談、心理教育的援助サービス－	△ 教科書の第10章のp.193－p.198を読んで予習してくる	90
		▽ 教育相談の役割分担、学校心理学の学問体系についてまとめる	90
第５回	学校カウンセリング体制と校内連携および保護者・専門機関との連携 －SC・SSWと教育相談形態および教師との連携－	△ 教科書の第12章p205-p.211と第15章p226-p.231を予習してくる	90
		▽ 学内の支援体制とSC、SSW及び専門機関との連携をまとめる	90
第６回	教育相談を促す技法の実際 －開発的・予防的・問題解決的技法－	△ 教科書の第13・14章のp.212-p.225を読んで予習してくる	90
		▽ 来談者中心療法、エンカウンターなどの技法を整理する	90
第７回	学校・保育現場で生じる諸問題Ⅰ －暴力行為・非行およびいじめの理解と対応－	△ 教科書の第4・5章のp.156-p.168を読み予習してくる	90
		▽ 暴力・非行といじめの実情をまとめ、その対応を整理する	90
第８回	学校・保育現場で生じる諸問題Ⅱ －不登校および児童虐待などの理解と対応－	△ 教科書の第6－8章のp.169-p.187を読み予習してくる	90
		▽ 不登校、虐待、LGBTの実情をまとめ、その対応を整理する	90
第９回	教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識 －カウンセリングマインド、心理教育的アセスメント－	△ 教科書の第11章のp.199-p.204を読んで予習してくる	90
		▽ カウンセリングマインド、性格検査に関して理解できたことをまとめる	90
第１０回	面接法を学ぶⅠ －初回面接のビデオを観て傾聴とその技術を理解する－	△ 面接で留意することについて調べてまとめてくる	90
		▽ ビデオを観て傾聴、ラポールの意義をまとめる	90
第１１回	面接法を学ぶⅡ －ノンバーバルコミュニケーションのビデオを観てその意義を理解する－	△ ノンバーバルコミュニケーションとは何か、調べてまとめてくる	90
		▽ ビデオを観てノンバーバルコミュニケーション等の重要性をまとめる	90
第１２回	面接のロールプレイから傾聴について理解を深める －4名を1グループで役割を交代して傾聴など面接技術を体験する－	△ ロールプレイに活かせるように面性で留意することをまとめる	90
		▽ 面接のロールプレイと話し合いで学んだことを整理する	90
第１３回	事例研究の意義を理解する －事例研究のビデオを観て、事例を多職種で検討する意義を学ぶ－	△ 事例研究とは何か、その意義について調べる	90
		▽ 事例研究のビデオから多職種で検討する意義をまとめる	90
第１４回	発達障害児の事例検討Ⅰ －発達障害児の不登校およびいじめ事例をグループで検討する－	△ 配布した発達障害児の不登校といじめの事例をよく読んでくる	90
		▽ 事例研究、話し合いで学んだことを整理する	90
第１５回	幼児・学校教育現場における相談支援の意義についてまとめる	△ 幼児および小学校における実情を整理し教育相談の意義をまとめる	90
		▽ これまでの授業内容を振り返り、要点をノートにまとめる	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

授業外での学習、予習・復習を必ずすることで授業の理解を深めることを期待する。
教科書は、3年次前期の必修科目「特別支援教育概説」の授業でも使用するため、必ず購入すること。
授業は演習形式であり、ロールプレイも行う。また復習のため小テストを2回実施するのでしっかり受講すること。

【テキスト】

教育課程コアカリキュラム対応版『特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育』橋本創一他 編著　福村出版
ISBN978-4-571-12140-1

【参考書・参考資料等】

『こころの発達によりそう教育相談』 藤田・斎藤・宇部編著 福村書店 2018 ISBN978-4-571-24067-6
『教育相談とカウンセリング 子どもの発達理解を基盤として』金子智恵子編著 樹村房 2018 ISBN978-4-88367-296-7

【連絡方法】　授業内での指示及び掲示を確認する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	80%	知識・理解・応用力（相談支援・事例分析）が十分に身についていることが認められる。	知識・理解・応用力（相談支援・事例分析）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や相談支援・事例分析を理解できていることが認められる。	・基本的な知識の習得や相談支援・事例分析の理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や相談支援・事例分析が理解されていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・相談支援・事例分析が十分に身についていると認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・相談支援・事例分析が身についていると認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・相談支援・事例分析の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・相談支援・事例分析の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	10%	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組、予習、復習の課題に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：上記以外で課題のレポートの提出状況も最終評価において考慮する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第12回、14回	第10回、11回、12回、14回			第2回～第14回	第10回、11回

科目名/専門教育 YHS601	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
乳児保育Ⅰ	2年前期	必修	講義/単独	2単位	丸橋　亮子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

現代における乳児を取り巻く環境を知り、保育者が実践している乳児保育についての意義・目的・役割等を理解する。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容、運営体制について学ぶとともに、保護者や地域の関係機関との連携の重要性を理解することをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

テキストと「保育所保育指針」を使用し、乳児保育の意義・役割等、また発育・発達を踏まえた保育について学習していく。
適宜映像の視聴やワークを行い、実際の保育場面を想像しながら理解できるように進めていく。

【到達目標と学修成果】

①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、乳児保育の現状と課題について理解できる。
②3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。
③乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。

回数	授業内容		授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	△	シラバスを読み、授業の概要を確認する。テキストのpp.3-9を精読する	60
		▽	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷について整理する	120
第2回	乳児保育の役割と機能	△	テキストのpp.10-13を精読する	60
		▽	乳児保育の役割と機能について整理する	120
第3回	乳児保育における養護および教育	△	テキストのpp.14-18を精読する	60
		▽	乳児保育における養護および教育について整理する	120
第4回	3歳未満児の生活と環境	△	テキストのpp.81-90を精読する	60
		▽	3歳未満児の生活と環境について整理する	120
第5回	3歳未満児の遊びと環境	△	テキストのpp.91-104を精読する	60
		▽	3歳未満児の遊びと環境について整理する	120
第6回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	△	テキストのpp.119-130を精読する	60
		▽	保育士等による援助や関わりについて整理する	120
第7回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	△	テキストのpp.131-142を精読する	60
		▽	乳児保育における配慮について整理する	120
第8回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	△	テキストのpp.105-118を精読する	60
		▽	3歳以上保育に移行する時期の保育について整理する	120
第9回	保育所における乳児保育	△	テキストのpp.31-42を精読する	60
		▽	保育所における乳児保育について整理する	120
第10回	地域型保育(家庭的保育・小規模保育等)における乳児保育	△	テキストのpp.57-68を精読する	60
		▽	地域型保育における乳児保育について整理する	120
第11回	児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育	△	テキストのpp.43-56を精読する	60
		▽	児童福祉施設における乳児保育について整理する	120
第12回	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 保護者との連携・協働	△	テキストのpp.19-30,pp.69-80,pp.165-176を精読する	60
		▽	乳児期の子育て家庭をめぐる社会的状況と支援の現状と課題、保護者との連携・協働について整理する	120
第13回	職員間、関係機関等との連携・協働	△	テキストのpp.153-164,pp.177-188を精読する	60
		▽	職員間、関係機関等との連携・協働について整理する	120
第14回	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	△	テキストのpp.143-152を精読する	60
		▽	計画・記録・評価とその意義について整理する	120
第15回	学びのまとめ	△	第1回から第14回の授業内容を確認する	60
		▽	授業内容を整理する	120

備考：　この科目では、担当者の実務経験(保育施設等)も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

予習・復習をしっかり行い、提出物は期日を守って提出してください。
乳児保育に関連するニュース等に意識を向けて過ごしましょう。

【テキスト】

監修：公益財団法人児童育成協会　編集：寺田清美　大方美香　塩谷香『新基本保育シリーズ15　乳児保育Ⅰ・Ⅱ』中央法規、2019年

【参考書・参考資料等】

厚生労働省『保育所保育指針』平成29年告示
咲間まり子編著『コンパス 乳児保育』建帛社　2018年

【連絡方法】　授業内で指示

【オフィスアワー】　金曜日　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	① ② ③	50%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	① ② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第3回、第4回、第8回、第13回					第7回

科目名／専門教育 S602	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
乳児保育Ⅱ	2年後期	選択（保育士必修）	演習／単独	1単位	丸橋　亮子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

乳児保育Ⅰでの学びを基に、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。そのうえで、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、乳児保育における配慮について具体的に理解し、さらにそれを計画作成に繋げる力を身につける。これらを通して、乳児保育を行う際のイメージをもてるようにすることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式で行う。3歳未満児の生活の流れを理解し、発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり、環境の構成、配慮について具体的に学び、実際の保育場面において活かせるようにする。

【到達目標と学修成果】

①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できる。
②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し、乳児保育を行う際のイメージをもつことができる。
③乳児保育における配慮の実際について理解し、乳児保育を行うための知識・技能が身についている。
④乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス 子どもと保育士等との関係の重要性・子どもの主体性の尊重と自己の育ち	△ テキストのpp.191-194,『保育所保育指針』第2章 1、2を精読する	15
		▽ 乳児保育を行う上での保育者の基本姿勢について整理する	30
第2回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助及び環境構成の実際① （おむつ交換、排泄の援助）	△ テキストのp.222,224,228,234,239,253を精読する	15
		▽ 排泄における援助と環境構成について整理する	30
第3回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境（0歳児）	△ テキストのpp.201-210を精読する	15
		▽ 0歳児の生活の流れと環境について整理する	30
第4回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助及び環境構成の実際② （授乳、食事の援助）	△ テキストのp.222,223,228,pp.362-364を精読する	15
		▽ 食事における援助と環境構成について整理する	30
第5回	子どもの体験と学びの芽生え 子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	△ テキストのpp.195-200を精読する	15
		▽ 子どもの体験と学びの芽生え、援助や関わりについて整理する	30
第6回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境（1・2歳児）	△ テキストのpp.231-240,pp.261-270を精読する	15
		▽ 1・2歳児の生活の流れと保育の環境について整理する	30
第7回	長期的な指導計画と短期的な指導計画	△ テキストのpp.325-336を精読する	15
		▽ 指導計画の種類と計画の実際について整理する	30
第8回	模擬保育① 生活や遊びを支える環境構成の実際（1・2歳児）	△ テキストのpp.241-250,pp.271-280を精読する	15
		▽ 1・2歳児の生活の流れと保育の環境について整理する	30
第9回	模擬保育② 発育・発達を踏まえた生活・遊びと援助の実際（1・2歳児）	△ テキストのpp.251-260,pp.281-290を精読する	15
		▽ 1・2歳児の生活・遊びと援助の実際について整理する	30
第10回	模擬保育③ 子ども同士の関わりとその援助の実際	△ テキストのp.258-259を精読する	15
		▽ 子ども同士の関わりとその援助について整理する	30
第11回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 個別的な指導計画と集団の指導計画	△ テキストのpp.291-300,pp.337-346を精読する	15
		▽ 心身の健康・安全の配慮及び個別・集団の指導計画について整理する	30
第12回	集団での生活における配慮	△ テキストのpp.301-310を精読する	15
		▽ 集団での生活における配慮について整理する	30
第13回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助及び環境構成の実際③ （沐浴、着替えの援助）	△ テキストのp.365,234,pp.254-255を精読する	15
		▽ 沐浴、着替えにおける援助と環境構成について整理する	30
第14回	発育・発達を踏まえた遊びと援助及び環境構成の実際（0歳児） 環境の変化や移行に対する配慮	△ テキストのpp.211-230,pp.311-324を精読する	15
		▽ 0歳児の遊びと援助、環境構成及び環境の変化や移行に対する配慮について整理する	30
第15回	学びのまとめ	△ 第1回～第14回の学習内容・実践を確認する	15
		▽ 授業内容全体を整理する	30

備考：　この科目では、担当者の実務経験（保育施設等）も踏まえて、実践的な指導を行う。□　675

【履修上の留意点】

授業に必要な持ち物、準備は事前に連絡します。
授業内容に関連する図書や保育雑誌等も積極的に活用してください。

【テキスト】

監修：公益財団法人児童育成協会 編集：寺田清美 大方美香 塩谷香『新基本保育シリーズ15　乳児保育Ⅰ・Ⅱ』中央法規、2019年

【参考書・参考資料等】

厚生労働省『保育所保育指針』平成29年告示
茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編『見る・考える・創りだす乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌文書林　2019年

【連絡方法】　授業内で指示

【オフィスアワー】　金曜日　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	①②③④	50%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①②③④	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第5回、第14回		第2回、第4回、第8回、第9回、第10回、第13回			

科目名／専門教育 YHS603	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
障害児保育	2年前期	必修	演習/単独	2単位	池口 洋一郎		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

障害児保育を支える理念や歴史的変遷の背景を学ぶとともに、様々な障害の特性を理解しインクルーシブ保育における支援の在り方を探る。その中でも発達障害については、その特性や検査についても理解する。また、保護者対応や関係機関との連携についても理解し、将来保育、幼稚園等の現場で有効な対応力の基礎を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

障害児、特別な配慮を必要とする子どもへの保育に関する現状を学ぶ。映像や配布資料により具体的に学び、協議し、自分で考えたことや調べたことをまとめていく。また、個別指導計画や個別支援計画についても学ぶ。

【到達目標と学修成果】

①障害の特性を理解する。②発達検査について理解する。③子どもの状況に応じた個別指導計画や個別支援計画を理解、策定することができる。④特別支援教育全体の視点からインクルーシブ保育の視点で保育者の役割を理解する。⑤保護者との適切な対応ができる基礎力を身に付ける。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス 授業の概要と進め方、評価方法についての説明	△ シラバスを読み、授業の概要を確認する。	90
		▽ 授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する。	90
第2回	障害児保育の基本、「障害」の概念、障害児保育/教育（特別支援教育）の歴史的変遷	△ テキスト第1，2講を読み、障害児保育、世界の動きについて理解する。	90
		▽ 配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第3回	障害児支援に関する法制度、合理的配慮とは	△ テキスト第1，2講を読み、障害児保育、世界の動きについて理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第4回	聴覚・言語障害児の理解と援助	△ テキスト第5講を読み、視覚・聴覚。言語障害児について事前に理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第5回	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助(事例検討)	△ テキスト第7講を読み、発達障害児、特別な配慮を要する子どもについて理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第6回	視覚障害児の理解と援助(視覚障害、色覚多様性など)	△ テキスト第5講を読み、視覚・聴覚。言語障害児について事前に理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第7回	肢体不自由児の理解と援助	△ テキスト第3講を読み、肢体不自由児について事前に理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第8回	知的障害児の理解と援助	△ テキスト第4講を読み、知的障害児について事前に理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第9回	発達障害児の理解と援助（SLD）	△ テキスト第6講を読み、発達障害児について事前に理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第10回	発達障害児の理解と援助（ADHD）	△ テキスト第6講を読み、発達障害児について事前に理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第11回	発達障害児の理解と援助（ASD） 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助	△ テキスト第7講を読み、発達障害児、特別な配慮を要する子どもについて理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第12回	発達検査の基礎	△ WISC-Ⅳについて文献、インターネット等で事前に調べる。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第13回	発達検査の見取りと活用	△ テキスト第7講を読み、発達障害児、特別な配慮を要する子どもについて理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第14回	職員間の連携・共働　、個別の指導計画、支援計画 保護者に対する理解や支援,家庭及び自治体、関係機関との連携	△ テキスト第12講を読み、家庭支援、関係機関連携について理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90
第15回	全体のまとめ	△ テキスト第13，14講を読み、家族支援の概要について理解する。	90
		▽ テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(40%)および期末試験(40%)、授業外での活動レポート(20%)によって総合的に評価する。

【テキスト】

障害児保育　公益財団法人児童育成協会 西村・水田（編）　中央法規（２０１９）

【参考書・参考資料等】

随時、授業の中で紹介する。

【連絡方法】 授業開始時に提示する。

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:100－90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）	①②③④⑤	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①②③④⑤	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①②③④⑤	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第2・3・13・14回					

科目名／専門教育 YHS604	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会的養護Ⅱ	2年前期	必修	演習/単独	2単位	佐藤 東	○	

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

今日の社会的養護は、深刻化する児童虐待のセーフティネットとしての役割が高まるとともに、要保護児童、家族の支援ニーズが複雑化、多様化している。これらの諸ニーズに適切に対応していくために子どもと家族の状況の理解と日々の養育・支援や専門的な支援、関係者、関係機関との連携方法等の実際についての理解を深めることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

①社会的養護の基本原理に基づく、日常生活支援、治療的支援、家族支援、自立支援等の実際を事例を用い演習形式で学ぶ、②支援技法の柱、アセスメント(課題分析)と自立支援計画作成手法を演習形式で学ぶ、③被措置児童等虐待、マルトリートメントなど児童の権利擁護の実際を演習形式で学ぶ。

【到達目標と学修成果】

①社会的養護における子どもの特性等を理解し支援できる。②施設養護及び家庭養護の養育・支援の基本原理等を理解し説明できる、③アセスメント手法及び児童自立支援計画作成手法等を理解し活用できる、④生活支援、治療的支援、自立支援、家族支援、チーム支援(職種間連携)の実際を理解し実践できる、⑤児童相談所等関係機関連携の理解し実践できる。⑥専門職として児童の権利擁護の理解し実践できる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス及び社会的養護Ⅰの振り返り	△ 社会的養護Ⅰの振り返り	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 2 回	子どもの権利擁護及び子どもの理解 ・権利擁護の基本 ・権利擁護の具体的取組 ・子どもの理解	△ テキストP2～P22の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 3 回	社会的養護の内容 ①日常生活支援 ②心理的支援 ・日常生活支援 ・心理的支援	△ テキストP26～P48の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 4 回	社会的養護の内容 ③自立支援 ④家庭支援 ・自立支援 ・家庭支援	△ テキストP50～P60 P158～P170 の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 5 回	施設養護の生活特性及び実際 ①乳児院等 ②児童自立支援生活施設等 ・乳児院等の生活特性等 ・児童自立支援施設等の生活特性等	△ テキストP62～P84の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 6 回	家庭養護の生活特性及び実際 ・家庭養護の生活特性等	△ テキストP86～P94の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 7 回	社会的養護における専門的知識・技術等① ・保育の専門性 ・保育士の実践 ・記録及び自己評価	△ テキストP110～P132の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 8 回	社会的養護における専門的知識・技術等② ・ソーシャルワークの基本 ・児童相談所等関係機関との連携・協同	△ テキストP134～P143の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 9 回	社会的養護における専門的知識・技術等② ・社会的養護におけるソーシャルワーク ・ジェノグラム、エコマップ等	△ テキストP146～P156の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 10 回	児童養護施設等の児童自立支援計画におけるアセスメント ・アセスメント手法・課題分析の基本について	△ テキストP98～P108の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 11 回	児童養護施設等の児童自立支援計画作成手法 ・児童自立支援計画作成手法の基本	△ テキストP98～P108の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 12 回	児童養護施設等の児童自立支援計画作成演習 ・事例に基づく児童自立支援計画作成演習(学齢版)	△ テキストP98～P108の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 13 回	社会的養護の課題と展望 ・社会的養護の時代的背景と課題 ・社会的養護の展望	△ テキストP172～P181の予習	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 14 回	社会的養護Ⅱ全般のまとめ	△ これまでの授業をふりかえる	90
		▽ 設定課題のまとめ	90
第 15 回	試験とまとめ	△ これまでの資料を整理し、ふりかえる	90
		▽ 試験内容に関して、ふりかえる	90

備考： この科目では、担当者の実務経験(社会福祉士・介護支援専門相談員指導者)も踏まえて実践的な指導を行う。 2700

【履修上の留意点】

授業の復習を丁寧に行うこと。

【テキスト】

新基本保育シリーズ⑱「社会的養護Ⅱ」 中央法規

【参考書・参考資料等】

① 相澤仁・奥山眞紀子編「生活の中の養育・支援の実際」明石書店 ② 相澤仁・柏女霊峰・渋谷昌子史編「子どもの養育・支援の原理(社会的養護総論)」明石書店 ③ 庄司順一編「里親養育を知るための基礎知識」明石書店

【連絡方法】 授業時に指示する。

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	①～⑥	60%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①～⑥	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)							
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 YHS605	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
地域の子育てと保育体験	1年後期	必修	演習/単独	1単位	深澤瑞穂　松田扶美子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。
②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

保育の専門性とは何かを理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援や、支援機関や支援対象の特性・支援について、具体的に学んでいく。
授業形態は、テキストに基づき、講義、個人ワーク、グループワーク、事例検討、現場体験を予定している。

【到達目標と学修成果】

①保育者の専門性を踏まえ、地域における子育て支援の意義、役割について説明できる。
②保育士の行う保護者に対する子育て支援の内容や方法について具体的に説明できる。
③子育て支援の対象となる保護者や子どもの問題に応じた支援方法や子育て支援を行っている機関の種類について具体的に説明できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	オリエンテーション 授業概要について 現代の子育て環境と子育て支援	△シラバスに目を通し、事前理解に努める。	20
		▽授業・時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	25
第2回	子どもの権利に基づいた子育て支援/よい声を出そう(1)	△教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	20
		▽振り返りシート記入	25
第3回	保育者が行う子育て支援の基本的事項 保育者の行う子育て支援の特性/よい声を出そう(2)	△教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	20
		▽振り返りシート記入　手遊び等の予習	25
第4回	保育者に求められる相談援助の視点/手遊び・わらべ歌	△教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	20
		▽振り返りシート記入　手遊び等の復習	25
第5回	保育者の行う子育て支援の展開過程/手遊び・わらべ歌	△教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	20
		▽振り返りシート記入	25
第6回	職員間の連携・協働 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	△教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	20
		▽振り返りシート記入	25
第7回	地域の子育て家庭に対する支援/絵本の読み聞かせ	△教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	20
		▽振り返りシート記入	25
第8回	障害のある子ども及びその家庭に対する支援 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援/絵本の読み聞かせ	△教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	20
		▽振り返りシート記入	25
第9回	現場体験に向けて①　～企画立案～	△フィールドワークの準備	20
		▽フィールドワーク報告書の作成	25
第10回	現場体験に向けて②　～準備、内容確認～	△フィールドワークの準備	20
		▽フィールドワーク報告書の作成	25
第11回	現場体験①　～子育て支援の実際～	△フィールドワークの準備	20
		▽フィールドワーク報告書の作成	25
第12回	現場体験②　～教材実演～	△フィールドワークの準備	20
		▽フィールドワーク報告書の作成	25
第13回	振り返りと発表(プレゼンテーション)	△プレゼンテーションの準備	20
		▽振り返りシート記入	25
第14回	要保護児童等の家庭に対する支援 子ども虐待の予防と対応　多様なニーズを抱える子育て家庭の理解	△教科書の関連するページに目を通し事前理解に努める。	20
		▽振り返りシート記入	25
第15回	子育て支援の展望　試験とまとめ	△これまでの学習内容を振り返る	20
		▽振り返りシート記入	25

備考：　この科目では、担当者の実務経験(保育士)も踏まえて実践的な指導を行う。　675

【履修上の留意点】

現場体験(予定)については授業時に説明する。

【テキスト】

菊地 篤子・金 瑛珠『ワークで学ぶ 子育て支援』みらい (2024)

【参考書・参考資料等】

必要に応じて授業時に紹介する。

【連絡方法】　授業時に周知する。

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	① ② ③	20%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート			・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがなく、指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	① ② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③	30%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第1～10.14.15回	第13回	第11.12回			

科目名／専門教育 YHS606	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育方法（理論と実践）	1年後期	必修	講義／単独	2単位	石井　友行	○	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

幼児、児童の実態に合わせた教育方法と教育技術（情報機器及び教材活用を含む）の習得はとても大切なことである。教育方法の歴史や変遷について基礎的基本的なことを概説する。そして、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

教育方法の基礎的な部分は、講義形式で行うが双方向的な議論も取り入れる。実践的な課題に取り組ませ、実際に教材開発を行う。そのために、教材開発の視点について考えたり話し合ったりする。

【到達目標と学修成果】

①教育方法の基礎的理論を理解する。
②効果的な授業作りへの指導技術（情報機器を含む）を身につける。
③適切な教材作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第１回	教育方法を学ぶことの意義について 「教育という営みと授業」について考える。教育の目指すものは何か。教育で育つものは何か。	△ 教育の目指すことについて予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第２回	社会的な背景によって変わる学校教育・幼児教育と教育方法	△ 教育方法の在り方について予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第３回	カリキュラム論「何を教えるか」「どう教えるか」 新学習指導要領で変わる教育	△ カリキュラム論について予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第４回	教育方法と学校・学級の経営① 主体的・対話的学びを作り出すために	△ 資料（学習指導要領総則）を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第５回	教育方法と学校・学級の経営② 学校という制度、学校の経営と教育方法の工夫	△ 学級経営について事前調査をする。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第６回	教育方法・技術①（基本的な指導技術） 学級という集団と教師の役割について考える。教師の仕事内容、リーダーシップの在り方について検討する。	△ 教師の基礎的指導技術について予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第７回	教育方法・技術②（基本的な指導技術・話術他） 授業や保育を行う上で基礎的な技術について、人権意識	△ 授業に必要な力について予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第８回	教育方法・技術③（学習指導要領から指導案作り） 授業づくりと学習指導案の関連性	△ 学習指導案についてその構成を予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第９回	教材研究　教材・学習材の活用 教材・学習材とは何か。教科書の果たす役割は何か。教具の種類と使い方を考える。	△ 教科書の役割について予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第10回	教材教具の活用 板書計画、黒板への板書、実物投影機の活用など	△ 基本的な板書技術について予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第11回	視聴覚教材の作成　情報機器を活用した教材づくり これまでの学習成果を生かして教材を作成する。	△ パワーポイントを使った授業づくりについて予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第12回	情報機器を活用した模擬授業の実践 模擬的な授業をプレゼンテーションする。	△ 実際の授業をどのように進めるか構想を立てる。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第13回	学習評価の基本的な考え方 評価の目的、手法について。授業における評価の具体例について	△ 学習評価について予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第14回	授業評価の基本的な考え方 授業改善とPDCAサイクル他	△ 授業評価について予習する。	90
		▽ 今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第15回	まとめ 教育のできる教育者・保育者を目指して	△ 今までの学修を振り返る。	90
		▽ この授業での学びについてまとめる。	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等中等教育の学校等）も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

授業外での取組（20%）、授業内に行う課題発表（20%）「リフレクションペーパー」（20%）および、期末レポート（40%）によって総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝えます。

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	②	40%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容をりかいできていない。 誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	1,3,4,5,6,7,13,14回	3,6,12回	10回	2,8,11回	5回	

科目名／専門教育 YH607	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育教材研究	1年前期	選択（保幼必修）	演習/複数	2単位	深澤　瑞穂　・　信太　朋子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

保育教材について知識を深め、製作や実演を通して保育に必要な技能を高める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式で行う。
わらべ歌や手遊びの習得、集団遊びや絵本の読み聞かせなど保育実践につながる知識や技能を身につける。
発達との関連について理解し、身近な素材を使ったおもちゃや手作りシアターの製作をする。

【到達目標と学修成果】

①保育内容に即した教材について理解し、実践に活かすことができる。
②子どもの発達段階に応じた文化について思考し、保育教材作りや表現方法の工夫に取り組み保育実践に活用することができる。
③子どもの興味や関心に基づいた作品を作成し、子どもの文化活動を深めることができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第 1 回	オリエンテーション(授業の進め方)	△ シラバスを確認する	90
		▽ 配布資料を読む	90
第 2 回	わらべ歌と手遊び	△ わらべ歌と手遊びについて調べる	90
		▽ わらべ歌と手遊びの反復練習	90
第 3 回	手作りシアターについて　わらべ歌と手遊び　伝承遊び	△ 手作りシアターの特徴を調べる	90
		▽ 製作したい手作りシアターについて調べる	90
第 4 回	手作りシアター製作①	△ 製作に必要な教材の準備	90
		▽ シアターの内容に合わせ演じ方を考える	90
第 5 回	手作りシアター製作②	△ シアターの演じ方の予習	90
		▽ 授業の復習　次回の授業の準備	90
第 6 回	手作りシアター発表	△ 手作りシアター発表準備	90
		▽ 発表の振り返り	90
第 7 回	身近な素材を使った動くおもちゃ作り①	△ 身近な素材を使ったおもちゃについて調べる	90
		▽ 授業内容の復習	90
第 8 回	身近な素材を使った動くおもちゃ作り②	△ 身近な素材を使ったおもちゃ作りの準備	90
		▽ 授業内容の復習	90
第 9 回	動くおもちゃを使ってお話づくり(グループ発表)	△ グループ発表の準備	90
		▽ 発表の振り返り	90
第 10 回	わらべ歌と手遊び	△ わらべ歌と手遊びについて調べる	90
		▽ 授業内容の復習	90
第 11 回	集団遊び①	△ 集団遊びについて調べる	90
		▽ 授業内容の復習	90
第 12 回	集団遊び②　替え歌作りと振り付け	△ 集団遊びについて調べる	90
		▽ 授業内容の復習	90
第 13 回	伝承遊び	△ 伝承遊びについて調べる	90
		▽ 授業内容の復習	90
第 14 回	絵本の読み聞かせ　絵本紹介カード	△ 絵本の読み聞かせ練習	90
		▽ 授業内容の復習	90
第 15 回	まとめ	△ 授業内容をまとめる	90
		▽ 授業内容の復習	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

・製作に必要なクレパス、はさみ、のり、テープなどは各自で準備する。

【テキスト】

必要な資料を適宜配布する。

【参考書・参考資料等】

子どもに人気のふれあいあそび　(株)ひとなる書房　　作って遊べる製作ずかん　gakkenn

【連絡方法】　授業時に通知する

【オフィスアワー】　授業終了時

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ③	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分身についていることが認められる。 ・発表を通して実践力が十分身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。 ・発表を通して実践力が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。 ・発表を通して基本的な知識の習得のもと表現していることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。・基本的な知識の習得と理解が断片的であるため表現において今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていないため、十分な発表ができない。
期末レポート	②	30%	・課題の意図を適格に理解し、過不足のない内容で記述されている。	・課題の意図を理解し、記述されている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解しておらず、関係のない内容が大部分を占めている。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組んでいた。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。	・主体的に授業に臨もうと努力していた。	・授業内の取り組みに参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も認められた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第6回	第6回第10回		第12回	第4回第5階	第13回第14回

科目名／専門教育 YHS610	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容総論	1年前期	必修	演習／単独	2単位	今泉　良一	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

①保育所保育指針等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
②子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。
③保育の多様な展開について具体的に理解する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

保育現場で必要とされる知識・技能について、テキストを参考に「保育とはなにか」「保育内容とはなにか」という観点から学習する。
授業形態は、講義、個人ワーク、グループワーク、事例検討を予定している。

【到達目標と学修成果】

①保育所保育指針等の内容を読み取り、保育の全体的な構造について説明できる。
②保育内容について、基礎的知識を理解し、自分の考えを述べることができる。
③乳幼児期の発達を理解し、製作、実践を通して、必要な技術を身に付けることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	オリエンテーション　授業概要について　保育の基本及び保育内容の理解	△ シラバスに目を通し、事前理解に努める。	90
		▽ 授業内容、履修上の留意点を確認する。	90
第2回	保育の全体構造と保育内容	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第3回	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第4回	子どもの発達や生活に即した保育内容Ⅰ －乳児保育，満1歳以上3歳未満児－	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第5回	子どもの発達や生活に即した保育内容Ⅱ －3歳以上児，異年齢－	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第6回	個と集団の発達を踏まえた保育	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第7回	保育における観察と記録 －子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程－	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第8回	養護及び教育が一体的に展開する保育	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第9回	環境を通して行う保育	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第10回	生活や遊びによる総合的な保育	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第11回	生活や発達の連続性に考慮した保育	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第12回	家庭，地域との連携を踏まえた保育 －長時間保育含む－	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第13回	小学校等との連携を踏まえた保育	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第14回	特別な配慮を要する子どもの保育　多文化共生の保育	△ 前回授業内容の復習	90
		▽ 振り返りシート記入	90
第15回	まとめ（試験）	△ これまでの学習内容を振り返る。	90
		▽ 振り返りシート記入	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（保育士）も踏まえて実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

毎時間テキストを使用します。また、試験時はテキスト持ちこみ可です。毎授業必ず持参し、大事なところはマーキングする、付箋を貼るなど、学習を深められるよう工夫してください。

【テキスト】

改訂新版　マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論（教育情報出版）

【参考書・参考資料等】

必要に応じて授業時に紹介する。

【連絡方法】　授業時に周知する。

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	50%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：上記に加え、授業ファイルの作成と提出を義務付け評価に加味する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第1～14回					

科目名／専門教育 YHS609	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容(健康)	1年後期	選択（保幼必修）	演習/単独	2単位	鈴木　琴子	／	○

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基盤を作る時期であり、その能力を育むために必要な教育と指導を行うことは、保育の基本となる。「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ために必要な理論、方法論を提供する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

パワーポイントのスライドや関連の映像を提示しながら講義形式で進める。保育者として必要な健康の概念、健康を守るためのシステムなどを基礎に、子どもを取り巻く現状、子どもと遊び、事故防止など具体的に新聞記事や映像資料等で確認しながら、理解を深める。

【到達目標と学修成果】

①保育内容における健康の意義を理解できる。
②子どもの健康を守る方法について理解でき、指導案の作成や情報機器等を活用した教材研究ができる。
③現代の子どもの現状を理解し、その対応について理解している。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	保育内容（健康）とはなにを学ぶのか 幼稚園教育要領・保育所保育指針との関連から	△ 教科書P16～P18を予習する。	90
		▽ 教科書P78～P82を復習する。	90
第2回	健康とはなにか 健康を守るシステムと保育実践	△ 教科書P8～P10を予習する。	90
		▽ 教科書P83～P85を復習する。	90
第3回	健康とはなにか わが国の保健行政	△ 教科書P51～P53を予習する。	90
		▽ 教科書P90～P95を復習する。	90
第4回	健康を守る方法 社会保障制度	△ 教科書P96～P98を予習する。	90
		▽ 教科書P86～P89を復習する。	90
第5回	現代の子どもの現状 現代の子どもたちの体力、遊び方について	△ 教科書P14～P15を予習する。	90
		▽ 教科書P121～P127を復習する。	90
第6回	子どもと遊び1 遊びと健康	△ 教科書P39～P46を予習する。	90
		▽ 教科書P121～P127を復習する。	90
第7回	子どもと遊び2 子どもの日常の変化と保育実践	△ 教科書P41～P50を予習する。	90
		▽ 教科書P143～P148を復習する。	90
第8回	子どもと遊び3 保育実践の活用について	△ 教科書P51～P53を予習する。	90
		▽ 教科書P102～P134を復習する。	90
第9回	子どもの発達 身体・運動の発達と生活習慣の形成(保健指導のための教材とその使用方法について)	△ 教科書P32～P35を予習する。	90
		▽ 教科書P107～P112を復習する。	90
第10回	生活習慣の形成 健康観察の方法(実践事例とその応用方法)	△ 教科書P134～P142を予習する。	90
		▽ 授業中に配布した資料を読み、ノートにまとめる。	90
第11回	子どもと安全1 安全な環境のために	△ 教科書P54～P62を予習する。	90
		▽ 教科書P154～P157を復習する。	90
第12回	子どもと安全2 事故の原因(事故予防を目的とした情報機器の活用方法について)	△ 教科書P62～P66を予習する。	90
		▽ 安全指導の指導案についてまとめる。	90
第13回	応急処置 ケガ及び食物アレルギーの手当について	△ 教科書P99～P101を予習する。	90
		▽ 授業中に配布した資料を読み、ノートにまとめる。	90
第14回	保育における感染予防の考え方 感染を予防する技術および情報機器を活用した保健指導について	△ 教科書P70～P72、P149 ～P153を予習する。	90
		▽ 感染予防の指導案についてまとめる。	90
第15回	まとめ	△ 1～14回のまとめをする。	90
		▽ 授業時間中に理解できなかったことについて復習する。	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

反転授業をするので、予習をしっかりとしておくこと。

【テキスト】

ねらいと内容から学ぶ保育内容・領域 健康子どもの発達 わかば社

【参考書・参考資料等】

「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017)
「保育所保育指針」フレーベル館(2017)
「幼保連携型認定こども園・教育保育要領」フレーベル館(2017)

【連絡方法】 授業時に伝える

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	60%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	② ③	20%	・主体的に授業に臨み、発言など授業に積極的に参加する姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、積極的に発言をし、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			第13回	第1～2回	第1～14回	

科目名／専門教育 YHS610	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容（人間関係）	1年前期	選択（保幼必修）	演習／単独	2単位	赤坂　澄香	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

幼稚園教育要領・保育所保育指針に準拠した領域としての「人間関係」のねらい・内容を学習し内容の取り扱いにおける実践力を身につける。具体的には、乳幼児の発達に応じた「人と関わる力」を遊びや生活の中でどのように身につけていくのかを「子どもの学び」から理解し、保育実践に結びつく知識・技能を習得する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

乳幼児の人間関係の発達の特性をふまえながら、人と関わる力を育てる保育内容および援助・指導方法を事例研究・教材研究を基にしたディスカッションや発表等を通して具体的に学ぶ。人と関わる力を育てる環境設定、教材、遊びを重視した指導計画を作成する。

【到達目標と学修成果】

①領域「人間関係」のねらい・内容を踏まえ、人と関わる力を育てる保育内容および援助・指導方法を理解し、具体的な指導案を作成することができる。
②情報機器及び教材の活用法を理解し、人間関係を育てる保育の構想に活用することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第 1 回	オリエンテーション 領域「人間関係」における子ども理解と評価の考え方	△ テキストP12-20の予習	90
		▽ 教育要領・保育指針の総則を読み、復習する	80
第 2 回	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」 ねらい及び内容の理解・小学校とのつながり	△ テキストP21-42の予習	90
		▽ 教育要領・保育指針の第2章を読み、復習する	80
第 3 回	遊びを通して育つ人との関わり 保育者の援助の在り方や環境構成を考える（グループディスカッション）	△ テキストP100-122の予習	90
		▽ 遊びの中での保育者の援助の在り方をまとめる	80
第 4 回	生活を通して育つ人との関わり 保育者の援助の在り方や環境構成を考える	△ テキストP124-146の予習	90
		▽ 生活の中での保育者の援助の在り方をまとめる	80
第 5 回	乳児期の発達と人との関わり① 0・1歳児に対する援助と留意点	△ テキストP44-66の予習	90
		▽ 0・1歳児の人と関わる力の発達についてまとめる	80
第 6 回	乳児期の発達と人との関わり② 2歳児に対する援助と留意点、温かな関わりを育む教材の活用法、指導案作成	△ テキストP68-98の予習	90
		▽ 2歳児の人と関わる力の発達についてまとめる	80
第 7 回	幼児期の発達と人との関わり① 自立心を培う援助を考える（事例検討・グループディスカッション）	△ テキストP181-186の予習	90
		▽ 自立心を育む環境について意見をまとめる	80
第 8 回	幼児期の発達と人との関わり② 道徳性を培う援助を考える（事例検討・グループディスカッション）	△ テキストP193-200の予習	90
		▽ 道徳性を育む環境について意見をまとめる	80
第 9 回	幼児期の発達と人との関わり③ 協同性を培う援助を考える（協同性をテーマにした運動会競技の構想と月間指導案）	△ テキストP165-174、P187-192の予習	90
		▽ 指導案を見直し、改善点を見つける	80
第 10 回	人と関わる力を育てる教材の活用法① 自立心・道徳性・協同性をテーマとした絵本の構想（ICT、AIの活用を含む）	△ 絵本で取り扱うテーマ、作成案を考える	90
		▽ 絵本の構想を固め、起承転結を考える	90
第 11 回	人と関わる力を育てる教材の活用法② 自立心・道徳性・協同性をテーマとした絵本の作成（シーン割）	△ 絵本のシーン割を考える	90
		▽ 構成を考え、下書きを進める	120
第 12 回	人と関わる力を育てる教材の活用法③ 自立心・道徳性・協同性をテーマとした絵本の作成（絵や文章表現の工夫）	△ 絵本の文章表現を推敲する	90
		▽ 絵本の仕上げを行う	120
第 13 回	人と関わる力を育てる教材の活用法④ 作成した絵本を活用した模擬保育（指導案作成）	△ 指導案の下書きを書く	90
		▽ 指導案の仕上げを行う	120
第 14 回	人と関わる力を育てる教材の活用法⑤ 作成した絵本を活用した模擬保育（タブレット等の情報機器を用いた読み聞かせ）	△ 模擬保育に向けて、練習や準備をしてくる	90
		▽ 模擬保育のふりかえりを通して改善案を考える	90
第 15 回	まとめ　保育構想の向上に向けて 保育を改善する視点を考える（模擬保育の録画映像等を活用したふりかえり）	△ 保育を改善する視点について考える	90
		▽ 人と関わる力を育てる保育内容及び援助をまとめる	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回にGoogle classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。
授業で作成する教材に使用する廃材、はさみ、のり、サインペン、色鉛筆やクレヨン等の画材は各自用意すること。

【テキスト】

「新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係」無藤隆（監修）萌文書林（2018年）

【参考書・参考資料等】

「保育所保育指針」フレーベル館(2017年)
「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017年)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2017年)

【連絡方法】　akasaka@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】　火曜日昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	30%	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育を自らの力で構想する実践力が十分に身についていることが認められる。	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育を構想する実践力が身についていることが認められる。	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育に活用していく姿勢が身に付いていることが認められる。	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育を構想する実践力の習得には、今後も努力を要する。	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育を構想する実践力の習得がなされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	70%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・作成した教材に、オリジナリティがあり、十分な創意工夫が見られる。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・作成した教材は丁寧に作られており、工夫が見られる。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・教材製作等、与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：授業内での取組：小テストを30%、作成した教材・指導案を30%、授業内課題を10%の割合で全体評価に充当する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第3回・第7回 第8回	第15回				第6回・第14回

科目名／専門教育	YH611	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容（環境）		2年前期	選択（保幼必修）	演習／単独	2単位	深澤　瑞穂	○	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかかることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
子どもを取り巻く環境について、子どもが主体的に学ぶ方法について考え、具体的に教育・保育実践者として子どもの健やかな成長を育むための環境を本授業履修者が主体的に創造していく能力を培うことが本授業のねらいである。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】
保育・幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期のおわりまでに育ってほしい姿を理解し、領域「環境」のねらい及び内容を踏まえて理解を深める。環境に関わる力を育てるための具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を学ぶ。

【到達目標と学修成果】
①保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解し、実践的な環境構成と指導法を身につける。
②子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想することができる。
③情報機器および教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第１回	ガイダンス　本授業の概要、幼稚園教育要領・保育所保育指針・子ども園教育・保育要領の領域（環境）の関連部分の概要（幼児期に育みたい資質能力と領域「環境」の保育内容）	△シラバスの予習をする	90
		▽資料の復習をする	90
第２回	園内の環境① 乳児の育ちと環境とのかかわり －乳児期から幼児期にふさわしい環境と子どもの興味や関心を育む遊びや活動の事例検討	△乳児についての授業予習をする	90
		▽・おりがみ教本の中から自分の折りたい内容を選ぶ	90
第３回	園内の環境② 幼児の育ちと環境のかかわり －幼児期から児童期にふさわしい環境と子どもの興味や関心を育む遊びや活動の事例検討	△幼児について授業予習をする	90
		▽グループでディスカッションした内容をまとめる	90
第４回	園庭の環境①身近な自然に親しみ、四季折々の植物や樹木に興味や関心をもつための指導法 －植物クイズ作成グループワーク－	△園の樹木や栽培物等の植物について調べる	90
		▽おりがみ教本を参考に植物の折り紙製作を行う	90
第５回	園庭の環境② 身近な小動物や四季折々の昆虫などに興味や関心をもつための指導法 －ムシムシクイズ作成グループワーク－	△小動物や昆虫の三択クイズを考える	90
		▽昆虫や小動物等について折り紙製作を行う	90
第６回	園内や園外の安全管理の考え方・事故が起こった時の対応	△安全管理について事例を考える	90
		▽安全管理の配布物について復習をする	90
第７回	園外の環境① 自然環境・社会環境のねらい及び内容と指導法 －園外で行われる幼児の遊びの事例及び、標識、文字、情報等に触れる活動－	△園外の幼児の遊びについての予習をする	90
		▽自然物を利用した遊びを調べておく	90
第８回	園外の環境② 園外での自然と関わる遊び・安全面の留意点 －園外保育の意義や配慮点について検討する－	△園外の物的・自然環境等について調べる	90
		▽グループでディスカッションした内容を振り返る	90
第９回	日本の文化にふれる年間行事 －行事の由来と活動についての教材作成と指導法	△四季の園行事の由来・及び壁面飾りの内容を考えておく	90
		▽おりがみ教本を参考に折り紙製作を行う	90
第１０回	行事を生かした保育の展開	△四季の園行事や遊びについて調べておく	90
		▽行事についての授業内容をノートに整理する	90
第１１回	文字や数量及び様々な国旗に親しむための遊びや教材研究	△授業の予習をする	90
		▽様々な国の特徴などの復習	90
第１２回	身近な素材や自然物を用いた遊びについて① －年齢別の遊びや活動の留意点	△植物や木の実など自然物についての予習をする	90
		▽自然物についての授業内容をノートにまとめる	90
第１３回	身近な素材や自然物を用いた遊びについて② －指導案の作成	△遊びの選択と指導案記入についての予習	90
		▽指導案を完成させる	90
第１４回	身近な素材や自然物を用いた遊びについて③ －指導案に基づく模擬保育及び評価	△模擬保育を行うための教材準備や予習	90
		▽模擬保育の振り返りと指導案の改善	90
第１５回	環境を通した指導法のまとめ	△ノート（折り紙製作の宿題を含む）のまとめ	90
		▽課題の振り返り	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等教育の学校等）も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】
・演習授業として、近隣の保育園児と関わる授業の際には、動きやすい運動靴や服装で参加すること。

【テキスト】
授業時に適宜、資料を配布する。

【参考書・参考資料等】
『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017 /『保育園保育指針』フレーベル館 2017
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館2017/ 森本信也・磯部裕子編　幼児の体験活動に見る「科学の芽」2013/ 神長美津子編 子どもと楽しむ自然体験活動　光生館

【連絡方法】　初回授業で通知する
【オフィスアワー】　授業終了後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S：90－100点）	優れている（A：80－89）	平均的（B：70－79）	努力を要する（C:60－69）	相当な努力を要する（F：59点以下）
試験（発表含む）	① ②	50%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りなどに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	② ③	20%	・主体的に授業に臨み、課外活動に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課外活動に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に課外活動に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での課外活動の取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第1回・第8回	第14回	第7回	第6回		

科目名／専門教育 YH612	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容（言葉）	1年前期	選択（保幼必修）	演習／単独	2単位	長田　信彦	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育要領」の領域「言葉」のねらい及び内容について具体的に理解する。その上で、乳幼児の言葉の発達に即した保育者の援助の在り方について、事例を通して具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

乳幼児期の子どもの言葉の発達を促すための環境構成や援助について、実践していく力を教材研究や模擬保育を通して身につける。

【到達目標と学修成果】

①領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定した保育を構想し、実践する指導法を身につける。
②指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る。
③ICT機器を活用した指導案を作成し、模擬保育に活用する力を身につける。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス 授業の計画・進め方・評価の仕方について 保育における言葉とは何か。保育・幼児教育における評価について	△「言葉」の働きについて考えをまとめておく。	90
		▽保育・幼児教育の評価についてノートにまとめる。	90
第 2 回	保育内容「言葉」の意義について 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容を確認する。あわせて、小学校低学年国語科とのつながりについて考える。	△テキストp35～43の予習	90
		▽「言葉」と「国語」の幼小関連をノートにまとめる。	90
第 3 回	言葉の機能や発声のメカニズムについて理解する 言葉を獲得するための条件や環境について考え、乳児期から児童期までの言葉の発達過程を学ぶ。	△テキストp8～12の予習。	90
		▽言葉の機能をノートにまとめる。	90
第 4 回	言葉の発達と援助（乳児期） 言葉の準備期の発達過程に即した適切な援助の方法について考える。	△テキストp46～48の予習。	90
		▽言葉の準備期についてノートにまとめる。	90
第 5 回	言葉の発達と援助（乳児期） 一語、二語発話時期の発達過程に即した適切な援助の方法について考える。	△テキストp.49～50、p72～75の予習。	90
		▽0,1,2歳児の言葉と育ちの発達をノートにまとめる。	90
第 6 回	言葉の発達と援助（幼児期） 日常生活に必要な言葉を身につけ、言葉の感覚や語彙を豊かにするための適切な援助の方法を考える。	△テキストp50～55,p76～79の予習。	90
		▽3歳児の言葉と育ちの特徴をノートにまとめる。	90
第 7 回	言葉の発達と援助(幼児期) 日常生活の中で育つ言葉や対話する喜びを支える援助の方法を考える。	△テキストp56～64,p77～80の予習。	90
		▽4～5歳児の言葉と育ちの特徴をまとめる。	90
第 8 回	発語を促すための保育者の関わりや環境構成などを事例を通して考察し、理解する。	△テキストp85～101の予習。	90
		▽テキストp86の事例を考察し、ノートにまとめる。	90
第 9 回	児童文化財について 保育・教育現場におけるICTの効果的な活用方法と留意点／言葉を育む環境構成と援助	△テキストp119～122の予習。	90
		▽ICTを活用し、紙芝居を制作する。	90
第 10 回	子どもの言葉を育むための保育構想 領域「言葉」に関する保育場面を想定した指導案の作成	△幼児対象、絵本の読み聞かせの指導案を考えてくる。	90
		▽指導案作成の留意点をノートにまとめる。	90
第 11 回	子どもの発達に応じた絵本を選定し、模擬保育を実践する。	△3歳～5歳に適した絵本を調べておく。	90
		▽模擬保育の分析と課題をノートにまとめる。	90
第 12 回	子どもの発達に応じた紙芝居を選定し、模擬保育を実践する。	△3歳～5歳に適した紙芝居を調べておく。	90
		▽模擬保育の分析と課題をノートにまとめる。	90
第 13 回	パネルシアター、エプロンシアター、ペープサートを活用した模擬保育を実践する。	△テキストp154～178の予習	90
		▽模擬保育の分析と課題をノートにまとめる。	90
第 14 回	模擬保育の映像記録をもとに、乳幼児の言葉の発達の観点から評価し、改善点を見出す。	△これまでの模擬保育の振り返りをしておく。	90
		▽模擬保育の改善点をノートにまとめる。	90
第 15 回	まとめと振り返り 言葉の発達を促す指導法の考察とまとめ	△テキスト、資料の復習をしておく。	90
		▽「言葉」の発達と支援についてノートにまとめる。	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

テキストをよく読んで授業に臨むこと。

【テキスト】

大越和孝「改訂新版　『保育内容・言葉『言葉とふれあい、言葉で育つ』」東洋館出版社、2018

【参考書・参考資料等】

『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017/『保育所保育指針』フレーベル館、2017/
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2017 /『小学校学習指導要領解説・国語編』東洋館出版、最新版

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業日の昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	①	60%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第2-9, 14回	第11-13回		第10回		

科目名／専門教育 YH613	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容（表現）	1年後期	必修	演習／オムニバス	2単位	山田　麻美子・伊藤　菜々子		○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達や学びの過程への理解を深め、造形表現・音楽表現活動を通して、子どもの感性及び表現力を養い高めていく方法を学ぶ。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

子どもの発達を視野に入れ、協同的かつ創造的な表現を育むために、様々な素材を活用した表現活動の具体的・実践的な環境構成と指導方法を身につける。

【到達目標と学修成果】

①領域「表現」のねらい及び内容を子どもの発達や学びの過程と関連させ、音楽表現・身体表現の具体的な場面を想定した保育を構想する力を身につけることができる。
②ICTを利用した教材研究及び指導計画を作成することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	領域「表現」と保育内容との関連について 理論学習：幼稚園教育要領・領域「表現」に関わる内容及び他領域との関連について	△	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園保育・教育要領」を読んでくる　90
		▽	保育内容「表現」に求められることについてノートにまとめてくる　90
第2回	理論と演習：表現における他者の存在と表現者としての育ちについて 子どもの発達と表現活動の特性をとらえる 手遊び・リズム遊びを通した表現活動	△	資料「乳幼児期の子どもの育ちと表現」の予習　90
		▽	手遊び・リズム遊びを振り返り、「乳幼児期の子どもの育ちと表現」についてノートにまとめてくる　90
第3回	音を素材とした教材研究 1 身近な素材による活動の特徴、楽しさ、指導上の留意点などを考える	△	資料「子どもの音を聴く力の発達・身近な音を聴く」の予習　90
		▽	「子どもの音を聴く力の発達・身近な音を聴く」に関する活動をまとめてくる　90
第4回	音を素材とした教材研究2　オノマトペによる表現あそび指導法を学ぶ リズム遊び・音楽遊びについての教材研究を行い、子どもの表現が広がる指導方法を考える	△	資料「オノマトペについて・オノマトペを使った遊び」の予習　90
		▽	「オノマトペ・オノマトペを使った遊び」に関する活動をまとめてくる　90
第5回	子どもの日常的な表現やその環境構成について考える 模擬保育準備	△	資料「保育の中の表現を支える環境づくり」の予習　90
		▽	「保育の中の表現を支える環境づくり」についてノートにまとめてくる　90
第6回	表現活動を効果的に生み出す環境構成や保育者の支援のあり方を学ぶ 保育・教育現場におけるICTの利活用について 模擬保育準備	△	資料「表現活動の効果的な環境構成と支援のあり方」の予習　90
		▽	保育・教育現場におけるICTの利活用についてまとめる　90
第7回	3歳未満児及び3歳以上児の特性と指導について学ぶ 模擬保育準備・練習	△	3歳未満児及び3歳以上児の特性について予習してくる（テキスト参照）　90
		▽	3歳未満児及び3歳以上児の特性についてノートにまとめてくる　90
第8回	保育及び教育における音楽指導の基礎「童謡」について 模擬保育・手遊び・読み聞かせ準備	△	子どもの歌（童謡）について知っている曲を歌ってくる　90
		▽	子どもの歌（童謡）について曲数を増やす　90
第9回	保育及び教育における音楽指導の基礎「童謡」伴奏について 模擬保育・手遊び・読み聞かせ準備	△	子どもの曲（童謡）を楽器で演奏してみる　90
		▽	模擬保育準備・指導案準備　90
第10回	さまざまな場面における子どもへの声かけ及び子どもへの対応について学ぶ 模擬保育・手遊び・読み聞かせまとめ	△	資料「子どもの表現を支えるための保育者の役割と評価について」の予習　90
		▽	資料「子どもの表現を支えるための保育者の役割と評価について」の復習　90
第11回	手遊び・身体遊びについて学ぶ（個人発表準備） 模擬保育指導案作成	△	手遊び・身体遊びについて調べてくる　90
		▽	模擬保育指導案まとめ　90
第12回	絵本の読み聞かせ・紙芝居について学ぶ（個人発表準備） 模擬保育指導案作成	△	絵本・紙芝居について調べてくる　90
		▽	模擬保育指導案まとめ　90
第13回	模擬保育発表	△	模擬保育準備　90
		▽	模擬保育発表準備とまとめ　90
第14回	模擬保育発表 指導案提出	△	模擬保育他者の発表への評価のまとめ　90
		▽	模擬保育自身の発表のふりかえり　90
第15回	まとめと発表のふりかえり	△	模擬保育指導案まとめ　90
		▽	色々な意見をもとに自身のふりかえりの確認をする　90

備考：　2700

【履修上の留意点】

特になし。

【テキスト】

幼稚園教育要領（フレーベル館）・保育所保育指針（フレーベル館）
保育内容「表現」 日々わくわく生きる子どもの表現（わかば社）

【参考書・参考資料等】

特になし

【連絡方法】　yamada@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】　水・木昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S：90－100点）	優れている（A：80-89）	平均的（B：70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F：59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	① ②	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第15回	第13・14回				

科目名／専門教育 S618	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
道徳教育の指導	2年後期	小免必修	講義/単独	2単位	石井　友行	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

平成27年『学習指導要領』の一部改訂に示された道徳教育の目標・内容・方法および道徳の時間の基本的な指導方法など基礎的な理論を概説し、道徳の時間の学習指導案作成からそれに基づいた授業が行えるようになることをねらいとする。また、今後の道徳教育の方向性と道徳科の理論と実践についても理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式と演習形式を取り入れる。教師として道徳授業を実践するにあたり、授業者自身のアイデアや持ち味が活かされることが児童の感性を大事にした授業につながる。教師自身が誠実に児童と向き合う道徳科の時間をもてるように教師自身の道徳的な資質や豊かな道徳性についても考えていきたい。

【到達目標と学修成果】

①学習指導要領に基づいて道徳教育の目的や内容について理解する。
②道徳の授業を行える実践力を身に付ける。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	学校における道徳教育の位置づけについて 道徳教育の意義、人間形成に関わる道徳の意義などについて考える。	△道徳教育の位置づけを予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 2 回	道徳教育の本質と目標 道徳的価値とその矛盾について考える。	△道徳教育の本質と目標を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 3 回	道徳性の発達理論について フロイト、ピアジェ、コールバーク等の理論の概要を知る。	△道徳性の発達理論を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 4 回	道徳教育の内容 道徳授業に対する批判について知り、考える。	△道徳教育への批判について調べる。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 5 回	道徳教育の方法 道徳の時間の位置づけについて知り、学校での道徳教育の計画について知る。	△学校における道徳教育について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 6 回	全教育活動を通しての道徳教育 学校における道徳教育の指導計画、道徳教育充実の必要性について	△学校の道徳教育の在り方を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 7 回	道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育について知る。	△戦前の道徳教育について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 8 回	道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育について知る。	△戦後の道徳教育について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 9 回	世界の学校における道徳教育 宗教と道徳の関連性を考える。	△世界の道徳教育を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 10 回	道徳の時間の役割と学習指導要領 これからの道徳教育が目指す児童像について考える。	△学習指導要領における道徳について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 11 回	道徳教育の授業① 道徳教育の方法、道徳教育用教材について知る。	△道徳教育教材を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 12 回	道徳教育の授業② 実践事例から学ぶ　道徳教育の評価の考え方について	△道徳教育の評価について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 13 回	指導案作成の試み① 道徳指導案について知り、指導案を作成する。	△道徳指導案の基本について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 14 回	指導案作成の試み② 作成した指導案の発表と検討	△指導案をプレゼンする計画を立てる。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 15 回	まとめ	△今までの学修を振り返る。	90
		▽学修したことをまとめる。	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

授業外での取組(20%)、授業内に行う課題発表(20%)「リフレクションペーパー」(20%)および、期末レポート(40%)によって総合的に評価する。

【テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』(最新版)

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝える。

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業前後・昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	① ②	40%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できていない。誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	2,4,5,7,9,11,14回	14回		3回		

科目名／専門教育 S620	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
特別活動と総合的な学習の指導法	3年前期	小免必修	講義/単独	2単位	石井　友行	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用し、実社会・実生活の課題を探究することを理解する。そして、指導計画の作成・具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」「チームとしての学校」の視点をもち、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域や教職員と連携等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

総合的な学習の時間と特別活動の意義、目標、内容、指導法、評価などの基本的なことを理解できるよう講義し、双方向的な議論を行う。また、指導内容や実践的な事項については話し合いや実際の体験から理解させる。

【到達目標と学修成果】

①総合的な学習の時間と特別活動における学習指導要領の目標、内容などを理解する。
②総合的な学習の時間と特別活動の指導内容や指導方法について理解している。
③総合的な学習の時間と特別活動の評価の方法や留意点を理解している。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第１回	総合的な学習の時間の歴史と意義について	△「総合的な学習の時間」の概要を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第２回	総合的な学習の時間の教育課程において果たす役割について	△「総合的な学習の時間」と教育課程の関連を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第３回	各教科等で育まれる見方・考え方の活用を視野に入れた総合的な学習の時間とは	△「総合的な学習の時間」と他教科の関連を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第４回	学習指導要領における総合的な学習の時間の目標・各学校において目標及び内容を定める際の考え方について	△「総合的な学習の時間」の目標を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第５回	各教科等との関連性と総合的な学習の時間の年間指導計画の作成	△年間指導計画について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第６回	総合的な学習の時間の単元計画の作成　―主体的・対話的で深い学びを実現を目指して―	△単元指導計画について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第７回	総合的な学習の時間の指導と評価	△「総合的な学習の時間」の評価について予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第８回	特別活動の学習指導要領における目標・内容と教育課程における位置づけ	△「特別活動」の概要を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第９回	話合い活動及び集団活動の意義や指導の在り方を考える	△集団活動の意義を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第10回	学級活動内容(1)「学級生活づくりへの参画」とその指導について 話合い活動について、キャリア教育について	△望ましい学級集団づくりについて予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第11回	模擬学級会を通して、指導法を学ぶ	△学級会の指導法等を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第12回	学級活動内容(2)「日常生活や学習への適応他」(3)「キャリア形成と自己実現」の指導について	△学級活動(2)(3)の指導方法を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第13回	児童会活動、クラブ活動、学校行事について 特別活動における評価・改善について	△児童会、クラブ活動、学校行事の指導を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第14回	特別活動の教育課程全体で取り組む指導の在り方について 特別活動における家庭・地域との連携の在り方について	△特別活動と教育課程の関連を予習する。	90
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第15回	まとめ	△今までの学修を振り返る。	90
		▽この授業での学びをまとめる。	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等中等教育の学校等）も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

授業内に行う課題発表（20%）「リフレクションペーパー」（30%）および、期末レポート（50%）によって総合的に評価する。

【テキスト】

『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間』（最新版）文部科学省
『小学校学習指導要領解説　特別活動』（最新版）文部科学省

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、伝える。

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業前後・昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	① ② ③	50%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題 の意図やこれまでの授業内容をりかいできていない。 誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	2,3,8,13回	14回	11回	4,5,6回		

科目名／専門教育 S616	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
生徒指導とキャリア教育	2年前期	選択（小免必修）	講義/単独	2単位	池口　洋一郎	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

生徒指導は、問題が起きたときに対応するものであると考えがちであるが、そのような「消極的な生活指導」と、子供たちの生活を有意義にさせる「積極的な生活指導」がある。本講義では、ディスカッションや体験を通して、生徒指導の基本的な理解と具体的な指導方法を学ぶ。さらに、いじめや不登校などの教育課題を取り上げ、実践的な指導法についても学ぶ。また、キャリア教育については、小学校1年生からすでに始まっているものであり、全教育活動で実施する進路指導のあり方について基礎理論とともに具体的な指導方法を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式を原則として、ディスカッション及び演習を取り入れる。小学校の教師としての役割や基本的な考え方を身に付け、実際の事例研究を通して、課題への対処法を考えていく。

【到達目標と学修成果】

①生徒指導の原理、ねらい、指導方法を理解している。
②子供たちを取り巻く現状や課題を理解し、具体的な対応について理解している。
③小学校における進路指導の基礎理論と具体的な指導の在り方を身に付けている。

回　数	授　業　内　容		授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第 1 回	ガイダンス　授業の進め方 ・生徒指導の概念整理	△	生徒指導提要(生徒指導の基本的な進め方)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 2 回	生徒指導・原理と方法 ・生徒指導の4本柱	△	生徒指導提要(生徒指導の基本的な進め方)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 3 回	キャリア教育(進路指導)の理論① ・社会全体で行うキャリア教育について	△	資料(キャリア教育①)を予習する。	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 4 回	キャリア教育(進路指導)の理論② ・小学校における進路指導	△	資料(キャリア教育②)を予習する。	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 5 回	問題行動の指導①　いじめ ・いじめの定義、いじめの未然防止と早期対応、いじめ防止対策推進法	△	生徒指導提要(個別の課題に対する生徒指導)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 6 回	関係機関との連携 ・抱え込みから開かれた連携へ	△	生徒指導提要(個別の課題に対する生徒指導)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 7 回	全教育活動で行うキャリア教育(進路指導)③ ・進路指導の配慮事項　・5つの視点	△	資料(キャリア教育③)を予習する。	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 8 回	問題行動の指導②　不登校 ・不登校の定義　推移　理由	△	生徒指導提要(不登校)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 9 回	地域と連携したキャリア教育(進路指導)④ ・職場体験の意義、実践事例	△	資料(キャリア教育④)を予習する。	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 10 回	様々な視点からのキャリア教育（進路指導)⑤ ・職業人から学ぶ	△	資料(キャリア教育⑤)を予習する。	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 11 回	学校カウンセリング ・スクールカウンセラー、ソーシャルスキルトレーニングの理論と実際	△	生徒指導提要(生徒指導の基本的な進め方)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 12 回	家庭との連携 ・家庭との連携の意義、方法、配慮点	△	生徒指導提要(生徒指導の基本的な進め方)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 13 回	情報教育の在り方(インターネット・携帯電話)	△	生徒指導提要(インターネット・携帯電話に関わる問題)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 14 回	問題行動の指導③　少年非行 ・少年非行とは　・少年非行の対応　・関係機関との連携	△	生徒指導提要(個別の課題に対する生徒指導)を予習する	90
		▽	今日の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 15 回	生徒指導　キャリア教育のまとめ	△	今までの学修を振り返る。	90
		▽	今までの学修をまとめる。	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(40%)および期末試験(40%)、授業外での活動(20%)によって総合的に評価する。
スマートフォン等を使用して、双方向型授業も数回行う。キャリア教育では外部講師による体験授業も実施する。

【テキスト】

文部科学省『生徒指導提要』（最新版）教育出版

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜紹介する。

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業前後・昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）	① ②	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第3・4・5・6回		第9回			

科目名／専門教育 S617	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育とICT活用	3年前期	選択 （小免必修）	演習/単独	1単位	伊庭　崇	／	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方及び児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

本授業では、情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法について学び、実践的な指導力を育成することを目的としている。
最初に情報通信技術の活用の意義と理論を押さえ、そのうえで、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進について詳しく学ぶ。その後、児童に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法の理解を深める。 また、単位の実質化にあたり、自学自習の充実が求められていることに鑑み、毎回、文献や資料の講読、演習などの課題を課す。

【到達目標と学修成果】

①情報通信技術の活用の意義と理論を理解している。
②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。
③児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付けている。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第 1 回	情報通信技術の活用の意義と在り方及び理論	△ 文部科学省ホームページより『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』を通読し、その内容をつかむ	20
		▽ 情報通信技術の活用の意義と在り方についてまとめる	15
第 2 回	社会的背景の変化を踏まえたICT活用による授業改善　理論	△ 文部科学省/mextchannelより『【小学校編】1人1台端末で学校が変わる！』を視聴し、その内容をつかむ	30
		▽ ICT活用による授業改善についてまとめる	15
第 3 回	社会的背景の変化を踏まえたICT活用による授業改善　演習	△ 事前課題として教示された方法に基づき、必要なテキストデータを準備する	30
		▽ 演習で得られた視点をもとにその視点の意味を調べ理解を深める	15
第 4 回	オンライン教育の意義と使用法　　（オンライン授業）	△ 文部科学省/mextchannelより『遠隔教育事例紹介』のA～Dを視聴し、その内容をつかむ／オンライン授業に参加できるようにデバイスの環境を整えておく	30
		▽ 事例をもとにデバイスを用いて他者と実験を行い、理解を深める	15
第 5 回	ICTを効果的に活用した指導事例　（オンライン授業）	△ 文部科学省ホームページより『ICTを活用した指導方法』を通読し、その内容をつかむ	30
		▽ 授業考案した内容についてブラッシュアップする	15
第 6 回	指導事例をもとにした授業考案	△ 指導事例をもとに授業提案できるように資料準備する	30
		▽ 授業考案した内容についてブラッシュアップする	15
第 7 回	情報活用能力を育成するための指導法	△ 文部科学省ホームページより『教育の情報化に関する手引-追補版-』を通読し、その内容をつかむ	30
		▽ 情報活用能力を育成するための指導についてまとめる	15
第 8 回	各教科等横断的に育成する情報活用能力　理論/授業考案	△ 文部科学省ホームページより『情報活用能力の育成～体系表例とカリキュラム・マネジメントモデルの活用～』を読み返し、その内容を復習しておく	30
		▽ 情報活用能力育成に伴う課題についてまとめる	15
第 9 回	各教科等横断的に育成する情報活用能力　グループ発表 ICTの基本操作と指導法	△ 各グループにおいて発表の準備をしておく	30
		▽ 発表された内容についてブラッシュアップする	15
第 10 回	情報活用能力を育成するための指導法【情報モラル】	△ 情報モラルに関して、近年問題になっている事例をつかむ	30
		▽ 授業内で提示した「情報モラル学習サイト」を全て実施する	15
第 11 回	ICTを活用した校務の推進　理論	△ 文部科学省/mextchannelより『ICTを活用した働き方改革の取組事例【小学校編】』を視聴し、その内容をつかむ	30
		▽ ICTを活用した校務の推進についてまとめる	15
第 12 回	ICTを活用した校務の推進　演習1	△ QRコードの作成方法について調べてくる	30
		▽ Googleサイト、フォームの使い方について習熟する	15
第 13 回	ICTを活用した校務の推進　演習2	△ マイクロソフトのアプリの使用方法を確認する	30
		▽ 授業内で出された課題を完成させる	15
第 14 回	教育データを活用した指導と評価	△ 文部科学省ホームページより『教育データの利活用について』を通読し、その内容をつかむ	30
		▽ 教育データの活用とはどのようなことかについてまとめる	15
第 15 回	まとめと授業の総括(含　確認テスト)	△ これまでの資料を及び教示を整理し、理解を深める	25
		▽ これまでの資料を及び教示をもとに各自再演習を行う	30

備考：　675

【履修上の留意点】

・欠席は原則認めない(除　病欠等により証明書等の提出がある場合)
・演習で利用したデータ等の保管用にUSBメモリやクラウド等を各自準備しておくこと。
・スマートフォン及び各自のPCを利用する場合がある(特に授業外学習)。また、必要に応じて持参すること。
・大学から案内されているシステムやZoom(遠隔授業が必要な場合)の利用環境を整えておくこと。
・提出物等は大学から案内されているシステムを利用する予定である。それ以外の提出、例えばメール添付などは評価の対象外とする。また、1MB以上のメール添付を了解なく授業担当者に送信した場合、礼節に欠けたメール等の連絡は、減点対象とする。
・授業で使用するコンテンツについては、受講生以外が閲覧、所持することはできない。受講生にあっては、受講生以外に複写を渡す、webにアップするなどのことがないようにすること。
・reflectionについては、評価対象であるとともに、自身の学びにとって必要なものである。授業で記録をとり、自宅等でまとめ直すなど、課外の学習時間の充実を図り、求められた際には提出すること。
・何事も「できなかった理由」を考えるのではなく、どのようにすれば「できるか」、「ベター」であるかを考えること。
・提出物などの締切は、厳守すること。原則遅延は評価対象外とする。
・連絡は全てメールによる事前連絡を原則とするが、所属や氏名など記入忘れのないようにするとともに、PCメールが受信できるアドレスから発信すること。
・本科目で取り扱う知識は、全てを講義内で網羅することはできないことから、必要に応じて各自調べるとともに、受講者間で学び合うこと。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

参考資料・参考文献等は、LMS等を用いて教示する。

【連絡方法】　面接授業における授業内及び前後を基本とし、必要に応じて授業内に教示されるメールにて一週間の余裕をもって連絡

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	100%	情報通信技術の意義と理論について非常に理解している。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について非常に理解している。 またさらに、児童に情報活用能力を十分に育成するための指導法を考案できる。	情報通信技術の意義と理論についてかなり理解している。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方についてかなり理解している。 またさらに、児童に情報活用能力を育成するための指導法をかなり考案できる。	情報通信技術の意義と理論について概ね理解している。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について概ね理解している。 またさらに、児童に情報活用能力を育成するための指導を資料などをもとに検討できる。	情報通信技術の意義と理論についてあまり理解できていない。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方についてあまり理解できていない。 またさらに、児童に情報活用能力を育成するための指導を少し検討できる。	情報通信技術の意義と理論についてほとんど理解できていない。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方についてほとんど理解できていない。 また、児童に情報活用能力を育成するための指導がほとんど検討できない。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第 6,9 回		第 9,12,13 回	第4,6,12回	第 3,9,12,13 回	

科目名／専門教育 S618-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
国語科指導法	2年後期	選択（小免選必）	演習／単独	2単位	長田 信彦	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

小学校国語科の目標と内容を踏まえた上で、国語科の授業を構築するための基本的な学習指導過程、教材研究の方法を理解する。そして、学習指導案が作成できるようにし、実際の授業を構想できるようにすることが目標である。作成した指導案によって模擬授業も行う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。小学校国語科の目標と内容の基礎的事項を認識するとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」並びに「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」などの領域ごとの指導計画、教科書の使い方、評価の方法を実際的、具体的な事例を用いて学習する。

【到達目標と学修成果】

①小学校国語科教育の目標と内容を理解することができる。
②教壇に立った際に実践できる国語科の指導法を身につける。
③国語科各領域の具体的な学習指導案の作成を通して、各領域ごとの実際的な授業構想力と指導力を身につけることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス。国語科教育の目標・内容を理解する。国語科教育の歴史概観について学ぶ。	△「国語科教育」について考えをまとめておく。	90
		▽「国語科教育」についてレポートに書く。	90
第2回	小学校学習指導要領に基づいた各学年の目標と内容について理解し、課題について認識する。	△「小学校学習指導要領解説国語編」の予習	90
		▽各学年の目標と内容をまとめてノートに書く。	90
第3回	言語のもつ特質を理解し、言語活動の充実の重要性について理解を深める。	△小学校学習指導要領解説国語編p16～22の予習。	90
		▽言語活動についてノートにまとめる。	90
第4回	国語科学習指導案の構成や内容を理解する。評価規準と判定基準について理解する。ICT機器を用いて板書計画を行う。	△指導案に関する資料を読んでおく。	90
		▽ICT機器を活用した板書計画を作成する。	90
第5回	学習指導案作成の実際。教材『ひとつの花』の作品分析を通して指導案の構成を考える。指導案を作成する。	△教材「ひとつの花」を読んでおく。	90
		▽4年「読むこと」の留意点をノートにまとめる。	90
第6回	学習指導案作成の実際。教材『ひとつの花』の指導案に基づき、模擬授業を実践する。	△「ひとつの花」の板書計画を考えておく。	90
		▽模擬授業の分析と課題をノートにまとめる。	90
第7回	学習指導案作成の実際。低学年対象『かたかなのひろば』の教材研究と指導案作成。	△「かたかなのひろば」の教材を読んでおく。	90
		▽2年言葉の特徴や使い方に関する事項をまとめる	90
第8回	模擬授業の実際と分析。「かたかなのひろば」の模擬授業の実践と分析。	△板書計画を考えておく。	90
		▽模擬授業の分析と課題をノートにまとめる。	90
第9回	学習指導案作成の実際。中学年対象「ごんぎつね」の教材研究と指導案作成。	△『ごんぎつね』の教材を読んでおく。	90
		▽一回めの授業の指導案を作成する。	90
第10回	模擬授業の実際と分析。「ごんぎつね」の模擬授業の実践。	△小学校学習指導要領解説国語編p206の予習。	90
		▽模擬授業の分析と課題をノートにまとめる。	90
第11回	模擬授業の実際と分析。「ごんぎつね」の模擬授業の実践から見える課題について分析。	△模擬授業分析と課題のプレゼンテーション準備	90
		▽模擬授業実践の留意点をノートにまとめる。	90
第12回	学習指導案作成の実際。高学年対象「百年後のふるさとを守る」の教材研究。	△「百年後のふるさとを守る」を読んでおく。	90
		▽伝記の特長についてノートにまとめる。	90
第13回	「百年後のふるさとを守る」の学習指導案を作成する。	△小学校学習指導要領解説国語編p206の予習。	90
		▽板書計画を考えておく。	90
第14回	指導案に基づき模擬授業を実践する。分析をする。	△指導案の確認をしておく。	90
		▽模擬授業の分析と課題をノートにまとめる。	90
第15回	振り返りとまとめ	△配付資料の復習をしておく。	90
		▽模擬授業に関するレポートを作成する。	90

備考： この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。 2700

【履修上の留意点】

「小学校学習指導要領解説 国語編」をよく理解して授業に臨むこと。

【テキスト】

特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版、最新版/森田信義他『新訂 国語科教育学の基礎』溪水社、2010/
牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ 小学校国語科教育法』ココ出版、2012

【連絡方法】 初回の授業時に伝える

【オフィスアワー】 授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート	②③	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①②③	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第6, 8, 11, 14回	第6, 8, 10, 14回		第4, 5, 7, 9, 12-13回		

科目名／専門教育 S618-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会科指導法	2年前期	選択（小免選必）	演習／単独	2単位	山本　剛	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

この授業は、小学校教諭免許状取得希望者を対象とする、小学校社会科の授業担当者として必要な実践的能力の確立を目指すものである。具体的には、学習指導要領に示される社会科の目標と内容、指導理論および実際の指導方法と授業設計の在り方について、現場の教育(実習)を想定した実践的指導法を身に付けることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

小学校における社会科教育のねらいと指導の実際について、基礎知識に関する講義、受講生のパーソナルワークおよびグループディスカッションによる学習指導案の作成、情報機器および教材の活用を含む模擬授業の実施と振り返り等を通して小学校社会科の授業担当者として必要な実践的能力の確立を目的とする。

【到達目標と学修成果】

①小学校における社会科教育の意義について、歴史的な背景を踏まえて理解し、説明することができる。
②『小学校学習指導要領』に基づく社会科教育の目標と内容について理解し、説明することができる。
③社会科の指導理論を踏まえて、実際の授業設計と学習指導案を作成し、実習に臨むことができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第１回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「社会科」について自分の意見をまとめておく	30
		▽「私の社会科体験」についてノートにまとめる	45
第２回	Ⅰ．社会科の意義と目標・内容①　戦後教育改革と「社会科」の誕生	△テキスト第1章の予習	45
		▽「戦後教育改革」についてノートにまとめる	45
第３回	Ⅰ．社会科の意義と目標・内容② 社会科教育の歴史的変遷	△テキスト第1章の復習	45
		▽「社会科の目標」についてノートにまとめる	45
第４回	Ⅱ．小学校における社会科教育① 教育目標と全体構造	△テキスト第2章(2節1)の予習	45
		▽「社会的事象」について自分の考えをまとめる	45
第５回	Ⅱ．小学校における社会科教育② 学習内容と学習評価	△テキスト第2章(2節1)の復習	45
		▽「社会科の評価」についてノートにまとめる	45
第６回	Ⅱ．小学校における社会科教育③ 指導方法と教材研究および情報機器の活用	△テキスト第2章(2節2)の予習	45
		▽「社会科見学」について自分の考えをまとめる	45
第７回	Ⅲ．社会科指導の計画と実際① 中学年(3年生・4年生)の単元指導	△テキスト第2章(2節2)の復習	45
		▽「私たちのまち」についてノートにまとめる	45
第８回	Ⅲ．社会科指導の計画と実際② 高学年(5年生・6年生)の単元指導	△テキスト第2章(2節3)の予習	45
		▽「私たちのくに」についてノートにまとめる	45
第９回	Ⅳ．学習指導案の検討・作成①　問題解決的な学習(導入の方法) グループワークA	△テキスト第2章(2節3)の復習	45
		▽グループワークAに関する振り返り	120
第10回	Ⅳ．学習指導案の検討・作成②　展開(発問の仕方) グループワークB	△グループワークBの準備	180
		▽グループワークBに関する振り返り	120
第11回	Ⅳ．学習指導案の検討・作成③　授業のまとめ(今後の課題) グループワークC	△グループワークCの準備	180
		▽グループワークCに関する振り返り	120
第12回	Ⅴ．模擬授業の実施と振り返り①　課題探求の実践 プレゼンテーションA	△プレゼンテーションAの準備	240
		▽プレゼンテーションAに関する振り返り	120
第13回	Ⅴ．模擬授業の実施と振り返り②　調査の方法 プレゼンテーションB	△プレゼンテーションBの準備	240
		▽プレゼンテーションBに関する振り返り	120
第14回	Ⅴ．模擬授業の実施と振り返り③　発展 プレゼンテーションC	△プレゼンテーションCの準備	240
		▽プレゼンテーションCに関する振り返り	120
第15回	授業の総括とリフレクション	△授業内容の総復習	90
		▽各自の取り組みに関する振り返り	60

備考：　2700

【履修上の留意点】

・各自の「学習指導案」作成と「模擬授業」が中心の授業となるため、授業計画策定の前提となる前半期に欠席がかさんだ者は、以後の履修を認めない。※「地域社会概論」ないし「社会」を履修済み(もしくは履修中)であることが望ましい。

【テキスト】

・『小学校学習指導要領解説　社会編』（最新版）

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】　初回の授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	③	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：・授業での取組：グループワークによる「学習指導案」の作成(50%)と「模擬授業」(プレゼンテーション)の実施(50%)
※授業時間内の取り組みだけでは限界があるため、授業外の取り組みが大前提となる。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第9回～第11回	第12回～第14回				

科目名／専門教育　S618-3	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
算数科指導法	2年前期	選択（小免選必）	演習／単独	2単位	若林　研司	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

算数科の5つの領域に関する目標、内容、手立て、評価を関連付け、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して」数学的に考える資質・能力を育成する指導法について考究する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

教科書の単元、授業の展開についてグループワークを通して見識を深め、授業計画を立案し、模擬授業を実施し、協働的な学びを通して実践力を高めていく。

【到達目標と学修成果】

①算数科の目標、内容を理解し、数学的な見方、考え方を働かせる数学的活動を中核とした授業計画を立て、模擬授業を実施することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	学習指導要領に示されている目標の理解、学習指導案の書き方	△ 算数科で育む資質・能力の内容を捉える	90
		▽ 資質・能力の内容をノートにまとめる	90
第2回	模擬授業の実際、授業設計1　教材研究(グループワーク)	△ 授業の進め方を調べる	90
		▽ 子ども目線で参加した模擬授業を分析する	90
第3回	模擬授業1，2(B 図形、D データの活用)	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	90
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	90
第4回	模擬授業3，4(A 数と計算、D データの活用)	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	90
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	90
第5回	模擬授業5，6(A 数と計算、B 図形)	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	120
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	60
第6回	授業設計2　教材研究(グループワーク)	△ 教材・教具の準備等、模擬授業の準備をする	90
		▽ 授業を実施する際の留意点をまとめる	90
第7回	模擬授業7，8(B 図形、D データの活用)	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	90
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	90
第8回	模擬授業9，10(A 数と計算、D データの活用)	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	120
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	60
第9回	模擬授業11，12(A 数と計算、B 図形)	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	90
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	90
第10回	授業設計3　教材研究(グループワーク)	△ 教材・教具の準備等、模擬授業の準備をする	120
		▽ 授業を実施する際の留意点をまとめる	60
第11回	模擬授業13，14(B 図形、D データの活用)	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	90
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	90
第12回	算数についての学習指導の改善①（子供たちの考えを意欲的に説明させる指導方法）	△ 学習指導計画について調べる	120
		▽ 学習指導計画の改善についてまとめる	60
第13回	算数についての学習指導の改善②（指導内容改善の着眼点）	△ 学習指導計画について調べる	90
		▽ 学習指導計画の改善についてまとめる	90
第14回	模擬授業15，16(A 数と計算、D データの活用)	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	120
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	60
第15回	模擬授業17，18(A 数と計算、B 図形)、まとめ	△ 模擬授業における学習指導案の作成準備をする	90
		▽ 実践的な学習指導案の書き方をまとめる	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

模擬授業を中心に行い実践的な学びを深めていく。事前の学習では、クラスルームにアップするプレゼンの内容の確認と算数科の教科書を活用し、グループのメンバーと学習内容、授業計画について考えておくこと。

【テキスト】

特になし

【参考書・参考資料等】

小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説算数編　文部科学省

【連絡方法】　授業時　クラスルーム

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート	①	20%	「ノート」を作成し、各講義の課題の意図を的確に把握し、自分の考えを記述している。	「ノート」を作成し、各講義の課題の意図を的確に把握し、記述している。	「ノート」を作成し、各講義の課題の意図を把握し記述しているが、改善すべき内容の記述がある。	課題の意図を部分的に捉え、「ノート」への記述内容が不十分である。	課題の意図を捉えておらず、「ノート」には課題の内容に関わらない内容の記述が大部分を占めている。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①	50%	授業計画の作成、模擬授業を通して、課題を自分のこととして捉え、意欲的に取り組み、課題改善を図っていくなどの姿勢が観られ、模範となった。	授業計画の作成、模擬授業を通して、課題を自分のこととして捉え、意欲的に参画していた。	授業計画の作成、模擬授業を通して、課題関する自分の考えをもち参加していた。	授業計画の作成、模擬授業を通して、課題への取り組みに参加しようと努力していた。	授業計画の作成、模擬授業の場面での課題への取り組みが不十分であり、算数科の指導法に関する理解が不足している。
授業外での取組	①	30%	授業計画の作成、模擬授業への取り組みに向け、課題を的確に捉え、授業外での学習に積極的に取り組んでいた。その成果が授業で観られた。	授業計画の作成、模擬授業への取り組みに向け、課題の内容を捉え授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められた。	授業計画の作成、模擬授業への取り組みに向け、課題の内容を捉え授業外の学習に取り組んでいた。	授業計画の作成、模擬授業への取り組みに向け、授業外での学習に取り組もうと努力する姿が見うけられた。	授業外での学習への取組が不十分であり、授業内での学びにつなげることができていなかった。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	1・2・6・10・12・13	3・4・5・7・8・9・11・14・15		2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15		

科目名／専門教育 S618-4	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
理科指導法	2年後期	選択（小免選必）	演習／単独	2単位	飯田　和也		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

小学校理科の目標、内容、方法など、現代の小学校理科教育の基礎的・基本的な内容を理解させるとともに、理科授業作りの基礎基本を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

理科教育の目的・目標、内容、方法、そして現代的な特色などを取り上げ、検討する。その際、講義と演習を交え、できるだけ発表や討論の機会を設けることとする。

【到達目標と学修成果】

①日本の理科教育の特色を、諸外国と比較して、その特色を指摘できる。
②理科教育課程(カリキュラム)の水平・垂直次元の枠組み(スコープとシーケンス)を説明できる。
③理科学習指導案の構成要素を理解し、基礎基本を踏まえた学習指導案を作成できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス －本授業の内容や進め方に関するガイダンス－	△ テキスト付録「学校教育法施行規則」の熟読	90
		▽ テキスト付録「小学校学習指導要領　総則」の熟読	90
第2回	1.理科教育の目的・目標並びに育成すべき資質・能力と学習指導要領の特色　－理科教育全体の目的と小学校理科教育の役割－	△ テキスト第1章「総説」の予習	90
		▽ テキスト第2章第1節「教科の目標」の熟読	90
第3回	2.理科の内容の全体構成とその特色 －諸外国との比較を交えて－	△ テキスト第2章第2節「理科の内容構成」の予習	90
		▽ 配布資料により諸外国の理科教育について復習	90
第4回	3.小学校理科の内容① －A:物質・エネルギー、B:生命・地球－	△ テキスト第2章の図1～3(pp.22-26)の予習	90
		▽ 同上を基にもう一度、内容とその構成について復習	90
第5回	3.小学校理科の内容② －自然科学を超える要素:実社会・実生活との関連付け、キャリア教育の要素など－	△ 理科の内容は純粋科学だけかどうか調べる	90
		▽ 配布資料により米国の内容と比較考察する	90
第6回	4.授業づくりの基礎基本 ―教材研究と子どもの自然認識特性―	△ つまづき・ミスコンセプションの例を調べる	90
		▽ ミスコンセプションの例と原因について復習	90
第7回	第6回までに関する小テスト(30分程度)と振り返り、及び　5.理科学習指導案の構成要素	△ 理科学習指導案の様式について予習	90
		▽ 小テストの復習	90
第8回	6.理科学習指導案の作成① －学習指導案の実例の比較検討(授業目標と評価を中心として)－	△ 目標・授業展開・評価の一貫性について予習	90
		▽ 指導案での目標・展開・評価の関係に関する復習	90
第9回	6.理科学習指導案の作成② －各班で選択した単元について個人ごとに授業プランを考える－	△ 指定の単元について粗い授業プランを作ってみる	90
		▽ 選択した単元の授業プランの具体化	90
第10回	6.理科学習指導案の作成③ －班別に学習指導案として具体化(情報機器の活用を含む)－	△ 理科で活用できる情報機器について調べる	90
		▽ 学習指導案における情報機器の活用の復習	90
第11回	7.模擬授業の準備 －学習指導案の本時を模擬授業案として具体化(情報機器の活用を含む)－	△ 第一次第1時の模擬授業の実際を考える	90
		▽ 同上の精緻化	90
第12回	8.模擬授業の実施と改善視点の探究 ―班別に導入部を中心に実施―	△ 模擬授業の留意点の整理	90
		▽ 模擬授業の振り返りと改善視点の深化	90
第13回	9.理科教育における最近の話題を考える① ―理科における言葉・言葉の力―	△ 「言語活動の充実」の背景を調べる	90
		▽ 言葉・概念・論理の重要性について復習	90
第14回	9.理科教育における最近の話題を考える② ―理科教育と環境教育との関係・差異―	△ ESDやSDGsについて調べる	90
		▽ 理科教育と環境教育の関連の復習	90
第15回	第14回までに関する小テスト(30分程度)と振り返り、及び本授業全体のまとめ	△ これまでの授業の復習	90
		▽ 学生時代に行うべき学習について再確認する	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

「理科」と合わせて受講すること。
受講者の様子を見て、カリキュラムや評価方法は変更する可能性がある。

【テキスト】

・文部科学省編「小学校学習指導要領 解説 理科編」（最新版）、文科省HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm

【参考書・参考資料等】

1.理科教育研究会編『新学習指導要領に応える理科教育』、東洋館出版社、2009年
2.鶴岡義彦監修 千葉市教育センター編『Q&A方式でよくわかる小学校教師のための理科基礎知識』、大日本図書、2012年

【連絡方法】 第1回目に伝えます。

【オフィスアワー】 昼休み12:30～13:00

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート	③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		第12回	第8回～第11回			

科目名/専門科目 S618-5	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
生活科指導法	3年前期	選択（小免選必）	演習/単独	2単位	山嵜　早苗	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

生活科の教科としての特徴や魅力を実践的に体験する中で理解できるようにする。子どもの実態や地域の様子、教師の見取りや評価の在り方についても考えることができるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。子どもの生活環境に即した単元構成を試みながら、授業計画の立て方を指導する。生活科にふさわしい総合学習の計画と運営ができるように授業の実践例を参考にしながら教材研究し、情報機器を活用した指導案の作成や模擬授業を行うことができる力を養う。

【到達目標と学修成果】

①生活科の教科としての特徴がわかり、子どもの生活環境に合った指導案を作成することができる。
②作成した指導案をもとに情報機器などを活用しながら模擬授業をすることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	生活科の教科目標の構成について　自然を探索する活動「のはらたんけんたい」	△「のはらたんけん隊」の実践論文を読む	90
		▽有明キャンパスの自然探索で発見したことをまとめる	90
第2回	生活科の内容構成と教材研究について　テーマ「春の自然発見から自然料理へ」	△自然料理の実践論文を読む	90
		▽自然料理の体験をレシピにまとめる	90
第3回	気付きを深める振り返りと表現活動　実践例「春の味交流会」など	△「体験を基にした多様な表現方法」の実践論文を読む	90
		▽論文の中の子どもの気付きを読み取る	90
第4回	身近な地域を探索する活動　町探検で出会うもの・人・こと	△有明の町探検を行う計画を考える	90
		▽町探検のまとめを発表する方法を整理する	90
第5回	自然の不思議や面白さ発見　「自然素材の遊び」の実際	△種や草花などの遊び方を調べる	90
		▽季節ごとの自然遊びをまとめる	90
第6回	継続的な飼育活動　「生き物ランド」「ヤゴ救出作戦」PC教材の活用	△水棲生物の生態と体験について実践論文を読む	90
		▽ヤゴの羽化を通して継続的な飼育に取り組む	90
第7回	継続的な栽培活動　有明農園で野菜を育て夏野菜料理に挑戦！	△夏野菜を収穫した料理の計画を立てる	90
		▽野菜栽培のまとめを表現する	90
第8回	幼児教育との接続　「なかよし学校探検」	△学校探検の実践論文を読む	90
		▽スタートカリキュラムの重要性をまとめる	90
第9回	交流する場の工夫　お年寄りと伝承遊び	△ゲストティーチャーを招いた実践論文を読む	90
		▽伝承遊びの遊び方をまとめる	90
第10回	他教科との関連的な活動　創作曲「ザリ君の目はビー玉」	△生き物飼育から広がった実践論文を読む	90
		▽多様な表現活動の例を考える	90
第11回	伝え合う活動　自分の成長「自分のきらり　みんなのきらり」	△自分と学級の成長を発表する実践論文を読む	90
		▽自分の成長を見出せる学習を考える	90
第12回	生活科の指導計画の作成　24か月の年間指導計画と評価	△2年間を見通した年間計画例を読む	90
		▽自分の取り上げたい単元について考える	90
第13回	単元指導計画の作成　各自が設定した地域・子どもへの指導案づくり　PC室でPC入力	△生活科の指導案例を構想する	90
		▽自分の指導計画を作成する	90
第14回	生活科の学習指導　情報機器を使って模擬授業　指導案の提案・課題の発見・修正　PC室で再入力	△模擬授業を行う準備をする	90
		▽指導案の修正を行う	90
第15回	まとめ	△自分の指導案を完成させる	90
		▽他の学生の指導案を読む	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験(初等中等教育の学校等)も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

調理費　200円程度

【テキスト】

文科省『小学校学習指導要領解説　生活編』（最新版）

【参考書・参考資料等】

特になし。

【連絡方法】　yrose8201@gmail.com

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。主体的に授業に臨もうと努力していた。	・授業外での取組に参加することができた。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	40%	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組内容に取り組むことができた。	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第3回、第15回	第14回	第2回、第4回			

科目名／専門教育 S618-6	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
家庭科指導法	3年後期	選択（小免選必）	演習/単独	2単位	伊藤 野里子	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

家庭科教育の意義を踏まえ、小学校家庭科で育成を目指す資質・能力(三本柱)と学習内容の学問的基盤を理解し、指導に必要な知識・技能及び実践的な授業構成力を身につけることをねらいとする。あわせて、家庭科教育における「ものづくり教育」に焦点をあて、その特質である「生活の課題解決的学習」のプロセスと学習方法を理解し、授業づくりに生かす視点を養うことを重視する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義、小発表、調理・被服実習、指導計画の作成や模擬授業を含む演習形式。家庭科教育の理念(資質・能力、ものづくり教育、課題解決的学習、主体的・対話的で深い学び、家庭科の学びを支える視点)を体系的に学び授業づくりの基盤を形成する。内容領域に応じ教材研究を行い、学習指導案の作成・発表と模擬授業を通して実践的授業構成力を育成し、「指導と評価の一体化」に基づく「評価規準」の考え方と実践を学ぶ

【到達目標と学修成果】

①家庭科教育の意義を理解し、ものづくり教育、課題解決的学習、主体的・対話的で深い学びの視点から説明できる。
②小学校家庭科の目標・内容および学習評価を理解し、家庭科の学びを支える視点を踏まえた指導方法について説明できる。
③家庭科の課題解決的学習の特質と「指導と評価の一体化」を反映した、学習指導案の作成と模擬授業を通して、授業構成力を高める。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	家庭科教育における生活課題の解決と現代的課題 ―「ものづくり教育」と資質・能力の視点から	△シラバスを読み授業の概要を知る	90
		▽授業の進め方の確認と、家庭科教育の意義の整理	90
第 2 回	小学校家庭科の目標・内容構成と学習評価 ―育成したい資質・能力と「家庭科の学びを支える7つの視点」	△指導要領解説の第1章、第2章第1,2節、第3章2を読み予習	90
		▽小学校家庭科の構成、資質・能力と「学びを支える視点」の整理	90
第 3 回	家庭科における「主体的・対話的で深い学び」と課題解決的学習 ―理解と実際(小発表)	△指導要領解説の第3章1(1)と関連資料を読み予習する	90
		▽家庭科の「課題解決的学習」についてのまとめ・発表の評価	90
第 4 回	小学校家庭科の指導計画① ―指導計画作成上の配慮事項と指導計画の構成・立て方	△指導要領解説の第3章1と「教科書」を読み予習する	90
		▽指導計画の目的、構成、留意点について復習する	90
第 5 回	「家族・家庭生活」① ―多様化する家族・家事参加の現状と、成長と家族への気づきを促す学習課題と指導上の配慮	△「家族・家庭生活」の学習に関する資料を読み予習	90
		▽「家族・家庭生活」の学習の課題と意義をまとめる	90
第 6 回	「家族・家庭生活」② ―学習内容「自分の成長と家族・家庭生活」の教材研究とガイダンス授業の構成	△指導要領解説の第2章第3節「A家族・家庭生活」を読む	90
		▽家庭科の「ガイダンス授業」の要点について復習する	90
第 7 回	「衣食住の生活」1.「食生活」① ―「食事の役割・調理の基礎・栄養を考えた食事」と、食育の視点を踏まえた教材研究	△指導要領解説第2章第3節「B衣食住」「食生活」を読む	90
		▽食育の一層の充実を図る指導について復習をする	90
第 8 回	「衣食住の生活」2.「食生活」② ―「調理の基礎」の教材研究と、科学的理解につながる調理実習の工夫	△科学的理解に視点を置いた調理実習の資料閲覧と準備	90
		▽生活事象の科学的理解について整理/実習の評価	90
第 9 回	「衣食住の生活」3.「衣生活」① ―「衣服の着用と手入れ」の教材研究と、家庭との連携を通した日常生活への活用	△指導要領解説の第2章第3節「B」「衣生活」を読む	90
		▽学習した知識・技能の定着や活用の工夫について整理	90
第 10 回	「衣食住の生活」4.「衣生活」② ―「布を用いた製作」の教材研究と、生活体験や技能に応じた被服実習の工夫	△生活体験や技能に応じた指導の資料を読む/製作の計画	90
		▽生活体験や技能に応じた指導について整理/実習の評価	90
第 11 回	「衣食住の生活」5.「住生活」 ―「快適な住まい方」の教材研究と、ICTを活用した学び	△指導要領解説の第2章第3節「B」「住生活」を読む	90
		▽ICTを活用した授業展開や内容について整理する	90
第 12 回	「消費生活・環境」 ―身近な生活課題から考える学習と、SDGs・地域・環境とのつながり	△指導要領解説第2章第3節「C消費生活・環境」を読む	90
		▽「消費生活と環境」の指導の要点についてまとめる	90
第 13 回	小学校家庭科の指導計画② ―「指導と評価の一体化」に基づく学習評価とその方法・事例検討と指導計画の要点確認	△参考書②の第3編(特にp33～41)を読み予習する	90
		▽評価方法を確認し、指導案作成の全体的要点を整理する	90
第 14 回	小学校家庭科の指導計画③ ―学習指導案と部分的な模擬授業の発表と検討	△学習指導案を作成し、部分的模擬授業の準備をする。	90
		▽発表・検討後、学習指導案を改善し修正版をまとめる	90
第 15 回	まとめ ―作成した指導計画の振返り・学期末定期試験	△定期試験(まとめ小文のテーマや内容)の予習	90
		▽学習した内容について目標到達状況の自己評価	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

・授業内の提出プリント10%、「調理実習」と「裁縫作品の作製実習」で20%、学習指導案・模擬授業35%、・学期末定期試験35%の配分に基づき、総合的に評価する(但し学期末定期試験の点数は60%以上とることを単位認定の必要要件)。裁縫作品の完成・提出(作製に関連して作成する記録等も含む)及び、学習指導案(部分的な模擬授業含む)の発表・提出は単位認定に必須。なお、提出物別配点と評価方法別配点(下記表)は、観点が異なるため、数値は一致しません。
・教材費(調理実習・裁縫作品作製の費用)は、学生負担である(約1100円) 。

【テキスト】

・「小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 家庭編」 文部科学省 (HPにPDF版あり) 東京書籍
・授業時の配布資料

【参考書・参考資料等】

①「初等家庭科教育法 気づく・考える・実践する力を育む授業づくり」渡瀬典子他 萌文書林2023②「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 家庭」国立教育政策研究所」(pdf版あり)2020③「小学校学習指導要領 平成29年告示」文科省(HPにpdf版あり)

【連絡方法】 主としてGoogle Classroom(n-ito@g.ariake.ac.jp) 。Google ClassroomのクラスコードはUNIPA掲示板に掲載する。

【オフィスアワー】 基本的に授業時間の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	50%	小学校家庭科の意義を説明することが十分にできる。家庭科学習に応じた指導方法を十分に説明できる。指導計画の意図を反映した指導案の作成・発表と部分的模擬授業が十分適切にできる。	小学校家庭科の意義を説明することができる。家庭科学習に応じた指導方法を説明できる。指導計画の意図を反映した指導案の作成・発表と部分的模擬授業を適切に行うことができる。	小学校家庭科の意義を概ね説明することができる。家庭科学習に応じた指導方法を概ね説明できる。指導計画の意図を反映した指導案の作成・発表と部分的模擬授業を概ね行うことができる。	小学校家庭科の意義の説明が断片的。家庭科学習に応じた指導方法の説明が表層的。指導計画の意図を反映した指導案の作成・発表と部分的模擬授業にまとまりがなく努力を要する。	小学校家庭科の意義を説明することができていない。家庭科学習に応じた指導方法の説明がほぼできない。指導計画の意図を反映した指導案の作成・発表と部分的模擬授業が不十分である。
期末 レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	35%	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が十分できている。趣旨を十分に理解した小発表を行うことができている。授業の実習に積極的に参加し、十分な成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解ができている。趣旨を理解した小発表を行うことができている。授業の実習に積極的に参加し、成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が概ねできている。趣旨を概ね理解した小発表を行うことができている。授業の実習に参加し、概ね成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされているが、授業内容の理解にばらつきがある。小発表を行うが趣旨の理解に沿った内容としてのまとまりがない。授業の実習に参加しているが、成果については努力を要する。	授業内のプリント提出が十分になされず、授業内容の理解が十分にできていない。趣旨を理解した小発表を行うことができていない。授業の実習の参加状況に不足があり、成果が不十分である。
授業外での取組	③	15%	指導案の計画・作成を的確に行い、発表・検討をもとに適切に再構成し、十分に整合性のある指導案を仕上げることができる。 部分的模擬授業の準備を適切に行っている。	指導案の計画・作成を行い、発表・検討をもとに再構成し、整合性のある指導案を仕上げることができる。 部分的模擬授業の準備を行っている。	指導案の計画・作成を行い、発表・検討をもとに再構成し、概ね整合性のある指導案を仕上げることができる。 部分的模擬授業の準備を概ね行っている。	指導案の計画・作成を行い発表したがまとまりがなく、検討が再構成に十分に反映されておらず、整合性のある指導案を仕上げることに努力を要する。 部分的模擬授業の準備を行った姿勢が見られるが努力を要する。	指導案の計画・作成、発表・検討、再構成、仕上げが不十分で、指導案に整合性がみられない。 部分的模擬授業の準備に取り組んだ姿勢がみられない。

備考：【履修上の注意点】に記載されている提出物別配点と、評価方法別配点（上記表）は、観点が異なるため、数値は一致しません。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第14回	第3，14回	第8，10回			

科目名／専門教育 S618-7	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
音楽科指導法	3年後期	選択（小免選必）	演習／単独	2単位	三小田　美稲子	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

小学校における音楽科教育の基礎知識や概念を学ぶ。発表・模擬授業を主に行う。小学校の音楽教育で大切なことは何か、自ら考え行動できる力を身につけることを目指す。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

表現と鑑賞の各活動を体験しながら、知識を獲得し、指導法について考える。また、授業計画の立て方や指導案の書き方について学ぶ。ICTを利用する方法やアクティブラーニングを取り入れた、発表や模擬授業などの演習中心の授業となる。

【到達目標と学修成果】

①小学校音楽科の授業内容を知り、教材研究ができるようになる。
②授業の評価と評価の方法を理解し、指導案を作成できるようになり、模擬研究を行うことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス 授業の内容と進め方 音楽理論のまとめ	△シラバスを見て、授業の流れを把握しておく	90
		▽音楽理論についてまとめる	90
第2回	音楽科の目標と指導内容	△学習指導要領の全体と各学年の目標を読む	90
		▽音楽科の目標と学習内容をまとめる	90
第3回	表現(歌唱)領域の内容と指導方法 ICTを使った指導方法	△学習指導要領の歌唱を読み、疑問をまとめる	90
		▽歌唱領域の内容とICTを使った指導方法についてまとめる	90
第4回	表現(器楽)領域の内容と指導方法 リコーダーの奏法	△リコーダーの奏法についてまとめる	90
		▽合奏で使用する楽器についてまとめる	90
第5回	表現(器楽)領域の指導のポイントとICTを使った指導方法	△学習指導要領の器楽を読み、疑問をまとめる	90
		▽器楽指導上のポイントとICTの使用方法についてまとめる	90
第6回	表現(音楽づくり)領域の内容と指導方法	△学習指導要領の音楽づくりを読み、疑問をまとめる	90
		▽音楽づくりの指導方法についてまとめる	90
第7回	表現(音楽づくり)領域のさまざまな指導方法とICTを使った指導方法	△学習指導要領の音楽づくりを読み、疑問をまとめる	90
		▽音楽づくりのさまざまな指導方法とICTを用いた指導方法をまとめる	90
第8回	鑑賞領域 音楽史	△西洋音楽史についてまとめる	90
		▽鑑賞した曲についてその特徴と作曲家についてまとめる	90
第9回	鑑賞領域の内容と指導方法 ICTと使った指導方法	△学習指導要領の鑑賞を読み、疑問をまとめる。	90
		▽鑑賞の指導方法のポイントについてまとめる	90
第10回	学習指導案の作成方法 評価規準と指導計画について	△学習指導要領を読み、評価規準について調べる	90
		▽評価規準と指導計画の作成方法についてまとめる	90
第11回	学習指導案の作成方法 グループでの作成	△学習指導案を作成する	90
		▽学習指導案を修正する	90
第12回	模擬授業の実践(低学年)	△模擬授業の準備	90
		▽模擬授業の省察	90
第13回	模擬授業の実践(中学年)	△模擬授業の準備	90
		▽模擬授業の省察	90
第14回	模擬授業の実践(高学年)	△模擬授業の準備	90
		▽模擬授業の省察	90
第15回	授業の総括	△音楽を指導する際に重要だと思うことをまとめておく	90
		▽音楽の授業の流れと手立てについてまとめる	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

専門的で実践的な力を身につけることを目的とし、実務経験を踏まえた教育の現場に即した授業を行う。そのため授業はグループでの活動や議論を中心に行われるので、積極的に参加することが望ましい。

【テキスト】

文部科学省編纂　『小学校学習指導要領解説　音楽編』（最新版）

【参考書・参考資料等】

初等音楽科教育（ミネルヴァ書房）、音楽科教育とICT（音楽之友社）

【連絡方法】　初回授業時に指示する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	②	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・授業で説明した流れ、内容、留意点に沿って書かれていると同時に豊かな発想と工夫が見られる。 ・慎重かつ丁寧に推敲されている。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・授業で説明した流れ、内容、留意点に沿って書かれているが、豊かな発想と工夫は見られない。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・授業で説明した流れ、内容、留意点が網羅されていない。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・授業で説明された流れ、内容、留意点に沿って作成されていない。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	5, 6, 7, 11,	3, 5, 7, 12、13, 14				

科目名／専門教育 S618-8	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
図画工作科指導法	3年後期	選択（小免選必）	演習／単独	2単位	有福　一昭	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
「小学校学習指導要領解説・図画工作編」における指導計画の作成と内容の取扱い、特に材料や用具、事故防止については、実際の活動を通して把握することができる。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】
小学校図画工作科の目標と内容を理解し、児童の造形への興味や関心、教授や授業の特性等を教科書等から理解する。また、指導者として必要な感性や表現力、造形の知識や技能を体得する。特に安全に配慮すべき事項に関しては、実際の材料・用具、工具を用い着実な指導技術を身につける。ICT機器の活用方法を学びながら指導案作成や模擬授業ができる力を養う。

【到達目標と学修成果】
①「小学校学習指導要領解説・図画工作編」における指導計画の作成と内容の取扱い、特に材料や用具、事故防止については、実際の活動を通して把握することができる。
②美術を通したコミュニケーション能力を培い、インクルージョン教育のスキルを獲得し、実践的に指導する力を養う。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	図画工作科の目標と内容について	△ 小学校学習指導要領解説第1章の予習	90
		▽ 図画工作科の目標についてまとめる	90
第2回	教科書を使用し、子どもの発達特性と学年目標、内容との関連	△ 小学校学習指導要領解説第2章の予習	90
		▽ 各学年の目標及び内容についてまとめる	90
第3回	表現材料の特性と用具の取扱い、および指導上の留意点(低学年)	△ 小学校学習指導要領解説第3章第1節の予習	90
		▽ 使用した素材・道具・技法等の取扱い指導上の留意点をまとめる	90
第4回	表現材料の特性と用具の取扱い、および指導上の留意点(中学年)	△ 小学校学習指導要領解説第3章第2節の予習	90
		▽ 使用した素材・道具・技法等の取扱い指導上の留意点をまとめる	90
第5回	表現材料の特性と用具の取扱い、および指導上の留意点(高学年)	△ 小学校学習指導要領解説第3章第3節の予習	90
		▽ 使用した素材・道具・技法等の取扱い指導上の留意点をまとめる	90
第6回	造形遊び(身体感覚を生かした造形活動)	△ 小学校学習指導要領解説第4章1の予習	90
		▽「造形遊び」活動についての留意点をまとめる	90
第7回	さまざまな造形表現について学ぶ(モダンテクニック、映像表現の体験)	△ 小学校学習指導要領解説第4章2の予習	90
		▽ さまざまな造形表現技法についてまとめる	90
第8回	児童の発達段階と題材設定の関係について(鑑賞を通して、指導と評価)	△ 小学校学習指導要領解説第4章4の予習	90
		▽ 鑑賞を通した指導と評価についてまとめる	90
第9回	安全指導①(鋸、錐など木工用具)と題材研究	△ 小学校学習指導要領解説第4章3の予習	90
		▽ 鋸、錐など木工用具の安全指導と題材についてまとめる	90
第10回	安全指導②(電動糸鋸)と題材研究	△ 資料「電動糸鋸の取り扱い」の予習	90
		▽ 電動糸鋸の安全指導と題材についてまとめる	90
第11回	鑑賞の指導法:カードなどを活用し、鑑賞と表現を一体化した題材研究をする。	△ 資料「鑑賞教育方法について」の予習	90
		▽ 題材研究を行った鑑賞教育方法についてまとめる	90
第12回	図画工作におけるICT機器の活用について	△ ICT機器活用の予習、授業内容及び資料の復習	90
		▽ ICT機器活用方法についてまとめる	90
第13回	学習指導案作成について(児童観、教材観、指導観をふまえて)	△ 資料「図画工作指導案について」の予習	90
		▽ 図画工作学習指導案の児童観、教材観、指導観の見直し	90
第14回	図画工作の指導案作成(学習指導案について理解し、題材を設定し、学習指導案を作成する)	△ 図画工作学習指導案発表の準備	90
		▽ 図画工作学習指導案内容の確認・準備	90
第15回	模擬授業と振り返り、ポートフォリオ作成	△ 図画工作学習指導案発表の準備	90
		▽ 発表の振返りについてレポートにまとめてくる	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

【テキスト】
小学校学習指導要領解説　図画工作科編（最新版）

【参考書・参考資料等】
適宜配布、紹介する。教材費を徴収することがある。

【連絡方法】　arifuku@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】　昼休み、授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	①	10%	・美術・造形の知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・美術・造形の知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	10%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、素材・道具・技法の知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・素材・道具・技法の知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	6回、8回、11回、13回	15回				

科目名／専門教育　S621-9	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
体育科指導法	3年後期	小免 選択必修	演習／単独	2単位	角杉　美恵子	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

・小学校体育科教育の各領域の内容構成を理解するとともに、体育の指導とその展開のために求められる基礎的な能力を養う。
・模擬授業等を通して、基礎的な体育の指導技術を中心とした実践的指導力の基礎を培うとともに、集団的活動を通して仲間と協力する態度や思考力、コミュニケーション能力を高める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

・講義を織り交ぜながら、演習形式を多く取り入れて実施する。
・学習指導案の作成と模擬授業を通して、評価や振り返り活動を重ねながら体育科指導に求められる学びを深める。

【到達目標と学修成果】

①体育科教育の目的を踏まえ指導内容を検討し、教材を工夫して学習指導案を作成することができる。
②模擬授業を通して授業の指導計画・評価の手法を学び、教員としての資質向上を図るための実践力を修得する。
③指導に必要な安全管理(リスクマネジメント)について説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	オリエンテーション 小学校体育科の目標と指導内容(運動領域の構成)	△ シラバスを確認する	90
		▽ 体育の今日的な意義についてノートにまとめる	90
第2回	小学校における体育とは何かを学習指導要領から体育を考える 集団行動、ラジオ体操についての理解と実技	△ 運動領域について調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第3回	体育科に求められている役割とねらい 体つくり運動系領域の理解と実技	△ 体つくり運動系領域について調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第4回	体育科指導案作成の方法と模擬授業 体つくり運動系領域の指導と実技	△ 準備運動について調べる	90
		▽ 学習指導案を作成する	90
第5回	器械運動系領域、グループ練習の活用 運動学的な視点からコツを捉える(映像機器の利用と活用)	△ ICTの活用について調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第6回	器械運動系領域の授業づくり 「マット運動」「跳び箱運動」の理解と実技	△ 器械運動系領域について調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第7回	ボール運動系領域の授業づくり 「ボールゲーム」「型」の理解と実技	△ ボール運動系領域について調べる	90
		▽ ゲームの進め方についてノートにまとめる	90
第8回	ボール運動系領域の理解と模擬授業 運動の特性と楽しさについて考える	△ 体育科における「運動遊び」について調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第9回	陸上運動系領域の授業づくり 「短距離・リレー・ハードル」「幅跳び」の理解と模擬授業	△ 陸上運動系領域について調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第10回	陸上運動系領域の授業づくり 発達と体育との関係と教材研究	△ 陸上運動系領域にについて調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第11回	表現運動系領域の授業づくりと模擬授業 体育における表現とは何か(映像機器の利用と活用)	△ 表現運動について調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第12回	表現運動の授業づくり 「表現」「リズムダンス」の授業構想と模擬授業	△ 表現領域について調べる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90
第13回	水泳領域の授業づくり 安全指導、危機管理(リスクマネジメント)について理解する	△ 水泳領域、リスクマネジメントについて調べる	90
		▽ 健康教育について学習指導案の作成	90
第14回	保健領域の授業づくり　(映像機器の利用と活用) 健康教育についての理解と指導案の作成と模擬授業	△ 体育科の使命と役割について調べる	90
		▽ 健康教育についてノートにまとめる	90
第15回	まとめ これからの体育・スポーツの在りかたについて	△ 各運動領域の内容構成をまとめる	90
		▽ 学修内容をノートにまとめる	90

備考：　2700

【履修上の留意点】

実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、教育者として適切な服装で参加すること。
実技が中心であるので、欠席をしないように努めること。

【テキスト】

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　体育編』　文部科学省　　東洋館出版社
『小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック』　高学年　　文部科学省　株式会社アイフィス

【参考書・参考資料等】

『初等体育授業づくり入門』 吉田靖　日野克博　近藤智靖　編著　　大修館書店

【連絡方法】　授業内で指示する

【オフィスアワー】　授業時間前後の休み時間等

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている(S:90－100点)	優れている(A:80－89)	平均的(B:70－79)	努力を要する(C:60－69)	相当な努力を要する(F:59点以下)
試験(発表含む)	① ② ③	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	1，15	1～15	2～14			

科目名／専門教育 S618-10	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
外国語の指導	3年後期	選択（小免選必）	演習／単独	2単位	新庄　恵子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

小学校外国語活動・外国語の学習や指導、評価等に関する基礎的・基本的な知識や指導技術を身に付ける。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義、演習を通して、小学校外国語活動・外国語についての基本的な事柄を学ぶ。指導技術については、模擬授業等により体験を通して学ぶ。
また、グループでの活動やディスカッション等を通して、学生同士が協働的に学び合う。

【到達目標と学修成果】

①小学校外国語活動・外国語を指導するための基本的な知識や指導法について理解することができる。
②学習指導案の作成と模擬授業等により、実践的な指導力を身に付ける。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第 1 回	外国語活動・外国語の目的と目標 学習指導要領の目標・小学校の役割について理解する。	△ 外国語活動の目的と目標について調べる。	90
		▽ 第1回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 2 回	外国語活動・外国語の意義 コミュニケーション能力・異文化理解について理解する。	△ 外国語活動・外国語の意義について調べる。	90
		▽ 第2回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 3 回	指導者の役割、資質と研修 指導者の役割について考え、求められる資質や能力をについて理解する。	△ 指導者の役割について考えておく。。	90
		▽ 第3回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 4 回	教材の構成と内容 役割・使用方法・内容などについて理解する。	△ 外国語活動・外国語で使用する教材を調べる。	90
		▽ 第4回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 5 回	指導目標・年間指導計画について 指導目標・年間指導計画の作成手順などについて理解する。	△ 指導目標と年間指導計画について調べる。	90
		▽ 第5回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 6 回	言語材料と4技能の指導 音声、文字、語彙および表現等の言語材料について理解する。	△ 言語材料と4技能について調べる。	90
		▽ 第6回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 7 回	教材研究①題材選定や教材研究の仕方について知り、適切な教材を作成する。	△ 外国語活動・外国語の教材について調べる。	90
		▽ 第7回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 8 回	教材研究②ICTを活用した教材について知り、児童の興味・関心を高める教材について考える。	△ ICTを活用した教材について調べる。	90
		▽ 第8回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 9 回	指導の基本と留意点 指導の基本と1時間の授業の組み立て方について理解する。	△ 指導の基本として大切な事柄を考えておく。	90
		▽ 第9回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 10 回	指導法と指導技術 ティーム・ティーチングに関する指導技術、指導形態等について理解する。	△ ティーム・ティーチングについて調べる。	90
		▽ 第10回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 11 回	評価について① 評価の意義と評価方法について理解する。	△ 評価の意義と評価方法について調べる。	90
		▽ 第11回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 12 回	評価について② パフォーマンス評価について理解する。振り返りカードを作成する。	△ パフォーマンス評価について調べる。	90
		▽ 振り返りカードを1枚作成する。	90
第 13 回	学習指導案について 授業過程の役割や活動について考え、学習指導案を作成する。	△ 学習指導案について調べる。	90
		▽ 第13回の学修を踏まえて学習指導案を作成する。	90
第 14 回	授業づくり(模擬授業) 学習指導案に基づき、模擬授業を行う。	△ 模擬授業の準備をする。	90
		▽ 模擬授業について、改善点等についてまとめる。	90
第 15 回	まとめ（発表）：英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ活動「Show　&　Tell」 小学校外国語活動・外国語の成果と課題、今後の展望について考える。	△ 外国語活動・外国語の成果と課題について考える。	90
		▽ 学修したことをまとめる。	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等中等教育の学校等）も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

・授業時間外の学修に意欲的に取り組むとともに、積極的に授業に参加することを求めます。

【テキスト】

・適宜授業内で資料等を配布します。

【参考書・参考資料等】

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』平成29年7月

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準 ／ 評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	① ②	30%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題 の意図やこれまでの授業内容をりかいできていない。 誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	5〜14回	15回			5〜14回	

科目名／専門教育 YS706	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと健康	2年後期	選択（幼免必修）	演習／単独	1単位	若林　研司	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

子どもの「健康な心と体を育て，自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことについて理解することをねらいとする。具体的には、子どもの心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、子どもの特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導法にも関連していることについて理解する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

演習形式の授業である。「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に示された領域「健康」について、解説をもとに、子どもが健康で安全な生活するために必要な基本的生活習慣、子どもの運動発達の特徴と意義を理解した運動遊び、安全教育や健康管理、子どもの怪我の特徴や病気の予防について、学習していく。

【到達目標と学修成果】

①子どもの心と体、運動発達などの健康課題や健康の定義および健康の意義について説明できる。
②子どもの体の発達的特徴を理解し、基本的な生活習慣の形成とその意義について説明できる。
③子どもの安全教育・健康管理の基本的な考え方を理解し、怪我の特徴や病気の予防について説明できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]		
第1回	子どもの健康課題－健康の定義と健康の意義－	△	テキストのpp.10-18を精読する。	15
		▽	子どもの健康問題について整理する。	30
第2回	子どもの身体の発達的特徴	△	テキストのpp.42-43を精読する。	15
		▽	子どもの身体の発達的特徴について整理する。	30
第3回	子どもの生活習慣の獲得と生活リズムの形成	△	テキストのpp.53-60を精読する。	15
		▽	生活習慣と生活リズムの形成を整理する。	30
第4回	園生活や遊びの中で育む生活習慣	△	テキストのpp.150-175を精読する。	15
		▽	園生活や遊びの中で育む生活習慣を整理する。	30
第5回	子どもの健康と環境構成	△	テキストのpp.126-149を精読する。	15
		▽	子どもの健康と環境構成について整理する。	30
第6回	子どもの安全教育と危険(リスクとハザード)	△	テキストのpp.186-190を精読する。	15
		▽	子どもの安全教育と危険について整理する。	30
第7回	遊びや生活の中で育む安全の意識	△	テキストのpp.191-196を精読する。	15
		▽	遊びや生活から育む安全の意識を整理する。	30
第8回	子どもの怪我や事故の特徴と応急処置	△	テキストのpp.191-205を精読する。	15
		▽	怪我や事故の特徴と応急処置を整理する。	30
第9回	子どもの病気の予防	△	指示した配布資料を精読する。	15
		▽	子どもの病気の予防について整理する。	30
第10回	子どもの運動発達の特徴	△	テキストのpp.43-48を精読する。	15
		▽	子どもの運動発達の特徴について整理する。	30
第11回	子どもの健康とルールのある遊び　マイクロ模擬保育の実施	△	テキストのpp.91-99を精読する。	15
		▽	子どもの健康とルールのある遊びを整理する。	30
第12回	子どもの健康と道具を使った遊び　マイクロ模擬保育の実施	△	テキストのpp.100-117を精読する。	15
		▽	子どもの健康と道具を使った遊びを整理する。	30
第13回	子どもの健康とさまざまな遊び　　マイクロ模擬保育の実施	△	テキストのpp.118-125を精読する。	15
		▽	子どもの健康とさまざまな遊びを整理する。	30
第14回	子どもの「健康」をめぐる現状と課題　　マイクロ模擬保育の振り返り	△	テキストのpp.66-85を精読する。	15
		▽	「健康」をめぐる現状と課題を整理する。	30
第15回	まとめ	△	第1回～第14回の整理した内容を確認する。	15
		▽	授業内容全体を整理する。	30

備考：

675

【履修上の留意点】

予習・復習をしっかり行ってください。

【テキスト】

無藤隆監修、倉持清美編者代表『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康』　萌文書林　2018

【参考書・参考資料等】

文部科学省著・編『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』、フレーベル館、2017
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館2017　その他にプリントを配布します。

【連絡方法】　授業内で指示

【オフィスアワー】　火曜日　休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	①②③	70%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①②③	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①②③	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第6回	第8回、第13回				

科目名／専門教育 YS707	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと人間関係	2年後期	選択（幼免必修）	演習／単独	1単位	松田　扶美子	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

子どもを取り巻く人間関係の現代的課題を理解すると共に、領域「人間関係」の指導に必要な子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的な知識を身につけることをねらいとする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

演習形式である。子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題や子どもの人と関わる力の発達について、グループワークや事例検討、討議、発表などを行う。

【到達目標と学修成果】

①子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解することができる。
②子どもの人とかかわる力の発達について、関係発達論的視点から理解することができる。

回数	授業内容		授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	オリエンテーション 絵本「わたし」を読んで「人間関係」を考える	△	人と関わる力とはどのような力か意見をまとめる	15
		▽	人間関係をテーマにした絵本を探してみる	30
第2回	子どもを取り巻く現状と人間関係をめぐる課題① 人間関係の現代的課題についての調査	△	人間関係の現代的課題について事前調査する	15
		▽	人間関係の現代的課題に関する資料を収集する	30
第3回	子どもを取り巻く現状と人間関係をめぐる課題② 人間関係の現代的課題についての調査・パワーポイント作成	△	人間関係の現代的課題に関する資料をまとめておく	15
		▽	人間関係の現代的課題に関する意見をまとめておく	30
第4回	子どもを取り巻く現状と人間関係をめぐる課題③ 人間関係の現代的課題の調査結果の発表・討議	△	発表のリハーサルを行い、準備をしておく	15
		▽	さまざまな課題に対する自己の考えをまとめる	30
第5回	子どもを取り巻く環境の理解 ジェノグラム・エコマップの演習	△	子どもを取り巻く環境を理解する方法を調べる	15
		▽	ジェノグラム、エコマップの作成・見方の復習	30
第6回	愛着の形成過程と個人差 愛着理論についての理解を深める	△	「愛着」について調べ、予習する	15
		▽	「愛着理論」についてまとめておく	30
第7回	自我の芽生えと他者との関わり 事例検討	△	「自我」について調べ、予習する	15
		▽	自我の発達を支える環境についてまとめる	30
第8回	自己主張と自己抑制 事例検討	△	「自己抑制」について調べ、予習する	15
		▽	自己主張と自己抑制の関係についてまとめる	30
第9回	道徳性の芽生えと思いやり 事例検討	△	「道徳性」について調べ、予習する	15
		▽	道徳性の育む環境についてまとめる	30
第10回	環境がもたらす人とのかかわり① 子どもの遊びや人とのかかわりを発展させる環境構成の作図	△	母園や実習園の環境構成を作図してみる	15
		▽	人との関わりを育む環境構成について意見まとめる	30
第11回	環境がもたらす人とのかかわり② 子どもの遊びや人とのかかわりを発展させる環境構成の発表・討議	△	発表のリハーサルを行い、準備しておく	15
		▽	発表をふりかえり、環境構成の改善案を考える	30
第12回	人とのかかわりを育てる保育者の役割 保育者が子どもの人間関係に与える影響について分析・討議	△	保育者が人間関係に与える影響について考えておく	15
		▽	人との関わりを育てる保育者の役割をまとめる	30
第13回	人と関われない、人と関わらない子どもたちについて考える	△	関わりが難しい子どものエピソードをまとめておく	15
		▽	関わりにおける留意点をまとめる	30
第14回	園・家庭・地域の生活と人との関わりについて考える	△	園や家庭以外で子どもに関わる人々をまとめておく	15
		▽	園・家庭・地域の役割についてまとめる	30
第15回	まとめ	△	人と関わる力の育ちに関する専門的知識をまとめる	15
		▽	人間関係の現代的課題と保育・教育について考える	30

備考：　675

【履修上の留意点】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回にGoogle classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。

【テキスト】

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

「保育所保育指針」フレーベル館(2017年)・「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017年)／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2017年)／「わたし」谷川俊太郎・長新太　福音館書店(1976年)

【連絡方法】　akasaka@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】　火曜日　昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	40%	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解すると共に、人と関わる力の育ちに関する専門的知識が十分に身についていることが認められる。	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解すると共に、人と関わる力の育ちに関する専門的知識が身についていることが認められる。	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解すると共に、人と関わる力の育ちに関する専門的知識が必要最低限、身についていることが認められる。	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題への理解や、人と関わる力の育ちに関する専門的知識の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題への理解や、人と関わる力の育ちに関する専門的知識の習得がなされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	60%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が強く感じられた。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が感じられた。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第4回・第7回 第8回・第9回 第11回・第12回	第4回・第11回				

科目名／専門教育 YS708	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと環境	2年後期	選択（幼免必修）	演習／単独	1単位	信太　朋子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

当該科目では、領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、主体的に創造していく能力や知識・技能を身に付けることがねらいである。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

子ども一人一人の発達における環境との関わりの重要性について理解することを目指し、講義・演習形式で実施する。
学内の自然環境を活用し、実践的な体験を通して知識や技能を身につける。

【到達目標と学修成果】

①幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を理解する。
②幼児の数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。
③幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心それらとの関わりを説明できる。
④幼児を取り巻く環境の現状や課題を踏まえ、望ましい環境の在り方について説明できる。

回数	授業内容		授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス・幼稚園教育要領領域「環境」よりー環境の諸側面、知識、ESDー	△	幼稚園教育要領「環境」予習	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第2回	社会的な環境ー現代の子どもを取り巻く環境の現状と課題	△	現代の子どもを取り巻く環境について予習	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第3回	身近な環境ー実習園の環境	△	身近な環境について予習	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	30
第4回	身近な環境ー公園	△	身近な公園について予習	40
		▽	今日の学修を復習しまとめる	45
第5回	演習　自然環境に触れ五感を通して気付く(フィールドビンゴ)	△	フィールドビンゴについて予習	30
		▽	フィールドビンゴについてまとめる	20
第6回	好奇心・思考力の芽生えについて 自然との関わりを通して幼児に育まれる力	△	思考力の芽生えについて予習	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第7回	幼児を取り巻く環境について 園内の様々な保育環境ー教材・教具・遊具ー	△	保育室の環境についてまとめておく	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第8回	幼児を取り巻く環境について ー園庭における環境ー	△	園庭における環境について調べておく	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第9回	自然物や身近な素材を用いた製作	△	自然物や製作に必要な物について予習	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第10回	社会環境ー子どもの居場所	△	環境が子どもに与える影響について予習	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第11回	季節の変化と園内外の行事・園外保育計画	△	季節の変化と行事・園外保育について予習	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第12回	幼児の思考、科学的概念の形成について ー数量や図形、文字に親しむー	△	幼児の思考、科学的概念について予習	20
		▽	数量概念について授業内容をまとめる	20
第13回	幼児の思考、科学的概念の形成について ー自然などの身近な事象ー	△	幼児の思考、科学的概念について予習	20
		▽	資料の要旨をまとめる	20
第14回	幼児を取り巻く環境とセンス・オブ・ワンダー	△	資料にについて予習	20
		▽	今日の学修を復習しまとめる	20
第15回	まとめ	△	テキストやノートの予習	30
		▽	今までの学修の振り返り	20

備考：　この科目では、担当者の実務経験（幼稚園教諭）も踏まえて実践的な指導を行う。　675

【履修上の留意点】

【テキスト】

神長美津子監修　　保育内容 環境　光生館　2018

【参考書・参考資料等】

授業内において適宜紹介する。『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017)
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館2017

【連絡方法】　初回授業時に通知

【オフィスアワー】　授業終了時

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90ー100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	50%	・知識・理解・応用力が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③ ④	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）							
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第3回,第10回	第10回	第4回	第10回	第14回	第11回

科目名／専門教育 YS709	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと言葉	2年前期	選択（幼免必修）	演習／単独	1単位	長田　信彦		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

領域「言葉」のねらいと内容を理解し、人間にとっての言葉の意義や機能について理解を深める。その上で、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的知識や技能を身に付け、実践する力を養うことをねらいとする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

演習形式である。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするために、児童文化財を活用し、具体的・実践的な学習をする。

【到達目標と学修成果】

①乳幼児期の言葉の発達を踏まえ、保育の中の子どもの言葉における育ちを理解することができる。
②幼児の年齢に応じた絵本や紙芝居を選定し、効果的な指導法を実践することができる。
③日本固有の児童文化財である紙芝居の歴史と特性を理解し、上演の実践を行うことができる。

回数	授業内容		授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス。授業の計画・進め方・評価の仕方について。	△	1年「保育内容(言葉)」の振り返りをしておく。	20
		▽	「保育内容(言葉)」のねらいをノートにまとめる。	20
第2回	領域「言葉」のねらいと内容の確認。言葉の意義、言葉の機能について学ぶ。	△	領域「言葉」の予習。	20
		▽	言葉の機能についてノートにまとめる。	20
第3回	1年次に学習した乳児の言葉の発達過程と保育者の援助の在り方を振り返る。	△	乳児の言葉の発達について復習しておく。	20
		▽	乳児の言葉の発達を促す保育者の援助をまとめる。	20
第4回	1年次に学習した幼児の言葉の発達過程と保育者の援助の在り方を振り返る。	△	幼児の言葉の発達について復習しておく。	20
		▽	幼児の言葉の発達を促す保育者の援助をまとめる。	20
第5回	子どもの言葉の発達を促す児童文化財について学ぶ。	△	児童文化財の種類について調べておく。	20
		▽	児童文化財と言葉の発達の効用についてまとめる。	20
第6回	絵本と子ども。年齢別に応じた絵本を選定し、読み聞かせの実践をする。	△	3歳～5歳児に適した絵本を調べておく。	20
		▽	対象児と読み聞かせ絵本の適性について意見を書く。	20
第7回	絵本と紙芝居。年齢別に応じた紙芝居を選定し、紙芝居の上演を実践する。	△	3歳～5歳児に適した紙芝居を調べておく。	20
		▽	選定紙芝居の適性について意見をまとめる。	25
第8回	日本固有の児童文化財である紙芝居の歴史と特性について学ぶ。	△	紙芝居の歴史について調べてくる。	20
		▽	紙芝居の特性と絵本の違いについてまとめる。	25
第9回	手作り紙芝居の制作。紙芝居制作の留意点について学ぶ。	△	配付資料の予習。	20
		▽	紙芝居制作の留意点についてまとめる。	25
第10回	手作り紙芝居の制作。対象年齢を考える。テーマを考える。ストーリーを考える。	△	対象児とテーマについて考えておく。	25
		▽	ストーリーについてまとめる。	30
第11回	ストーリーに応じた紙芝居の場面割と絵の構図を考える。	△	紙芝居画面のプロットを考えておく。	25
		▽	プロットと粗筋を作成する。	30
第12回	脚本を考える。	△	脚本を考えておく。	25
		▽	画面の色塗りをする。	30
第13回	手作り紙芝居の前半組発表。相互鑑賞をし、発表後に意見交換をする。	△	紙芝居の効果的な上演の練習をしておく。	20
		▽	紙芝居鑑賞の感想をまとめる。①	25
第14回	手作り紙芝居の後半組発表。相互鑑賞をし、発表後に意見交換をする。	△	紙芝居の効果的な上演の練習をしておく。	20
		▽	紙芝居鑑賞の感想をまとめる。②	25
第15回	振り返りとまとめ。	△	これまでの資料の復習をしておく。	20
		▽	言葉の発達と児童文化財についてレポートを作成。	25

備考：　675

【履修上の留意点】

紙芝居制作と上演は必須である。

【テキスト】

特に指定しない。資料は適宜プリントにて配付する。

【参考書・参考資料等】

右手和子他『紙芝居をつくる』大月書店、1999/『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017)
大越和孝「改訂新版『保育内容・言葉　言葉とふれあい、言葉で育つ』」、東洋館出版社(2018)／三澤裕見子『児童文学と紙芝居』有明双書、2013

【連絡方法】　授業内で伝える

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	①③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	②③	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 YS710	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと表現	2年前期	選択（幼免必修）	演習/複数	1単位	山田　麻美子・　伊藤　菜々子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

「幼稚園教育要領」及び「幼保連携型認定こども園・保育要領」に示された領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの表現活動を援助する力の育成を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

①理論による学習(領域「表現」の内容、幼児の表現の特徴と発達の姿などに関わる)
②演習による学習(日々の生活や遊びの場面での子どもの表現を体験・体感するための演習課題への取り組み)

【到達目標と学修成果】

①領域「表現」の基本的理論を理解している。
②子どもの表現に豊かに関わり、子どもの感性と表現力の育ちを支えるために、他者との表現活動に、協同性をもち積極的に創意工夫して取り組むことができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス・テキストについて	△	「表現」について自分の考えをまとめておく　20
		▽	「子どもと表現」についてテキストを読んでおく　25
第 2 回	表現の捉え方について 絵本・童謡について調べる	△	「幼稚園教育要領」総則及び「表現」を読んでまとめる　20
		▽	絵本・童謡の組み合わせ練習をしてくる　25
第 3 回	理論と演習：表現・感性・コミュニケーションについて 絵本読み聞かせ発表	△	資料「コミュニケーションとしての表現1」の予習　20
		▽	発表を振り返り、読み聞かせにおける表現の工夫についてまとめる　25
第 4 回	理論と演習：表現における他者の存在と表現者としての育ちについて 紙皿カスタネット製作	△	紙皿カスタネットの作り方を確認しておく　20
		▽	紙皿カスタネットを使った表現あそびを考えてくる　25
第 5 回	子どもの表現に応える保育者自身の感性や援助スキルを磨く演習 紙皿カスタネットを使った指導案作成	△	前時で考えた表現あそびを振り返る　20
		▽	作成した指導案を見直し、援助や声かけについて整理する　25
第 6 回	子どもの表現に応える保育者自身の表現力を磨く演習 紙皿カスタネットの模擬保育発表	△	指導案を基に模擬保育の流れを確認する　20
		▽	模擬保育を振り返り、保育者の関わりについてまとめる　25
第 7 回	理論と演習：子どもの存在と表現・子どもの表現の観察 音楽付き大型紙芝居読み聞かせ①	△	紙芝居の内容と音の入れ方を確認しておく　20
		▽	子どもの反応を想定し、表現の観察視点をノートにまとめる　25
第 8 回	理論と演習：子どもの表現行動の特徴・子どもの表現の観察 音楽付き大型紙芝居読み聞かせ②	△	音楽付き紙芝居の読み聞かせ練習を行う　20
		▽	「子どもの表現行動1」についてレポートにまとめる　25
第 9 回	理論と演習：子どもの表現行動の特徴 オノマトペブック製作	△	「子どもと表現行動の特徴」の予習　20
		▽	オノマトペに関する子どもの表現事例を調べる　25
第 10 回	理論と演習：子どもの表現行動の特徴 オノマトペブック発表	△	オノマトペブック発表の準備を行う　20
		▽	「子どもの表現エピソード」資料についての考察をまとめる　25
第 11 回	演習：子どもの表現・感性と環境　環境との関わりからうまれる表現活動 模擬保育に向けた環境構成と教材検討	△	模擬保育で使用する教材・活動内容を考えておく　20
		▽	「保育の中の表現を支える環境づくり」についてノートにまとめる　25
第 12 回	理論と演習：子どもの表現復習 模擬保育に向けた指導案作成・リハーサル	△	模擬保育の指導案を作成してくる　20
		▽	リハーサルを振り返り、改善点を整理する　25
第 13 回	模擬保育の発表①	△	模擬保育発表の最終確認を行う　20
		▽	他者の発表を観察し、良かった点を記録する　25
第 14 回	模擬保育の発表②	△	発表に向けた準備と内容確認を行う　20
		▽	発表を振り返り、保育者としての関わりを整理する　25
第 15 回	模擬保育の省察と振り返り	△	発表準備・他者の発表への評価のまとめ　20
		▽	発表のふりかえりとまとめ　25

備考：

675

【履修上の留意点】

【テキスト】

随時資料を配布する。1年次「保育内容 表現Ⅰ」で使用した「保育内容　領域　表現－日々わくわく生きる子どもの表現－」(堂本真実子 わかば社)を使用する。

【参考書・参考資料等】

「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2017)

【連絡方法】

【オフィスアワー】　水　11:30～12:30

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート	① ②	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	3、4、5、6、9、10回	9、10、13、14回				

科目名／専門教育 YHS701	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
音楽Ⅰ	1年前期	必修	演習/複数	1単位	松田 扶美子 ・伊藤 菜々子・(山田 麻美子)・角田 玲奈 ・ 福田 久美		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

幼児教育、初等教育現場で必要な音楽的技術・技能および豊かな感性と表現力を身につけ、現場での実践力を習得するための方法論を獲得させる。常に現場を意識し、よりよい指導者としての音楽的実力、感性及び表現力を身につけさせるために、保育・教育現場に対応できる読譜力、歌唱、器楽演奏力、表現力を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。音楽の基礎的知識に基づき、読譜、演奏に関する初歩的技術を子どもの発達や遊び・表現に関連させて学習させる。そのための音楽理論の基礎、歌唱、器楽奏法、伴奏法について実践的に学習させ、表現能力を身につけさせる。

【到達目標と学修成果】

①音楽の基礎理論を理解し、楽譜を読むことができる。
②鍵盤ハーモニカや小物打楽器など、簡単な器楽演奏や合奏をすることができる。
③発声の基礎を修得し、正しい発声による歌唱や合唱をすることができる。
④ピアノ奏法の基礎を身に付け、保育・教育現場に必要とされる生活の歌などの童謡の伴奏ができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第1回	ガイダンス 授業概要、授業の進め方、評価方法について	△	ピアの授業受講に際しての楽譜の準備	20
		▽	授業の進め方、教材準備	25
第2回	音楽の基礎1 「譜表(譜表・音名・階名)」「発声と呼吸法」 ピアノの基礎奏法の学習1 ピアノ練習方法について	△	「譜表(譜表・音名・階名)」の予習	20
		▽	「譜表(譜表・音名・階名)」「発声と呼吸法」の復習	25
第3回	音楽の基礎2 「譜表(臨時記号)」「楽器の名称と基本的奏法1」 ピアノの基礎奏法の学習2 楽曲紹介 模範演奏	△	「譜表(臨時記号)」の予習	20
		▽	「譜表(臨時記号)」「楽器の名称と基本的奏法1」の復習	25
第4回	音楽の基礎3「音価(音符と休符)」「歌唱の基礎(ボイストレーニング)1」 ピアノの基礎奏法の学習3 ピアノ楽曲と童謡の選択と練習	△	「音価(音符と休符)」	20
		▽	「音価(音符と休符)」「歌唱の基礎1」の復習	25
第5回	音楽の基礎4 「音価(付点音符と付点休符)」「楽器の名称と基本的奏法2」 ピアノの基礎奏法の学習4 楽曲練習1(ト音記号の楽曲)	△	「音価(付点音符と付点休符)」の予習	20
		▽	「音価(付点音符と付点休符)」「楽器の名称と基本的奏法2」の復習	25
第6回	音楽の基礎奏法の学習5 「拍子と拍子記号」「歌唱の基礎(ボイストレーニング)2」 ピアノの基礎奏法の学習5 楽曲練習2(ヘ音記号の楽曲)	△	「拍子と拍子記号」の予習	20
		▽	「拍子と拍子記号」「歌唱の基礎2」の復習	25
第7回	音楽の基礎奏法の学習6 「拍子とリズム」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏1」 ピアノの基礎奏法の学習6 楽曲練習3(付点音符の演奏方法)	△	「拍子とリズム」の予習	20
		▽	「拍子とリズム」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏1」の復習	25
第8回	音楽理論を技能に活かす1 「調性と調子記号(ハ長調)」「歌唱の基礎(ボイストレーニング)3」 ピアノの基礎奏法の学習7 楽曲練習4(調号・臨時記号)	△	「調性と調子記号(ハ長調)」の予習	20
		▽	「調性と調子記号(ハ長調)」「歌唱の基礎3」の復習	25
第9回	音楽理論を技能に活かす2 「調性と調子記号(ヘ・ト長調)」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏2」 ピアノの基礎奏法の学習8 楽曲練習5(ヘ長調の楽曲)	△	「調性と調子記号(ヘ・ト長調)」の予習	20
		▽	「調性と調子記号(ヘ・ト長調)」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏2」の復習	25
第10回	音楽理論を技能に活かす3 「調性(長音階・短音階)」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏3」 ピアノの基礎奏法の学習9 楽曲練習6(ト長調の楽曲)	△	「調性(長音階・短音階)」の予習	20
		△	「調性(長音階・短音階)」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏3」の復習	25
第11回	音楽理論を技能に活かす4 「調性の理解(コードネーム)」「合唱の基礎1」 ピアノの基礎奏法の学習10 楽曲練習7(重音について)	△	「調性の理解(コードネーム)」の予習	20
		△	「調性の理解(コードネーム)」「合唱の基礎1」の復習	25
第12回	音楽理論を技能に活かす5 「調性の理解(コードネームベース伴奏付)」「合唱の基礎2」 ピアノの基礎奏法の学習11 楽曲練習8(三連符について)	△	「調性の理解(コードネームベース伴奏付)」の予習	20
		△	「調性の理解(コードネームベース伴奏付)」「合唱の基礎2」の復習	25
第13回	音楽理論を技能に活かす6 「調性の理解(和音記号による伴奏付)」「合唱の基礎3」 ピアノの基礎奏法の学習12 楽曲練習9(美しい音での演奏)	△	「調性の理解(和音記号による伴奏付)」の予習	20
		△	「調性の理解(和音記号による伴奏付)」「合唱の基礎3」の復習	25
第14回	まとめ1 理論復習 童謡伴奏まとめ	△	これまでの理論の復習をする・課題の実施	20
		△	課題の振り返りをする	25
第15回	まとめ2	△	器楽・声楽課題の復習と実践練習	20
		△	器楽・声楽課題の留意点の確認	25

備考：

675

【履修上の留意点】

【テキスト】

「おんがくのしくみ」今川恭子 他　教育芸術社(2017) 、「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1・2」吉田梓監修　東亜音楽社、「ポケットいっぱいの歌」教育芸術社、「バイエルピアノ教本」全音楽譜出版社

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領
授業の進行にしたがって必要な資料・楽譜等を配布する。

【連絡方法】 matsuda@ariake.ac.jp　nanako-ito@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】 授業日の昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	①②③④	60%	・音楽の基礎知識・理解・応用力(実践力)、及びピアノ奏法が十分に身についていることが認められる。	・音楽の基礎知識・理解・応用力(実践力)及びピアノ奏法が身についていることが認められる。	・音楽の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・音楽の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・音楽の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①②③④	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②③④	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		14, 15回				

科目名／専門教育 YHS702	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
音楽Ⅱ	2年前期	必修	演習/複数	1単位	山田 麻美子 ・ 中目 ますみ ・飯塚 舞子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

音楽Ⅰにおいて獲得した保育・幼児教育・初等教育現場で必要な音楽的技術・技能をさらに応用できる力の獲得を目指す。常に現場を意識し、子どもの表現を受け止めることのできる豊かな感性・表現力を身につけ、実習に対応できる音楽技術・技能・総合的音楽表現力の獲得を目指す。日本の楽器の奏法や子ども教育への応用について学び、伝統音楽を身近に感じられるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。音楽Ⅰで修得した音楽的技術を子どもの発達に即した遊び・表現に関連させて学習する。そのための歌唱伴奏法・器楽奏法(日本の楽器を含む)・作編曲法・指揮法などの技術・技能の一層の向上をはかり、現場での実践力を身につけるために音楽創作活動・音楽表現活動・身体表現活動・造形表現活動などを取り入れた総合的な表現能力を身につける。

【到達目標と学修成果】

①音楽の基礎理論及び基礎的な技術、技能をもとに、さらに新しい知識、記述、技能を修得することができる。
②子どもの歌の伴奏及び器楽(日本の楽器を含む)の基礎実技を生かし、実習を意識し現場で必要な音楽創作活動、音楽表現活動、身体表現活動、造形表現活動を取り入れた総合的な表現力を身につける。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス、授業の概要の説明、授業準備について、授業の進め方、評価方法について	△ 子どもの歌レパートリー表の作成	20
		▽ 三味線のセッティングの練習	20
第 2 回	①保育における子どもの歌「童謡1」・ピアノ伴奏練習1 ②三味線の調弦と開放弦の奏法及び開放弦を使ったリズム練習	△ 三味線セッティングの練習・童謡伴奏練習	20
		▽ 三味線の片づけの練習	20
第 3 回	①保育における子どもの歌(春の童謡)・ピアノ伴奏練習2 ②文化譜の読譜、三下り練習曲「さくら」の練習1	△ 調弦の練習・童謡伴奏練習	20
		▽ 三下り練習曲1	20
第 4 回	①保育における子どもの歌「春の童謡2」・ピアノ伴奏練習3 ②三下り練習曲「さくら」の練習2	△ 読譜の練習、童謡伴奏練習	20
		▽ 三下り練習曲1	20
第 5 回	①保育における子どもの歌(夏の童謡1)・ピアノ伴奏練習4 ②「スクイ」「ハジキ」の練習	△ 調弦及び読譜の練習・童謡伴奏練習	20
		▽ 「スクイ」の練習、春の童謡伴奏練習	20
第 6 回	①春の童謡及び夏の童謡弾き歌い伴奏練習5 ②三味線夏の曲の練習1(楽譜の読み方を中心として)	△ 「スクイ」の練習、春の童謡伴奏練習	20
		▽ 「ハジキ」の練習、夏の童謡伴奏練習	20
第 7 回	①保育における子どもの歌(秋の童謡3)・ピアノ伴奏練習6 ②三味線夏の曲の練習2(演奏法に留意して)	△ 「ハジキ」の練習、夏の童謡伴奏練習	20
		▽ 「スクイ」と「ハジキ」の練習	20
第 8 回	①保育における子どもの歌(秋の童謡1)・ピアノ伴奏練習7 ②箏の基礎学習、読譜および「さくら」の練習	△ 秋の童謡伴奏練習	20
		▽ 三味線夏の曲Aの練習	20
第 9 回	①保育における子どもの歌(秋の童謡2)・ピアノ伴奏練習8 ②「さくら」の練習2	△ 三味線夏の曲Aの練習	20
		▽ 秋の童謡伴奏練習	20
第 10 回	①保育における子どもの歌(秋の童謡2)・ピアノ伴奏練習9 ②箏の様々な奏法	△ 冬の童謡伴奏練習	20
		▽ 三味線夏の曲Bの練習	20
第 11 回	①保育における子どもの歌(冬の童謡1)・ピアノ伴奏練習10 ②小鼓、締太鼓の基礎学習	△ 三味線夏の曲Bの練習	20
		▽ 冬の童謡伴奏練習	20
第 12 回	①保育における子どもの歌(冬の童謡2)・ピアノ伴奏練習11 ②三味線夏の練習曲の練習1	△ 合奏の練習、調弦の練習	30
		▽ 合奏の練習	30
第 13 回	①保育における子どもの歌(生活の歌1)・ピアノ伴奏練習12 ②三味線夏の練習曲の練習2	△ 合奏の発表課題曲練習	30
		▽ 合奏の発表課題練習曲	30
第 14 回	①保育における子どもの歌(生活の歌2)・ピアノ伴奏練習13 ②三味線夏の練習曲の練習3	△ 三味線発表課題曲の練習	30
		▽ 三味線発表課題曲の練習	30
第 15 回	実技テスト	△ 歌唱伴奏と合奏の課題曲のふりかえり	30
		▽ 授業の振り返りシートの作成	25

備考：

675

【履修上の留意点】

【テキスト】

「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1,2」吉田梓監修　音楽之友社

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】 yamada@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】 水・木曜昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	50%	音楽の知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	音楽の知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	音楽の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	音楽の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	音楽の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	30%	課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第15回	第13,14回				

科目名／専門教育 YHS703	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
図画工作Ⅰ	1年後期	選択（保幼小必修）	演習／単独	1単位	有福　一昭		○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

実際の造形表現活動を通して、基礎技能や材料・用具に関する知識、制作環境のあり方等保育者として必要な感性や表現力を養う。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」と「小学校学習指導要領」の「図画工作」の内容の理解を深め、指導現場における造形表現の意義を把握する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」と「小学校学習指導要領」の「図画工作」の理解を深め、保育における造形表現の意義を把握する。子どもの発達や遊び、興味や関心に関連した造形表現のあり様を演習形式で学ぶ。粘土や絵の具等の造形表現材料や用具を活発に扱うことにふさわしい服装、態度で臨む。アイデアスケッチやメモ用のノート、鉛筆のたぐいは各自で用意し携帯する。

【到達目標と学修成果】

子どもたちの生活経験や発達に応じ、さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、
（到達目標①）用具を選択したり整えたりして、（到達目標②）表現する過程を大切にする支援や指導のあり方を学ぶことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	オリエンテーション	△「造形表現」について今までの体験をまとめておく	20
		▽「造形表現」についての課題プリントの実施	25
第2回	表現材料と表現の多様性～素材体験「紙」	△資料「幼児の造形教育の教材」紙1の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第3回	表現材料と表現の多様性～素材体験「紙」（造形遊び　グループワーク）	△資料「幼児の造形教育の教材」紙2の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第4回	表現材料と表現の多様性～素材+技法体験～平面から立体表現へ～	△資料「幼児の造形教育の教材」1の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第5回	表現用具と表現の多様性　技法体験～いろいろな描画材料を使って表現する	△資料「幼児の造形教育の教材」2の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第6回	表現用具と表現の多様性　技法体験～ものの表面性～「テクスチャー」	△資料「テクスチャー」の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第7回	造形要素（平面）の分割と再構成　技法体験～「コラージュ」1 アイデアと試作	△資料「コラージュ」1の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第8回	造形要素（平面）の分割と再構成　技法体験～「コラージュ」2　制作	△資料「コラージュ」2の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第9回	造形要素（平面）の分割と再構成　技法体験～「コラージュ」3　鑑賞	△資料「コラージュ」3の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第10回	造形要素（立体）の分割と再構成　素材+技法体験～平面から立体へ アイデアと試作	△資料「立体」1の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第11回	造形要素（立体）の分割と再構成　素材+技法体験～平面から立体へ 制作と鑑賞	△資料「立体」2の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第12回	「絵本」の制作と鑑賞1　アイデアと試作	△資料「絵本」1の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第13回	「絵本」の制作と鑑賞2　制作	△資料「絵本」2の予習	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第14回	「絵本」の制作と鑑賞3　発表　鑑賞（アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ各自の作品を発表し、習得した事柄を共有する）	△「絵本」の発表の準備をする	20
		▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25
第15回	ICT機器を活用し、各自のまとめを発表する	△ICT機器活用の予習、授業内容及び資料の復習	20
		▽発表のふりかえりについてレポートにまとめてくる	25

備考：　675

【履修上の留意点】

【テキスト】

授業時に資料配布

【参考書・参考資料等】

『保育所保育指針』フレーベル館（2017）、『幼稚園教育要領』フレーベル館（2017）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館（2017）、『小学校学習指導要領』（最新版）

【連絡方法】　arifuku@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】　昼休み、授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	②	10%	・美術・造形の知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・美術・造形の知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	②	10%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、素材・道具・技法の知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・素材・道具・技法の知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	9回、11回	14回、15回				

科目名／専門教育 YHS704	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
図画工作Ⅱ	2年前期	選択（保幼中必修）	演習／単独	1単位	有福　一昭		○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

実際の造形表現活動を通して、基礎技能や材料・用具に関する知識、制作環境のあり方等保育者として必要な感性や表現力を養う。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」と「小学校学習指導要領」の「図画工作」の内容の理解を深め、指導現場における造形表現の意義を把握する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」と「学習指導要領」の「図画工作」の内容の理解を深め、保育における造形表現の意義を把握する。子どもの発達や遊び、興味や関心に関連した造形表現のあり様を演習形式で学ぶ。粘土や絵の具等の造形表現材料や用具を活発に扱うことにふさわしい服装、態度で臨む。アイデアスケッチやメモ用のノート、鉛筆のたぐいは各自で用意し携帯する。

【到達目標と学修成果】

子どもたちの生活経験や発達に応じ、さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、
（到達目標①）用具を選択したり整えたりして、（到達目標②）表現する過程を大切にする支援や指導のあり方を学ぶことができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第 1 回	技法とイメージの多様性（水彩絵の具・手の動き）	△ 資料「幼児の造形教育の教材」絵具の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 2 回	技法とイメージの多様性（水彩絵の具・用具の多様性1）	△ 資料「絵具や道具」の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 3 回	技法とイメージの多様性（水彩絵の具・用具の多様性2、モダンアート・テクニック）	△ 資料「絵具の技法」の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 4 回	平面構成の計画と制作1　アイデアと試作（グループワーク）	△ 資料「平面技法」1の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 5 回	平面構成の計画と制作2　制作	△ 資料「平面技法」2の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 6 回	紙の折りと立体表現～L構造	△ 資料「画用紙を使って」1の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 7 回	紙の切り込みと立体表現～らせん構造	△ 資料「画用紙を使って」2の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 8 回	紙の切り込みと立体表現～リンク	△ 資料「画用紙を使って」3の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 9 回	身辺材料と造形の可能性～光と影　アイデアと制作（ICT機器の活用）	△ 資料「光と影」1の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 10 回	身辺材料と造形の可能性～光と影　制作と鑑賞	△ 資料「光と影」2の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 11 回	身辺材料による空間構成～イメージの発展1　季節行事「クリスマス」をモチーフとして	△ 資料「季節行事」1の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 12 回	身辺材料による空間構成～イメージの発展2　季節行事「正月」をモチーフとして	△ 資料「季節行事」2の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 13 回	身辺材料による空間構成～イメージの発展3　季節行事「節分」をモチーフとして	△ 資料「季節行事」3の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 14 回	構造の理解とイメージの多様性　制作	△ 資料「構造」の予習	20
		▽ 使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる	25
第 15 回	ICT機器を活用し、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた各自のまとめを発表する	△ ICT機器活用の予習、授業内容及び資料の復習	20
		▽ 発表のふりかえりについてレポートにまとめてくる	25

備考：

675

【履修上の留意点】

【テキスト】

授業時に資料配布

【参考書・参考資料等】

『保育所保育指針』フレーベル館（2017）、『幼稚園教育要領』フレーベル館（2017）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館（2017）、『小学校学習指導要領』（最新版）

【連絡方法】　arifuku@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】　昼休み、授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S：90－100点）	優れている（A：80-89）	平均的（B：70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F：59点以下）
試験（発表含む）	②	10%	・美術・造形の知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・美術・造形の知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	②	10%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、素材・道具・技法の知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・素材・道具・技法の知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいることが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	4回、10回	15回				

科目名／専門教育 YHS705	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
体 育 Ⅰ（運動）	2年前期	選択（保幼小必修）	演習／単独	1単位	若林 研司		○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

「生活そのものを教育へ」という乳幼児期の教育の方向性に着目し、多様な身体活動と中枢神経系の発達、感覚の育ちの関係性を理解し、子どもの心と身体の発達過程を踏まえながら指導者に求められる実践的能力を身につける。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

・実技を中心とした体験型の学修を中心として、運動に関する理論や意義を理解するためのグループワークを展開しながら学修を進める。
・学生による指導実践演習や多様なグループ活動を通して、仲間と協力する態度や表現力、コミュニケーション能力を高める。
・主体的にテキストを活用し、幼児期における運動の発達と遊びの指導について理解する。

【到達目標と学修成果】

①運動遊びを通した発達支援としての体育（運動）を理解し、指導実践することができる。
②運動遊びの教育的意義を理解し、文化実践活動を深める為の環境を整えることの意義と価値を理解する。
③保育者、教育者としての表現力やコミュニケーション能力を発揮することができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方、テキストの活用	△運動遊びについて調べる	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 2 回	子どもの運動能力、体力の捉え方①：運動遊び	△テキストp.3-7の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 3 回	子どもの運動能力、体力の捉え方②：ボール運動	△テキストp.8-11の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 4 回	子どもの運動発達の特徴①：フープ・なわを使った運動	△テキストp.12-18の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 5 回	子どもの運動発達の特徴②：鬼遊び	△テキストp.18-30の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 6 回	子どもの発達的特徴に応じた運動指導の在り方：マット運動	△テキストp.45-64の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 7 回	多様な運動パターンと遊び体験：マット運動	△テキストp.127-166の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 8 回	遊びとしての運動の重要性①：身近な用具を用いた遊び	△テキストp.85-94の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 9 回	遊びとしての運動の重要性②：身近な用具を用いた遊び マイクロ模擬保育演習	△テキストp.94-104の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 10 回	「遊びのなかで」という考え方①：伝承遊び マイクロ模擬保育演習	△テキストp.31-38の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 11 回	「遊びのなかで」という考え方②：リズム遊び マイクロ模擬保育演習	△テキストp.38-44の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 12 回	多様な運動パターンと遊び体験：リスクマネジメント マイクロ模擬保育演習	△テキストp.205-209の予習	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 13 回	原始反射の統合：集団での遊び、ルールのある遊び マイクロ模擬保育演習	△遊びと社会性について調べる	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25
第 14 回	身体アプローチによる発達支援	△身体アプローチについて調べる	20
		▽運動遊び部分指導案についてまとめる	25
第 15 回	まとめ 子どもの発達過程に応じた運動遊びの在り方について	△半期の授業をまとめる	20
		▽学修内容をノートにまとめる	25

備考： 675

【履修上の留意点】

実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、保育者・教育者として適切な服装で参加すること。
実技が中心であるので、欠席をしないように努めること。
グループ活動を多く取り入れるので、学びあい高め合いができるよう努めること。

【テキスト】

幼児期における運動発達と運動遊びの指導－遊びのなかで子どもは育つ－杉原隆／河邉貴子（編著） ミネルヴァ書房 2020

【参考書・参考資料等】

小学校学習指導要領体育（最新版）、『幼稚園教育要領』フレーベル館（2017）／『保育所保育指針』フレーベル館（2017）/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館（2017）

【連絡方法】 授業内にて指示する。

【オフィスアワー】 授業時に提示する。

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S：90－100点）	優れている（A：80-89）	平均的（B：70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	30%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	1，15	1～15				

科目名／専門教育 HS706	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
体 育 Ⅱ （ダンス）	2年後期	選択（保小必修）	演習/単独	1単位	黒須 育海	／	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
さまざまなリズムや表現方法を学び、多様な身体感覚や豊かな感性を養う。教育現場で行われる「運動会」「お遊戯会」「季節の発表会」など、多くの行事に対応できる創作方法を学ぶ。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】
実技形式で実施する。活動内容は基本的に室内の授業となる。スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きを用意すること。
各々が教育的な視点を持って主体的に参加すること。
次回に指示する課題などの予習を行い、実施した内容をノートにまとめ、授業理解を深めること。

【到達目標と学修成果】
①さまざまな種類のダンスを踊ることにより、身体的・精神的な表現力を豊かにすることができる。
②創作活動を行うことにより、表現・創作技法を身に付けることができる。
③グループ活動を通して、協調性を養うことができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 ［△事前 ▽事後 ／ 分］	
第 1 回	ガイダンス 授業の目的、方法などについて	△シラバスを確認する	20
		▽次回以降の実技に向けた準備	25
第 2 回	フォークダンス、リズムダンス、創作ダンスを体験する	△フォークダンス、リズムダンス、創作ダンスを調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 3 回	民舞1 盆踊りを踊る	△各地域の盆踊りについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 4 回	民舞2 オリジナル盆踊りを踊る	△オリジナル盆踊りについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 5 回	現代的なリズムのダンス1 (1)リズムに乗って踊る (2)振付を踊る	△リズムダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 6 回	現代的なリズムのダンス2(1)ヒップホップダンスの種類 (2)振付を踊る	△ヒップホップダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 7 回	現代的なリズムのダンス3(1)振付を踊る (2)振り返り	△ヒップホップの文化と歴史について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 8 回	創作ダンス1(1)作品づくりについて (2)グルーピング	△創作ダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 9 回	創作ダンス2(1)曲からイメージを膨らませる (2)振付をつくり出す	△コンテンポラリーダンスの歴史について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 10 回	創作ダンス3 (1)振付をグループで共有、確認 (2)構成づくり	△振付を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 11 回	創作ダンス4 (1)表現したいイメージを確認、修正 (2)構成づくり	△衣装と印象について調べ、考える	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 12 回	創作ダンス5(1)環境設定 (1)音楽と印象	△音楽と印象について調べ、考える	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 13 回	ダンス動画作り1 ICTを活用した表現活動	△ICTについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 14 回	ダンス動画作り2 撮影場所探し、撮影	△ダンス動画について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第 15 回	まとめ	△半期授業を振り返る	20
		▽内容をノートにまとめる	25

備考：

675

【履修上の留意点】
実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、適切な服装で参加すること。

【テキスト】
随時プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】
各自用意するもの：ノート(1冊)
村田芳子「最新楽しい表現運動・ダンス」小学館、柴田礼子「子どものためのたのしい音遊び」音楽之友社

【連絡方法】 ikumilala9@gmail.com

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。・指定の体裁が守られてい る。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が 不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第12～14回					

科目名/専門教育 S707	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
国　語（書写を含む）	2年後期	選択（小免選必）	講義/単独	2単位	長田　信彦	○	

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「話す・聞く・書く・読む」という国語の基本的な知識及び技能を習得するための実践的な方法を学ぶ。「国語」とは何かについて考える。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義形式である。小学校教科としての国語科の教科内容に対応する専門的知識を得るとともに、言語生活の基本である国語について関心を広げ、国語・国字についての基礎的な理解を深めていく。国字については、仮名、漢字の書写、筆順等に関する知識技能も含まれる。

【到達目標と学修成果】

①国語の基礎知識（漢字・語彙・文法・敬語など）が身についている。
②国語を適切に表現し、正確に理解することができる。
③日本語についての基本的な知識、および技能を習得し、目的に応じて実践的に活用することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス。シラバスに基づき、授業の進め方、到達目標、評価方法・基準等についての説明。	△「国語」とは何かについて考えをまとめておく。	90
		▽「国語教育」とは何かについてノートにまとめる。	90
第 2 回	「国語教育」と「国語科教育」の違いについて学ぶ。司馬遼太郎「なによりも国語」の文章を基に考える。	△司馬遼太郎の「なによりも国語」を読んでおく。	90
		▽「国語教育」と「国語科教育」の違いをレポートにまとめる。	90
第 3 回	日本の文字について理解を深める。①文字の伝来　②漢字の音訓について　③国字について　④万葉仮名について	△「文字の成立」の資料を予習しておく。	90
		▽「国字」と「万葉仮名」についてノートにまとめる。	90
第 4 回	日本の文字につい学ぶ。平仮名、片仮名、平仮名・漢字の筆順、漢字部首について。	△教育漢字、常用漢字について調べておく。	90
		▽教育漢字1、2年の漢字を筆順正しくノートに書く。	90
第 5 回	表記・用字について学ぶ。仮名遣い、送り仮名、同音異義語・同訓異義語・類義語、四字熟語、ことわざ、慣用句など。	△表記、用字についての資料の予習。	90
		▽四字熟語、ことわざ、慣用句の問題をやる。	90
第 6 回	表現技術について学ぶ。敬語について。副詞の呼応について。文体の統一について。主語と述語の関わりについて。	△表現技術の基礎資料の予習。	90
		▽敬語、副詞の呼応についての問題をやる。	90
第 7 回	表現技術について学ぶ。原稿用紙の使い方について学ぶ。文章の構成について考える。	△文章の構成についての資料の予習	90
		▽三段構成法で課題を原稿用紙に書く。	90
第 8 回	文章表現の実践。短文を書いて文章表現の練習をする。	△表現技術の資料の予習。	90
		▽課題を400字でまとめる。	90
第 9 回	小論文の実作をする。課題に基づき、1000字程度の小論文の実作をする。	△小論文の表現法についての資料の予習。	90
		▽課題800字程度の小論文を書く。	90
第 10 回	「書くこと」「読むこと」の表現法について考える。小学校低学年の課題作品を読解し、感想文を書く。	△小学2年生の課題作品の予習。	90
		▽課題作品に関する練習問題を解く。	90
第 11 回	「書くこと」「読むこと」の表現法について考える。小学校中学年の課題作品を読解し、感想文を書く。	△小学4年生の課題作品の予習。	90
		▽課題作品に関する練習問題を解く。	90
第 12 回	「書くこと」「読むこと」の表現法について考える。小学校高学年の課題作品を読解し、感想文を書く。	△小学6年の課題作品の予習。	90
		▽課題作品に関する練習問題を解く。	90
第 13 回	文字・書写①　硬筆の書写について学ぶ。（姿勢、ペンのもち方等の基本から）	△書写(硬筆)についての資料の予習。	90
		▽教育漢字3,4年の漢字を筆順正しくノートに書く。	90
第 14 回	文字・書写②　毛筆の書写について学ぶ。（姿勢、筆のもち方等の基本から）	△書写(毛筆)についての資料の予習。	90
		▽課題の漢字を毛筆で書く。	90
第 15 回	振り返りとまとめ	△授業内容の資料を用いて復習しておく。	90
		▽まとめのレポートを作成する。	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（小学校教諭）も踏まえて実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

毎回、小学校教育漢字の書き取りを行う。

【テキスト】

特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社、2017。山口仲美『日本語の歴史』岩波新書、2008。有沢俊太郎『国語教育実践学の研究』風間書房、2008。『小学漢字　1006字の正しい書き方』旺文社、2008。

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準 / 評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ③	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 S708	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社　会	2年前期	選択（小免選必）	講義／単独	2単位	山本　剛		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

われわれが生きるこの社会はどのようにして成り立ってきたのか。われわれは何者の末裔なのか。――この授業では、私たちに身近な日本社会における歴史的な事象を媒介として、講義および双方向的な議論を行い、社会的な課題を発見する力、創造的に思考する力を養うことをねらいとする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

小学校社会科の最終単元で扱われる日本通史に関する講義を軸に、日本社会の在り方を改めて見つめ直し、受講生自身の社会観・歴史観および人間観の確立に資することを目的とする。具体的には、「世界史の中の日本」および「地方史から見た日本」という二つの視点に注意を払いつつ、私たちの社会の成り立ちについて理解を深めていく。

【到達目標と学修成果】

①歴史学の知見を踏まえて、歴史的な事実を客観的に理解し、説明することができる。
②日本社会の歴史について、歴史学上のトピックを踏まえて理解し、説明することができる。
③自身の関心が深い時代（ないし人物）についてリサーチし、客観的な評価を加えることができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第１回	イントロダクション 歴史と、歴史学・歴史認識	△「日本史」について自分の意見をまとめておく	60
		▽「私の歴史認識」についてノートにまとめる	60
第２回	Ⅰ．世界史の中のヤマト王権①　聖徳太子は実在したか？	△前回授業内容の復習	60
		▽「中華思想」についてノートにまとめる	120
第３回	Ⅰ．世界史の中のヤマト王権② 平安貴族の栄華と没落	△前回授業内容の復習	60
		▽「承平・天慶の乱」についてノートにまとめる	120
第４回	Ⅱ．世界史の中の武家政権① 武士の台頭と坂東武者	△前回授業内容の復習	60
		▽「奥州藤原氏」についてノートにまとめる	120
第５回	Ⅱ．世界史の中の武家政権② 建武の新政と日明貿易	△前回授業内容の復習	60
		▽「倭寇」についてノートにまとめる	120
第６回	Ⅲ．世界史の中の戦国日本① 伊勢宗瑞と小田原北条氏	△前回授業内容の復習	60
		▽「国一揆」についてノートにまとめる	120
第７回	Ⅲ．世界史の中の戦国日本② 天下布武の虚像と実像	△前回授業内容の復習	60
		▽「一向一揆」についてノートにまとめる	120
第８回	Ⅳ．世界史の中の武家政権③ 海禁政策と四つの口	△前回授業内容の復習	60
		▽「島原・天草一揆」についてノートにまとめる	120
第９回	Ⅳ．世界史の中の武家政権④ 田沼意次の幕政改革	△前回授業内容の復習	60
		▽「百姓一揆」についてノートにまとめる	120
第10回	Ⅳ．世界史の中の武家政権⑤ 幕末日本のテクノクラート	△前回授業内容の復習	60
		▽「水戸学」についてノートにまとめる	120
第11回	Ⅴ．世界史の中の近代日本① 教育勅語と軍人勅諭	△前回授業内容の復習	60
		▽「自由民権運動」についてノートにまとめる	120
第12回	Ⅴ．世界史の中の近代日本② 立憲政治の揺らぎと苦悩	△前回授業内容の復習	60
		▽「大正democracy」についてノートにまとめる	120
第13回	Ⅴ．世界史の中の近代日本③ 斎藤隆夫の反軍演説	△前回授業内容の復習	60
		▽「超国家主義」についてノートにまとめる	120
第14回	Ⅵ．世界史の中の現代日本 歴史と、どう向き合うか？	△前回授業内容の復習	60
		▽「東西冷戦」についてノートにまとめる	120
第15回	授業の総括とリフレクション	△授業内容の総復習	120
		▽授業内課題に関する振り返り	120

備考：

2700

【履修上の留意点】

・受講生の関心を刺激し議論を活性化するため、隣接諸科学の最新の成果を踏まえた視聴覚教材等を積極的に活用する予定である。
・受講生の関心に応じて、授業時間外での学外授業が実施される場合がある。※その際、交通費等実費負担（前年度実績：910円）

【テキスト】

授業内で適宜、配付する。

【参考書・参考資料等】

荒木敏夫・保坂智・加藤哲郎ほか『日本史のエッセンス――歴史が物語るもの（補訂版）』有斐閣、1997年

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S：90－100点）	優れている（A：80-89）	平均的（B：70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F：59点以下）
試験（発表含む）	③	40%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）							
授業外での取組							

備考：期末試験・期末レポートは4000字以上の記述課題を課す。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 S709	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
算　数	1年後期	選択（小免選必）	講義／単独	2単位	若林　研司	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

算数科の目標、内容について系統性を踏まえた考察をし、理解を深めていく。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編、クラスルームにアップされているプレゼンの内容をもとに、各講義の課題に対する考えを整理しておき、各自の考察を協働的な学び(グループ討議、集団討議)によって展開し、思考を深めていく。

【到達目標と学修成果】

①現行学習指導要領の改訂の経緯から算数科の目標に表記されている「数学的な見方、考え方」、「数学的活動」「数学的に考えるよさ」について、単元の内容を通して理解する。
②算数科の内容に関して、目標、手立て、評価の関連から考察することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第 1 回	算数科の目標の理解	△ 算数科の目標について自己の考えをもつ	90
		▽ 算数科の目標についてノートにまとめる	90
第 2 回	数の概念についての理解(整数、小数、分数)	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 数の概念についてノートにまとめる	90
第 3 回	計算の意味と方法についての考察	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 計算の意味についてノートにまとめる	90
第 4 回	式に表されている意味の考察	△ 式の働きについて自己の考えをもつ	90
		▽ 式の働きについてノートにまとめる	90
第 5 回	図形の概念についての理解	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 図形の概念についてノートにまとめる	90
第 6 回	図形の構成についての考察	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 図形の構成についてノートにまとめる	90
第 7 回	図形の計量についての考察	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 図形の計量についてノートにまとめる	90
第 8 回	量の概念と基本的な性質についての理解	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 量の概念と性質についてノートにまとめる	90
第 9 回	量の大きさの表現と比較の理解	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 量の比較と性質についてノートにまとめる	90
第 10 回	単位の関係の統合的な考察	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 単位の関係を統合的にノートにまとめる	90
第 11 回	関数の考えの理解	△ 関数について自己の考えをもつ	90
		▽ 関数についてノートにまとめる	90
第 12 回	2つの数量の比べ方の理解	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 2つの数量の比べ方についてノートにまとめる	90
第 13 回	統計的な問題解決活動の考察	△ 各学年の学習内容の確認	90
		▽ 統計的な問題解決活動についてノートにまとめる	90
第 14 回	結論について多面的・批判的に考察することの理解	△ 多面的・批判的な考察の事例の設定	90
		▽ 多面的・批判的な考察についてノートにまとめる	90
第 15 回	算数科の目標を捉えたまとめ	△ 算数科の内容についての振り返り	90
		▽ 算数科の内容についてレポート作成	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等中等教育等の学校等）も踏まえて実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編を精読すること。
講義の前には、クラスルームにアップしてあるプレゼンの内容を確認し、課題を捉え、自分の考えを整理していくこと。

【テキスト】

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編　文部科学省

【参考書・参考資料等】

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

【連絡方法】　授業時、クラスルーム

【オフィスアワー】　火、水、木、金曜日の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	①②　40%		算数科の特質を捉え、知識、理解、応用力（多面的な見方・考え方）が十分に身に付いていることが認められる。	算数科の特質を捉え、知識、理解、応用力（多面的な見方・考え方）が身に付いていることが認められる。	算数科の特質を捉え、基本的な知識が習得され、その内容が理解されていることが認められる。	算数科の特質を捉えた基本的な知識の習得、理解が断片的であり、努力を要する。	算数科の特質を捉えた基本的な知識の習得が不十分である。
期末レポート	①②　20%		「算数ノート」を作成し、各講義の課題の意図を的確に捉え、算数科の特質を踏まえた上で、自分の考えを記述している。	「算数ノート」を作成し、各講義の課題の意図を的確に捉え、算数科の特質を踏まえた記述をしている。	「算数ノート」を作成し、各講義の課題の意図を捉えて記述している。	課題の意図を部分的に捉えており、「算数ノート」の記述内容が不十分である。	課題の意図を捉えておらず、「算数ノート」への記述内容が課題に対して正対していない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①②　40%		自分の考えをもって授業に参画し、協働的に学びを進めており、模範となっている。	自分の考えをもち、協働的に学びに取り組んでいる。	意欲的に授業に取り組もうとする努力が観られる。	授業内の取組に参加をしている。	授業の目的を捉えてなく、取組への参加意欲に欠けている。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14					

科目名／専門教育 S710	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
理　科	2年前期	選択（小免選必）	講義／単独	2単位	飯田　和也	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

科学的知識や概念を理解することなしに、児童の興味・関心を高め、科学的なものの見方や考え方を育成するための授業を計画し、実践することは難しい。そこで、本授業では、小学校理科の授業を実践するにあたって必要な科学的知識や概念についての理解を深めることを目的とする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

小学校理科で学習する内容をテーマごとに取り上げ、児童の発達段階を踏まえながら、科学的知識や概念について学修する。科学的知識や概念がどのように形成されてきたか、日常生活とどのように関わっているかを学修することを通して、自然の事物・現象の不思議さや探究の楽しさに気づいて欲しい。授業は主として講義形式ですすめるが、適宜、観察や実験も取り入れる。

【到達目標と学修成果】

①小学校理科で取り上げられている科学的知識や概念について、説明することができる。
②エネルギー、粒子、生命、地球の観点から、科学的知識や概念を構造化することができる。
③科学的知識や概念を実社会・日常生活における事物・現象と関連づけることができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス・小学校理科の目標と内容 授業計画、関連法規、学習指導要領（理科）、学習内容の概要について理解する。	△ 小学校学習指導要領解説理科編pp.1-8の予習	90
		▽ 小学校学習指導要領解説理科編pp.8-11の復習	90
第 2 回	土地のつくりと変化 プレートの活動，流水の働き等の学習を通じて、土地の作りと変化を理解する。	△ 小学校学習指導要領解説理科編pp.12-21の予習	90
		▽ 動的な視点から土地についてまとめる	90
第 3 回	身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を観察し、身の回りの生物と環境との関わりを理解する。	△ 学習指導要領内「生物と環境」を予習	90
		▽ 生物の共通点・相違点についてまとめる	90
第 4 回	植物の体とつくり 身近な植物の体とつくりについて、周辺の環境との関わりの観点から、理解する。	△ 観察に必要な葉を選択し，採取する	90
		▽ 葉脈標本の様々な作り方を考察する	90
第 5 回	天気とその変化 日、季節による天気の変化についての理解を深める。	△ 学習指導要領内「地球の大気と水の循環」を予習	90
		▽ 循環という観点から天気についてまとめる	90
第 6 回	光の性質 鏡やルーペ等を用いて、光の性質について理解する。	△ 学習指導要領内「光と音の性質」を予習	90
		▽ 光の事象についてまとめる	90
第 7 回	燃焼の仕組み 燃焼の様子の観察を通じて、燃焼の仕組みについて理解する。	△ 学習指導要領内「燃焼の仕組み」を予習	90
		▽ 燃焼の仕組みについてまとめる	90
第 8 回	燃焼と空気 ものが燃える前と燃えた後の空気の違いについて学習する。	△ 燃焼前後の空気について予想を立てる	90
		▽ 数値を用いて燃焼前後の空気についてまとめる	90
第 9 回	地球と月・太陽 月と太陽の様子の学習を通じて、それらと地球の関係を理解する。	△ 学習指導要領内「地球と天体の運動」を予習	90
		▽ 地球・月・太陽の関係性についてまとめる	90
第 10 回	自然の保全と地球環境問題 地球規模での環境問題を考えることによって、自然保全の在り方を理解する。	△ 身近な環境問題について調べる	90
		▽ 環境問題解決の取り組みについてまとめる	90
第 11 回	電気の性質 乾電池作りを通して、電気の性質について理解する。	△ 乾電池の種類について調べる	90
		▽ 乾電池における電気の流れについてまとめる	90
第 12 回	磁石の性質と電流の働き 磁石・電磁石の基本的性質の学習を通して、電流の働きについて理解する。	△ 学習指導要領内「エネルギーの変換と保存」を予習	90
		▽ 電磁石の強さに影響する要因についてまとめる	90
第 13 回	動物の体とつくり 身近な動物（特に、人と昆虫）の体とつくりについて理解する。	△ 観察に必要な昆虫等を選択し，採取する	90
		▽ 観察したことについてレポートにまとめる	90
第 14 回	力のつり合い てこの規則性、てこのつり合いなど、物体の力学的性質を理解する。	△ 学習指導要領内「身の回りの生物」を予習	90
		▽ 授業で用いた以外の材料でも原理を確認する	90
第 15 回	まとめと確認	△ これまでの学習内容についてまとめる	90
		▽ 理科の魅力についてレポートにまとめる	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

″日常生活において手に入るものについて持参する必要あり。詳しくは，授業初日に説明する。
「理科指導法」と合わせて受講すること。″
受講者の様子により、内容を変更する可能性がある。また、フィールドワークなどで学外に出る可能性がある（学外授業実施日にかかる交通費やその他費用は各自負担）。詳細は授業で説明する。

【テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』平成29年6月

【参考書・参考資料等】

授業内に、適宜、プリントや資料を配布する。

【連絡方法】　授業時に知らせる

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	100%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			第3, 4, 6, 7, 8, 11, 12, 14回			

科目名／専門教育 S711	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
生　活	2年前期	選択（小免選必）	講義／単独	2単位	山嵜　早苗	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

「生活」という概念を教育の理論史、実践史の中から歴史的に学び、生活を貫く科学や文化を理解する。そして生活科学や生活文化そのものをどう理解し、総合的な教科としての生活科を教えるために必要な教養や思想をどう身に付けていったら良いのかを考える。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

小学校教科である生活科の創設の経緯や生活科を巡る議論を学び、生活を総合原理とする総合学習の意義を理解する。また、現代において部分的に分断されがちな人間の生活をトータルな視点で捉えようとする知的探求の態度を養う。基本は講義であるが、ゲストによる文化体験など演習的な側面を含む。

【到達目標と学修成果】

①「生活」という概念が歴史的な流れの中でどのように形成されてきたのかを理解することができる。
②「生活教育」の思想や実践の歴史を理解し、生活科の総合学習としての意義を理解することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第１回	ガイダンス 自分の生活や子どもをめぐるさまざまな問題について	△ 生活という概念について問題意識を持っているか	90
		▽ 「生活」の語彙集めから自分の生活を振り返る	90
第２回	「生活」と「生命」の関係概念について	△ 「生命とは何か」（太田堯）を読む	90
		▽ 「ノーベル賞医学生理学賞」の資料を読む	90
第３回	生活を歴史的に捉える考え方①　縄文文化と北方文化・アイヌ文化	△ 『アイヌ文化：歴史と現在』小学編を読む	90
		▽ 資料「自然と共生するアイヌ思想」を読む	90
第４回	生活を歴史的に捉える考え方②　アイヌ民族の文化体験	△ アイヌ文化の体験刺しゅうを完成させる	90
		▽ アイヌ料理の特徴をレポートにまとめる	90
第５回	生活を歴史的に捉える考え方③　弥生文化と海洋文化・琉球文化	△ 「米の伝来や南方の島々の暮らし」を読む	90
		▽ うちなーぐちと琉球文化の特徴をまとめる	90
第６回	生活を歴史的に捉える考え方④　日本の伝統的な文化　外国人が見た庶民の暮らし	△ イエズス会士たちが見た庶民の生活を読む	90
		▽ 現代の日本人にも共通する特徴をまとめる	90
第７回	生活科学を学ぶ①　近代以前の「こつ・かん」と近代以降の「わかち・伝え」	△ 「学校ができる以前の伝え方」の資料を読む	90
		▽ 「近代の学校教育」についての資料を読む	90
第８回	生活科学を学ぶ②　生活学　生活者としての概念	△ 「生活がどんな学問になったか」を読む	90
		▽ 「日本の生活教育を担った人々」の資料を読む	90
第９回	生活にねざす教育①　教育界における生活教育　ペスタロッチ　大正期の新教育運動	△ ペスタロッチの「生活が陶冶する」を読む	90
		▽ 「日本の生活教育」の資料を読む	90
第10回	生活にねざす教育②　戦後の新教育運動と経験主義　デューイの教育理論への批判	△ 「生活綴り方運動」の資料を読む	90
		▽ 「児童中心主義」の資料を読む	90
第11回	生活にねざす教育③　民間教育運動の大きな流れと「生活教育50年史」	△ 「戦後の民間教育運動」の資料を読む	90
		▽ 「生活教育批判」の資料を読む	90
第12回	生活科をめぐって①　「生活科」の構想の背景にあるものと「生活科」の誕生	△ 「戦後史と教育史」の資料を読む	90
		▽ 「現代の教育をめぐる諸問題」の資料を読む	90
第13回	生活科をめぐって②　生活科の現状と課題　「生活」をどう捉えていくか	△ 「生活科を誕生させるまで」の資料を読む	90
		▽ 「生活科の教科目標」の資料を読む	90
第14回	諸外国の生活科に相当する学習について	△ 「各国の生活科に相当する」資料を読む	90
		▽ 「生活科と総合学習」についての資料を読む	90
第15回	まとめ	△ 毎回の資料をポートフォリオにまとめる	90
		▽ 自分の生活の見直しをする	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等教育の学校等）も踏まえて実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

料理などの実習については、1回100円程度の材料費を集金する。

【テキスト】

文科省『小学校学習指導要領解説　生活編』日本文教出版　2018年度（生活・生活科指導法共通）
毎時、授業のテーマに即した資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

『アイヌ民族；歴史と現在』(全員に配布予定)

【連絡方法】 yrose8201@gmail.com

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	① ②	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足なく内容が網羅された記述がされている。	・課題の意図を理解し、記述されている。	・課題の意図は概ね理解されているが、改善すべき点がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、十分な記述がなされていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①	60%	・生活に関する授業内容に明確な興味関心を持つことができ、自分なりの言葉で考えや疑問を書くことができ、模範となった。	・生活に関する授業内容について一定の興味関心を持ち、その内容を表現することができた。	・生活に関する授業内容をある程度理解することができ、それを書くことができた。	・生活に関する授業内容に断片的にしか反応できず、理解が浅い記述しかできていない。	・生活に関する授業内容に興味関心が持てず、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	20%	・授業外での取組に積極的に関心を示し、取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に関心を示し、積極的に取り組んでいたことが認められた。	・授業外での取組にある程度取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取り組みにあまり積極的に取り組むことができなかった。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第2回、第6回		第3回、第4回			

科目名／専門教育 S712	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
家　庭	1年後期	選択（小免選必）	講義／単独	2単位	伊藤　野里子	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

小学校家庭科の「学習内容」の構成を把握し、各学習内容について科学的、専門的な立場に拠りながら基礎的・基本的な知識・技能を得ることをめざす。また、子どもを取り巻く現代の家庭生活全般をめぐる課題に着目し、学習内容に関連付けて考える力を身につけるようにする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義形式である（調理・被服実習による基礎的な技能習得の実習を含む）。小学校家庭科の学習内容の基礎・基本について解説し、それらが専門的な学問領域を根拠として構成されていることを理解できるような知識の提供や説明をする。学習内容に関する技能の基礎について実習（学生）する。家庭生活全般に関わる課題と学習内容との関連を把握できるよう解説する。その際、小発表や調べ学習（学生）を交えて進める。

【到達目標と学修成果】

①小学校家庭科の学習内容を中心に指導内容の構成について理解する。
②学習内容に関する各分野の基礎的な事項について理解し、依って立つ専門的知識によって裏付けられていることを説明できる。
③子どもを取り巻く現代の家庭生活全般に関する課題を見出し、学習内容の題材や教材に関連付けて捉えて考察し説明できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第1回	・ガイダンス　小学校家庭科で何を学ぶか―「生活者」を育てる家庭科 ・「家族・家庭生活」 ①家族・家庭生活の捉え方と子どもの関わり	△	シラバスを読み授業の概要を知る	90
		▽	「小学校家庭科」の構成と、家族・家庭生活の捉え方を整理	90
第2回	・「家族・家庭生活」 ②家庭の仕事と生活時間	△	家庭の仕事について資料を読み関心事項を挙げる	90
		▽	家庭の仕事の役割分担とその課題について整理する	90
第3回	・「家族・家庭生活」 ③家族・家庭生活をめぐる課題発見と表現（小発表）	△	子どもと家族・家庭生活をめぐる問題について調べる	90
		▽	発表の評価を踏まえ、家族・家庭生活をめぐる課題について復習	90
第4回	・「衣食住の生活」 ① ―「食生活」1　食べることの意義と、食事の仕方	△	「食を通じた子どもの育成」に関する資料を読み予習	90
		▽	食事の意義及び食事の仕方について整理し、復習する	90
第5回	・「衣食住の生活」② ―「食生活」2　食品の特性と、調理の基礎的な知識・技能（調理実習）	△	「共食」を念頭においた献立や工夫を考え、調べる	90
		▽	実習の反省・改善点を踏まえ、家庭等で再実践する	90
第6回	・「衣食住の生活」③ ―「食生活」3　栄養素の働きと栄養的な食品摂取、献立の作成	△	子どもの食事と栄養についての資料を読み予習する	90
		▽	「栄養・栄養素」の理解から始まる献立作成の流れを整理	90
第7回	・「衣食住の生活」④ ―「食生活」4　食生活の現状から見出される課題と学習内容	△	子どもと食生活に関する問題について資料を収集し調べる	90
		▽	食生活をめぐる課題と学習内容との関連について復習	90
第8回	「衣食住の生活」⑤ ―「衣生活」1　衣服の機能・快適な着用の仕方/日常着の手入れ・管理	△	衣服の働きや着方、手入れに関する資料を読み予習する	90
		▽	衣服の機能・着用と日常着の被服管理の基本をまとめる	90
第9回	・「衣食住の生活」⑥ ―「衣生活」2　布を用いた作品の作製の基礎的な知識・技能（被服実習）	△	日常生活に役立つ「布製品」の作製の計画と準備	90
		▽	「布製品」の作製過程・完成時や使用後における評価	90
第10回	・「衣食住の生活」⑦ ―「衣生活」3　衣生活の現状から見出される課題と学習内容	△	子どもと衣生活に関する問題について資料を収集し調べる	90
		▽	衣生活をめぐる課題と学習内容との関連について復習	90
第11回	「衣食住の生活」⑧ ―「住生活」1　住居の機能と快適な住まい方	△	住居の働きや住まい方に関する資料を読み予習する	90
		▽	快適で健康的な住まい方の視点や実践例について復習	90
第12回	「衣食住の生活」⑨ ―「住生活」2　住生活の現状から見出される課題と学習内容	△	子どもと住生活に関する問題について資料を収集し調べる	90
		▽	住生活をめぐる課題と学習内容との関連について復習	90
第13回	「消費生活・環境」① ―「消費生活」　物や金銭の使い方と買い物/消費生活における課題と学習内容	△	子どもと消費生活に関する資料を読み、問題を調べる	90
		▽	消費生活をめぐる課題と学習内容との関連を復習する	90
第14回	「消費生活・環境」② ―「環境」　環境に配慮した生活/環境と生活における課題と学習内容	△	環境に配慮した生活に関する資料を読み、問題を調べる	90
		▽	SDGsを念頭に、環境と生活の課題と学習内容との関連を復習	90
第15回	まとめ　学期末定期試験と振り返り	△	学期末定期試験の予習	90
		▽	学習した内容について目標到達状況の自己評価	90
				2700

備考：

【履修上の留意点】

・授業内の提出プリント10%、「調理実習」と「布を用いた作品の作製」で30%、学期末定期試験60%の配分に基づき、総合的に評価する（但し学期末定期試験の点数は60%以上とることが単位認定の必要要件）。 作品（作製に関連して作成する資料等も含む）の完成・提出は単位認定に必須。なお、提出物別配点と評価方法別配点（下記表）は、観点が異なるため、数値は一致しません。
・教材費（調理実習・布の作品作製）は、学生負担である（約1100円）。

【テキスト】

・「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編」文部科学省（HPにPDF版あり）東京書籍
・授業時の配布プリント

【参考書・参考資料等】

「初等家庭科の研究　―指導力につなげる専門性の育成」大竹美登利、倉持清美編著　萌文書林　2018
「生活をデザインする家庭科教育」堀内かおる　世界思想社　2020／「小学校学習指導要領　平成29年告示」文部科学省（HPにPDF版あり）　東京書籍

【連絡方法】 主としてGoogle Classroom（n-ito@g.ariake.ac.jp）。Google ClassroomのクラスコードはUNIPA掲示板に掲載します。

【オフィスアワー】 基本的に授業時間の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	50%	小学校家庭科の学習内容の理解や説明及び家庭生活全般をめぐる課題発見とその考察が十分にできている。	小学校家庭科の学習内容の理解や説明及び家庭生活全般をめぐる課題発見とその考察ができている。	小学校家庭科の学習内容の理解や説明及び家庭生活全般をめぐる課題発見とその考察が概ねできている。	小学校家庭科の学習内容の理解や説明及び家庭生活全般をめぐる課題発見とその考察が断片的でばらつきがあり、努力を要する。	小学校家庭科の学習内容の理解や説明及び家庭生活全般をめぐる課題発見とその考察が不十分である。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	50%	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が十分できている。授業の実習に積極的に参加し、十分な成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解ができている。授業の実習に積極的に参加し、成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が概ねできている。授業の実習に参加し、概ね成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされているが、授業内容の理解にばらつきがある。授業の実習に参加しているが成果についてはまとまりがなく努力を要する。	授業内のプリント提出に不足があり授業内容の理解が不十分である。授業の実習の参加状況に不足があり、成果が不十分である。
授業外での取組							

備考：【履修上の注意点】に記載されている提出物別配点と、評価方法別配点（上記表）は、観点が異なるため、数値は一致しません。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		第3回	第5，9回			

科目名／専門教育 S713	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
英　語	3年前期	選択（小免選必）	講義／単独	2単位	新庄　恵子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

英語の基本的な音声の仕組み、音声・語彙・文法の基本的な知識、発音と綴りの関係、第二言語習得に関する基本的な事柄を理解するとともに、絵本等を通して異文化理解に関する事柄について理解する。
小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な基礎的な英語運用力を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

小学校における外国語活動・外国語の授業を行うために必要となる基礎的なことを身に付けるため、グループでの活動や実践練習、ディスカッション等を中心に授業を行う。

【到達目標と学修成果】

①英語に対する興味・関心をもち、異なる言語や文化に触れることによって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
②英語の基本的な事柄(音声、語彙、文構造等)について理解している。
③英語の授業実践のために必要な実践的な英語運用力を身に付ける。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]		
第 1 回	小学校外国語活動・外国語についての理解	△	小学校学習指導要領で外国語活動・外国語について調べる。	90
		▽	第1回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 2 回	小学校外国語活動・外国語における言語活動「聞くこと・話すこと［やり取り・発表］」	△	言語活動「聞くこと・話すこと」について調べる。	90
		▽	第2回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 3 回	小学校外国語活動・外国語における言語活動「読むこと・書くこと」	△	言語活動「読むこと・書くこと」について調べる。	90
		▽	第3回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 4 回	クラスルームイングリッシュについて	△	クラスルームイングリッシュとは何か調べる。	90
		▽	クラスルームイングリッシュについて復習する。	90
第 5 回	第二言語習得：母語の習得と第二言語習得	△	第二言語習得について調べる。	90
		▽	外国語と第二言語習得に関する簡単な文献を読む。	90
第 6 回	英語の音声の仕組み：英語に共通する音的特徴	△	英語の音声の特徴を調べる。	90
		▽	第6回の学修を復習しノートにまとめる。	90
第 7 回	英語の音声と綴りの問題およびフォニックス指導	△	フォニックスとは何か調べる。	90
		▽	フォニックスの指導について具体例を1つ考える。	90
第 8 回	教材・教具の工夫	△	主な教材・教具について調べる。	90
		▽	第8回の学修を復習し、教材を作成する。	90
第 9 回	英語によるコミュニケーション活動	△	英語によるコミュニケーション活動について調べる。	90
		▽	第9回の学修を復習し、ノートにまとめる。	90
第 10 回	英米の児童文学：絵本の読み聞かせについて	△	英米の児童文学作品を読む	90
		▽	第10回の学修を復習し、絵本の読み聞かせを行う。	90
第 11 回	英米の児童文学：絵本の読み聞かせの実際（グループ発表）	△	グループで絵本の読み聞かせの準備をする。	90
		▽	読み聞かせの改善点をまとめる。	90
第 12 回	異文化交流と言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション	△	文化によるジェスチャーの違いの事例を調べる。	90
		▽	コミュニケーションに関わる表現を確認する。	90
第 13 回	授業実践①「聞くこと・話すこと」	△	テキストをもとに、スピーキングの練習をする。	90
		▽	Show & Tell を作成する。	90
第 14 回	授業実践②「読むこと・書くこと」	△	提示された文章について、内容を把握する。	90
		▽	提示された文章の内容を要約する。	90
第 15 回	まとめ：英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ活動「Show & Tell」 ・小学校における英語教育について（発表）	△	提示されるテーマについてまとめておく。	90
		▽	全授業を振り返り、学修をまとめる。	90

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等中等教育の学校等）も踏まえて、実践的な指導を行う。　2700

【履修上の留意点】

積極的に英語でコミュニケーションをしようとする態度を求めます。
協働学習に意欲的に取り組むことが必要です。

【テキスト】

「子どもに教える先生のための英語一会話から授業まで一」成美堂

【参考書・参考資料等】

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』平成29年7月

【連絡方法】　授業時に伝える

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	① ② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、自分の考えをもとに解答できている。 ・書式のミスがない。	・課題の意図を理解し、明確に解答できている。 ・書式のミスがほぼない。	・課題の意図を概ね理解し、適切に解答できている。 ・書式のミスが散見する。	・課題の意図を断片的に理解し、解答できているが、テーマとの結びつきが弱い。 ・書式のミスが多い。	・課題の意図や授業内容の理解が不十分であり、解答できているが、テーマとの関りが見られない。 ・字数が不足しており、書式のミスが多い。 ・提出期限が守られない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	50%	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に意欲的に取り組む姿勢が見られ、模範である。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に取り組む姿勢が見られる。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加しようと努力する姿勢が見られる。 ・学習を通じて、知識/理解/実践力の習得に努めようとする。	・授業の学習活動に参加することができる。 ・知識/理解/実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業の学習活動への参加が不十分であり、知識/理解/実践力の習得が不足している。
授業外での取組	① ③	20%	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められ、その成果も見受けられる。	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習に積極的に取り組む努力をしていることが認められる。	・授業外での学習に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習への取り組みが不十分で、内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第8回・第9回・第10回	第11回・第13回 第15回				

科目名／専門教育 H811	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導（保育所・施設）Ⅰ	2年後期	選択（保育士必修）	演習／複数	2単位	角杉　美恵子　・　池口 洋一郎		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

保育実習の目的と意義を理解し、以下の点について学ぶ。
①保育所および施設の役割、職務内容の理解および実習生としての態度や心構え
②乳幼児の発達、利用者の状況に即した保育技術の習得
③実習に係る書類、実習日誌の記入、記録の仕方、部分実習・責任実習の指導計画作成

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

「授業のねらい」で示した内容について具体的に学べるよう、実践的な指導を行う。事後指導では実習体験についてレポート作成や発表を行い、省察による新たな学習目標や課題を設定する。

【到達目標と学修成果】

①保育所、児童福祉施設、社会福祉施設における社会的役割と職務内容を理解する。②乳幼児の発達や利用者の状況に即した具体的な保育技術を知る。③実習日誌記入における具体的内容を理解する。④部分指導計画を考案・作成する。⑤実習前に設定した目標について実習後に省察し、新たな学習課題を明確にする。

回　数	授　業　内　容		授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第１回	保育実習Ⅰの目的 保育所実習・施設実習の目的、意義、内容を理解する	△	シラバスを読み、授業の概要を確認する	90
		▽	授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90
第２回	保育所実習での実習実践方法　1 3歳未満児の生活と保育	△	保育所の社会的役割について、書籍、インターネットで調べる	90
		▽	保育所に入所する3歳未満児の一日の生活の流れをノートにまとめる	90
第３回	施設実習の意義を理解する 児童福祉施設の社会的役割について	△	児童福祉施設の一日の生活の流れをノートにまとめる	90
		▽	保育所に入所する3歳以上の幼児の一日の生活の流れをノートにまとめる	90
第４回	保育所実習での実習実践方法　2　保育園長からの講話 乳幼児の生活と保育、保育士の役割	△	保育所の一日の生活の流れをイメージしてノートにまとめる	90
		▽	保育所日誌の記述のポイントをノートにまとめる	90
第５回	施設実習の日誌と研究目的 日誌の記述の仕方・実習生の研究目的・着眼点	△	児童福祉施設、社会福祉施設での研究目的、目標を配布資料を参考にしながら考える	90
		▽	施設日誌の記述のポイントをノートにまとめる	90
第６回	保育所実習の日誌と研究目的　1 日誌の記述の仕方	△	保育所の一日の生活の流れをイメージしてノートにまとめる	90
		▽	保育所日誌の記述のポイントをノートにまとめる	90
第７回	保育実習の指導案の理解と作成　1 施設における部分・責任指導案の作成方法	△	実習の対象者をイメージして、部分指導案の作成準備をする	90
		▽	実習の対象者をイメージして、部分指導案を修正する	90
第８回	保育所実習の日誌と研究目的　2 実習生の研究目的・着眼点	△	実習目的と実習目標を考え、配布資料にまとめる	90
		▽	一日ごとの着眼点を配布資料にまとめる	90
第９回	施設実習での実習実践方法 社会福祉施設の種類　利用者との関わり方と援助方法　施設長からの講話	△	社会福祉施設の社会的役割について、書籍、インターネット等で調べる	90
		▽	社会福祉施設の一日の生活の流れをノートにまとめる	90
第１０回	保育実習の指導案の理解と作成　2 保育所における部分・責任指導案の作成方法	△	実習目的と実習目標を考え、配布資料にまとめる	90
		▽	一日ごとの着眼点を配布資料にまとめる	90
第１１回	保育実習の指導案の実践　1 施設実習における指導案にもとづくディスカッション　まとめ	△	ディスカッションにむけた準備を行う	90
		▽	ディスカッションをとおした内容を振り返り省察する	90
第１２回	保育実習の指導案の実践　2 保育所実習における指導案にもとづくロールプレイとディスカッション	△	ロールプレイにむけた準備を行う	90
		▽	ロールプレイをとおした内容を振り返り省察する	90
第１３回	実習後の振り返り 実習後の成果と課題を省察して自己評価を行い、レポートを作成する。	△	日誌、自己評価票をもとに、レポート作成の準備をする	90
		▽	グループ、全体発表への準備をする	90
第１４回	実習成果の課題の発表　1 保育所実習における成果の発表とディスカッション	△	発表内容の準備	90
		▽	他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	90
第１５回	まとめ　実習成果と課題の発表　2 施設実習における成果の発表とディスカッション	△	発表内容の準備	90
		▽	他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

すべて出席することを原則とする。事前指導の出席回数が不足(4回欠席)している場合は、実習を見送り、再履修。
欠席の多い学生には、実習前に補講を行う。

【テキスト】

実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）

【参考書・参考資料等】

授業内に適宜紹介する。

【連絡方法】　実習メール、授業内での指示掲示を確認する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	①	20%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ④ ⑤	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。 。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	⑪⑫⑬⑭⑮	⑬⑭⑮				⑪⑫

科目名／専門教育 H814	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導（保育所）Ⅱ	3年前期	保育士（選択必修）	演習/複数	1単位	角杉　美恵子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

保育実習（保育所）Ⅱの目的や意義、これまで修得してきた実習や科目との関連性を踏まえながら、より良い保育実践力の修得を目指す。
保育士の役割や職務を深く理解するとともに、良好な人間関係の構築を通し保育士としての人間力の向上を図る。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

上記の点について具体的に学べるよう、演習やｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを取り入れ実践的な指導を行う。
事後指導では実習体験についてレポート作成や発表の機会を設け、反省・評価と各自の新たな学習目標や課題を明確にできるようにする。

【到達目標と学修成果】

①乳児・幼児の個々の発達に対応し、子どもの状況に即した保育技術を習得することができる。
②保育実習Ⅰで学んだ実習日誌の目的や意義を再確認し、具体的な記入方法を学ぶことができる。
③指導計画作成および模擬保育を体験し、明確な目的や実践力をもって実習に臨むことを目指す。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回	ガイダンス（保育実習Ⅱの目的および実施上の規則の確認）	△「実習ガイド」の「保育実習Ⅱ」を読んでおく	15
		▽保育実習Ⅱ「目標シート」の記入	30
第2回	保育所の社会的責任と役割について	△保育所における諸問題について考えておく	15
		▽課題レポートの作成	30
第3回	養護と教育が一体的に行われる保育とは？	△保育所保育指針「保育の実施上の配慮事項」を読んでおく	15
		▽課題レポートの作成	30
第4回	観察に基づく保育の理解と記録（子どもの活動・個人差・年齢差）	△保育実習Ⅰの日誌を振り返る	15
		▽「日誌の書き方シート」の記入	30
第5回	観察に基づく保育の理解と記録（保育士などの動きや保育実践）	△保育実習Ⅰの日誌を振り返る	15
		▽「日誌の書き方シート」の記入	30
第6回	環境を通して行う保育、総合的な保育の理解	△保育所保育指針「保育の環境」を読んでおく	15
		▽責任実習指導計画の立案	30
第7回	保育実践における遊びの在り方について考える 指導案の作成と模擬保育準備	△指導案参考図書の収集・閲覧	15
		▽遊び等の構想計画の作成	30
第8回	担任業務や主活動について考える　（構想計画書作成） 指導案作成と模擬保育準備	△指導案参考図書の収集・閲覧	15
		▽指導案の作成	30
第9回	部分実習、責任実習についてプレゼンテーション 模擬保育とﾘﾌﾚｸｼｮﾝ活動	△プレゼンテーション準備	15
		▽模擬保育準備、リフレクションシートの記入	30
第10回	模擬保育とﾘﾌﾚｸｼｮﾝ活動	△指導案作成と模擬保育準備	15
		▽模擬保育準備、リフレクションシートの記入	30
第11回	模擬保育とﾘﾌﾚｸｼｮﾝ活動	△指導案作成と模擬保育準備	15
		▽模擬保育準備、リフレクションシートの記入	30
第12回	模擬保育とﾘﾌﾚｸｼｮﾝ活動	△指導案作成と模擬保育準備	15
		▽模擬保育のまとめと課題整理	30
第13回	実習を振り返り、成果と課題を確認する。（事後指導）	△「実習成果シート」の作成	15
		▽事後アンケート記入	30
第14回	実習の成果と課題をグループワークで共有する（事後指導）	△「話し合いシート」の作成	15
		▽「グループワーク報告書」の作成	30
第15回	まとめ　（グループ発表）（事後指導）	△「グループワーク報告書」の作成	15
		▽「グループワーク報告書」「日誌」「指導案」の完成・提出	30

備考：　675

【履修上の留意点】

この授業は、実習へ行くための必修科目です。すべて出席を原則とします。休まずに参加すること。
指導計画の作成や模擬保育ではグループワーク活動を取り入れます。良好な人間関係を構築し、学びあい高めあいに協力すること。

【テキスト】

・「実習ガイド」　有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）

【参考書・参考資料等】

・幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針
・新人担任が知っておきたい0・1・2歳児保育のキホンまるわかりブック著：今井和子　石田　幸美　GAKKEN

【連絡方法】　授業時に知らせる

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80–89）	平均的（B:70–79）	努力を要する（C:60–69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	①②③	20%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①②	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①③	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①②③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。 ・課題に基づいた指導案の作成ができちんとできる。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。 ・課題に基づいた指導案作成の努力が認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。 ・課題に基づいた指導案作成の努力がやや認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。 ・・課題に基づいた指導案作成に対して努力が必要である。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。 ・指導案作成未提出および内容不可

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	9～15	1～15				

科目名／専門教育 H816	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導（施設）Ⅲ	3年前期	選択（保育士 選必）	演習／単独	1単位	深澤　瑞穂		○

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

児童厚生施設、社会福祉施設において、実習を行う意義と目的を理解する。
施設での実習に向けて具体的な目標を定め、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

実習前は、施設での実習への心構えと目標を明確にし、実習記録・指導案の記述方法について学ぶ。
事後指導では、実習体験についてレポート作成と発表を行い、さらに高度な保育実践への目標と課題を明らかにするためのスーパービジョンを行う。

【到達目標と学修成果】

①児童厚生施設、社会福祉施設における社会的役割と職務内容を理解する。②利用者の個別的ニーズを理解する。 ③保育士として必要な資質・能力の技術を習得する。④実習での具体的な目標設定と実践を振り返り、自己省察する。⑤施設実習Ⅲを総括し、今後の課題を明確にする。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 ［△事前 ▽事後 ／ 分］	
第 1 回	保育実習Ⅲの意義と目的の理解 施設実習を行うことの意義と目的、実習に臨む態度と心構えを知る。	△ シラバスを読み、授業の概要を確認する	20
		▽ 授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	25
第 2 回	保育実習Ⅲの内容の理解 保育実習Ⅲにおける実習の流れと具体的な実習の内容を理解する。	△ 実習ガイドの指定ページを熟読する	20
		▽ 保育実習Ⅲに該当する施設について、インターネットで調べる	25
第 3 回	施設の役割と保育者の責務、職業倫理の理解　各施設の設置目的と役割、保育者の職務内容を理解する。児童福祉と社会福祉の法規に基づき、利用者の人権とプライバシーの保護について理解を深める。	△ 児童福祉法と社会福祉法の概要について、書籍等で調べる	20
		▽ 利用者へのプライバシー配慮、保護に関するレポートを作成する	25
第 4 回	児童厚生施設における援助方法 児童厚生施設のデイリープログラムから、利用者との関わり方と具体的援助の実際を学ぶ。接遇について。	△ 児童厚生施設について、インターネット等で調べる	20
		▽ 児童厚生施設のデイリープログラムのモデルを作成する	25
第 5 回	社会福祉施設における援助方法 社会福祉施設のデイリープログラムから、利用者との関わり方と具体的援助の実際を学ぶ。保護者や施設の方との対応について。	△ 社会福祉施設について、インターネット等で調べる	20
		▽ 社会厚生施設のデイリープログラムのモデルを作成する	25
第 6 回	施設実習日誌の作成方法 1 実習目的と12日間の研究課題を定める。	△ 実習目的と実習目標を考え、配布資料にまとめる	20
		▽ 一日ごとの着眼点を配布資料にまとめる	25
第 7 回	施設実習日誌の作成方法 2 12日間における日誌の記入方法とそのポイントを理解する。	△ 12日間の着眼点を全体的に見直し、再構成する	20
		▽ 施設日誌の記述のポイントを実習ガイド、配布資料を読みながら確認する	25
第 8 回	実習指導案の理解と作成方法 実習指導案作成の目的、具体的な手続きを学ぶ。	△ 指導案作成の準備をする	20
		▽ 添削された指導案を見直し、修正を行う	25
第 9 回	個別支援計画の理解と作成方法 個別支援計画の作成の目的と具体的な手続きを学ぶ。	△ フィクション事例に基づき個別支援計画を作成する	20
		▽ 個別支援計画作成のポイントを配布資料をみながらノートにまとめる	25
第 10 回	実習指導案に基づく実践方法 1 作成した実習指導案に基づき、ロールプレイ等を試みる。	△ ロールプレイにむけた準備を行う	20
		▽ ロールプレイをとおした内容を振り返り省察する	25
第 11 回	実習指導案に基づく実践方法 2 作成した実習指導案に基づくロールプレイ等をとおして、具体的な実践方法について考察する。	△ ロールプレイにむけた準備を行う	20
		▽ ロールプレイをとおした内容を振り返り省察する	25
第 12 回	施設でのオリエンテーションを受け、実習への心構えと目標設定について、最終確認をする。	△ オリエンテーションの記録を作成する	20
		▽ 最終的なスケジュール、実習計画、内容を確認する	25
第 13 回	実習後の振り返り 実習後の成果と課題を省察して自己評価を行い、レポートを作成する。	△ 日誌、自己評価票をもとに、レポート作成の準備をする	20
		▽ グループ、全体発表への準備をする	25
第 14 回	実習成果の発表と課題の共有 1 実習成果の発表と研究課題に基づく評価を行う。	△ 発表内容の準備	20
		▽ 他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	25
第 15 回	まとめ　実習成果の発表と課題の共有 2 実習成果の発表と研究課題に基づく評価を行い、今後の課題を明確にする。	△ 発表内容の準備	20
		▽ 他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	25

備考：　675

【履修上の留意点】

この授業は、実習へ行くための必修科目です。すべて出席を原則とします。休まずに参加すること。

【テキスト】

実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）

【参考書・参考資料等】

授業内に適宜紹介する。

【連絡方法】　実習メール、授業内での指示、掲示

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:100－90点）	優れている（A:89-80）	平均的（B:79-70）	努力を要する（C:69-60）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	① ② ③ ④ ⑤	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③ ④ ⑤	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	④ ⑤	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		14・15				第10、11回

科目名／専門教育 H816	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導（施設）Ⅲ	3年前期	選択（保育士 選必）	演習／単独	1単位	深澤　瑞穂		○

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

児童厚生施設、社会福祉施設において、実習を行う意義と目的を理解する。
施設での実習に向けて具体的な目標を定め、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

実習前は、施設での実習への心構えと目標を明確にし、実習記録・指導案の記述方法について学ぶ。
事後指導では、実習体験についてレポート作成と発表を行い、さらに高度な保育実践への目標と課題を明らかにするためのスーパービジョンを行う。

【到達目標と学修成果】

①児童厚生施設、社会福祉施設における社会的役割と職務内容を理解する。②利用者の個別的ニーズを理解する。 ③保育士として必要な資質・能力の技術を習得する。④実習での具体的な目標設定と実践を振り返り、自己省察する。⑤施設実習Ⅲを総括し、今後の課題を明確にする。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 ［△事前 ▽事後 ／ 分］	
第 1 回	保育実習Ⅲの意義と目的の理解 施設実習を行うことの意義と目的、実習に臨む態度と心構えを知る。	△ シラバスを読み、授業の概要を確認する	20
		▽ 授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	25
第 2 回	保育実習Ⅲの内容の理解 保育実習Ⅲにおける実習の流れと具体的な実習の内容を理解する。	△ 実習ガイドの指定ページを熟読する	20
		▽ 保育実習Ⅲに該当する施設について、インターネットで調べる	25
第 3 回	施設の役割と保育者の責務、職業倫理の理解　各施設の設置目的と役割、保育者の職務内容を理解する。児童福祉と社会福祉の法規に基づき、利用者の人権とプライバシーの保護について理解を深める。	△ 児童福祉法と社会福祉法の概要について、書籍等で調べる	20
		▽ 利用者へのプライバシー配慮、保護に関するレポートを作成する	25
第 4 回	児童厚生施設における援助方法 児童厚生施設のデイリープログラムから、利用者との関わり方と具体的援助の実際を学ぶ。接遇について。	△ 児童厚生施設について、インターネット等で調べる	20
		▽ 児童厚生施設のデイリープログラムのモデルを作成する	25
第 5 回	社会福祉施設における援助方法 社会福祉施設のデイリープログラムから、利用者との関わり方と具体的援助の実際を学ぶ。保護者や施設の方との対応について。	△ 社会福祉施設について、インターネット等で調べる	20
		▽ 社会厚生施設のデイリープログラムのモデルを作成する	25
第 6 回	施設実習日誌の作成方法　1 実習目的と12日間の研究課題を定める。	△ 実習目的と実習目標を考え、配布資料にまとめる	20
		▽ 一日ごとの着眼点を配布資料にまとめる	25
第 7 回	施設実習日誌の作成方法　2 12日間における日誌の記入方法とそのポイントを理解する。	△ 12日間の着眼点を全体的に見直し、再構成する	20
		▽ 施設日誌の記述のポイントを実習ガイド、配布資料を読みながら確認する	25
第 8 回	実習指導案の理解と作成方法 実習指導案作成の目的、具体的な手続きを学ぶ。	△ 指導案作成の準備をする	20
		▽ 添削された指導案を見直し、修正を行う	25
第 9 回	個別支援計画の理解と作成方法 個別支援計画の作成の目的と具体的な手続きを学ぶ。	△ フィクション事例に基づき個別支援計画を作成する	20
		▽ 個別支援計画作成のポイントを配布資料をみながらノートにまとめる	25
第 10 回	実習指導案に基づく実践方法 1 作成した実習指導案に基づき、ロールプレイ等を試みる。	△ ロールプレイにむけた準備を行う	20
		▽ ロールプレイをとおした内容を振り返り省察する	25
第 11 回	実習指導案に基づく実践方法 2 作成した実習指導案に基づくロールプレイ等をとおして、具体的な実践方法について考察する。	△ ロールプレイにむけた準備を行う	20
		▽ ロールプレイをとおした内容を振り返り省察する	25
第 12 回	施設でのオリエンテーションを受け、実習への心構えと目標設定について、最終確認をする。	△ オリエンテーションの記録を作成する	20
		▽ 最終的なスケジュール、実習計画、内容を確認する	25
第 13 回	実習後の振り返り 実習後の成果と課題を省察して自己評価を行い、レポートを作成する。	△ 日誌、自己評価票をもとに、レポート作成の準備をする	20
		▽ グループ、全体発表への準備をする	25
第 14 回	実習成果の発表と課題の共有　1 実習成果の発表と研究課題に基づく評価を行う。	△ 発表内容の準備	20
		▽ 他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	25
第 15 回	まとめ　実習成果の発表と課題の共有　2 実習成果の発表と研究課題に基づく評価を行い、今後の課題を明確にする。	△ 発表内容の準備	20
		▽ 他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	25

備考：

675

【履修上の留意点】
この授業は、実習へ行くための必修科目です。すべて出席を原則とします。休まずに参加すること。

【テキスト】
実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）

【参考書・参考資料等】
授業内に適宜紹介する。

【連絡方法】　実習メール、授業内での指示、掲示

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:100－90点）	優れている（A:89-80）	平均的（B:79-70）	努力を要する（C:69-60）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	① ② ③ ④ ⑤	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③ ④ ⑤	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	④ ⑤	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		14・15				第10、11回

科目名／専門教育 H812	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実習（保育所）Ⅰ	2年後期	保育士必修	実習	2単位	角杉　美恵子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

学習した理論、知識、技術を総合的に実践する応用力を養う。
保育所の保育実践に触れながら、保育観察に明確な視点をもって臨み、子ども理解と保育の仕事を理解する。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

保育実習実施基準に定められた基準に従って、保育所において原則12日間（90時間）の体験学習を行う。実習日誌に毎日の記録を作成し、実習先保育所において指導を受ける

【到達目標と学修成果】

①保育所の役割や機能を具体的に理解する。②観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に学ぶ。④保育の計画、観察、記録および自己評価などについて具体的に理解する。⑤保育士の業務内容や職業倫理について理解する。

実　習　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後］
≪観察実習≫ ・実習保育所等の職員の役割や環境構成を理解する。 ・一日の保育の流れや保育所における子どもの行動を観察し、理解する。 ・乳児・幼児のあそびや生活を観察し、かかわりを通して、発達の特性を理解する。 （個と集団に着目して） ≪参加実習≫ ・子どもと活動をともにして一日の生活の内容を体験する。 ・子どもと生活をともにしながら保育士の補助的な立場をとり、保育士としての態度や技術などを習得する。特に、子どもの安全面、衛生面の配慮の仕方を学ぶ。 ・保育のねらい、子どもの体験（エピソード）をとらえた実習日誌を作成し、保育についての考察を深める。 ・養護と教育が一体的に行われていることを理解する。 ・保育士などの職務内容に応じた役割分担およびチームワークについて学ぶ。 ・子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達過程や生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。 ≪部分実習≫ ・保育活動の一分野の指導計画を担当保育士などの指導のもとに立案し実践する。	△ 【実習ガイドを元に各自で確認・準備しておくこと】 △実習事前学修 ・実習先の確認とオリエンテーションの日程調整 （服装・身だしなみ・あいさつ・持ちものなどの確認） ・実習先・大学・巡回教員との連絡方法の確認 ・実習ガイド「保育実習Ⅰの目的・概要」の熟読 ・個人調書・出席簿・日誌表紙の下書き作成 ・細菌検査に関する準備および再確認 ・巡回教員とのミーティング ・日誌の書き方プリントを熟読 ①専門用語・話し言葉・書き言葉・文章の基本的な書き方）の配付プリントを熟読しておくこと ②実習先での話し言葉と敬語表現のプリントを熟読しておくこと △実習中 ・丁寧な観察および日誌の作成 ・絵本の読み聞かせ・手遊び・わらべうたなどの練習 ・部分実習に向けての準備 ▽ ▽実習事後学修 ・保育実習先のご指導に基づく日誌および指導案の振り返りと添削 ・自己反省・自己評価の作成 ・実習ガイドをもとにお礼状の作成・送付 （季節のあいさつ・季語・はがき・封筒宛名の書き方） ・保育実習Ⅰ振り返りアンケートの作成と提出

備考：　この科目では、実習先担当者の実務経験（保育士）も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

*実習中の欠席1/3日以上で実習停止となります。
保育実習先での態度・意欲・子どもとの関わりが基本的な評価の基準となります。素直な姿勢で実習に臨みましょう。事務などの正確性、保育現場の先生方とのコミュニケーションなどにも常に意識して、一日一日着眼点をもって実習に臨みましょう。ウイルス感染症などに対する本学および実習先の対応に関する情報について確認を怠らないこと

【テキスト】

実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）

【参考書・参考資料等】

幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説　内閣府・文部科学省・厚生労働省　2015

【連絡方法】　UNIPA、実習メール(ariake_jissyuu@yahoo.co.jp)、授業内の指示、掲示を確認する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
実習指導案	① ②	10%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
実習日誌	② ③	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
実習での取組	① ② ④ ⑤	60%	・主体的に実習に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に実習に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
実習外での取組	② ④	10%	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容をなんとか遂行できた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			全授業回			

科目名／専門教育 H813	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実習（施設）Ⅰ	2年後期	選択（保育士必修）	実習	2単位	池口　洋一郎	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

1.児童福祉施設、社会福祉施設の機能と社会的役割を理解する。
2.実習施設での生活に参加しながら、利用者とのかかわり方、具体的な援助の方法を学び、実践力を身につける。
*保育士資格取得に必要な科目である。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

「保育実習実施基準」に定められた基準に従い、児童福祉施設等において12日間（90時間）の実習を行う。

【到達目標と学修成果】

①児童福祉施設、社会福祉施設での実習をとおして、保育士の職務内容を理解する。
②施設で生活する利用者の姿を知り、継続的に支援することの意義を理解する。

実　習　内　容		授業時間外の学修　［△事前　▽事後］
1.実習初期：参加観察・補助実習（3～4日間） 利用者や職員との関わりをとおして、保育士の職務内容を理解する。 ・1日の生活に参加しながら、利用者の生活プログラムを理解する。 ・他の施設職員の仕事の内容と職務体制を理解する。 ・施設で生活している利用者のニーズを知り、関係づくりに努める。 2.実習中期：補助実習・部分担当（6～7日間） 利用者一人ひとりの発達や課題を理解して関わりを深める。 ・利用者の個別のニーズを理解し、利用者との関わりを部分的に担当する。 ・施設職員の仕事を部分的に補助し、利用者の健康・安全への配慮などに努める。 ・地域社会との連携について学び、実習施設の社会的役割を理解する。 3.実習後期：全体実習・総括（1～2日間） 保育士の専門性を理解し、施設の社会的役割や保育士の役割と位置づけについて総括する。 ・これまでの実習体験をいかして、具体的な援助・養護技術を総括する。 ・利用者への理解、利用者とのかかわり方の工夫など、保育士の役割について総括する。 ・実習記録、指導案に基づき省察を行う。 ・実習施設の社会的な役割と使命について総括する。	△	オリエンテーション、日誌の記述。部分指導案作成、責任実習指導案の作成、日誌の修正、自己評価
	▽	オリエンテーション、日誌の記述。部分指導案作成、責任実習指導案の作成、日誌の修正、自己評価

備考：　この科目では、実習先担当者の実務経験も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

事前指導の出席回数が不足している場合は、実習を見送り、再履修となる。

【テキスト】

実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）　その他指導者の用意する資料

【参考書・参考資料等】

授業内に適宜紹介する。

【連絡方法】　UNIPA、実習メール(ariake_jissyuu@yahoo.co.jp)、授業内の指示、掲示を確認する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:100－90点）	優れている（A:89-80）	平均的（B:79-70）	努力を要する（C:69-60）	相当な努力を要する（F:59点以下）
実習内での取組	① ②	90%	・主体的に実習に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に実習に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
実習外での取組	① ②	10%	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容をなんとか遂行できた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			全授業回			

科目名/専門教育 H815	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実習(保育所)Ⅱ	3年前期	保育士(選択必修)	実習	2単位	角杉　美恵子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
学習した理論、知識、技術を総合的に実践する応用力を養う。保育実習(保育所)Ⅰの省察から、各自が本実習の課題を設定し、より達成度の高い実習を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
保育実習実施基準に定められた基準に従って、保育所において原則12日間(90時間)の体験学習を行う。実習日誌に、毎日の記録を作成し、実習先保育所において指導を受ける。

【到達目標と学修成果】
①保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。③保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。④保育の計画、実践、観察、記録および自己評価について実際に取り組み、理解を深める。⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。⑥保育士としての自己の課題を明確化する。

実習内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]
≪観察実習≫ ・養護と教育が一体的に行われていることを具体的な場面を通して理解する。 ・保育所の社会的役割と責任を確認する。 ・ひとり一人の子どもの心身の状態や活動を捉える。 ・保育士などの動きや実践の観察を行い、自身の考察を取り入れて記録する。 ≪参加実習≫ ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。 ・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援について学ぶ。合わせて地域社会との連携について理解する。 ≪指導実習≫　(部分実習および責任実習) ・短時間あるいは1日の指導計画を担当保育士などの指導の下に立案し実践する。 ・全体的な計画及び指導計画の意義を理解し、保育内容関連科目で習得したことを生かして実践する。 ・特に個人差に配慮した保育を展開できるように心がける。 ≪まとめ≫ ・実習を通して、多様な保育の展開(縦割り保育・統合保育・自由保育など)を理解し、保育士の業務や倫理観、子ども観、保育観を知ることで自己の課題を明確に持ち、自己評価に繋げる。	【実習ガイドを元に各自で確認・準備しておくこと】 △実習事前学修 ・実習先の確認とオリエンテーションの日程調整 (服装・身だしなみ・あいさつ・持ちものなどの確認) ・実習先・大学・巡回教員との連絡方法の確認 ・実習ガイド「保育実習Ⅱの目的・概要」の熟読 ・個人調書・出席簿・日誌表紙の下書き作成 ・細菌検査に関する準備および再確認 ・巡回教員とのミーティング ・日誌の書き方プリントを熟読 ①専門用語・話し言葉・書き言葉・文章の基本的な書き方)の配付プリントを熟読しておくこと ②実習先での話し言葉と敬語表現のプリントを熟読しておくこと ・部分実習・責任実習指導案作成のための準備をあらかじめしておく △実習中 ・丁寧な日誌の作成 ・学びを深める指導案の作成 ・絵本の読み聞かせ・手遊び・わらべうたなどの練習 ・提出レポートの作成など ▽実習事後学修 ・保育実習先のご指導に基づく日誌および指導案の振り返りと添削 ・自己反省・自己評価の作成 ・実習ガイドをもとにお礼状の作成・送付 (季節のあいさつ・季語・はがき・封筒宛名の書き方) ・保育実習Ⅱ振り返りアンケートの作成と提出 ・保育実習の学びを振り返り今後の活動に生かす

備考：　この科目では、実習先担当者の実務経験(保育士)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】
ウイルス感染症などに対する本学および実習先の対応に関する情報について確認を怠らないこと

【テキスト】
実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）

【参考書・参考資料等】
幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説　内閣府・文部科学省・厚生労働省　2015

【連絡方法】　UNIPA、実習メール(ariake_jissyuu@yahoo.co.jp)、授業内の指示、掲示を確認する

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている(S:90－100点)	優れている(A:80-89)	平均的(B:70-79)	努力を要する(C:60-69)	相当な努力を要する(F:59点以下)
実習指導案	① ② ⑤	10%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
実習日誌	③ ② ④	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、誤和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの実習内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
実習での取組	① ② ③ ④ ⑤	60%	・主体的に実習に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に実習に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
実習外での取組	② ④ ⑥	10%	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容をなんとか遂行できた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			全授業回			

科目名／専門教育	H817	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実習（施設）Ⅲ		3年前期	選択 （保育士必修）	実習	2単位	深澤　瑞穂	○	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
1. 児童福祉施設等（保育所以外）児童厚生施設、社会福祉施設の機能と社会的役割を理解する。
2. 実習施設での生活に参加しながら、利用者とのかかわり方、具体的な援助の方法を理解する。
＊保育士資格取得に必要な科目である。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】
「保育実習実施基準」に定められた基準に従い、児童福祉施設等において12日間(90時間)の実習を行う。

①児童福祉施設での実習をとおして、保育士の職務内容を理解する。
②施設で生活する利用者の姿を知り、一時的、継続的に支援することの意義を理解する。

実　習　内　容	時間外の学修　【△事前　▽事後】
1.実習初期：参加観察・補助実習（3～4日間） 利用者や職員との関わりをとおして、保育士の職務内容を理解する。 ・施設の1日の流れを知り、利用者が参加・実施しているプログラムを理解する。 ・他の施設職員の仕事の内容と職務体制を理解する。 ・利用者のニーズを知り、関係づくりに努める。 2.実習中期：補助実習・部分担当（6～7日間） 利用者のニーズを理解して関わりを深める。 ・利用者の個別的ニーズを理解し、利用者との関わりを部分的に担当する。 ・施設職員の仕事を部分的に補助し、利用者の健康・安全への配慮などに努める。 ・地域社会との連携について学び、実習施設の社会的役割を理解する。 ・個別支援計画の作成について学ぶ。 3.実習後期：全体実習・総括（1～2日間） 保育士の専門性を理解し、施設の社会的役割や保育士の役割と位置づけについて総括する。 ・これまでの実習体験をいかして、具体的な援助・養護技術を総括する。 ・利用者への理解、利用者とのかかわり方の工夫など、保育士の役割について総括する。 ・実習記録、指導案に基づき省察を行う。 ・実習施設の社会的な役割と使命について総括する。 ・実習をとおして、保育者士としての自己課題を明確にする。	△オリエンテーション、日誌の記述、部分指導案の作成、 責任実習の指導案作成、日誌の修正、自己評価 ▽オリエンテーション、日誌の記述、部分指導案の作成、 責任実習の指導案作成、日誌の修正、自己評価

備考：　この科目では、実習先担当者の実務経験も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】
事前指導の出席回数が不足している場合は、実習を見送り、再履修となる。

【テキスト】
実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）　その他指導者の用意する資料

【参考書・参考資料等】
実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会(編)

【連絡方法】　実習メール、授業内の指示、掲示

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S：100―90点）	優れている（A：89―80）	平均的（B：79―70）	努力を要する（C：69―60）	相当な努力を要する（F：60点以下）
実習内での取組	① ②	90%	・主体的に実習に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がみる。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に実習に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
実習外での取組	① ②	10%	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容をなんとか遂行できた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業項】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			全授業回			

科目名／専門教育 Y801	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導（幼稚園）	2年通年	選択（幼免必修）	演習／単独	1単位	信太　朋子	○	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

本講義では、幼稚園・こども園における教育実習の目的や意義、教育実習に必要な知識、技術を学び、自分の課題を見つけ、自ら研究し関わっていく実習態度を身につけることを目標とする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

講義形式である。実習に先立って、その心構えや実習の進め方、幼児理解および保育内容の理解、実習日誌の書き方、指導案の立案等について、現場の事例を通して事前指導を行う。さらに実習終了後、実習での学習成果や課題をまとめ、反省評価を促し、新たな学習目標をもつよう事後指導を行う。

【到達目標と学修成果】

①社会人としての挨拶や礼儀また、幼稚園教諭としてのマナーや心構えを身に付ける。
②現場の事例を通して幼児理解や保育内容を理解をする。
③実習日誌の書き方、指導案の立て方を学び、評価反省することで、自分の課題解決の糸口を見出す。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第１回	ガイダンス（幼稚園教育を理解する・実習の意義や目的・心構え）	△ 配布資料を確認する	20
		▽ 実習ガイドで実習の目的を復習する	20
第２回	保育の考え方の基本・幼児理解　実習に関する書類の指導	△ 3歳児～5歳児の発達について予習する	20
		▽ 配布資料で幼稚園の実際の復習をする	20
第３回	実習の事前指導　実習日誌の書き方Ⅰ －観察の視点について－	△ 実習ガイドを予習する	20
		▽ 実習日誌の書き方をノートにまとめる	20
第４回	実習の事前指導　実習日誌の書き方Ⅱ －着眼点に基づく実習の取り組み－	△ 実習ガイドを予習する	20
		▽ 着眼点についてディスカッションした内容をまとめる	20
第５回	実習の事前指導 実習オリエンテーションについての指導	△ 実習ガイドを予習する	20
		▽ オリエンテーション記録をまとめる	20
第６回	実習の事前指導　部分実習指導案の立案　教育実習の評価	△ 実習ガイドを予習する	20
		▽ 部分実習指導案の作成	40
第７回	実習園の概要　オリエンテーション に向けて　部分実習の実践	△ 部分実習指導案を立案する	20
		▽ 部分実習の振り返り	40
第８回	実習に必要な書類（個人調書・健康確認表）　実習日誌（提出・修正）	△ 実習ガイドを予習する	20
		▽ 授業内容をまとめる	20
第９回	着眼点に基づく保育の意図と視点及び考察と反省	△ 着眼点の項目について調べ、まとめる	20
		▽ 年齢別に着眼点をまとめる	20
第１０回	オリエンテーション振り返り　先輩の体験談から学ぶ	△ 実習ガイドを予習する	20
		▽ 実習ガイドを復習する	20
第１１回	教育実習のマナーと心構え　保育教材（年齢や発達、時期、行事）	△ 主活動の意義について調べる	20
		▽ 責任実習指導案の作成	45
第１２回	責任実習指導案の立案 －主活動の指導案の実践（ねらいと活動　保育の導入・展開・まとめ）	△ 責任実習指導案の作成	20
		▽ 責任実習指導案の復習	20
第１３回	責任実習指導案の立案 責任実習指導案の実践　実習事前準備　お礼状	△ 責任実習指導案の作成	20
		▽ 責任実習指導案の復習	20
第１４回	実習の事後指導　実習振り返りシート	△ 実習の振り返り	20
		▽ 資料やノートの整理	30
第１５回	まとめ　実習の事後指導　教師の役割 教育実習の成果及び課題についてのディスカッション	△ 実習の振り返り	20
		▽ 学習成果についてまとめる	20

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等中等教育の学校等）も踏まえて、実践的な指導を行う。　675

【履修上の留意点】

授業への参加態度重視。授業で出された課題・実習日誌・実習指導案（部分実習、一日実習）・授業ノートの提出状況・内容で評価を行う。

【テキスト】

実習ガイド 有明教育芸術短期大学　子ども教育学科　実習委員会（編）
適宜、授業で配布する。

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領(2017)フレーベル館／幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)フレーベル館
保育所保育指針(2017)フレーベル館／小田豊監修　教育・保育実習と実習指導 (2009) 光生館

【連絡方法】　ariake_jissyuu@yahoo.co.jp

【オフィスアワー】　授業終了時

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S：90－100点）	優れている（A：80-89）	平均的（B：70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F：59点以下）
試験（発表含む）	③	60%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがなく、指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）							
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第4回	第7回		第11～14回	第7回	

科目名／専門教育 YS802	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育実習（幼稚園）	2年前後	選択（幼免必修）	実習	4単位	信太　朋子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

前半1週間を観察実習として、幼児の様子や保育者の援助、環境設定などを観察し、実習日誌に記録することを通し、幼稚園全般の様子や幼児の様子、保育の展開について理解することを目標とする。また、2週目以降を参加実習として、保育活動の一部を担当する部分実習指導案を立案し、幼児への関わり方を実践することを目標とする。実習後半では、実習の総仕上げとして一日を担任として担当する責任実習を行う。幼児の発達や実態、園や担当教員の教育方針の理解したうえで責任実習指導案を立案し、一日担任として行動するための保育技術・技能を習得することを目標とする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

課程認定基準に基づき、本学では幼稚園・子ども園における4週間の実習を4単位としている。幼稚園教諭2種免許状取得希望者は、2年次に4週間行う実習4単位、事前事後指導1単位の5単位が必修となる。

【到達目標と学修成果】

①実習を通して幼稚園教育の一日の流れや保育の展開を知るとともに、実習日誌の書き方を学ぶ。
②実習を通して、主体的に幼児理解及び教師の援助について把握し、環境の構成の仕方や一人一人の幼児に応じた関わり方や一斉指導のポイントなどの保育技術・技能を身に付ける。

実　習　内　容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］
【実習前半】 1.観察実習 ・幼稚園の一日の流れを知り、実習園の教育方針や幼稚園教員の仕事内容を理解する。 ・幼児の生活や遊びの観察を通し、3～5歳児の各年齢における発達理解や幼児理解をする。 ・幼稚園教員の保育の様子や幼児一人一人に応じた指導を観察し、幼児への関わり方や環境の構成の仕方及び保護者との関わり方を知る。 2.参加実習 ・幼稚園教員の保育内容を補助しながら、幼児への関わり方や環境設定のあり方を学ぶ。 [部分実習] ・手遊びや絵本の読み聞かせなどの部分実習指導案を立案・実践する。 【実習後半】 1.参加実習 ・幼児の発達の特性や環境・安全を踏まえながら、主体的に保育に参加し、保育技術や保育技能の経験を積む。 ・幼児一人一人に応じた指導のあり方を学ぶとともに、クラス全体の把握に努めながら保育に参加する。 [部分実習] ・クラス全体の幼児を把握し、部分実習を通して活動への期待がもてるような導入、幼児が楽しめる活動の選択、展開、活動のまとめ方を学ぶ。 [責任実習] ・一日の流れを把握し、担任としての言動を意識した上で、クラス運営を行う。主活動においては、クラス全体の幼児を把握し、活動への取り組みに意欲がもてるような導入、幼児の発達に適した活動の選択、展開、活動のまとめ方を学ぶ。	【実習前】 △事前 ・教材研究として、手遊びや絵本などを選び練習を行う。 ・絵本の読み聞かせ練習 ・個人調書記入 ・幼稚園の概要（実習日誌）作成 ・部分実習指導案を立案する。 ・主活動の教材研究・必要な教材の準備や製作 ・手遊びや絵本についてのリスト作成・練習 ・主活動のシミュレーション ・主活動の部分実習指導案作成 ・一日実習指導案作成 【実習中】 ・実習日誌を毎日記入する。 ・前日の日誌の修正を行う。 ・部分実習指導案の清書を行う。 ・教材準備・教材製作・グループディスカッションのまとめ ・一日実習指導案修正 ・主活動の検討 ・1週目・2週目の自己評価表記入 ・実習を終えての感想及びお礼状送付 ▽事後 実習振り返iシート作成 グループディスカッション 巡回指導担当教員に報告

備考：　この科目では、担当者の実務経験（初等中等教育の学校等）も踏まえて、実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

・実習園による実習評価および実習状況、実習日誌の内容から総合的に評価する。

【テキスト】

有明教育芸術短期大学　実習委員会作成　実習ガイド/　適宜、授業で配布する。

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領(2017)フレーベル館/幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)フレーベル館
保育所保育指針(2017)フレーベル館/小田豊監修　教育・保育実習と実習指導(2012) 光生館

【連絡方法】　ariake_jissyuu@yahoo.co.jp

【オフィスアワー】　授業終了時

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
実習での取組	① ②	60%	・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習内での取り組みが不十分で学習内容の理解が不足している。
実習外での取組	① ②	40%	・実習に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習に積極的に取り組むことができた。	・実習の取り組みが不十分で、学習内容の理解が不十分である。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			実習4週間			

科目名／専門教育 S821	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導（小学校）	3年通年	小免必修	演習／複数	1単位	石井 友行	○	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

・小学校教育実習の目的や内容を把握し、実習生の心得、具体的な準備内容や方法を確かめる。
・新聞、教育関係機関や実習校HPなどから教育現場の実際を読み取り、教育実習への課題づけに活かす。
・実習における活動内容やその反省事項、成果等をまとめ、大学での研究等に活かす。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

実習生としての心構えや教育現場の実際を、近隣の小学校の授業参観やVTR等を通して具体的に把握し、実習への関心と意欲を高める。実習の進め方、日誌の書き方等を先輩の記録等を参考にしながら、必要な準備内容を確かめ、推し進める。実習終了後は、実習体験のレポートを作成し発表する等、課題を明確にして研究等に活かす。

【到達目標と学修成果】

①教育実習成績評価表、教育実習日誌に記述された内容をもとに、獲得した知識や経験を「教職実践演習」の講義とも関連して教職と自己に関する認識を深め、教職希望者としての今後の努力すべき資質能力形成のための計画を明確にする。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	教育実習に向けて 実習の意味や目的、心構え 実習校HPを参考に努力目標を設定する	△「教育実習に向けて」チャレンジしたいことを考える。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第2回	小学校教師の職務（子ども理解・学級経営・特別に支援を要する子どもへの関わりについて、実習生としての関わり方等）、教育技術他	△「小学校教師の一日」について予習する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第3回	先輩の実習体験から学ぶ 服務、法令順守他	△小学校のICT活用について予習する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第4回	学習指導案基本構造について 指導案作成の実際他	△板書他、指導技術について予習する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第5回	学級経営とアクティブラーニング 模擬授業実践①	△学習指導案の基本的な内容について予習する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第6回	児童の人権、発問の仕方他 模擬授業実践②	△学級経営について予習する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第7回	教材教具、ICTの活用他 模擬授業実践③	△模擬授業の準備をする。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第8回	実習日誌作成、授業参観記録の取り方他 有明小見学事前指導 模擬授業実践④	△模擬授業の準備をする。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第9回	有明小学校での授業参観を通して指導法について実践的に学ぶ	△授業参観の観点を準備する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第10回	実際の授業参観から学んだことをまとめる 模擬授業⑤	△授業参観を通して学んだことを整理する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第11回	生徒指導、ほめ方、しかり方、休み時間、危機管理他 模擬授業⑥	△生徒指導の基本について予習する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第12回	自己の模擬授業をPDCAサイクルで分析し課題と改善点の把握する 教育実習直前指導	△PDCAサイクルと授業改善について予習する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第13回	教育実習の整理と評価分析 教育実習レポートの作成	△自らの教育実習を振り返り成果と課題をまとめる。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第14回	教育実習レポートの発表（ICTを使って）	△教育実習の成果と課題についてのプレゼンを準備する。	15
		▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	30
第15回	まとめと今後の課題	△今までの学修を振り返り予習する。	15
		▽この時間での学びをまとめる。	30

備考： この科目では、担当者の実務経験（初等中等教育の学校等）も踏まえて、実践的な指導を行う。 675

【履修上の留意点】

授業外での取組（20%）、授業内に行う課題発表（20%）「リフレクションペーパー」（20%）および、期末レポート（40%）によって総合的に評価する。

【テキスト】

実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会（編）

【参考書・参考資料等】

文部科学省「小学校学習指導要領」（最新版）

【連絡方法】 ariake_jissyuu@yahoo.co.jp

【オフィスアワー】 授業の前後、昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート	①	40%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できていない。 誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	①	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第1,2,5,6回	第14回	第5,6,7,8回			

科目名／専門教育 S822	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育実習（小学校）	3年前期	小免必修	実習	2単位	石井 友行	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

・小学校教育の実際を教育現場で経験することによって、大学における教育についての理論的・技術的な学習成果の適用と検証を行い、その深化をはかる。・教育に対する心構えや、児童に対する理解と愛情を深め、実践的な学習体験を通して教育現場への課題意識と解決への洞察力を得て今後の研究の方向を明確にする。・教職と自己に対する認識を深め、教職希望者としての今後努力すべき資質能力形成のための計画を明確にする。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

・教育実習の目標に向けて事前に設定した自己課題や、小学校教育現場における学級及び学校経営の視点からの児童への理解、学習指導、生活指導に関する多様な課題等に関して実践的に探求する。
・所属学級に関する観察・参加、活動補助等は、指導教員の許可及び指導のもと、積極的に行い学級経営への理解を深める。また、参観中は授業の妨げにならないよう留意しながら授業記録をとり授業理解を深める。参観後は授業担当教員に謝意を述べ、疑問点等があれば積極的に質問し指導を受け指導力の向上を図る。

【到達目標と学修成果】

①実際の子どもたちと接しながら、教育上の処々の課題を体験的に理解するとともに、教育課程実践の実際に触れて、教員に求められる資質能力の有様をつかむことができる。

実 習 内 容	授業時間外の学修 ［△事前 ▽事後 ／ 分］
【授業観察】 1. 学校の1日の流れを知り、小学校教諭としての仕事内容を理解する。 2. 児童の様子や各学年の発達理解を通して児童理解を深める。 3. 教師の関わりや個に応じた指導ポイントなど教育技術や教育方法を身につける。 【研究授業】 1. 自ら立案した学習指導案をもとに1時間の授業を行う。 【1日実習】 各実習校における教育実習生指導計画に従い行う場合もある。	【事前学習】 △明日の実習の流れを確認し、めあてをもつ。 △教材研究をする。 △指導案作りをする。 △教材や授業で使うプリントやワークシートの制作などをする。 【事後学修】 ▽日々の記録をまとめる。 ▽日々の記録を振り返り、改善策などをまとめる。 ▽自分の行った授業を振り返り、改善策をまとめる。

備考： この科目では、実習先の実習担当者の実務経験（小学校教諭）も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

実習先による実習評価及び実習状況、実習日誌の内容から総合的に評価する。

【テキスト】

実習先による実習評価及び実習状況、実習日誌の内容から総合的に評価する。

【参考書・参考資料等】

適宜、紹介します。

【連絡方法】 ariake_jissyuu@yahoo.co.jp

【オフィスアワー】 授業のある日の授業前後、昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
実習での取組	①	80%	・主体的に実習に臨み、意欲的に取り組む姿勢があった。 ・実習で得られた知識・理解・実践力を十分に活かして実習に臨んでいることが認められる。	・主体的に実習にに臨み取り組んでいた。 ・実習を通じて得られた知識・理解・実践力を活かして実習に取り組んでいることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・実習を通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
実習外での取組	①	20%	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容に取り組むことができた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考： 実習での取組：実習先による実習評価及び実習状況、実習日誌の内容から総合的に判断する。
実習外の取組：実習後、実習報告のためのレポートやポスター、それを使っての発表を総合的に評価する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回			実習			

科目名／専門教育 831	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ボランティア活動とキャリア教育	1.2.3通年	選択	実習	1単位	深澤　瑞穂		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

ボランティア活動を通して、ボランティア精神を身につけるとともに、将来のキャリアについて考えさせる機会を提供する。
民主的な価値観について理解を深め、現代社会が抱える多様な問題について当事者意識を持ち、その改善に向けて取り組む。
教育・保育現場で求められる実践的指導力の基礎を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

本科目は、教育・保育機関や団体等においてボランティア活動に学生が自ら主体的に参加した体験を単位として認定するものである。認定の手順は下記に記したが、詳細は授業内で説明する。
学外での実習が中心であり、前期・後期にレポート作成とプレゼンテーションを実施する。

【到達目標と学修成果】

①自分で計画を立て、進んで活動に取り組む。
②ボランティア先で創意工夫をしながら活動に従事する。
③キャリア形成におけるボランティアの重要性を意識しながら、活動に従事する。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス キャリア形成におけるボランティア活動の意義	△ シラバスの内容を確認する	25
		▽ 課題ドキュメントの作成	20
第 2 回	実施報告書の記入方法／ボランティアの定義、必要条件、活動の内容	△ ボランティアの活動内容を調べる	25
		▽ 課題ドキュメントの作成	20
第 3 回	ボランティアの歴史と諸概念	△ ボランティアの歴史について調べる	25
		▽ 課題ドキュメントの作成	20
第 4 回	災害ボランティアについて(阪神淡路大震災と東日本大震災を中心に)	△ 震災時のボランティア活動について調べる	25
		▽ 課題ドキュメントの作成	20
第 5 回	地域のおける学習支援ボランティア	△ 学習支援について調べる。NPOについて調べる	25
		▽ 課題ドキュメントの作成	20
第 6 回	授業時間外におけるボランティア活動(20時間以上) ＜単位認定までの手順＞ ガイダンスの受講→ ボランティア活動先を探す・決定する→ 担当教員に報告→ 活動の実践(実施証明を活動先からいただくことを含む) → 実施報告書の作成→ 実施報告書および実施証明書の提出→ 委員会等での最終確認→ 単位認定 ＜単位として認められるボランティアの条件＞ ・内容が本学の教育理念に適していること ・原則として無償ボランティアであること ・授業時間外であること ・延べ20時間以上の活動証明がされていること	△ 活動計画(プランニング)	25
		▽ 計画書作成	20
第 7 回		△ 活動計画(事前打ち合わせ)	25
		▽ 報告書作成	20
第 8 回		△ 活動計画(教員へ報告)	25
		▽ 計画書仕上げ	20
第 9 回		△ 活動実践準備(前期)	25
		▽ 実施報告書作成(前期)	20
第 10 回		△ 活動実践準備(中期)	25
		▽ 実施報告書作成(中期)	20
第 11 回		△ 活動実践準備(後期)	25
		▽ 実施報告書作成(後期)	20
第 12 回		△ 実施報告書作成準備	25
		▽ 報告会準備	20
第 13 回	体験報告会1 (ボランティア体験から得たこと、保育者としての学びの意義)	△ プレゼンテーション準備(前半)	25
		▽ 各報告をまとめる(前半)	20
第 14 回	体験報告会2 (ボランティア体験から得たこと、保育者としての学びの意義)	△ プレゼンテーション準備(後半)	25
		▽ 報告会をまとめる(後半)	20
第 15 回	まとめ　企業が取り組む社会貢献活動-NPOと企業の連携	△ 各体験のレポート作成	25
		▽ 最終報告書作成	20

備考：　675

【履修上の留意点】

第一回目のガイダンスに必ず出席すること。学外での実習が中心になるため、欠席は基本的に認めない。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて適宜紹介する。

【連絡方法】　授業時に周知する。

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	20%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがなく、指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③	30%	・授業外での活動に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での活動に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での活動に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での活動に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：・試験:プレゼンテーションでの口頭試問を含む
・授業外での取組:ボランティア実習を含む

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	3・4・5	13・14	6〜12			

科目名／専門教育 YHS9-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども教育特別講座1 ストリートダンスを学ぼう	3年前期	選択必修	演習/単独	2単位	黒須 育海		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・ 表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

さまざまな種類のリズムダンスを学び、リズム感や表現力、多様な身体感覚を養う。 基本的な舞踊の技術を獲得し、教育現場で活用できる能力を養う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

実技形式で実施する。活動内容は基本的に室内の授業となる。スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きを用意すること。
各々が主体的に活動に参加すること。
次回に指示する課題などの予習を行い、実施した内容をノートにまとめ、授業理解を深めること。

【到達目標と学修成果】

①さまざまなジャンルの踊りを経験することにより、身体的・精神的な表現力を豊かにすることができる。
②作品発表を行うことにより、発表までのプロセスや舞台上での表現方法を身に付けることができる。
③グループ活動を通して、協調性を養うことができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	(講義)オリエンテーション授業内容の説明	△	シラバスを確認する	20
		▽	次回以降の実技に向けた準備	25
第 2 回	リズムダンス1 アップとダウンのリズム	△	アップとダウンのリズムについて調べる	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 3 回	リズムダンス2 基本的なステップ①	△	ステップの種類について調べる	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 4 回	リズムダンス3 基本的なステップ②	△	基本的なステップ①を確認する	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 5 回	ロックダンス1 基礎①ﾄｩエル、ロック、ノック	△	ロックダンスについて調べる	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 6 回	ロックダンス2 基礎②スクービードゥー、スキーター	△	基礎①を確認する	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 7 回	ロックダンス3 基礎③ロックステディ、ウィッチウェイ	△	基礎②を確認する	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 8 回	ロックダンス4 振付基礎	△	基礎③を確認する	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 9 回	ポップダンス1 基礎①ヒット	△	ポップダンスについて調べる	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 10 回	ポップダンス2 基礎②アイソレーション、ロール	△	基礎①を確認する	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 11 回	ポップダンス3 振付基礎	△	基礎②を確認する	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 12 回	作品発表準備(1)音楽選曲 (2)構成づくり	△	全ての基礎を確認する	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 13 回	作品発表準備 リハーサル	△	作品の流れ、振付を確認する	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 14 回	作品発表	△	振付の踊り込みをする	20
		▽	内容をノートにまとめる	25
第 15 回	まとめ	△	半期授業を振り返る	20
		▽	内容をノートにまとめる	25

備考：

675

【履修上の留意点】

実技では、室内ばきを用意し、適切な服装で参加すること。

【テキスト】

随時プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

村田芳子「最新楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス」小学館

【連絡方法】 kurosu@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	① ② ③	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	②	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・指定の体裁が守られてい る。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が 不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られ た知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習 得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第12～15回					

科目名／専門教育 YHS9-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども教育特別講座2 アニメーション	3年前期	選択必修	演習／単独	2単位	伊垣 京子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・ 表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

私たちは様々な映像表現の影響を受けている。その一つであるアニメーションを例に映像の仕組みを知り、発想をし、制作や鑑賞をすることで映像表現の面白さを理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

視覚玩具(残像現象を利用した、視覚で楽しむおもちゃ)やコマ撮りアニメーション(対象を少しずつ動かした写真を撮り、連続して再生する技法を使った映像)の制作を通して映像の仕組みを学ぶ。

【到達目標と学修成果】

①課題に関心を持ち、主体的に課題に取り組むことができる。
②課題の内容を理解し、自分のイメージを表現できる。
③アニメーション(映像)の魅力や面白さを感じ取ることができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス 授業の概要、到達目標、成績評価、履修上の留意点などの説明	△ シラバスに目を通しておく	90
		▽ 配布プリントの確認	90
第 2 回	視覚玩具①(ぱたぱたアニメ)	△ 2コマの動きを考えておく	90
		▽ ぱたぱたアニメの完成	90
第 3 回	視覚玩具②(おどろき盤デジタルでの作画)	△ 8コマの動きを考えておく	90
		▽ おどろき盤の完成、映像データでの提出の確認	90
第 4 回	視覚玩具②(おどろき盤アナログでの作画)	△ 8コマの動きを考えておく	90
		▽ おどろき盤の完成	90
第 5 回	視覚玩具③(フリップブック)構想から制作まで	△ 24コマの動きを考えておく	90
		▽ 制作過程の確認	90
第 6 回	視覚玩具③(フリップブック)制作から仕上げまで	△ 授業に必要なものを準備	90
		▽ フリップブックの完成	90
第 7 回	コマ撮りアニメーションについて	△ どんなコマ撮り作品があるか調べておく	90
		▽ アプリの動作を確認	90
第 8 回	ストーリーを考える	△ 参考にしたい作品を見ておく	90
		▽ 配布プリントの完成	90
第 9 回	キャラクター制作①キャラクターのデザイン	△ 制作するための資料の準備	90
		▽ 配布プリントの完成	90
第 10 回	キャラクター制作②キャラクターの制作	△ 制作するための資料の準備	90
		▽ 制作方法の確認	90
第 11 回	キャラクター制作③制作から仕上げまで	△ 制作に必要なものを準備	90
		▽ 作品を完成させる	90
第 12 回	コマ撮りアニメーション①小道具作りから撮影まで	△ 撮影に必要なものを準備	90
		▽ 撮影に必要なものを確認	90
第 13 回	コマ撮りアニメーション②撮影や編集、音入れまで	△ 撮影に必要なものを準備	90
		▽ 配布プリントの完成	90
第 14 回	コマ撮りアニメーション③完成と発表の準備	△ 制作に必要なものを準備	90
		▽ 発表シートを完成	90
第 15 回	コマ撮りアニメーションの発表と鑑賞	△ 発表に必要なものを準備	90
		▽ 鑑賞シートを完成	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

工作作業が主体になる授業では筆記用具やハサミなど使い慣れたものを持参。コマ撮りアニメーションを行う際にはStop Motion(無料)アプリを使用予定。

【テキスト】

授業ごとに資料・プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

特になし

【連絡方法】 初回授業で知らせる。

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	30%	知識・理解・発想・技術が十分に身についていることが認められる。	知識・理解・発想・技術が身についていることが認められる。	基本的な知識・技術が身についていることが認められる。	基本的な知識・技術を身につけそうとする意欲は認められるが、努力を要する。	基本的な知識・技術が身についていない。
期末 レポート	① ② ③	30%	課題の内容を的確に理解し、自由に発想をし、意欲的に制作に取り組めている。 用具や材料の特性を理解し、自分の思い通りに表現ができている。	課題の内容を理解し、発想をし、意欲的に制作に取り組めている。 用具や材料の特性を理解し、表現ができている。 課題提出の期限が守られている。	課題内容を理解し、制作に取り組めている。 用具や材料を利用し、表現ができている。	課題内容を理解しているが改善点がある。 課題提出の期限が概ね守られている。	課題内容を理解しておらず、制作に消極的である。 課題提出がされていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ③	30%	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組んでいた。	意欲的に授業に臨む努力をしていた。	授業内での取り組みに参加することができた。	授業内での取り組みが不十分で課題内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	10%	授業外での取り組みに積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	授業外での取り組みに積極的に取り組んでいたことが認められる。	授業外での取り組みに積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	授業外での取り組みを行うことができた。	授業外での取り組みが不十分である。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	15回	14回				

科目名／専門教育　YHS9-3	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども教育特別講座3 「遊ぶ・解放・自己表現」	3年後期	選択必修	演習／ オムニバス	2単位	梨本　弘幸　・　鈴木　聡之	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

《第1回～第7回》表現するためには自分の内部にあるものからしか発信できない。まず、自分の内側にあるものを再発見し認めていくそのために他者と関わりながら集団を創る。集団の中で発信と受信を繰り返しながら自己表現と自己肯定感を身につけていく。保育現場、教育現場でどのような子ども集団を創っていくか、この授業を通して体験していく。この授業は真ん中に遊ぶことを中心に行う。遊ぶことはコミュニケーションの大事な要素。

《第8回～15回》事前に何も決まっていない「インプロ(即興表現)」の演習を通じて、「身体表現」「感情表現」「演劇表現」をする経験を積み重ねながら、個々の持つ多様なコミュニケーションの可能性について考え、保育・教育の現場での場づくりにどう活かしていくかを考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

子どもたちと発見した遊びの実技などが中心になるため、動きやすい服装(靴)などが望ましい。ワークショップ形式、写真や絵画などから感じる自己表現と他者の表現、少人数集団による創作表現などを展開する。ワークショップ形式の演習授業である。服装は動きやすいものを推奨する。

特に第9・10回はインプロ(即興表現)にチャレンジすることで、自分の表現方法や考え方の特性を見つめ直し、各自のもつ多様なコミュニケーションの可能性について考える。第11回以降、様々なインプロ(即興表現)パフォーマンスを楽しみながら、保育・教育の現場にどう活かしていくかを考察していく。

【到達目標と学修成果】

①自己表現を楽しみ、自己肯定感を身につける。②他者と関わりながら集団創りができる。③大人の遊び心が鍛えられる。
④即興表現を積み重ねてきたことによる自分の変化を見つめ、考察することができる。
⑤参加者同士の協働作業で創造的な表現を創り出し、その作業をふり返ることができる。
⑥即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場にどう活かしていくかを考察することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第1回 梨本	オリエンテーション　授業内容、ねらい、成績評価などについて	△ 自分が子ども時代に行っていた遊びを思い返す。	90
		▽ レポート　授業に期待することなど	90
第2回 梨本	自己解放のための遊び①　自分の価値観を探る。ゲーム、アイスブレーキングなど	△ 自分が何からできているか考える。(例えば音楽とドーナッツと土いじりとか)	90
		▽ 2回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述	90
第3回 大澗	自己解放のための遊び②　他者の価値観を探る。お手玉　ゲームなど	△ 自分の中にある最大の怒りを考える	90
		▽ 3回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述	90
第4回 梨本	自己解放のための遊び③　言葉と身体を使い自分と他者の価値観を比べて認め合う。	△ 自分の中にある最大の喜びを考える	90
		▽ 4回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述	90
第5回 梨本	集団創り①　2人から始める遊び。写真と絵画などを使う	△ 他者と初めて関わった喜びを考える	90
		▽ 5回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述	90
第6回 梨本	集団創り②　5人以上の集団で遊びを創作	△ 集団で作り上げた喜びを考える	90
		▽ 6回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述	90
第7回 梨本	集団創作遊びの発表。まとめ	△ ここまでの授業を振り返る	90
		▽ 全7回の授業に対してのレポート	90
第8回 鈴木	オリエンテーション:授業の概要、成績評価について	△ テキストp.2-14の予習	90
		▽ 第8回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する	90
第9回 鈴木	インプロ(即興表現)へのチャレンジ①:【自己検閲】をテーマとした取り組み	△ テキストp.17-23、p.47-60、p.94-97の予習	90
		▽ 第9回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する	90
第10回 鈴木	インプロ(即興表現)へのチャレンジ②:【場づくり】をテーマとした取り組み	△ テキストp.17-23、p.121-156の予習	90
		▽ 第10回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する	90
第11回 鈴木	インプロ(即興表現)で遊ぶ①:【身体表現】	△ テキストp.27-91の予習	90
		▽ 第11回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する	90
第12回 鈴木	インプロ(即興表現)で遊ぶ②:【言語表現】	△ テキストp.40-46、p.71-75、p.92-94の予習	90
		▽ 第12回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する	90
第13回 鈴木	インプロ(即興表現)で遊ぶ③:【即興の劇遊び】	△ テキストp.60-71、p.97-119の予習	90
		▽ 第13回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する	90
第14回 鈴木	インプロ(即興表現)を保育・教育の現場にどう活かすかを考察する	△ 保育・教育の現場にインプロ経験をどう活かすか、考察する	90
		▽ 第14回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する	90
第15回 鈴木	授業の総括とリフレクション	△ 授業内容の総復習	90
		▽ 授業全般をふり返る。	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

【テキスト】

「子どもたちとレッツ！インプロ！」鈴木聡之（晩成書房２０２０年）

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】　メール　yesandyeah@ezweb.ne.jp（鈴木）

【オフィスアワー】　授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	④ ⑥	20%	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、真摯に見つめ、考察できている。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場にどう活かしていくかを深く考え、考察できている。	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、考察できている。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場にどう活かしていくかを、考察できている。	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、 考察しようと努めている。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場にどう活かしていくかを、考察しようと努めている。	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化への考察が不十分である。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を保育・教育の現場にどう活かしていくかについての考察が不十分である。	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、考察できていない。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場にどう活かしていくかを、考察できていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識、理解、実践力が十分に身についていることが認められる	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識、理解、実践力が身についたことが認められる。	・主体的に授業に臨もうとしていた。 ・取り組みを通じて得られた知識、理解、実践力の習得に努めようとしていた。	・授業での取り組みに参加することができた。 ・知識、理解、実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取り組みが不十分で学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	④ ⑤	30%	・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、真摯にふり返り、考察することができる。 ・主体的に授業に臨み、インプロ(即興表現)に意欲的に取り組み、創造的な表現を生み出し、皆の模範となっている。	・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、ふり返り、考察することができる。 ・主体的に授業に臨み、インプロ(即興表現)に意欲的に取り組んでいる。	・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、考察しようと努めている。 ・主体的に授業に臨もうと努力している。	・授業のふり返りを提出することができる。 ・授業内の取り組みに参加することができる。	・授業のふり返りが不十分である。 ・授業内での取り組みが不十分である。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						13

科目名／専門教育 YHS9-4	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども教育特別講座4（プログラミング）	3年後期	選択必修	演習／単独	2単位	Reiji	／	

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

・幼少期から論理的思考力や問題解決能力を育むのに最適な、幼児向けプログラミング教育について、その内容をつかむ。
・幼児向けプログラム学習に適したゲームに、教育者の立場となって触れる。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

幼児向けプログラミング教育に関しての座学とリサーチを行い、内容を理解した上でプログラミングツールやゲームをプレイする。グループワークで幼児役を設けてデモンストレーションを行い、実際にどのような体験ができるのかを分析する。グループディスカッションを行った後に、幼児向けプログラミング教育の重要性についてそれぞれ発表を行う。

【到達目標と学修成果】

①幼児向けプログラミング学習の重要性を理解し、その必要性を説明できる。
②幼児向けプログラミング教育の内容を理解し、実際に教育内容を考察・作成できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	講師自己紹介・講義の計画及びスケジュール、また成績のつけ方の説明等 幼児向けプログラミングの概要を説明	△ シラバスを読み全体の流れを把握	30
		▽ 幼児向けプログラミングについて予習	90
第2回	幼児向けプログラミングゲーム体験① プログラミング教育に適したゲームを体験し、ゲーム概要とその効果を考察する	△ 幼児向けプログラミングに関してのリサーチ	90
		▽ 幼児向けプログラミングに関してのリサーチ	90
第3回	幼児向けプログラミングゲーム体験② プログラミング教育に適したゲーム（前回と別タイトル）を体験し、ゲーム概要とその効果を考察する	△ 当該ゲームが教育にどのような効果があるか分析	90
		▽ 分析した内容のまとめ、意見交換の準備	90
第4回	幼児向けプログラミングゲーム体験③ 体験したゲームでどのようなプログラミング学習を行えるのかの意見交換・発表	△ 当該ゲームが教育にどのような効果があるか分析	90
		▽ 分析した内容のまとめ、意見交換の準備	90
第5回	幼児向けプログラミングの事例分析① どのような教育方法（ツール、ゲーム、おもちゃ等）があるのかの説明、各自詳細にリサーチする内容を決定	△ 幼児向けプログラミングに関してのリサーチ	90
		▽ 発表に向けて定めた内容のリサーチ	90
第6回	幼児向けプログラミングの事例分析② 選んだプログラミング教育方法について深く調べ、発表内容（スライド等）の作成	△ 選んだ内容のまとめ、資料作成	90
		▽ 資料作成、発表準備	100
第7回	幼児向けプログラミングの事例分析③ リサーチしたプログラミング教育方法についての発表→アンプラグド学習に関しての研究グループ分け	△ 資料作成、発表準備	90
		▽ グループで行うプログラミング演習のテーマと内容決定	90
第8回	幼児向けプログラミング-グループ体験① グループでどのようなプログラミング演習（アンプラグド学習）を体験するのかをディスカッション又は準備	△ グループで行うプログラミング演習の詳細決め	90
		▽ グループで行うプログラミング演習の詳細決め、素材準備	90
第9回	幼児向けプログラミング-グループ体験② グループで決めたプログラミング演習（アンプラグド学習）を体験する	△ グループで行うプログラミング演習の準備	100
		▽ グループで行うプログラミング演習の準備	100
第10回	幼児向けプログラミング-グループ体験③ グループで決めたアンプラグド学習を体験する（続き）	△ グループで行うプログラミング演習の準備	100
		▽ 体験した内容をグループでディスカッションしてまとめる	100
第11回	幼児向けプログラミング-グループ体験④ それぞれのグループでまとめた体験内容と改善点等を発表	△ 体験した内容をグループでディスカッションしてまとめる	90
		▽ 他グループの発表内容を考察	90
第12回	幼児向けプログラミング-グループ体験⑤ それぞれのグループでまとめた体験内容と改善点等を発表（続き）	△ 他グループの発表内容を考察	90
		▽ 幼児向けプログラミングゲームの操作方法等を覚える	90
第13回	幼児向けプログラミングゲーム体験まとめ VisciutやMinecraftを用いた幼児教育体験	△ 幼児向けプログラミングゲームに触れておく	100
		▽「身近にあるプログラミング」についてリサーチ	90
第14回	「身近にあるプログラミング」の事例分析→自分の身近な出来事や行動をプログラミング的思考で考えてみる	△「身近にあるプログラミング」について考察	90
		▽「身近にあるプログラミング」を意識して生活する	90
第15回	特別講座まとめ 幼児教育におけるプログラミング学習の重要性を再認識する	△ 幼児教育におけるプログラミング学習についてまとめる	90
		▽ 幼児教育におけるプログラミング学習についてまとめる	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

・基本的に学生主体の授業となり、講座後半は幼児向けプログラミングゲームの演習やディスカッション等のグループワークをメインに行う。
・授業内における演習はゲーム、おもちゃ、または道具を使わないプログラミング（アンプラグド学習）を使った幼児向けプログラミングを基本とし、コードを用いるなどはしない初心者向けのものである。
・発表や演習で利用するデータ等の保管用に、USBメモリやクラウド等を各自準備しておくこと。
・スマートフォン、タブレット及び各自のPCを利用する場合がある(特に授業外学習)。また、必要に応じて持参すること。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて提示します。

【連絡方法】 授業の際に伝えます。

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	100%	幼児向けプログラミング教育の内容についてよく理解し、その重要性を説明できる。また、適切なアンプラグド学習の内容を作成できる。	幼児向けプログラミング教育の内容についてよく理解し、その重要性を説明できる。また、概ね適切なアンプラグド学習の内容を作成できる。	幼児向けプログラミング教育の内容についてよく理解し、その重要性を説明できる。	幼児向けプログラミング教育の内容について概ね理解している。	幼児向けプログラミング教育の内容について理解が乏しい。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	4, 8, 14	4, 7, 11, 12	2, 3, 9, 10, 13, 14, 15			

科目名／専門教育 F11-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ピアノ	2年後期	選択	演習	2単位	伊藤　菜々子	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

ピアノ演奏の基礎力をさらに高め、保育や教育の現場における音楽活動に必要な実践力、応用力、表現力を向上させる。具体的には、弾き歌いや伴奏法の基本、即興演奏の知識と技術を学び、現場で活用できる技能を養う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。童謡の弾き歌い、ピアノ伴奏法、ピアノによる即興演奏などの技術が身につくようソルフェージュ力を高めるとともに、美しい音楽の表現について理解し学べるよう個人と集団による授業を行う。

【到達目標と学修成果】

・初見演奏、移調演奏、即興演奏、アンサンブル等の経験を通し、現場で必要な実践力と表現力を身につける。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス ・シラバスに基づき授業の進め方、授業内容の説明と各自の進度の確認	△ 童謡数曲を準備し、弾けるようにしておく	90
		▽ 童謡伴奏曲の決定・事前練習	90
第2回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の基礎1(和音伴奏による) ・和音伴奏法、コード伴奏法の練習	△ 前回の復習	90
		▽ 伴奏法の基礎1、和音伴奏法、コード伴奏法復習	90
第3回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の基礎2(かんたん伴奏による) ・和音伴奏法、コード伴奏法の練習	△ 前回の復習	90
		▽ 伴奏法の基礎2、和音伴奏法、コード伴奏法復習	90
第4回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の基礎3(分散和音による) ・和音伴奏法、コード伴奏法の練習	△ 前回の復習	90
		▽ 伴奏法の基礎3、和音伴奏法、コード伴奏法復習	90
第5回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の基礎4(応用) ・和音伴奏法、コード伴奏法の練習	△ 前回の復習	90
		▽ 伴奏法の基礎4、和音伴奏法、コード伴奏法復習	90
第6回	中間発表	△ 中間発表に向けた楽曲練習・童謡伴奏練習	90
		▽ 中間発表のふりかえりとまとめ	90
第7回	初見演奏の基本1 ・ハ長調とト長調の初見視唱と初見演奏	△ 前回の復習	90
		▽ 初見演奏の基本1復習	90
第8回	移調演奏の基本1 ・簡単な移調演奏　ハ長調→ト長調	△ 前回の復習	90
		▽ 移調演奏の基本1復習	90
第9回	移調演奏の基本2 ・簡単な移調演奏　ハ長調→ヘ長調	△ 前回の復習	90
		▽ 移調演奏の基本2復習	90
第10回	ソルフェージュ・チェック1 ・弾き歌い　生活の歌2曲、季節の歌2曲	△ 前回の復習	90
		▽ ソルフェージュ・チェック1復習	90
第11回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の応用1 ・和音伴奏のアレンジの基本	△ 前回の復習	90
		▽ 童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の応用1復習	90
第12回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の応用2 ・和音伴奏のアレンジのの応用	△ 前回の復習	90
		▽ 童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の応用2復習	90
第13回	発表に向けて1(個人練習)	△ ピアノ楽曲練習予習・童謡伴奏まとめ練習予習	90
		▽ ピアノ楽曲練習予習・童謡伴奏まとめ練習復習	90
第14回	発表に向けて2(グループリハーサル)	△ ピアノ楽曲練習予習・童謡伴奏まとめ練習予習	90
		▽ ピアノ楽曲練習予習・童謡伴奏まとめ練習復習	90
第15回	まとめ ・発表、課題のまとめ	△ ピアノ楽曲発表練習予習・童謡伴奏・弾き歌い発表練習	90
		▽ 演奏発表のふりかえり	90

備考：

2700　0

【履修上の留意点】

・子どもの音楽的経験を豊かにするための知識と技能を十分に身につけることを目指す。
・修得したピアノ演奏の基礎を活かした音楽的表現、美しい音の表現を目指す。

【テキスト】

1)「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1,2」吉田梓監修　東亜音楽社、2)「ポケットいっぱいの歌」教育芸術社、3)「バイエルピアノ教本」全音出版社

【参考書・参考資料等】

授業の進行に沿って資料を配布する。

【連絡方法】 授業時に伝える

【オフィスアワー】 授業日の昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験	① ②	50%	・知識・理解・応用力(実践力・ピアノ演奏能力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力・ピアノ演奏能力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解及び技能の習得がなされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解及び技能の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の理解及び技能の習得がなされていない。
期末レポート							
授業内での取組・中間発表	① ②	30%	・積極的に主体的に授業に臨み、ピアノ演奏課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・技能が十分に身についていることが認められる。	・積極的、主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・技能が身についていることが認められる。	・積極的、主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・技能の習得に努めようとしていた。	・積極的、主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・技能の習得に努めようとしていた。	・授業に対する取り組みが不十分で、学習内容の理解、技能の習得が不足している。
授業外での取組	① ②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		15回				

科目名／専門教育科目 F11-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
合奏・声楽	2後	選択	演習	2単位	松田　扶美子		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
・楽器の演奏技法を学び、合奏ができるようになる。
・声の出し方を習得し、保育・教育の現場で生かすことができる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式で進める。合奏分野では、楽器のしくみを理解し、小物楽器から大型の楽器に触れ、簡単な合奏ができるように実践的に学習させる。
声楽分野では、声を出すための姿勢・呼吸法・発声法を基礎から学び、演奏ができるようになる。

【到達目標と学修成果】
①楽器のしくみを理解し、小物楽器から大型の楽器に触れ、演奏ができるようになる。
②声を出すための姿勢・呼吸法・発声法を基礎から学び、演奏ができるようになる。

回数	授業内容		授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	オリエンテーション(合奏と声楽について)、アンケート	△	歌にはどんな種類があるのか調べ、事前に聞いておく。	90
		▽	オリエンテーションの内容について理解を深める。	90
第2回	歌のジャンルを学ぼう(Jpop、クラシック、日本の歌、ジャズ、演歌、外国の歌)	△	自分の好きな歌・音楽はどのジャンルに属しているか調べる。	90
		▽	声の仕組みについて調べる	90
第3回	声のしくみを理解しよう(口の中、響きのもとはどこからくるのか)	△	声の仕組みについての図を基に理解を深める。	90
		△	声の種類について調べる。	90
第4回	色々な声を出してみよう①(声にはどんな種類があるのか)	△	自分の声の種類、どんな声が出したいのかを考える。	90
		▽	楽器の種類について調べる。	90
第5回	楽器の紹介、楽器の種類	△	楽器の種類の復習をする。	90
		▽	楽器の演奏方法について調べる。	90
第6回	楽器を演奏してみよう①(簡単なリズムを使って)	△	楽器の演奏方法について調べる。	90
		▽	簡単なリズム打ちを練習する。	90
第7回	身の回りの物を使った楽器演奏	△	身の回りにはどんな楽器があるのか。	90
		▽	家にある物で演奏してみる。	90
第8回	簡単な合奏①　(合奏譜を中心に)	△	合奏譜の理解を深める。	90
		▽	簡単な合奏譜が書けるようにする。	90
第9回	簡単な合奏②(パート練習と実践)	△	楽器に触れ演奏が一人一人できるようにする。	90
		▽	合奏ができるように自分のパートを復習する。	90
第10回	合唱奏①姿勢・呼吸	△	歌と合奏譜の両方が読めるようにする。	90
		▽	姿勢・呼吸法に気を付けて歌のパート練習をする。	90
第11回	合唱奏②発声	△	発声練習を含めて歌のパート練習をする。	90
		▽	合奏のパート練習をする。	90
第12回	合唱、合奏①(パート練習を中心に)	△	合唱の音源を聞きながら自分のパートが歌えるようにする。	90
		▽	合奏のパート練習をする。	90
第13回	合奏、合唱奏②(テンポを変えて練習)	△	合唱奏の音源を聞きながらゆっくりのテンポから練習を始める。	90
		▽	合奏のパート練習をする。	90
第14回	合奏、合唱奏③(仕上げ)	△	自分の演奏を録音し、チェックを行う。	90
		▽	仕上げのための練習を行う。	90
第15回	まとめ、発表	△	発表の感想をまとめる準備をする。	90
		▽	発表の感想をまとめる。	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】
特になし。

【テキスト】
特になし。

【参考書・参考資料等】
特になし。

【連絡方法】 授業時に伝える。

【オフィスアワー】 授業時間の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	①②　60%		・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	①②　30%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①②　10%		・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育科目 F11-3	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
文化とマナー1	1.2.3前期	選択	演習	2単位	小濱 哲		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
1各作法が文化的に産み出されてきたことを理解し、自ら応用して自律できること。
言葉、身なり、態度
2日本人の行動は、相手に対する敬意から成り立っていることを理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義は日本語と英語で行う。
品(Polite)と敬意(Respect)を中心に、それぞれの場面での作法について各論を展開する。作法に内在する文化的要素と意味を理解し、現実の場面で実施する際の留意点や禁忌事項について、諸外国との比較の中で学ぶ。

【到達目標と学修成果】
①日本の歴史に裏付けられた作法や生活習慣を理解できる。
②各所作と相手に対して態度で示す技術を習得する。

	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	「もてなし」の構造 わが国における歴史的背景	△	自身の他人に対する態度についてまとめておく	90
		▽	日本の接遇に関し歴史的な背景を復習する	90
第 2 回	文化の相違 関東文化と関西文化	△	自分の知識の中で何が異なるかをまとめておく	90
		▽	人々の動作の中から違いを自覚する	90
第 3 回	武士の作法 敬意と尊厳を持った態度と作法	△	何のために武士が作法を重んじたかを予習する	90
		▽	基本的な所作に関して反復練習する	90
第 4 回	道路 公共物(ホテルの廊下も道路)の認識 左側通行の理由 エスカレータ	△	道路の形状や標識について観察を行う	90
		▽	道の目的と円滑な利用方法について考えをまとめる	90
第 5 回	入室 全ての行動は、左脚が基準となる。礼とお尻を向けない退出	△	入退出する際の自身の行動を改めて考える	90
		▽	作法の意味と効果に関して復習する	90
第 6 回	上座と下座 訪問(床の間、3人掛けとシングルのソファー) 宴席	△	部屋の中での着座の仕方を思い起こす	90
		▽	立っていることと着座することの意味を復習する	90
第 7 回	年長者への配慮 シルバーシート 三歩歩いて師の影を踏まず 乾杯の流儀 言葉使い	△	論語について学んでおく	90
		▽	年長者に対する配慮に関し意味を考える	90
第 8 回	中間試験	△	講義前半の要点をまとめる	90
		▽	わからなかった課題に関して調べる	90
第 9 回	まとめ 中間試験結果の考察	△	不正解だった項目について調べ直す	90
		▽	動作と意味を関連して自覚する	90
第 10 回	神事と作法 参拝作法(伊勢式 出雲式) 神社仏閣の通行作法 奉納 門(山門 仁王門)の種類と鳥居 神社の形状(屋根と垂木)	△	日常生活の中の神事についてまとめておく	90
		▽	所作に関する意味を理解し復習する	90
第 11 回	敬語、尊敬語、謙譲語 略称の種類と遣い方 (陛下、殿下、閣下、殿、様、さん、君)	△	自分が使っている言葉について反省しておく	90
		▽	必要事項を暗記して使えるようにする	90
第 12 回	江戸言葉 粋と歌舞伎物 江戸小紋 直接モノを言わない(花→桜、 藤壺→源氏の母、終わる→開く、するめ→あたりめ)	△	江戸の文化(服装や慣習)について学んでおく	90
		▽	江戸から続く所作の意味を自分のこととして考える	90
第 13 回	電話と手紙 正式文章とレターヘッド(拝啓、前略) 話す(書く)順 言葉使い 返信用手紙の様を御中に直す 慶弔の作法 宗教と作法 礼儀 水引 添え書き	△	電話やメールの言葉使いについてまとめておく	90
		▽	発信に対して相手が思う感情についてまとめる	90
第 14 回	期末試験	△	講義を通して重要事項をまとめる	90
		▽	不明だった問題について調べる	90
第 15 回	まとめ 期末試験結果の考察	△	不正解だった項目について調べ直す	90
		▽	所作の意味を自覚しまとめる	90

備考： 2700

【履修上の留意点】
講義に出席する際の服装に留意すること。
地図帳を持参すること。

【テキスト】
特になし

【参考書・参考資料等】
論語(各出版社) 地図帳

【連絡方法】 メールによる

【オフィスアワー】 講義の前後1時間程度

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	①	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育科目 F11-4	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
文化とマナー2	1.2.3後期	選択	演習	2単位	小濱 哲		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
1国際社会の中で通用する日本的な所作を身につけること。
2それぞれの作法や所作に理由があることを理解すること。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義は日本語と英語で行う。
品(Polite)と敬意(Respect)を身につけるために日常生活の中で心がけることを学ぶ。
「人にされて嬉しいことをする」そのような人間になるための法則を学ぶ。

【到達目標と学修成果】
①日常生活で行われているさまざまな場面で相手を尊重する態度を習得する。
②相手に失礼にない態度と技術を習得する。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	「もてなし」の意味と国際的比較	△ 相手に失礼がない態度について考えておく	90
		▽ 諸外国の「もてなし」の内容の違いを自覚する	90
第2回	動作の節目ごとの言葉 食事前、終始前、朝、人に会うとき、別れるとき 送るとき	△ 自分が行っている挨拶について振り返っておく	90
		▽ その場に相応しい丁寧な挨拶を復讐・実践する	90
第3回	挨拶の作法 言葉の使い分け 礼と握手(相手に触れない文化)、距離は頭を下げてぶつからない距離 礼の角度と敬意の深さ	△ 国による挨拶文化について予習する	90
		▽ 挨拶の方法と技術を復習する	90
第4回	歩行 歩くことに集中する 立ち止まる時は周囲に配慮 食べ歩きはしない 座って食べる 指をささない	△ 自分の「歩行」について振り返っておく	90
		▽ 歩くことと座ることの違いを実践により身につける	90
第5回	食事の種類と各作法 和食 懐石 洋式 ブッフェの作法 メニュー 幕の内弁当 大皿料理	△ 和洋中華について調べておく	90
		▽ 実際の場面を想定して実践を繰り返す	90
第6回	食事のマナー 食事中は会話しない 食べる順番 食器 食べ始める時 食事時、日本では手は机の下、西洋ではテーブルの上その意味	△ 親から教えられた作法を整理する	90
		▽ 普段から実践できるように繰り返し復習する	90
第7回	中間試験	△ 講義前半の要点をまとめる	90
		▽ わからなかった課題に関して調べる	90
第8回	まとめ 中間試験の考察	△ 不正解だった項目について調べ直す	90
		▽ 所作と技術を関連して実践する	90
第9回	箸の使い方 美しい使い方と禁じ手 失礼な作法	△ 箸の使い方について予め調べておく	90
		▽ 癖がつくように毎回気を配れるよう復習する	90
第10回	デザート 果物の分類と産地、パン パスタの種類 ピザ お菓子の謂れ	△ 果物とその利用について調べておく	90
		▽ デザートに関する知識について復習する	90
第11回	お酒の知識 乾杯のタイミングと作法	△ お酒の種類と産地について調べておく	90
		▽ 知識と作法について身につける	90
第12回	気の配り方 「気」とは 食事時に手を上げさせない方法 エレベータの立ち位置	△ 日常動作の中で相手に対する態度を想定しておく	90
		▽ 普段から実践できるように訓練する	90
第13回	服装の作法 欧州の文化(首回り) 日本の文化(和服・洋服の格) 礼服と色 ドレスコード	△ 普段の自分の服装について考えをまとめておく	90
		▽ 相手に失礼でない服装について考える	90
第14回	期末試験	△ 講義を通して重要事項をまとめる	90
		▽ 不明だった問題について調べる	90
第15回	まとめ 期末試験の考察	△ 不正解だった項目について調べ直す	90
		▽ 所作の意味を自覚しまとめる	90

備考： 2700

【履修上の留意点】
講義に出席する際の服装に留意すること。
地図帳を持参すること。

【テキスト】
特になし

【参考書・参考資料等】
講義中に指示する

【連絡方法】 メールによる

【オフィスアワー】 講義の前後1時間程度

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	①	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	②	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育科目 F11-5	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
おもてなし産業1	1.2.3前期	選択	演習	2単位	小濱 哲		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
ホスピタリティー経営学の基本を身につけること。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
Hospesを語源としさまざまな分野に分岐した概念を総括的に解説する。医学・看護学的にQOLを充実させるもの、経営学的に財ではなくサービスによって利益を得る手法と位置づけられるもの、コミュニケーションの一部として客体に対し心理的効用を高める手段等が内容となる。

【到達目標と学修成果】
①経営学の基礎とマーケティング理論を理解することができる。
②観光経営学の基礎を理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第1回	Hospes Hospitailsの語源とキリスト教における巡礼との関連 (宿泊施設と医療施設の発達)	△	国内外の巡礼に関し予習する	90
		▽	テンプル騎士団の果たした役割について深める	90
第2回	医学・看護学におけるQOL	△	医療現場でのホスピタリティーについて予習する	90
		▽	QOLの考え方を自分の生活にあてはめる	90
第3回	ホスピタリティー産業 生産即消費型産業の特色と会計学	△	ホスピタリティー産業の概観について調べる	90
		▽	生産即消費の現場を確認する	90
第4回	在庫、空間在庫の考え方と会計学 効率的な経営	△	商品在庫や客室など空間在庫について意識する	90
		▽	コンビニなど日常生活での財貨について考える	90
第5回	ミクロ経済学における財とサービスの貨幣的価値	△	需給による価格決定など経済学の基礎を予習する	90
		▽	サービスの価値について日常生活の中で応用する	90
第6回	マーケティングと立地特性(小立地)、採算性、ピエールドフェール、レッシュ経済立地理論 工業立地論、農業立地論	△	人が集まる仕組みについて自分の考えをまとめる	90
		▽	各立地論について深める	90
第7回	中間試験	△	講義前半の要点をまとめる	90
		▽	わからなかった課題に関して調べる	90
第8回	まとめ 中間試験の考察	△	講義前半の要点をまとめる	90
		▽	わからなかった課題に関して調べる	90
第9回	観光の本質と定義 余暇社会学 レクリエーションとの違い	△	余暇に関して自分の考えをまとめる	90
		▽	各理論の定義を復習する	90
第10回	観光事業と観光産業 ホスピタリティー産業	△	観光産業全般にわたり産業の形態を概観しておく	90
		▽	観光産業と観光事業の違いを理解する	90
第11回	地域経済効果 ケインズモデル 乗数理論	△	地域に対する効果について自分の考えをまとめる	90
		▽	小谷理論とケインズ理論を復習する	90
第12回	資源論 自然資源と人文資源 世界的分布	△	資源の種類と分布についてまとめておく	90
		▽	付加価値を持つ物を資源とする考え方を復習する	90
第13回	観光行動の動機づけ マズローとアドラー 非日常空間と心理的距離	△	基礎心理学について予習する	90
		▽	行動科学としての理論体系を復習する	90
第14回	期末試験	△	講義を通して重要事項をまとめる	90
		▽	不明だった問題について調べる	90
第15回	まとめ 期末試験の考察	△	不正解だった項目について調べ直す	90
		▽	各種の基礎理論について復習する	90

備考：

2700

【履修上の留意点】
講義に出席する際の服装に留意すること。
地図帳を持参すること。

【テキスト】
特になし

【参考書・参考資料等】
ケインズ「経済学」、マイケルポーター「競争の戦略」「競争優位の戦略」
小谷達夫「観光事業論」、地図帳

【連絡方法】 メールによる

【オフィスアワー】 講義の前後1時間程度

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	① ②	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされているため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	① ②	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育科目 F11-6	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
おもてなし産業2	1.2.3後期	選択	演習	2単位	小濱 哲		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
おもてなし産業の経営学的側面を理解すること。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
おもてなしなど定性的データの数量化と分析の方法について学ぶ。
これを応用した観光需要の予測方法と地域容量の算出方法について学ぶ。

【到達目標と学修成果】
①おもてなし産業の経営企画ができる。
②公共経済学を実践的に応用できる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	風土資産 文化財 風景・景観 生活と慣習 規制	△ 文化財や制度について調べておく	90
		▽ 「風土」の考え方について復習する	90
第2回	行動科学における認知度と関心度 マーケティングへの応用	△ 知っている場所と行きたい場所についてまとめる	90
		▽ マーケティングへの応用について復習する	90
第3回	観光需要の発生要因 余暇社会学 所得弾力性	△ 弾力性の概念について予習しておく	90
		▽ 発生要因を経済理論で説明できるように復習する	90
第4回	観光需要の動向 世界的要因 国内の傾向	△ 国際的な観光の動向について概観しておく	90
		▽ 観光動向を動かす要因について理解を深める	90
第5回	リゾート立地と地域容量 気候 小立地 Caring Capacity理論	△ 世界のリゾートについて概観しておく	90
		▽ 気候や交通利便性の大きさを理解し深める	90
第6回	需要予測理論 重力モデル 重回帰分析法 因子分析 数量化理論Ⅰ類、Ⅲ類	△ 需要予測モデルを調べておく	90
		▽ 効率的な理論の組合わせと効果について復習する	90
第7回	中間試験	△ 講義前半の要点をまとめる	90
		▽ わからなかった課題に関して調べる	90
第8回	まとめ 中間試験の考察	△ 講義前半の要点をまとめる	90
		▽ わからなかった課題に関して調べる	90
第9回	社会的費用・便益分析と公共経済学 パレート最適	△ 社会的費用便益の概念について予習する	90
		▽ 公共経済学への応用と施策について復習する	90
第10回	機会損失と計量経済学	△ 人を待つ時間(待機)や在庫の経済的価値 予習	90
		▽ 意識外の経済効果について復習する	90
第11回	定性的指標の定量化技術 統計学的尺度 数量化理論	△ 数値化できない物について考えておく	90
		▽ 尺度について考え方を深める	90
第12回	ケインズの地域乗数効果と地域社会	△ 「風が吹けば桶屋が儲かる」謎を考えておく	90
		▽ 乗数理論を実生活にあてはめて考えてみる	90
第13回	経営学的需給バランスとマーケティング戦略	△ 価格決定理論について予習する	90
		▽ 出店や新製品への応用について考える	90
第14回	期末試験	△ 講義を通して重要事項をまとめる	90
		▽ 不明だった問題について調べる	90
第15回	まとめ 期末試験の考察	△ 不正解だった項目について調べ直す	90
		▽ 各種の基礎理論について復習する	90

備考：

2700

【履修上の留意点】
講義に出席する際の服装に留意すること。
地図帳を持参すること。

【テキスト】
特になし

【参考書・参考資料等】
新開陽一他「近代経済学の基礎知識」、麻生良文「公共経済学」、池田央「行動科学の方法」
小谷達夫「観光事業論」、地図帳

【連絡方法】 メールによる

【オフィスアワー】 講義の前後1時間程度

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育科目 F11-7	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
産業経営1	1.2.3前期	選択	演習	2単位	小濱 哲		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
三大観光産業の概略と周辺産業に関して理解すること。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
旅行業、宿泊業、運輸業(三大観光産業)と飲食業(F&B)について論考を深める。各産業の役割と目的、産業の発生と社会的必然性、歴史的発展の経過と現在の動向、各産業の基礎知識について学ぶ。

【到達目標と学修成果】
①観光産業と関連産業について理解できる。
②日常生活の中で知識を磨くことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	旅行業態マスクックとJTB 国内主要4社 国際時刻表(ABC、OAG)	△ 主な旅行業について予習しておく	90
		▽ ABCやOAGを使いこなせるようにする	90
第2回	IATAコード都市・空港3コード 航空会社2コード	△ 国内の都市や空港について調べておく	90
		▽ 暗記	90
第3回	宿泊業 ヒルトン わが国の御三家 主要旅館 ミシュランの意味	△ 国内主要宿泊施設について概観する	90
		▽ 覚えておくべき施設について改めて復習する	90
第4回	NATOフォネティックコード表ルファベットの読み方と言い方	△ 海外映画、ドラマを原語で観る	90
		▽ 暗記	90
第5回	運輸業 米国アムトラック、グレイハウンド 各国フラッグシップエア 東急・西武とまちづくり	△ 渋谷と池袋について観察する	90
		▽ 世界の主な鉄道、バスとまちづくりについて復習する	90
第6回	飲食業(F&B) フレンチ、スッペニッシュ 和食 チェーン展開 ミシュラン 天ぷら(天一、天吉)、とんかつ(とん喜)、寿司(江戸銀)	△ 有名店とその経緯について予習する	90
		▽ 覚えるべき店名について復習する	90
第7回	中間試験	△ 講義前半の要点をまとめる	90
		▽ わからなかった課題に関して調べる	90
第8回	まとめ 中間試験の考察	△ 講義前半の要点をまとめる	90
		▽ わからなかった課題に関して調べる	90
第9回	流通業 明治屋、紀伊國屋、成城石井	△ 明治期からの食品流通業について予習する	90
		▽ 行ってみる	90
第10回	宝石業 真珠(ミキモト、タサキ) 鉱物系と産地 準宝石と星占術	△ 宝石の種類と産地、石言葉等について予習する	90
		▽ 鉱物標本をみてまわる	90
第11回	ブランド エルメス、ティファニー ルイビトングループ デザイナー シャネルとナチス	△ 主要ブランドと成立経緯を予習する	90
		▽ 「ティファニーで朝食」の意味を考える	90
第12回	ワイン 素材と評価 ボルドー5大シャトー 貴腐ワイン ロスチャイルド家 ボルドーワインとブルゴーニュワイン	△ 国産ワインについて調べておく	90
		▽ 国産ワインについて復習する	90
第13回	酒 五大ウィスキー ローカルスピリッツ、ジン、ラム、ウォッカ ズブロッカ、プリマスジン、エルドラド	△ 国産ウィスキーやスピリッツについて調べておく	90
		▽ 国産ウィスキーやスピリッツについて復習する	90
第14回	期末試験	△ 講義を通して重要事項をまとめる	90
		▽ 不明だった問題について調べる	90
第15回	まとめ 期末試験の考察	△ 不正解だった項目について調べ直す	90
		▽ 関連産業の広がりを復讐する	90

備考：

2700

【履修上の留意点】
講義に出席する際の服装に留意すること。
地図帳を持参すること。

【テキスト】
特になし

【参考書・参考資料等】
ミシュランガイド(赤、青)、地図帳
その他、講義中に紹介する

【連絡方法】

【オフィスアワー】

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90ー100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	①	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	②	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育科目 F11-8	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
産業経営2	前期	選択	演習	2単位	小濱 哲		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
ホスピタリティー産業と関連する文化や芸術論について理解すること。
特に芸術の産業化について背景を含めて理解すること。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
ホスピタリティー産業を支える文化と芸術について知識を深め理解する。

【到達目標と学修成果】
①ホスピタリティー産業とその関連産業について理解できる。
②日常生活の中で知識を磨くことができる。

回数	授業内容		授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	宗教と薬酒 巡礼と協会の果たした役割 医療との関連 ベネディクティン、クアントロー、ベルモット、グランマルニエ	△	巡礼と医療の関係を調べる	90
		▽	修道院が薬学に果たした役割を深める	90
第2回	食品の謂れ マルグリータ(ブランディ)、ザッハトルテ(ザッハホテル)、 マドレーヌ(ナンシー)、プレツェン(コルマール)	△	お菓子のいわれについて調べておく	90
		▽	地名と場所と名物の関係を明確にする	90
第3回	音楽 宗教音楽から商業的音楽 主なオペラハウス ザルツブルグ、パリ、シドニー、東京	△	18世紀以降の音楽の発展について調べておく	90
		▽	施設名と所在地を一致させる	90
第4回	音楽と歴史 メンデルスゾーンとケルト オペラフィンガロの洞窟とケルト文化	△	作曲の背景、インスピレーションについて調べる	90
		▽	ケルト文化など地域文化を反映した音楽を洞察する	90
第5回	絵画・塑像 ルネッサンス以降の代表作 主な美術館と収録作品 エルミタージュ、オルセー、ベルベデーレ	△	主な美術館の所在地と収録作品について調べる	90
		▽	作風と作品の流れ、所在地を覚える	90
第6回	小説 主な詩と小説の舞台(地域)、背景 シェークスピア 三国志 ミラボー橋(アポリネール)、ベローナ(R&J)	△	歴史が舞台となっている小説を読む	90
		▽	読む	90
第7回	中間試験	△	講義前半の要点をまとめる	90
		▽	わからなかった課題に関して調べる	90
第8回	まとめ 中間試験の考察	△	講義前半の要点をまとめる	90
		▽	わからなかった課題に関して調べる	90
第9回	シュールレアリズム マリーローランサン ジョルジュサンドとショパン 雨だれ(前奏曲15番、マヨルカ島にて)	△	シュールレアリズムについて予習しておくこと	90
		▽	文化が芸術の制作に与えた影響について理解する	90
第10回	神話 宗教 オデッセイ・イーリアスとトロイ エーゲ文明 世界遺産 アラビア砂漠と商路、ゴビ砂漠とジンギスカン	△	ギリシャ神話、トロイ戦争について予習すること	90
		▽	砂漠の商隊が文化の伝播に果たした影響について復習する	90
第11回	城郭 ノイシュバインシュタインとルードウィッヒ大王、イギリス 長安と楊貴妃、兵馬俑、平城京	△	主な城郭について予習しておくこと	90
		▽	城郭と歴史・文化、その後の観光利用について理解を深めること	90
第12回	陶器と磁器 マイセンとアウグスト選帝侯 柿右衛門とドルトン、 マイセン、チェルシーの紅 コペンハーゲン	△	家庭にある陶磁器を調べておくこと	90
		▽	磁器について背景も含めて理解を深めること	90
第13回	ガラス ネティアングラス(ムラノ)、ボヘミアングラス、フレンチグラス (バカラ(マッシモ)、リーデル)、さくら	△	家庭にあるガラス製品を調べておくこと	90
		▽	鉛ガラスを巡る争いと品質について理解する	90
第14回	期末試験	△	講義を通して重要事項をまとめる	90
		▽	不明だった問題について調べる	90
第15回	まとめ 期末試験の考察	△	不正解だった項目について調べ直す	90
		▽	各種の基礎知識について暗記する	90

備考： 2700

【履修上の留意点】
講義に出席する際の服装に留意すること。
地図帳を持参すること。

【テキスト】
特になし

【参考書・参考資料等】
ジョルジュ・サンド「彼女と彼」、ミュッセ「戯れに恋はすまじ」、ホメロス「イーリアス・オデッセイ」
地図帳

【連絡方法】

【オフィスアワー】

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	①	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	②	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回						

科目名／専門教育 F11-9	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
Webデザイン	2年前期	選択	演習/単独	2単位	Reiji	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

Webデザインツールを使って、テーマにした内容が効果的に幼児や保護者に届くように資料を設計・デザインする事に挑戦し、幼児にとって分かり易い資料を作るための想像力や発想力を身に着ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

幼児向けのWebデザインの目的や意図を理解するため、実例を研究してデザインの重要性や表現方法について学ぶ。
Canva等のデザインソフトを活用し、ユーザーに届くための効果的な配色や配置・レイアウトを決め、Webデザインの基本的な制作方法を学ぶ。

【到達目標と学修成果】

①Webデザインの目的・意図を理解し、ユーザーに届くデザイン設計を行えるよう分析力を身につける。
②デザインソフトの基礎的な操作方法を学び、実際に十分な資料を作れるようなスキルを身につける。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	講師自己紹介・講義の計画及びスケジュール、また成績のつけ方の説明等 参考にできる幼児向けWebデザインの調査	△ シラバスを読み、全体の流れを把握する	90
		▽ 幼児向けWebデザインの調査を必要に応じて行う	90
第2回	幼児向けWebデザインの事例分析① デザインを参照し、どのような内容のデザインがあるのかを認識する	△ 幼児向けWebデザインの調査を必要に応じて行う	90
		▽ 幼児向けWebデザインに必要な要素を考察する	90
第3回	幼児向けWebデザインの事例分析② 調査したデザインを参照し、効果的な部分や欠点を考察し発表する	△ 必要に応じてデザインに必要な要素を考察する	90
		▽ どういうテーマでデザインを作成するか考える	90
第4回	[幼児向けWebデザイン] どの様なテーマでデザインを作成するか決定し、具体的な内容を記入	△ どういうデザインを作成するか考える	90
		▽ デザイン作成に使用するソフトやツールの確認	90
第5回	[幼児向けWebデザイン] デザインの作成① 全体的なレイアウトやデザインの選択、タイトルの作成等	△ デザインのレイアウトについて自分なりに考える	90
		▽ デザインのフォントや挿絵について自分なりに考える	90
第6回	[幼児向けWebデザイン] デザインの作成② 必要なテキストの入力、フォントや配色、イラストの選択等	△ デザインのレイアウトについて自分なりに考える	90
		▽ デザインが完成していなければ仕上げる	90
第7回	[幼児向けWebデザイン] 発表会① デザインのポイントや作成にあたって注意した部分の解説等	△ 作成したデザインについて発表する内容をまとめる	90
		▽ 他生徒のデザインについて考察する	90
第8回	[幼児向けWebデザイン] 発表会② 必要に応じてデザイン発表会の続き、意見交換をして改善点の確認、修正	△ 他生徒のデザインについて考察する	90
		▽ 改善点があればデザインの修正	90
第9回	先生or保護者向けWebデザインの事例分析① デザインを皆で参照し、どのような内容のデザインがあるのかを認識する	△ 当該Webデザインの調査	90
		▽ 当該Webデザインに必要な要素を考察する	90
第10回	先生or保護者向けWebデザインの事例分析② 調査したデザインを参照し、効果的な部分や欠点を考察し発表する	△ 必要に応じてデザインに必要な要素を考察する	90
		▽ どういうテーマでデザインを作成するか考える	90
第11回	[先生or保護者向けWebデザイン] どの様なテーマでデザインを作成するか決定し、具体的な内容を記入	△ どういうデザインを作成するか考える	90
		▽ デザインのレイアウトについて自分なりに考える	90
第12回	[先生or保護者向けWebデザイン] デザインの作成① 全体的なレイアウトやデザインの選択、タイトルの作成等	△ デザインのフォントや挿絵について自分なりに考える	90
		▽ デザインが完成していなければ仕上げる	90
第13回	[先生or保護者向けWebデザイン] デザインの作成② 必要なテキストの入力、フォントや配色、イラストの選択等	△ デザインのレイアウトについて自分なりに考える	90
		▽ デザインが完成していなければ仕上げる	90
第14回	[先生or保護者向けWebデザイン] 発表会① デザインのポイントや作成にあたって注意した部分の解説等	△ 作成したデザインについて発表する内容をまとめる	90
		▽ 他生徒のデザインについて考察する	90
第15回	[先生or保護者向けWebデザイン] 発表会② 意見交換をして改善点の確認、修正。 講義の振り返り・総評	△ 改善点があればデザインの修正	90
		▽ これまでの授業内容を振り返る	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

基本的に学生主体の授業となります。一緒にWebデザイン作成に関しての能力を高めていきましょう。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて提示します

【連絡方法】 授業の際に伝えます

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90−100点)	優れている (A:80−89)	平均的 (B:70−79)	努力を要する (C:60−69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表）	① ②	30%	知識・理解・応用力(実践力)が十分に身についていることが認められる。	知識・理解・応用力(実践力)が身についていることが認められる。	基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	70%	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。	主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。	主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	授業内での取組に参加することができた。	授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	3, 8, 10, 15	7, 8, 14, 15	2,3,4,5,6,9,10,11,12, 13,15			

科目名／専門教育科目 F11-10	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
情報リテラシー（応用）1	1.2.3.前	選択	演習	2	伊庭 崇	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

情報機器に関する基本的な知識・技能及び情報モラル・情報活用について習得する。
自己のリテラシーを高める。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

情報機器に関する基本的な知識・技能について、実践演習を通して理解を深め、リテラシーを高めていく。

【到達目標と学修成果】

①情報リテラシーの要素を理解し、その高め方等を理解している。
②情報機器に関する基本的な知識を理解している。
③情報機器に関する基本的な技能を身につけ、必要性に応じて適切に活用することができる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第 1 回	ガイダンス 情報リテラシーに関して 理論	△ リテラシーに関連する語句を調べておく	90
		▽ 学習内容を整理し、まとめる	90
第 2 回	情報リテラシーの高め方 理論	△ 自己の情報リテラシーを分析しておく	90
		▽ 学習内容を整理し、まとめる	90
第 3 回	内容別学習方法①「情報探索能力」 理論	△ 「情報探索能力」について下調べをしておく	90
		▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90
第 4 回	内容別学習方法①「情報探索能力」 課題作成 【オンライン授業】	△ 課題作成の発表・提出ができるよう準備をしておく	90
		▽ 他者の発表を整理し、まとめる	90
第 5 回	内容別学習方法②「情報精査・評価能力」 理論 【オンライン授業】	△ 「情報精査能力」について下調べをしておく	90
		▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90
第 6 回	内容別学習方法②「情報精査・評価能力」 課題作成	△ 課題作成の発表・提出ができるよう準備をしておく	90
		▽ 他者の発表を整理し、まとめる	90
第 7 回	内容別学習方法③「情報理解・分析能力」 理論	△ 「情報分析能力」について下調べをしておく	90
		▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90
第 8 回	内容別学習方法③「情報理解・分析能力」 課題作成	△ 課題作成の発表・提出ができるよう準備をしておく	90
		▽ 他者の発表を整理し、まとめる	90
第 9 回	内容別学習方法④「情報活用・表現能力」 理論	△ 「情報活用能力」について下調べをしておく	90
		▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90
第 10 回	内容別学習方法④「情報活用・表現能力」 課題作成	△ 課題作成の発表・提出ができるよう準備をしておく	90
		▽ 他者の発表を整理し、まとめる	90
第 11 回	内容別学習方法⑤「情報発信能力」 理論	△ 「情報発信能力」について下調べをしておく	90
		▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90
第 12 回	内容別学習方法⑤「情報発信能力」 課題作成	△ 課題作成の発表・提出ができるよう準備をしておく	90
		▽ 他者の発表を整理し、まとめる	90
第 13 回	内容別学習方法⑥「情報モラル・セキュリティ」 理論	△ 「情報モラル」について下調べをしておく	90
		▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90
第 14 回	内容別学習方法⑥「情報モラル・セキュリティ」 課題作成	△ 課題作成の発表・提出ができるよう準備をしておく	90
		▽ 他者の発表を整理し、まとめる	90
第 15 回	まとめと授業総括	△ これまでの学習内容をフィードバックしておく	90
		▽ これまでの学習内容をフィードバックする	90
			2700

備考：

【履修上の留意点】

・基礎教育科目「情報リテラシー」を修得済みであること。
・欠席は原則認めない(除 病欠等により証明書等の提出がある場合)
・演習で利用したデータ等の保管用にUSBメモリやクラウド等を各自準備しておくこと。
・スマートフォン及び各自のPCを利用する場合がある(特に授業外学習)。また、必要に応じて持参すること。
・大学から案内されているシステムやgoogle Classroom，meet(遠隔授業が必要な場合)の利用環境を整えておくこと。
・連絡は全てメールによる事前連絡を原則とし、所属や氏名など記入忘れのないようにするとともに、PCメールが受信できるアドレスから発信すること。
・提出物などの締切は、厳守すること。原則遅延は評価対象外とする。
・提出物等は大学から案内されているシステムを利用する予定である。それ以外の提出、例えばメール添付などは評価の対象外とする。
また、1MB以上のメール添付を了解なく授業担当者に送信した場合、礼節に欠けたメール等の連絡は、減点対象とする。
・授業で使用するコンテンツについては、受講生以外が閲覧、所持することはできない。
受講生にあっては、受講生以外に複写を渡す、webにアップするなどのことがないようにすること。
・何事も「できなかった理由」を考えるのではなく、どのようにすれば「できるか」、「ベター」であるかを考えること。
・本科目で取り扱う知識は、全てを講義内で網羅することはできないことから、必要に応じて各自調べるとともに、受講者間で学び合うこと。

【テキスト】

授業内で適宜、提示する。

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】 授業時に提示する。

【オフィスアワー】 授業時間の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	100%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識，理解，実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識，理解，実践力が身についている。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識，理解，実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識，理解，実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第 3,5,7,9,11,13 回	第 4,6,8,10,12,14 回		第 4,6,8,10,12,14 回		

科目名／専門教育科目　F11-11	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
情報リテラシー（応用）2	2後	選択	演習	2	伊庭　崇		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

情報機器に関する基本的な知識・技能及び情報モラル・情報活用について習得する。
自己のリテラシーを高める。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

情報機器に関する基本的な知識・技能について、実践演習を通して理解を深め、リテラシーを高めていく。

【到達目標と学修成果】

①情報リテラシーの要素を理解し、その高め方等を理解している。
②ネットリテラシーに関する基本的な知識を理解している。
③情報機器に関する基本的な技能を身につけ、必要性に応じて適切に活用することができる。

回　数	授　業　内　容	授業時間外の学修　[△事前　▽事後　／　分]	
第 1 回	ガイダンス 情報リテラシーに関して　理論	△ リテラシーに関連する語句を調べておく ▽ 学習内容を整理し、まとめる	90 90
第 2 回	情報リテラシーとネットリテラシー　理論	△ 自己の情報リテラシーを分析しておく ▽ 学習内容を整理し、まとめる	90 90
第 3 回	内容別学習方法①「情報探索能力」 理論	△ 「情報探索能力」について下調べをしておく ▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90 90
第 4 回	ネットリテラシー検定問題① 用語解説	△ 課題作成の提出ができるよう準備をしておく ▽ 用語等を整理し、まとめる	90 90
第 5 回	内容別学習方法②「情報精査・評価能力」 理論	△ 「情報精査能力」について下調べをしておく ▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90 90
第 6 回	ネットリテラシー検定問題② 用語解説	△ 課題作成の提出ができるよう準備をしておく ▽ 用語等を整理し、まとめる	90 90
第 7 回	内容別学習方法③「情報理解・分析能力」 理論	△ 「情報分析能力」について下調べをしておく ▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90 90
第 8 回	ネットリテラシー検定問題③ 用語解説	△ 課題作成の提出ができるよう準備をしておく ▽ 用語等を整理し、まとめる	90 90
第 9 回	内容別学習方法④「情報活用・表現能力」 理論	△ 「情報活用能力」について下調べをしておく ▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90 90
第 10 回	ネットリテラシー検定問題④ 用語解説	△ 課題作成の提出ができるよう準備をしておく ▽ 用語等を整理し、まとめる	90 90
第 11 回	内容別学習方法⑤「情報発信能力」 理論	△ 「情報発信能力」について下調べをしておく ▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90 90
第 12 回	ネットリテラシー検定問題⑤ 用語解説	△ 課題作成の提出ができるよう準備をしておく ▽ 用語等を整理し、まとめる	90 90
第 13 回	内容別学習方法⑥「情報モラル・セキュリティ」 理論 【オンライン授業】	△ 「情報モラル」について下調べをしておく ▽ 学習内容を整理し、まとめる、及び、課題の作成	90 90
第 14 回	ネットリテラシー検定問題⑥ 用語解説　【オンライン授業】	△ 課題作成の提出ができるよう準備をしておく ▽ 用語等を整理し、まとめる	90 90
第 15 回	まとめと授業総括	△ これまでの学習内容をフィードバックしておく ▽ これまでの学習内容をフィードバックする	90 90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

・基礎教育科目「情報リテラシー」を修得済みであること。
・欠席は原則認めない(除　病欠等により証明書等の提出がある場合)
・演習で利用したデータ等の保管用にUSBメモリやクラウド等を各自準備しておくこと。
・スマートフォン及び各自のPCを利用する場合がある(特に授業外学習)。また、必要に応じて持参すること。
・大学から案内されているシステムやgoogle Classroom，meet(遠隔授業が必要な場合)の利用環境を整えておくこと。
・連絡は全てメールによる事前連絡を原則とし、所属や氏名など記入忘れのないようにするとともに、PCメールが受信できるアドレスから発信すること。
・提出物などの締切は、厳守すること。原則遅延は評価対象外とする。
・提出物等は大学から案内されているシステムを利用する予定である。それ以外の提出、例えばメール添付などは評価の対象外とする。
　また、1MB以上のメール添付を了解なく授業担当者に送信した場合、礼節に欠けたメール等の連絡は、減点対象とする。
・授業で使用するコンテンツについては、受講生以外が閲覧、所持することはできない。
　受講生にあっては、受講生以外に複写を渡す、webにアップするなどのことがないようにすること。
・何事も「できなかった理由」を考えるのではなく、どのようにすれば「できるか」、「ベター」であるかを考えること。
・本科目で取り扱う知識は、全てを講義内で網羅することはできないことから、必要に応じて各自調べるとともに、受講者間で学び合うこと。

【テキスト】

授業内で適宜、提示する。

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】　授業時に提示する。

【オフィスアワー】　授業時間の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）							
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	100%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識，理解，実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識，理解，実践力が身についている。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識，理解，実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識，理解，実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第 4,6,8,10,12,14 回			第 4,6,8,10,12,14 回		

科目名／専門教育科目　F-14	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
情報システム開発と管理 1	1.2.3前期	選択	演習	2	伊庭 崇	／	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

情報システムに関する基本的な知識・技能及び管理・情報活用について習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

情報システムに関する基本的な知識・技能・管理・活用について、実践演習を通して理解を深めていく。

【到達目標と学修成果】

①情報システムの管理の重要性とその方法を理解している。
②関数，構文等を理解し、活用できる。
③関数，構文等を応用し、他のシステムに活用できる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	ガイダンス システム開発と管理　理論	△	パソコンに触れておく	90
		▽	管理方法と重要性をまとめる	90
第 2 回	表計算ソフトを活用したシステム①　関数・構文理論	△	表計算ソフトに触れておく	90
		▽	授業内で扱った関数、構文を整理する	90
第 3 回	表計算ソフトを活用したシステム①　課題作成「住所録」	△	前回授業で扱った関数、構文を復習しておく	90
		▽	授業内で提示された課題を進める	90
第 4 回	表計算ソフトを活用したシステム①　課題作成(提出) 及び「ITパスポート」演習　【オンライン授業】	△	課題提出準備	90
		▽	ITパスポート演習に出てきた用語を整理する	90
第 5 回	表計算ソフトを活用したシステム②　関数・構文理論 【オンライン授業】	△	表計算ソフトに触れておく	90
		▽	授業内で扱った関数、構文を整理する	90
第 6 回	表計算ソフトを活用したシステム②　課題作成「顧客名簿」	△	前回授業で扱った関数、構文を復習しておく	90
		▽	授業内で提示された課題を進める	90
第 7 回	表計算ソフトを活用したシステム②　課題作成(提出) 及び「ITパスポート」演習	△	課題提出準備	90
		▽	ITパスポート演習に出てきた用語を整理する	90
第 8 回	表計算ソフトを活用したシステム③　関数・構文理論	△	表計算ソフトに触れておく	90
		▽	授業内で扱った関数、構文を整理する	90
第 9 回	表計算ソフトを活用したシステム③　課題作成「請求書・納品書・領収書」	△	前回授業で扱った関数、構文を復習しておく	90
		▽	授業内で提示された課題を進める	90
第 10 回	表計算ソフトを活用したシステム③　課題作成(提出) 及び「ITパスポート」演習	△	課題提出準備	90
		▽	ITパスポート演習に出てきた用語を整理する	90
第 11 回	表計算ソフトを活用したシステム④　関数・構文理論	△	表計算ソフトに触れておく	90
		▽	授業内で扱った関数、構文を整理する	90
第 12 回	表計算ソフトを活用したシステム④　課題作成「成績処理」	△	前回授業で扱った関数、構文を復習しておく	90
		▽	授業内で提示された課題を進める	90
第 13 回	表計算ソフトを活用したシステム④　課題作成(提出) 及び「ITパスポート」演習	△	課題提出準備	90
		▽	ITパスポート演習に出てきた用語を整理する	90
第 14 回	データベースソフトを活用したシステム　ソフト概要	△	データベースソフトの種類を調べておく	90
		▽	概要を整理する	90
第 15 回	まとめと授業総括，確認テスト 「家計簿」「損益計算書」「退勤記録」	△	データベースソフトに触れておく	90
		▽	これまでの資料、及び教示をもとに各自再演習を行う	90

備考：　　2700

【履修上の留意点】

・欠席は原則認めない(除　病欠等により証明書等の提出がある場合)
・演習で利用したデータ等の保管用にUSBメモリやクラウド等を各自準備しておくこと。
・スマートフォン及び各自のPCを利用する場合がある(特に授業外学習)。また、必要に応じて持参すること。
・大学から案内されているシステムやgoogle Classroom，meet(遠隔授業が必要な場合)の利用環境を整えておくこと。
・連絡は全てメールによる事前連絡を原則とし、所属や氏名など記入忘れのないようにするとともに、PCメールが受信できるアドレスから発信すること。
・提出物などの締切は、厳守すること。原則遅延は評価対象外とする。
・提出物等は大学から案内されているシステムを利用する予定である。それ以外の提出、例えばメール添付などは評価の対象外とする。
　また、1MB以上のメール添付を了解なく授業担当者に送信した場合、礼節に欠けたメール等の連絡は、減点対象とする。
・授業で使用するコンテンツについては、受講生以外が閲覧、所持することはできない。
　受講生にあっては、受講生以外に複写を渡す、webにアップするなどのことがないようにすること。
・何事も「できなかった理由」を考えるのではなく、どのようにすれば「できるか」、「ベター」であるかを考えること。
・本科目で取り扱う知識は、全てを講義内で網羅することはできないことから、必要に応じて各自調べるとともに、受講者間で学び合うこと。

【テキスト】

授業内で適宜、提示する。

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】　授業内で提示する。

【オフィスアワー】　授業時間の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	100%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識，理解，活用力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識，理解，活用力が身についている。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識，理解，活用力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識，理解，活用力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		第 4,7,10,13 回		第 3,4,6,7,9,10,12,13 回		

科目名／専門教育科目　F-15	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
情報システム開発と管理 2	1.2.3後	選択	演習	2	伊庭 崇		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

情報システムに関する基本的な知識・技能及び管理・情報活用について習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

情報システムに関する基本的な知識・技能・管理・活用について、実践演習を通して理解を深めていく。

【到達目標と学修成果】

①情報システムの管理の重要性とその方法を理解している。
②関数，構文等を理解し、活用できる。
③関数，構文等を応用し、他のシステムに活用できる。

回 数	授 業 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]		
第 1 回	ガイダンス システム開発と管理 理論	△	パソコンに触れておく	90
		▽	管理方法と重要性をまとめる	90
第 2 回	表計算ソフトを活用したシステム① 関数・構文理論	△	表計算ソフトに触れておく	90
		▽	授業内で扱った関数、構文を整理する	90
第 3 回	表計算ソフトを活用したシステム① 課題作成「住所録」	△	前回授業で扱った関数、構文を復習しておく	90
		▽	授業内で提示された課題を進める	90
第 4 回	表計算ソフトを活用したシステム① 課題作成(提出) 及び「ITパスポート」演習 【オンライン授業】	△	課題提出準備	90
		▽	ITパスポート演習に出てきた用語を整理する	90
第 5 回	表計算ソフトを活用したシステム② 関数・構文理論 【オンライン授業】	△	表計算ソフトに触れておく	90
		▽	授業内で扱った関数、構文を整理する	90
第 6 回	表計算ソフトを活用したシステム② 課題作成「家計簿」	△	前回授業で扱った関数、構文を復習しておく	90
		▽	授業内で提示された課題を進める	90
第 7 回	表計算ソフトを活用したシステム② 課題作成(提出) 及び「ITパスポート」演習	△	課題提出準備	90
		▽	ITパスポート演習に出てきた用語を整理する	90
第 8 回	表計算ソフトを活用したシステム③ 関数・構文理論	△	表計算ソフトに触れておく	90
		▽	授業内で扱った関数、構文を整理する	90
第 9 回	表計算ソフトを活用したシステム③ 課題作成「損益計算書」	△	前回授業で扱った関数、構文を復習しておく	90
		▽	授業内で提示された課題を進める	90
第 10 回	表計算ソフトを活用したシステム③ 課題作成(提出) 及び「ITパスポート」演習	△	課題提出準備	90
		▽	ITパスポート演習に出てきた用語を整理する	90
第 11 回	表計算ソフトを活用したシステム④ 関数・構文理論	△	表計算ソフトに触れておく	90
		▽	授業内で扱った関数、構文を整理する	90
第 12 回	表計算ソフトを活用したシステム④ 課題作成「退勤記録」	△	前回授業で扱った関数、構文を復習しておく	90
		▽	授業内で提示された課題を進める	90
第 13 回	表計算ソフトを活用したシステム④ 課題作成(提出) 及び「ITパスポート」演習	△	課題提出準備	90
		▽	ITパスポート演習に出てきた用語を整理する	90
第 14 回	データベースソフトを活用したシステム ソフト概要	△	データベースソフトの種類を調べておく	90
		▽	概要を整理する	90
第 15 回	まとめと授業総括，確認テスト	△	データベースソフトに触れておく	90
		▽	これまでの資料、及び教示をもとに各自再演習を行う	90

備考：　2700

【履修上の留意点】

・欠席は原則認めない(除　病欠等により証明書等の提出がある場合)
・演習で利用したデータ等の保管用にUSBメモリやクラウド等を各自準備しておくこと。
・スマートフォン及び各自のPCを利用する場合がある(特に授業外学習)。また、必要に応じて持参すること。
・大学から案内されているシステムやgoogle Classroom，meet(遠隔授業が必要な場合)の利用環境を整えておくこと。
・連絡は全てメールによる事前連絡を原則とし、所属や氏名など記入忘れのないようにするとともに、PCメールが受信できるアドレスから発信すること。
・提出物などの締切は、厳守すること。原則遅延は評価対象外とする。
・提出物等は大学から案内されているシステムを利用する予定である。それ以外の提出、例えばメール添付などは評価の対象外とする。
　また、1MB以上のメール添付を了解なく授業担当者に送信した場合、礼節に欠けたメール等の連絡は、減点対象とする。
・授業で使用するコンテンツについては、受講生以外が閲覧、所持することはできない。
　受講生にあっては、受講生以外に複写を渡す、webにアップするなどのことがないようにすること。
・何事も「できなかった理由」を考えるのではなく、どのようにすれば「できるか」、「ベター」であるかを考えること。
・本科目で取り扱う知識は、全てを講義内で網羅することはできないことから、必要に応じて各自調べるとともに、受講者間で学び合うこと。

【テキスト】

授業内で適宜、提示する。

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】 授業内で提示する。

【オフィスアワー】 授業時間の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準／評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90－100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験（発表含む）							
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ② ③	100%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識，理解，活用力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識，理解，活用力が身についている。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識，理解，活用力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識，理解，活用力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回		第 4,7,10,13 回		第 3,4,6,7,9,10,12,13 回		

科目名／専門教育 YHS10-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
卒業研究A（論文）	3年通年	選択必修	演習／担当制	2単位	子ども教育学科　専任教員	／	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

本学での学びの集大成として、習得した知識や技術を基礎としてテーマを設定し、リサーチを行いその成果をまとめるものである。問題提起からスタートし、その問題を解決する方法や手段、得られた結果の整理・分析、その考察と最終的な総括など、一連の研究活動において、自主的に問題解決するためのスキル・姿勢を学ぶ。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

卒業研究の指導教員の選定は学生の希望を参考にしながら、学科で調整して決定する。研究テーマは、主体的に取り組むことができるものに設定する。
テーマに沿ってデータ収集・調査・分析・検討を行って論述する。最終的には、得られた結論をプレゼンテーションする。

【到達目標と学修成果】

①自らの興味関心に基づき、研究テーマを決定し、計画的にかつ主体的に課題に取り組むことができる。
②研究テーマに沿ってデータ収集・調査・分析・検討し論述できる。
③研究により得られた結論をプレゼンテーションする。

回数	授業内容	授業時間外の学修　［△事前　▽事後　／　分］	
第1回	卒業研究のガイダンス（研究の進め方、図書館の資料活用、評価方法等について）	△ 研究テーマについて発表できるようにする。	90
		▽ 今日の学びをまとめておくこと	90
第2回	「論文」を執筆するうえでの基本的な考え方・方法・作法等について学ぶ。	△ 参考文献を探し論文を読み込むこと。	90
		▽ 今日の学びをまとめておくこと	90
第3回	選定した研究テーマにもとづき、研究・調査等の計画の立案とプレゼンテーション	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第4回	自身の興味関心のある研究テーマについての先行研究調べとテーマの確定に向けた検討をする。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第5回	研究テーマに沿って研究方法等を検討し、研究目的、研究方法を各自プレゼンテーションする。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第6回	論文の章立てを検討をする。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第7回	研究テーマについて、具体的な計画を立て、文献サーベイ、データ収集、分析等の方法について情報を整理し、発表する	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめておくこと	90
第8回	中間発表を行う。研究テーマについて先行研究と既存の情報を整理し、意見を参考に論議などを進める。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第9回	中間発表を行う。先行研究を踏まえ、分析項目を発表する。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第10回	卒業論文の関係論文・専門書輪読、論議などを進める。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第11回	本論の作成の方法を検討する。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第12回	終章作成の方法を検討する。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第13回	卒業論文のとりまとめにむけて研究室内で卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第14回	卒業論文最終提出に向けて作成指導、プレゼンテーション指導	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第15回	研究成果の発表（グループ内発表とディスカッション）	△ 発表資料の作成をする。	90
		▽ 今日の学びをまとめ、論文を仕上げる。	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

卒業研究A（論文）の提出にあたっては、指導教員の指導および最終確認を受けることが必要です。

【テキスト】

指導教員の指示があります。

【参考書・参考資料等】

指導教員の指示があります。

【連絡方法】

【オフィスアワー】

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	③	30%	・研究テーマに関する知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・研究テーマに関する知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	②	40%	・研究の目的を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・研究の目的を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがなく指定の体裁が守られている。	・研究の目的をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・研究の目的を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・研究の目的やこれまでの指導内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	20%	・自らの研究主題に主体的に取り組み、必要な知識や態度を十分に身につけて研究成果をあげ、保育者としての専門的知識を十分に深めようとしていた。	自らの研究主題に主体的に取り組み、必要な知識や態度を十分に身につけて研究成果をあげ、保育者としての専門的知識を深めようとしていた。	自らの研究主題に主体的に取り組んで研究に必要な知識や態度を学び、標準的な水準で研究成果をまとめることができた。	自らの研究主題に主体的に取り組むために必要な知識や態度を身につけ、最低限の水準で研究成果をあげ、研究成果をまとめることができた。	研究主題に取り組むために必要な知識や態度を身についておらず、研究成果をまとめることができなかった。
授業外での取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第8・9・15回	第8・13・14・15回				

科目名／専門教育 YHS10-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
卒業研究B（総合表現）	3年通年	選択必修	演習／担当制	2単位	子ども教育学科　専任教員	／	○

【ディプロマポリシー（DP）との対応関係】　◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

学生は、表現分野における研究テーマを決め、そのテーマに基づいて表現を研究領域とする教員の指導を受けながら主体的に研究を進める。研究の過程で表現コミュニケーション力の意義を理解し、表現における専門性をもった保育者・教育者としての成長を目指す。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

卒業研究の指導教員の選定は、学生の希望を参考にしながら、学科で調整して行う。学生は、さまざまな表現分野を総合的に捉えた作品を構想し、グループあるいは個人で言葉、造形、音楽、身体表現などによる総合的な作品を制作して発表し、最終的にレポートにまとめる。

【到達目標と学修成果】

①自らの興味・関心に基づき研究テーマを決め、計画を立て、主体的に課題に取り組むことができる。
②作品発表とレポートを作成して研究成果を取りまとめ、発表することができる。
③卒業研究を通して、保育者・教育者として必要な専門的知識を深めることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修　[△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	ガイダンス 指導教員との顔合わせ(指導教員は学科内で調整し伝達される)	△参考資料を読んでくる	90
		▽テーマの設定について考える	90
第2回	研究における課題と作品の相談を行う	△自ら興味・関心のあるテーマについてノートにまとめてくる	90
		▽テーマにおける課題について考えをまとめてくる	90
第3回	資料及び情報収集の方法と留意点について学ぶ 仮題目提出	△テーマに沿った資料の検索を行う	90
		▽資料及び情報収集時の留意点(特に著作権について)まとめておく	90
第4回	作品の整理、先行研究の調査、文献表の作成	△先行研究の整理を行う	90
		▽作成した文献表について考えをまとめる	90
第5回	作品の構想、課題の再検討、個人による作品・演目の決定	△活動計画表を作成する	90
		▽中間発表レジュメ作成に取り掛かる	90
第6回	研究計画の見直し、中間発表レジュメ作成	△取り組みについて収集した資料・情報を整理する	90
		▽中間発表レジュメの見直し・プレゼンテーション準備	90
第7回	学科中間発表会(プレゼンテーション)	△プレゼンテーションへの練習・準備を行う	90
		▽プレゼンテーションのふりかえりをまとめる	90
第8回	作品制作1(試作)・表現発表準備1(試演)	△グループまたは個人で作品の試作・準備を行う	90
		▽準備・制作を引き続き進める	90
第9回	題目の決定	△本題目について再検討する	90
		▽題目に沿って準備を進める	90
第10回	題目の決定届け(学科長あて)	△活動計画について再検討を行う	90
		▽今後の活動計画について決定しまとめる	90
第11回	作品制作2(本制作グループ発表)・表現活動準備2(グループ発表)	△作品の制作・活動を進める	90
		▽作品制作上の課題を考える・レポートの準備をする	90
第12回	作品制作3(展示発表計画)・表現活動準備3(全体リハーサル)	△作品の制作・活動を進める	90
		▽作品の制作・レポートの準備を行う	90
第13回	研究の仕上げ	△発表への練習・準備を行う	90
		▽発表に対する課題をまとめてくる・レポートの準備	90
第14回	発表資料作成、研究成果発表会の実施、ICTによる発表の記録を行う	△発表の準備を行う	90
		▽レポートの仕上げ・記録によりふりかえりを行う	90
第15回	ICTによる発表記録のふりかえり・レポート提出	△レポートを完成させる	90
		▽研究に対する今後の課題について考えをまとめる	90

備考：　2700

【履修上の留意点】

【テキスト】

特に指定しない。各指導教員から必要に応じて掲示される。

【参考書・参考資料等】

松本茂・河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部(2007)
石井一茂『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社(2011)

【連絡方法】　初回授業にて伝える

【オフィスアワー】　授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90−100点）	優れている（A:80−89）	平均的（B:70−79）	努力を要する（C:60−69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ② ③	30%	・研究テーマに関する知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・研究テーマに関する知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）	① ②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身についていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	1回	7回、14回				

科目名／専門教育 B1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
在宅保育論	3年後期	選択（ベビ必修）	講義／オムニバス	2単位	角杉　美恵子・深澤 瑞穂		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

認定ベビーシッター資格取得に必須の科目であるため、在宅保育（家庭訪問保育）者の社会的役割について学び、在宅保育者としての知識と技術を身につける。

【授業概要（授業形態・進め方等を含む）】

主に講義形式で行う。「在宅保育」の概念や歴史を紹介し、在宅保育者の社会的役割について考えさせる。在宅保育における保育技術などを学びながら、多様な保育ニーズに対応してきた在宅保育サービスの特徴と現状についての理解を深めていく。
なお、授業は教科書の内容に沿って行うため、受講者は毎回テキストを事前に目を通し、持参する。

【到達目標と学修成果】

①「在宅保育」の概念や歴史、在宅保育者の社会的役割を理解できる。
②子どもとの接し方、家庭とのコミュニケーションなど、在宅保育サービスにおける具体的方法を理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 ／ 分]	
第1回	オリエンテーション 家庭訪問保育とは / 家庭訪問保育者としての心得 / 保育マインド	△ シラバスを読み、授業の概要を確認する	90
		▽ 授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90
第2回	家庭訪問保育を行うために必要な基礎的知識 乳幼児の生活と遊び	△ テキストpp.28-37を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第3回	乳幼児の発達と心理	△ テキストpp.38-53を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第4回	乳幼児の栄養と食事	△ テキストpp.54-65を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第5回	小児保健Ⅰ 居宅での保育における健康観察、感染予防	△ テキストpp.66-74を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第6回	小児保健Ⅱ 子どもに多い症状・病気や事故への対応	△ テキストpp.75-92を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第7回	一般型家庭訪問保育の理論と実際 一般型家庭訪問保育の業務の流れ／さまざまな家庭訪問保育	△ テキストpp.220-241ページを読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第8回	居宅訪問型保育の実際 居宅訪問型保育の概要／居宅訪問型保育の保育内容	△ テキストpp.18-27、pp.93-104を読み、概要を確認する。	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第9回	居宅訪問型保育の環境整備 居宅訪問居宅訪問型保育の運営	△ テキストpp.106-115、pp.116-123を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第10回	安全の確保とリスクマネジメント 居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項	△ テキストpp.124-133、pp.134-144を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容について、テキストと照らしながらノートにまとめる	90
第11回	居宅訪問型保育における保護者への対応	△ テキストpp.145-157を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第12回	子ども虐待 特別に配慮を要する子どもへの対応	△ テキストpp.158-169,pp170-184を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90
第13回	実践演習 保育技術（お世話編）	△ テキストpp.185-206を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った実践内容について、ノートにまとめる	90
第14回	保育技術（遊び編）	△ テキストpp.207-217を読み、概要を確認する	90
		▽ 授業で扱った実践内容について、ノートにまとめる	90
第15回	まとめ　試験	△ 1～14回の授業内容についてテキスト、配布資料を見直す	90
		▽ 全体的な内容をもう一度テキストを読みながら確認する	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

出席回数が不足する場合は、最終試験の受験資格を失う。
各回の授業で指定テキストを使用するので、購入のうえ受講すること。
※この科目を履修する学生は、3年前期までのGPAが2.0以上であることが望ましい。

【テキスト】

公益社団法人全国保育サービス協会監修『家庭訪問保育の理論と実際第2版－居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト－』中央法規出版、2017年

【参考書・参考資料等】

担当教員より適宜紹介する。

【連絡方法】 授業内の指示、及び掲示

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間等

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応（評価割合）】

評価基準／評価方法	到達目標	割合（%）	大変優れている（S:90－100点）	優れている（A:80-89）	平均的（B:70-79）	努力を要する（C:60-69）	相当な努力を要する（F:59点以下）
試験（発表含む）	① ②	100%	・知識・理解・応用力（実践力）が十分に身についていることが認められる。	・知識・理解・応用力（実践力）が身についていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組（小テスト・授業内発表等）							
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション ディベート 対話・議論型	プレゼンテーション	実習 ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	PBL 課題・問題解決型	反転授業 事前学習型授業	ロールプレイ
授業回	第5回		13回・14回	11回		